ニ依ル百分率

二　貨車收入ハ買收及殘存區間ニ跨ル貨物ノ各區間ニ於ケル延越粁數ニ依ル百分率

三　前二號ニ揭クルモノ以外ノ收入ハ買收及殘存各區間ニ於ケル他ノ收入總額ニ依ル百分率

四　營業費ハ買收及殘存各區間ニ於ケル營業收入ニ依ル百分率

第五十五條　地方鐵道會計規程第十條乃至第十二條ノ規定ハ前二條ノ規定ニ依ル建設費、營業收入及營業費ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第五十六條　地方鐵道法第三十五條ノ二第二項及第三十六條ノ二第三項ノ規定ニ依ル配當ノ認可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ當該期ノ貸借對照表及收支計算書ヲ添附シ之ヲ提出スヘシ

一　概算交付金ノ處分案

二　債務アルトキハ其ノ金額、償還方法及期日竝次ノ配當期迄ニ支拂フヘキ利子金額

附　則

本令ハ大正八年八月十五日ヨリ之ヲ施行ス

私設鐵道法施行規則、輕便鐵道法施行規則、鐵道事故屆出ニ關スル規程、鐵道臺帳規程及鐵道統計規程ハ之ヲ廢止ス

舊令ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本令中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本令ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

附　則（昭和四年十二月鐵道省令第三號）

本令ハ昭和四年法律第六十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和四年十二月五日ヨリ施行）

大正九年鐵道省令第二號ハ之ヲ廢止ス

附　則（昭和十四年八月鐵道省令第五號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第二十七條乃至第二十九條ヲ削除スル規定ハ昭和十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十七條及第二十八條ヲ削除スル規定ノ施行前ニ於テハ同條ノ規定ニ依ル認可申請書ハ鐵道大臣ニ之ヲ提出スヘシ

本令施行前鐵道大臣ニ於テ受付ケタル申請書及屆書ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

（樣式略ス）

●地方鐵道建設規程（大正八年八月十三日閣令第十一號）

【沿革】昭和五年六月鐵道省令第一〇號、同十四年八月同第六號改正

地方鐵道建設規程左ノ通定ム

地方鐵道建設規程

第一章　總則

第一條　地方鐵道ノ建設ハ本規程ノ定ムル所ニ依ルヘシ但シ特別ノ設計ヲ必要トスルモノニ在リテハ鐵道大臣ノ許可ヲ受ケ本規程ニ依ラサルコトヲ得

鐵道大臣ハ鐵道ノ狀況ニ依リ本規程ニ依ラサル特別ノ設計ヲ命スルコトヲ得

第二條　列車ノ運轉ニ常用スル線路ヲ本線路ト謂ヒ其ノ他ノ線路ヲ側線ト謂フ

第三條　旅客又ハ荷物ヲ取扱フ爲列車ヲ停止スル箇所ニシテ轉轍器ノ設備アルモノヲ停車場ト謂ヒ其ノ設備ナキモノヲ停留場ト謂フ

第二章　線路及建造物

第一節　軌間及軌條ノ高度

第四條　軌間ハ直線ニ於テ軌條頭ノ內側ヨリ內側迄ノ距離ニ依リ之ヲ測定ス

第五條　曲線ニ在リテハ左ノ區別ニ依リ軌間ニ相當ノ擴度ヲ附スヘシ但シ轉轍器ニ附帶スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　軌間一米〇六七及一米四三五ニシテ曲線ノ半徑六百米以下ノモノニ在リテハ二十五粍以內

二　軌間七百六十二粍ニシテ曲線ノ半徑四百米以下ノモノニ在リテハ十六粍以內

第六條　直線ニ在リテハ兩軌條面ノ高ヲ均クスルコトヲ要ス但シ曲線ニ於ケル高度ヲ逓減スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

曲線ニ在リテハ轉轍器ニ附帶スル場合ヲ除クノ外外側軌條ニ相當ノ高度ヲ附シ曲線ニ接續スル直線又ハ緩和曲線ニ於テ之ヲ逓減スヘシ

第二節　建築定規

第七條　建築定規ハ第一號及第二號圖面ニ依ルヘシ但シ曲線ニ在リテハ軌間ノ擴度及外側軌條ノ高度ニ隨ヒ建築定規中心ノ偏倚傾斜ニ應シ相當之ヲ擴大スヘシ

第八條　燃料搭載所、給水所、轉車臺、計重臺、洗車所、電柱、信號柱等ニシテ停車場內ノ側線ニ係ルモノ竝車庫ノ門路及內部ハ車輛定規外百五十粍迄建築定規內ニ入ルコトヲ得

電氣鐵道ノ第三軌條ハ建築定規內ニ入ルコトヲ得

第九條　轍叉ニ於テ軌條ト翼軌條又ハ護輪軌條トノ間隔ハ左ノ寸法迄之ヲ縮小スルコトヲ得

一　軌間一米〇六七及一米四三五ノモノニ在リテハ　三十八粍

二　軌間七百六十二粍ノモノニ在リテハ　三十三粍

前項以外ノ場合ニ於テハ軌條ノ護輪軌條トノ間隔ハ左ノ寸法迄之ヲ縮小スルコトヲ得

一　軌間一米〇六七及一米四三五ノモノニ在リテハ　五十四粍

二　軌間七百六十二粍ノモノニ在リテハ　四十五粍

第十條　轉轍器取柄及轉轍標識等ノ軌條面上ニ突出スル各部分ハ車輛定規外側方ニ於テ七十六粍迄建築定規內ニ入ルコトヲ得但シ軌條面上左

ノ高ヲ超ユルコトヲ得ス

一　軌間一米〇六七及一米四三五ノモノニ在リテハ　千八百三十粍

二　軌間七百六十二粍ノモノニ在リテハ　千五百二十粍

第十一條　乘降場及貨物積卸場ノ擁壁面ノ突出點ト軌道中心トノ距離ハ左ノ寸法迄之ヲ縮小スルコトヲ得

一　軌間一米〇六七及一米四三五ノモノニ在リテハ　一米三七二

二　軌間七百六十二粍ノモノニ在リテハ　一米一一八

第十二條　竝行セル兩軌道中心間ノ距離ハ軌間一米〇六七及一米四三五ノモノニ在リテハ三米三五以上、軌間七百六十二粍ノモノニ在リテハ二米七四以上トス

第三節　曲線及勾配

第十三條　本線路ノ曲線半徑ハ軌間一米〇六七及一米四三五ノモノニ在リテハ百六十米以上、軌間七百六十二粍ノモノニ在リテハ百米以上トス

本線路ニ於ケル轉轍器ニ附帶スル曲線半徑ハ特別ノ場合ヲ除クノ外軌間一米〇六七及一米四三五ノモノニ在リテハ百米以上、軌間七百六十二粍ノモノニ在リテハ四十米以上トス

第十四條　本線路ニ於ケル反向ノ曲線間ニハ相當ノ長ヲ有スル直線ヲ挿入スヘシ

第十五條　本線ノ勾配ハ千分ノ三十三ヨリ急ナルコトヲ得ス

停車場及停留場ニ於ケル本線路ノ勾配ハ千分ノ五ヨリ急ナルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ千分ノ十二至ルコトヲ得

第四節　施工基面

第十六條　軌道中心ヨリ施行基面縁端迄ノ距離ハ軌間一米〇六七及一米四三五ノモノニ在リテハ一米八三以上、軌間七百六十二粍ノモノニ在リテハ一米五二以上トス

第五節　軌道及橋梁

第十七條　枕木下面ヨリ施工基面迄ノ道床ノ厚ハ軌間一米〇六七及一米四三五ノモノニ在リテハ百粍以上、軌間七百六十二粍ノモノニ在リテハ七十六粍以上トス

第十八條　軌道及橋梁ノ各部ハ動荷重ニ耐フル負擔力ヲ有スルコトヲ要ス

第十九條　交通頻繁ナル道路又ハ通船頻繁ナル河川ニ架設スル橋梁ハ車輛ノ幅及其ノ兩側各百五十粍以上軌道面下ヲ蓋フコトヲ要ス

第六節　待避所

第二十條　隧道、橋梁其ノ他列車ヲ避クルニ困難ナル場所ニハ九十米以内ノ距離ニ待避所ヲ設クルコトヲ要ス

第七節　踏切道

第二十一條　踏切道ト線路トノ交角ハ三十度ヨリ小ナルコトヲ得ス

交通頻繁ナル踏切道ニハ通行人ノ注意ヲ惹クヘキ警標ヲ設クルコトヲ要ス

交通頻繁ニシテ展望不良ナル踏切道ニハ門扉其ノ他相當ノ保安設備ヲ爲スヘシ

第八節　常置信號機

第二十二條　停車場外ニ於テ線路カ本線路ヨリ分岐スル箇所ニハ左ニ掲クル場合ヲ除クノ外常置信號機ヲ設ケ之ニ關聯スル轉轍器ト相互聯動セシムルコトヲ要ス

一　一保安區間内ニ在ル分岐點ノ轉轍器ニシテ之ニ通票鎖錠器ヲ裝置シタルトキ

二　閉塞式ヲ施行スル單線ニ於ケル分岐點ノ轉轍器ニシテ之ニ轉轍標識ヲ設ケ轉轍器ヲ鎖錠シタルトキ

停車場又ハ信號所ニ於ケル本線路ノ對向轉轍器ニハ鎖錠其ノ他ノ安全裝置ヲ爲スコトヲ要ス但シ列車對向通過ノ際轉轍器ノ取柄ヲ支持スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條　左ノ箇所ニハ特別ノ場合ヲ除クノ外常置信號機ヲ設クルコトヲ要ス但シ閉塞信號機ヲ設クル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　單線ニ於テ列車ノ行違ヲ爲ス停車場又ハ信號所

二　複線ニ於ケル閉塞區間ノ境界點ニ在ル停車場、停留場又ハ信號所

第二十四條　場内信號機防護區域外四百米以上ノ距離ヨリ之ヲ展望スルコト能ハサルトキハ其ノ前方ニ遠方信號機ヲ設クルコトヲ要ス

第九節　平面交叉

第二十五條　本線路ハ相當ノ保安設備アル停車場又ハ信號所外ニ於テ鐵道又ハ軌道ト平面交叉ヲ爲スコトヲ得ス但シ鐵道又ハ軌道カ人力又ハ馬力ヲ動力トスル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十節　諸標

第二十六條　本線路ニハ左ノ諸標ヲ設クルコトヲ要ス

一　毎粁ノ距離ヲ示ス粁程標

二　千分ノ十七ヨリ急ナル勾配ノ始終點ニハ其ノ勾配ヲ示ス勾配標

第二十七條　本線路又ハ側線カ本線路ニ接續スル箇所ニハ車輛ノ停止區域ヲ示ス警標ヲ設クルコトヲ要ス

第十一節　車輛ノ逸出防備

第二十八條　車輛カ本線路ニ逸出スル虞アル線路ニハ相當ノ防止設備ヲ爲スヘシ

第二十九條　線路ノ終端ニハ車止ヲ設クルコトヲ要ス

第十二節　線路ノ防備

第三十條　人又ハ牛馬等ノ線路ニ踏入ル虞アル場所及保安上必要ナル場所ニハ堤塘、柵垣又ハ溝渠ヲ設クルコトヲ要ス

第十三節　停車場其ノ他ノ設備

第三十一條　停車場及信號所ニハ電氣通信ノ設備ヲ爲スヘシ但シ驛員ヲ常置セサル停車場ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第三十二條　旅客ノ乘降多キ停車場ニハ待合所其ノ他相當ノ設備ヲ爲スヘシ

第三十三條　機關車ヲ收容スル爲相當ノ設備ヲ爲スヘシ

第三十四條　車輛ヲ修理スル爲相當ノ設備ヲ爲スヘシ但シ其ノ修理ヲ他ニ委託スルコトヲ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條　發電所及變電所ニハ相當ノ豫備機械ヲ備フルコトヲ要ス

第三章　車輛

第一節　車輛定規

第三十六條　車輛定規ハ車輪ヲ除クノ外第三號及第四號圖面ニ依ルヘシ

第三十七條　外方ニ開キタル車輛ノ扉ハ車輛定規ノ限界ヲ超ユルコトヲ得但シ建築定規ノ範圍内ニ於テ七十五粍以上ノ遊間ヲ存スルコトヲ要ス

第三十八條　排障器、制輪子、撒砂管其ノ他ノモノニシテ輪鐵ノ幅外ニ出テサル部分及聯結器ノ下端ハ軌條面上二十五粍ノ高迄下ルコトヲ得

第三十九條　彈機ノ作用ニ因リ上下動ヲ爲ササル部分ハ車輛定規ノ中心線ヨリ測リ軌間一米〇六七及一米四三五ノモノニ在リテハ左右各一米〇二、軌間七百六十二粍ノモノニ在リテハ左右各八百四十粍ノ幅内ニ於テ軌條面上五十粍ノ高迄下ルコトヲ得

第四十條　排雪器ハ其ノ使用ニ際シ轉轍器、護輪軌條等アル箇所ヲ除クノ外之ヲ軌條頭ニ接觸セシムルコトヲ得

第四十一條　電氣機關車及電車ノ集電裝置ノ可動部分ハ車輛定規ノ限界ヲ超ユルコトヲ得

第四十二條　前六條ノ規定ハ輪鐵其ノ他ノ磨損又ハ彈機ノ變形アリタル場合ニ於テモ之ヲ適用ス

第二節　輪軸距

第四十三條　車輛ノ固定輪軸距ハ線路ノ最小曲線半徑ニ應シテ之ヲ定ムヘシ但シ軌間一米〇六七及一米四三五ノモノニ在リテハ四米五七、軌間七百六十二粍ノモノニ在リテハ三米〇五ヨリ大ナルコトヲ得ス

第三節　車輪　第五號圖參照

第四十四條　車輪ノ直徑ハ左ノ寸法ニ依ルヘシ

一　軌間一米〇六七及一米四三五ノモノニ在リテハ導輪及從輪ハ六百十粍以上其ノ他ノモノハ七百六十二粍以上

二　軌間七百六十二粍ノモノニ在リテハ四百五十七粍以上

第四十五條　輪鐵ノ幅ハ左ノ寸法ニ依ルヘシ

一　軌間一米〇六七及一米四三五ノモノニ在リテハ百十四粍以上百五十二粍以下

二　軌間七百六十二粍ノモノニ在リテハ百二粍以上百二十七粍以下

第四十六條　車輪一對ノ輪鐵內側距離ハ左ノ寸法ニ依ルヘシ

一　軌間一米〇六七ノモノニ在リテハ九百九十粍以下九百九十六粍以下

二　軌間一米四三五ノモノニ在リテハ一米三五九以上一米三六五以下

三　軌間七百六十二粍ノモノニ在リテハ六百九十五粍以上七百二粍以下

輪緣ナキ車輪一對ノ輪鐵內側距離ハ之ヲ左ノ寸法迄縮小スルコトヲ得

一　軌間一米〇六七ノモノニ在リテハ九百七十八粍

二　軌間一米四三五ノモノニ在リテハ一米三四六

三　軌間七百六十二粍ノモノニ在リテハ六百八十九粍

第四十七條　輪緣ノ高ハ左ノ寸法ニ依ルヘシ

一　軌間一米〇六七及一米四三五ノモノニ在リテハ二十五粍以上三十六粍以下

二　軌間七百六十二粍ノモノニ在リテハ二十二粍以上三十粍以下

輪緣ノ厚ハ左ノ寸法ニ依ルヘシ

一　軌間一米〇六七及一米四三五ノモノニ在リテハ十九粍以上

二　軌間七百六十二粍ノモノニ在リテハ十六粍以上

第四十八條　車輪一對ノ中心線ヨリ輪緣外面迄ノ距離ハ左ノ寸法ニ依ルヘシ

一　軌間一米〇六七ノモノニ在リテハ五百十七粍以上五百二十七粍以下

二　軌間一米四三五ノモノニ在リテハ七百二粍以上七百十一粍以下

三　軌間七百六十二粍ノモノニ在リテハ三百六十七粍以上三百七十五粍以下

第四十九條　前二條ノ規定ハ輪鐵ノ磨損シタル場合ニ於テモ之ヲ適用ス

第四節　緩衝器及聯結器

第五十條　車輪ニハ彈性ノ緩衝器及聯結器ヲ備フルコトヲ要ス

緩衝器及聯結器ノ中心ハ軌間一米〇六七ノモノニ在リテハ軌條面上空車ノトキ九百十四粍ヲ超ユルコトヲ得ス滿載車ノトキ八百十二粍ヲ下ルコトヲ得ス

兩側緩衝器中心間ノ距離ハ軌間一米〇六七ノモノニ在リテハ一米二一九トス

機關車ニハ兩端ニ螺旋聯結器ヲ、其ノ他ノ車輛ニハ一端ニ螺旋聯結器他端ニ連環聯結器ヲ備フルコトヲ要ス

第二項乃至第四項ノ規定ハ中央緩衝聯結器ヲ備フル車輛ニ之ヲ適用セス

第五節　機關車ノ裝置

第五十一條　機關車ノ左ノ裝置ヲ爲スヘシ

一　汽罐ニハ獨立ニ其ノ用ヲ爲ス二箇以上ノ給水器ヲ備フルコト

二　汽罐內部ノ水位ヲ獨立ニ認知シ得ル二箇以上ノ驗水器ヲ備ヘ其ノ一ハ機關手ノ位置ヨリ水位ヲ直ニ認メ得ルモノタルコト

三　二箇以上ノ安全弁ヲ備フルコト

四　火室ノ頂鈑ニ可鎔栓ヲ備フルコト

五　驗壓器ヲ備ヘ其ノ指針盤ニ實用最高汽壓ヲ表示スルコト

六　汽罐ノ火室ニ在ル繫桿ニハ其ノ頂上ニ在ルモノヲ除クノ外總テ其ノ毀損ヲ外部ヨリ發見シ得ヘキ設備ヲ爲スコト

七　汽笛ヲ備フルコト

八　前後ニ排障器ヲ備フルコト

九　煙櫃及灰箱ニハ火粉止ノ設備ヲ爲スコト

十　他ノ制動機ノ設アル場合ニ於テモ働輪及炭水車ノ車輪ニ働クヘキ手用制動機ヲ備フルコト

第五十二條　客車及緩急車ノ中心間ノ距離ハ軌間一米〇六七ノモノニ在リテハ百二十粍以上百二十七粍以下

第六節　客車及緩急車

第五十二條　客車內ノ面積ハ旅客定員一人ニ付平均〇、二八平方米ヨリ小ナルコトヲ得ス但シ起立乘客ニ對スル相當ノ設備アル場合ニ在リテハ之ヲ〇、二三平方米迄縮小スルコトヲ得

第五十三條　客車內ニハ點燈ノ設備ヲ爲スヘシ

第五十四條　客車ノ側面ニ在ル扉ニハ二箇ノ閉鎖器ヲ備フルコトヲ要ス

第五十五條　緩急車ニハ他ノ制動機ノ設アル場合ニ於テモ手用制動機ヲ備フルコトヲ要ス

第七節　汽動車、電氣機關車及電車

第五十六條　汽動車ニハ機關車及客車ニ關スル規定ヲ準用ス

第五十七條　電氣機關車及電車ニハ左ノ裝置ヲ爲スヘシ

一　特別ノ場合ヲ除クノ外前後ニ制御器ヲ設クルコト

二　自働遮斷器ヲ設クルコト

三　架空線式ノ場合ニ於テハ避雷器ヲ設クルコト

四　警鐘又ハ警笛ヲ備フルコト

五　前後ニ排障器ヲ備フルコト

六　他ノ制動機ノ設アル場合ニ於テモ手用制動機ヲ備フルコト

第五十八條　汽動車及電車ニハ乘務員間ノ合圖器ヲ備フルコトヲ要ス

附則

本令ハ大正八年八月十五日ヨリ之ヲ施行ス

本令ニ依リ許可ヲ受クヘキ事項ニシテ菅規程ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケタル事項ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

舊規程ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本令中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本令ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

●地方鐵道運轉信號保安規程

（大正八年八月十三日　閣令第十二號）

【沿革】昭和五年六月鐵道省令第一一號、同十四年八月同第六號改正

地方鐵道運轉信號保安規程左ノ通定ム

地方鐵道運轉信號保安規程

第一章　總則

第一條　地方鐵道ノ運轉、信號及列車保安ハ本規程ノ定ムル所ニ依ルヘシ但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ鐵道大臣ノ許可ヲ受ケ本規程ニ依ラサルコトヲ得

鐵道大臣ハ鐵道ノ狀況ニ依リ本規程ニ依ラサル特別ノ運轉、信號及列車保安ヲ命スルコトヲ得

第二條　蒸氣機關車、汽動車、電氣機關車及電車ニ付テハ第二十一條及第二十三條ノ規定ヲ除クノ外列車ニ關スル規定ヲ準用ス

第二章　運轉

第一節　線路

第三條　線路ハ列車ヲ安全且正確ニ運轉スルコトヲ得ヘキ狀態ニ之ヲ保持シ毎日少クトモ一回保線係員ヲシテ巡視セシムヘシ

第四條　轉轍器ハ左ノ方向ニ開クヲ以テ其ノ定位トスヘシ

一　本線路ト本線路トノ場合ハ列車カ通常進入スヘキ方向

二　幹線ト支線トノ場合ハ幹線ノ方向

三　本線路ト側線トノ場合ハ本線路ノ方向

四　避難線ト本線路又ハ側線トノ場合ハ避難線ノ方向

第五條　本線路ニ於ケル轉轍器ノ取柄ハ列車又ハ車輛ノ對向通過ノ際之ヲ支持スヘシ但シ鎖錠其ノ他ノ安全裝置ヲ爲シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六條　交通頻繁ニシテ遠方ヨリ展望スルコト能ハサル踏切道其ノ他必要ナル踏切道ニハ列車運轉中看人ヲ置キ之ヲ看守セシムヘシ但シ夜間交通稀ナル際ハ此ノ限ニ在ラス

第七條　建築定規ノ限界内ニハ列車ノ運轉ニ支障ヲ及ホス虞アル物ヲ置クコトヲ得ス限界内ニ崩壞スル虞アル物ハ限界外ト雖之ヲ置クコトヲ得ス

第八條　停車場及停留場ニハ日沒後ハ少クトモ旅客列車及混合列車發著三十分時前ニ點燈スヘシ

第二節　車輛

第九條　車輛ハ安全ニ運轉スルコトヲ得ヘキモノニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十條　製作又ハ購入シタル車輛、重要ナル改造又ハ修繕ヲ爲シタル車輛及六月以上使用ヲ停止シタル車輛ハ其ノ各部ヲ檢査シ試運轉ヲ爲シタル後ニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

蒸氣機關車又ハ汽動車ニシテ製作又ハ購入シタルモノ及其ノ汽罐ニ重要ナル改造又ハ修繕ヲ爲シタルモノハ前項ノ檢査及試運轉ヲ爲スノ外汽罐試驗ヲ行フニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

電氣機關車又ハ電車ニシテ製作又ハ購入シタルモノ及其ノ電動機ニ重要ナル改造又ハ修繕ヲ爲シタルモノハ第一項ノ檢査及試運轉ヲ爲スノ外電動機ノ絶緣耐力試驗ヲ行フニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十一條　蒸氣機關車及汽動車ニ付テハ左ノ定期檢査ヲ行フヘシ

一　使用ノ狀況ニ依リ三年ヲ超エサル期間毎ニ焰管汽罐包套、擔彈機、車輪車軸、軸筐、聯結裝置、緩衝裝置、制動裝置等ヲ取外シテ各部ノ檢

査及汽罐ノ試驗ヲ行ヒ試運轉ヲ爲スコト

二　六月ヲ超エサル期間毎ニ汽笛及汽櫃ノ内部、蒸氣管、放汽管、節汽弁、安全弁、檢壓器及眞空計ノ檢査ヲ爲スコト

三　毎月少クトモ一回火室内部、可熔栓、火粉止器、檢水器、給水器及制動機ノ檢査ヲ爲スコト

第十二條　前二條ノ氣罐試驗ニ於テハ標準檢壓器ヲ使用シ氣罐ノ最高實用壓力ニ其ノ三割五分以上ヲ增加シタル水壓ヲ用ヰ五分時以上之ヲ持續セシムヘシ

第十三條　電氣機關車及電車ニ付テハ左ノ定期檢査ヲ行フヘシ

一　使用ノ狀況ニ依リ三年ヲ超エサル期間毎ニ擔彈機、車輪車軸、軸筐、聯結裝置、緩衝裝置、制動裝置及電動機、制御裝置其ノ他ノ主要ナル電氣裝置ヲ取外シテ各部ノ檢査及電動機ノ絶緣耐力試驗ヲ行ヒ試運轉ヲ爲スコト

二　一年ヲ超エサル期間毎ニ電動機、制御裝置、來電裝置、開閉器、自働遮斷器、避雷器、布設電線、接續電纜及各種計器ノ檢査ヲ爲スコト

三　毎月少クトモ一回電路ト大地トノ間ノ絶緣抵抗ヲ最大使用電壓ヲ以テ試驗ヲ行ヒ制動機ノ檢査ヲ爲スコト

第十四條　客車及貨車ニ付テハ使用ノ狀況ニ依リ客車ニ在リテハ一年半、貨車ニ在リテハ三年ヲ超エサル期間毎ニ擔彈機、車輪車軸、軸筐、聯結裝置、緩衝裝置、制動裝置等ヲ取外シテ定期檢査ヲ行ヒ試運轉ヲ爲スヘシ

汽動車及電車ノ客車部及貨車部ニ付テハ前項ノ規定ヲ準用ス

第十五條　第十條、第十一條、第十三條及第十四條ノ規定ニ依リ施行シタル檢査及試驗ノ年月日及成績ハ之ヲ帳簿ニ記錄スヘシ

第十六條　列車ヲ組成スル車輛ハ使用ノ狀況ニ依リ毎日少クトモ一回其ノ要部ヲ檢査スヘシ

第十七條　蒸氣機關車及電氣機關車ニハ左ノ事項ヲ標記スヘシ

一　所屬鐵道ノ名稱又ハ徽章

二　番號

三　製造所ノ名稱及製造ノ年

四　第十一條第一號又ハ第十三條第一號ノ規定ニ依リ施行シタル最近檢査ノ年月

客車、貨車、汽動車及電車ニハ左ノ事項ヲ標記スヘシ

一　所屬鐵道ノ名稱又ハ徽章

二　記號番號

三　製造所ノ名稱及製造ノ年

四　等級、旅客定員、荷重及自重

五　第十一條第一號、第十三條第一號及第十四條ノ規定ニ依リ施行シタル最近檢査ノ年月

第十八條　動力車ニハ列車運轉中ニ生シタル毀損ヲ應急修理スル爲必要ナル器具ヲ備フヘシ

第十九條　蒸氣ヲ有スル機關車及汽動車ハ停止中節汽弁ヲ閉チ轉向機ヲ中央ニ置キ制動機ヲ緊締シ之ヲ看守スヘシ

電氣機關車及電車ノ運轉手其ノ位置ヲ離ルルトキハ制御機ノ取柄ヲ外シ制動機ヲ緊締シ置クヘシ

動力車ト聯結セサル停止中ノ車輛ニハ制動ノ手段ヲ施スヘシ

第二十條　列車ニハ夜間客車ノ内部ニ點燈スヘシ晝間ニ於テモ隧道通過ニ二分時以上ヲ要スルトキ亦同シ

第三節　列車組成

第二十一條　列車ニハ少クトモ左表ニ掲クル割合ニ依リ該列車カ有スル車軸ノ數ニ比例シタル制動機（車側制動機ヲ除ク）ヲ備ヘ適當ナル係員ヲ乘込マシムヘシ

標準勾配		百軸ニ對シ制動機ヲ附スヘキ車軸數	
		列車ノ平均速度一時間十六粁迄	同一時間二十四粁迄
千分ノ四十ヨリ急ナルモノ		四〇	四九
千分ノ三十ヨリ急ナルモノ		三三	四一
千分ノ二十五ヨリ急ナルモノ		二二	二五
千分ノ二十ヨリ急ナルモノ		一八	二〇
千分ノ十七ヨリ急ナルモノ		一五	一七
千分ノ十四ヨリ急ナルモノ		一三	一五
千分ノ十二ヨリ急ナルモノ		一一	一三
千分ノ十ヨリ急ナルモノ		九	一一
千分ノ七ヨリ急ナルモノ		六	八
千分ノ五ヨリ急ナルモノ		四	七
		同一時間三十二粁迄	同一時間四十粁迄
		四九	三二
三八		二八	二八
三三		二三	二五
三〇		二〇	二三
二八		一八	二一
二六		一七	一九
二四		一五	一六
二一		一二	一四
二〇		一〇	
			同一時間四十八粁迄

制動機ヲ附スヘキ車軸數ノ算出ハ左ノ各號ニ依ル

一　停車場間ニ於テ一粁ヲ距ツル線路ノ二點ヲ連接スル直線ノ勾配中最急ナルモノ又ハ停車場間ノ粁程一粁未滿ナルトキハ兩停車場ヲ連接スル直線ノ勾配ヲ以テ標準勾配ト爲スヘシ

二　蒸氣機關車、電氣機關車及電車ノ働輪一軸ハ之ヲ二軸、炭水車ノ一軸ハ之ヲ一軸半、空貨車ノ一軸ハ之ヲ半軸ニ換算スヘシ

三　計算上生シタル一軸未滿ノ端數ハ之ヲ一軸ニ切上クヘシ

標準勾配千分ノ四十ヨリ急ナル場合又ハ平均速度一時間四十八粁ヲ超ユルトキニ於ケル制動軸數ハ鐵道大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ

第二十二條　制動機ハ其ノ制動力カ列車ニ對シ成ルヘク平等ニ働ク樣之ヲ配置スヘシ

第二十三條　列車ノ最後部（推進ノ場合ニハ最前部）ニハ手用制動機ノ裝置アル車輛ヲ聯結スヘシ但シ最後部ノ車輛カ貨車ニシテ之ニ隣接スル車輛ニ手用制動機ノ裝置アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條　二輛以上ニ跨ル荷物ヲ積載シタル貨車ハ之ヲ旅客列車及混合列車ニ聯結スルコトヲ得ス但シ特別ノ裝置ヲ施シタル貨車ニ積載スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條　列車ニハ夜間前部ニ白色燈、後部ニ赤色燈各一箇ヲ掲クヘシ晝間ニ於テモ延長八百米以上ノ隧道ヲ通過スルトキ亦同シ

第四節　車輛入換

第二十六條　停車場ニ於ケル車輛ノ入換ハ列車カ隣接ノ停車場、停留場又ハ信號所ヨリ該停車場ニ向ヒ出發シタル後ハ相當ノ防護ヲ爲スニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十七條　車輛ハ適當ニ制動セラレ得ル場合ヲ除クノ外動力車ヲ以テ之ヲ突放スルコトヲ得ス

第二十八條　旅客ノ乘込ミタル車輛又ハ動物若ハ爆發物ヲ積載シタル車輛ノ入換ヲ爲シ又ハ之ト他ノ車輛トノ聯結ヲ爲ス場合ニ於テハ解放ノ儘之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十九條　車輛ノ入換ヲ爲ス場合ニ於ケル速度ハ一時間十三粁ヲ超ユルコトヲ得ス

第三十條　蒸氣機關車又ハ電氣機關車ヲ以テ夜間車輛ノ入換ヲ爲ス場合ハ其ノ前部及後部ニ白色燈各二箇ヲ掲クヘシ

第五節　列車運轉

第三十一條　列車カ轉轍器附帶ノ曲線ヲ通過スル場合ニ於ケル速度ハ一時間十六粁ヲ超ユルコトヲ得ス

第三十二條　列車ハ停車場內ノ運轉其ノ他特別ノ場合ヲ除クノ外左方ノ線路ヲ進行スヘシ

第三十三條　列車ハ左ノ場合ニ限リ推進スルコトヲ得

一　列車ノ前頭ニ於テ制御スルトキ

二　停車場內ヲ運轉スルトキ

三　列車又ハ線路ニ故障アルトキ

四　工事用列車又ハ停車場外ノ側線ニ出入スル列車ヲ運轉スルトキ

第三十四條　一保安區間ニ於テハ同一軌道ニ同時ニ一列車ノ外運轉スルコトヲ得ス但シ單線ニ於テ標準勾配千分ノ二十ヨリ緩ナルトキニ限リ續行列車ヲ運轉スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ續行列車ハ先發列車出發後電氣ヲ動力トスルモノニ在リテハ五分時以上、其ノ他ノモノヲ動力トスルモノニ在リテハ十分時以上ヲ經タル後ニ非サレハ之ヲ出發セシムルコトヲ得ス

第三十五條　列車ハ停車場又ハ停留場以外ノ場所ニ於テ旅客又ハ荷物ノ取扱ヲ爲ス爲停止スルコトヲ得ス

第三十六條　二箇以上ノ列車ノ著發ニ際シ相互ニ本線路ニ支障ヲ及ホス虞アル場合ハ二箇以上ノ列車ヲ同時ニ進入又ハ出發セシムルヿトヲ得ス

第三十七條　列車ノ運轉ニ關シテハ當務者ヲシテ左ノ事項ヲ記載シタル報告書ヲ調製セシムヘシ

一　列車ノ組成

二　始發驛、終著驛及主要驛ニ於ケル發著時刻

三　始發驛、終著驛及主要驛ニ於ケル延著發又ハ早著ノ時分及其ノ理由

四　其ノ他必要ナル事項

第三章　信號

第一節　總則

第三十八條　信號ハ煙霧風雪等ニ因リ相當ノ距離ヨリ其ノ現示ヲ識別シ難キトキハ夜間ノ法式ニ依ルヘシ隧道內ニ於テ列車ニ向ヒ信號ヲ現示スルトキ亦同シ

第三十九條　信號ヲ現示スヘキ場所ニ所定ノ法式ニ依ル信號ノ現示ナキトキハ危害信號ト看做スヘシ

第四十條　信號ハ二箇以上ノ線路又ハ二種以上ノ目的ニ之ヲ兼用スルコトヲ得ス

第二節　信號機

第一款　常置信號機

第四十一條　常置信號機ノ主要ナル種類左ノ如シ

一　場內信號機　停車場又ハ信號所ニ進入セムトスル列車ニ對スル信號機ニシテ列車カ其ノ防護區域內ニ進入スル可否ヲ表示ス

二　遠方信號機　列車カ該信號機ト場內信號機ノ防護區域トノ間ニ於テ停止シ得ヘキ速度ヲ以テ徐行スヘキカ又ハ相當速度ヲ以テ進行スヘキカヲ表示ス

三　出發信號機　停車場又ハ信號所ヲ出發又ハ通過セムトスル列車ニ

對スル信號機ニシテ其ノ進行ノ可否ヲ表示ス

前項以外ノ常置信號機ヲ設ケムトスルトキハ鐵道大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四十二條　同一柱ニ同種類ノ信號二箇以上ヲ現示スル裝置ヲ爲シタルトキハ最上位ニ在ルモノハ最左側ノ線路ニ屬シ以下順次右方ノ線路ニ屬ス

第四十三條　常置信號機ハ危害信號又ハ注意信號ヲ現示スルヲ其ノ定位トシ必要ノ場合ニ於テ無難信號ヲ現示ス

第四十四條　常置信號機ハ向テ之ヲ視ルトキ左腕ノ位置又ハ燈色ヲ以テ左ノ法式ニ依リ信號ヲ現示ス

一　場内信號機

危害信號（列車停止スヘシ）

晝間　腕ノ位置水平又ハ赤色燈

夜間　赤色燈

無難信號（列車進行スルコトヲ得）

晝間　腕ノ位置下向四十五度又ハ綠色燈

夜間　綠色燈

二　遠方信號機

注意信號（列車徐行スヘシ）

晝間　腕ノ位置水平又ハ橙黃色燈

夜間　橙黃色燈

無難信號（列車進行スルコトヲ得）

晝間　腕ノ位置下向四十五度又ハ綠色燈

夜間　綠色燈

三　出發信號機

場内信號機ノ法式ニ同シ

第四十五條　常置信號機ノ腕ハ長方形トス但シ遠方信號機ノ腕端ハ矢筈形トス

第四十六條　常置信號機ノ腕ハ表面ヲ赤色トシ腕端ニ近ク之ト竝行シテ白色線ヲ畫ン背面ヲ白色トシ腕端ニ近ク之ト竝行シテ黑色線ヲ畫ス

第四十七條　常置信號機ノ信號現示ヲ夜間後方ヨリ識別スル爲左ノ背面光ヲ現示スヘシ但シ特別ノ設備アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

危害信號又ハ注意信號　大ナル白光

無難信號　小ナル白光

第四十八條　遠方信號機ハ場内信號機カ無難信號ヲ現示シタル後ニ非サレハ無難信號ヲ現示スルコトヲ得ス

第二款　閉塞信號機

第四十九條　閉塞信號機ハ複線ニ於ケル閉塞區間ノ始點ニ之ヲ設置スヘシ

第五十條　閉塞信號機ハ向テ之ヲ視ルトキ左腕ノ位置又ハ燈色ヲ以テ左ノ法式ニ依リ信號ヲ現示ス

一　注意信號ヲ現示スル裝置アル場合

危害信號（列車停止スヘシ）

晝間　上位及下位ノ腕ノ位置水平又ハ赤色燈

夜間　上位赤色燈及下位燈黃色燈又ハ赤色燈

無難信號（列車進行スルコトヲ得）

晝間　上位及下位ノ腕ノ位置下向四十五度又ハ綠色燈

夜間　上位及下位綠色燈又ハ綠色燈

注意信號（列車徐行スヘシ）

晝間　上位ノ腕ノ位置下向四十五度及下位ノ腕ノ位置水平又ハ橙黃色燈

夜間　上位綠色燈及下位橙黃色燈又ハ橙黃色燈

二　注意信號ヲ現示スル裝置ナキ場合

危害信號（列車停止スヘシ）

晝間　腕ノ位置水平又ハ赤色燈

夜間　赤色燈

無難信號（列車進行スルコトヲ得）

晝間　腕ノ位置下向四十五度又ハ綠色燈

夜間　綠色燈

第五十一條　閉塞信號機ノ腕端ハ注意信號ヲ現示スル裝置アルモノニ在リテハ上位ヲ尖形下位ヲ矢筈形トシテ其ノ裝置ナキモノニ在リテハ之ヲ尖形トス

第五十二條　閉塞信號機ノ腕ハ表面ヲ赤色トシ腕端ニ近ク之ト竝行シテ白色線ヲ畫シ背面ヲ白色トシ腕端ニ近ク之ト竝行シテ黑色線ヲ畫ス

第五十三條　閉塞信號機ハ無難信號ヲ現示スルヲ定位トシ列車カ閉塞區間ニ在ル間ハ危害信號ヲ現示ス

第五十四條　閉塞信號機ハ列車カ閉塞區間ニ進入シタルトキ自働作用ニ依リ危害信號ヲ現示シ列車カ閉塞區間ヲ通過シタルトキ閉塞區間ノ終點トノ聯動作ニ依リ無難信號又ハ注意信號ヲ現示スル裝置タルヘシ

第五十五條　閉塞區間ノ終點ニハ始點ニ於ケル閉塞信號機ノ信號現示ヲ複示スル標識ヲ備フヘシ但シ自働閉塞信號機ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第五十六條　列車カ自働閉塞信號機ノ危害信號ノ現示ニ依リ停止スル場合ニ於テ三分時ヲ經過スルモ無難信號又ハ注意信號ヲ現示セサルトキハ一時間十粁ヲ超エサル速度ヲ以テ前方支障ナキ箇所迄徐行スルコトヲ得

第五十七條　閉塞信號機不良ノ場合ニ於テ列車ヲ閉塞區間ニ進入セシメムトスルトキハ電氣通信ニ依リ前方ノ停車場、停留場又ハ信號所ノ承認ヲ受クヘシ

電氣通信ニ依ルコトヲ得サル場合ニ於テハ列車ノ乘務員ニ其ノ旨ヲ通告シ且先發列車カ前方ノ停車場、停留場又ハ信號所ニ到著スヘキ時刻ヲ經過シタル後ニ非サレハ列車ヲ出發セシムルコトヲ得ス

第三款　臨時信號機

第五十八條　臨時信號機ハ列車ノ停止又ハ徐行スヘキ區域ノ兩端ニ於テ左ノ法式ニ依リ信號ヲ現示ス

一　危害信號（列車停止スヘシ）

晝間　赤色圓板

夜間　赤色燈

二　注意信號（列車徐行スヘシ）

晝間　橙黃色圓板

夜間　橙黃色燈

三　無難信號（徐行區域終了）

晝間　綠色圓板

夜間　綠色燈

臨時信號機ノ圓板ノ背面ハ白色トス

第五十九條　單線ニ於テ注意信號ヲ現示スル臨時信號機ハ其ノ背面ヲ綠色トシ反對方向ニ無難信號ヲ現示スルコトヲ得

第三節　手信號

第六十條　手信號ハ信號機ノ設ケナキトキ又ハ之ヲ使用スルコト能ハサルトキ左ノ法式ニ依リ信號ヲ現示ス

一　危害信號（列車停止スヘシ）

晝間　赤色旗ヲ提示ス但シ已ムコトヲ得サル場合ニハ兩腕ヲ高ク擧ケ又ハ物體ヲ急激ニ振リ廻シ之ニ代フルコトヲ得

夜間　赤色燈ヲ提示ス但シ已ムコトヲ得サル場合ニハ何色ノ燈ニテモ急激ニ振リ廻シ之ニ代フルコトヲ得

二　注意信號（列車徐行スヘシ）

晝間　橙黃色旗ヲ提示ス但シ已ムコトヲ得サル場合ニハ兩腕ヲ上下ニ動カシ之ニ代フルコトヲ得

夜間　橙黃色燈ヲ提示ス

三　無難信號（列車進行スルコトヲ得）

晝間　綠色旗ヲ提示ス但シ已ムコトヲ得サル場合ニハ片腕ヲ高ク擧ケ之ニ代フルコトヲ得

夜間　綠色燈ヲ提示ス

第六十一條　一人ニテ同時ニ二箇以上ノ手信號ヲ現示スルコトヲ得ス

第四節　發雷信號

第六十二條　發雷信號ハ雷管ノ爆音ニ依リ信號ヲ現示ス

列車ハ發雷信號ノ現示アリタルトキハ停止スヘシ

第六十三條　發雷信號ハ左ノ場合ニ之ヲ使用スヘシ

一　煙霧風雪等ニ因リ相當距離ヨリ夜間ノ法式ニ依ル危害信號ノ現示ヲ確認シ難キトキ

二　事故其ノ他ノ事由ニ因リ列車途中ニ停止シ又ハ線路ヲ一時閉鎖シタルトキ

前項第一號ノ場合ニ於テハ危害信號ノ現示アル場所ノ前方四百米以上ニ於テ雷管ヲ裝置スヘシ

第一項第二號ノ場合ニ於テハ停止列車又ハ閉鎖線路ノ兩端ヨリ單線ニ在リテハ前後各四百米以上、複線ニ在リテハ後方同距離以上ニ於テ雷管ヲ裝置スヘシ但シ最近ノ停車場、停留場又ハ信號所ニ其ノ旨ヲ通知シタルトキハ該方面ニ對シ雷管ノ裝置ヲ要セス

雷管ハ相當距離ヲ隔テ二箇以上ヲ軌條ニ裝置スヘシ

第五節　合圖

第六十四條　車輛ノ入換合圖ハ左ノ法式ニ依ルヘシ

一　前進スヘシ

晝間　綠色旗ヲ上下ニ振ル但シ已ムコトヲ得サル場合ニハ片腕ヲ上下ニ動カシ之ニ代フルコトヲ得

夜間　綠色燈ヲ上下ニ振ル

二　推進スヘシ

晝間　綠色旗ヲ左右ニ振ル但シ已ムコトヲ得サル場合ニハ片腕ヲ左右ニ動カシ之ニ代フルコトヲ得

夜間　綠色燈ヲ左右ニ振ル

三　停止スヘシ

晝間　赤色旗ヲ提示ス但シ已ムコトヲ得サル場合ニハ兩腕ヲ高ク擧ケ之ニ代フルコトヲ得

夜間　赤色燈ヲ提示ス

第六十五條　列車出發ノ際車掌ヨリ機關手又ハ運轉手ニ對シテ爲ス合圖ハ左ノ法式ニ依ルヘシ

晝間　片腕ヲ水平ニ伸ヘ手笛ヲ長聲ニ吹ク

夜間　綠色燈ヲ高ク圓形ニ動カシ手笛ヲ長聲ニ吹ク

第六十六條　保線係員、踏切番人等ニ向ヒ直ニ線路ヲ檢査スヘキ旨ヲ通告スル必要アル場合ニ於テ列車乘務員ノ爲ス合圖ハ左ノ法式ニ依ルヘシ

晝間　帽又ハ他ノ物體ヲ綬ニ振ル

夜間　白色燈ヲ綬ニ振ル

第六十七條　汽笛合圖ハ左ノ法式ニ依ルヘシ

一　列車カ運轉ヲ始メムトスルトキ其ノ他注意ヲ促ストキ　適度ノ汽笛一聲

二　列車ノ近ケルヲ停車場、停留場又ハ往來頻繁ナル踏切道ニ知ラシムルトキ　長緩汽笛一聲

三　制動機ノ緊締ヲ促ストキ　短急汽笛三聲

四　制動機ノ緩解ヲ促ストキ　適度ノ汽笛二聲

五　非常ノ事故ヲ警告シ又ハ保線係員ヲ招集スルトキ　短急汽笛數聲

第六節　標識

第六十八條　轉轍器標識ハ左ノ法式ニ依ルヘシ

一　轉轍器

定位ニ在ルトキ

晝間　前方及後方ヘ中央ニ白色綠一條ヲ横ニ畫シタル紫色圓板

夜間　前方及後方ヘ紫色燈

定位ニ在ラサルトキ

晝間　前方及後方ヘ中央ニ黑色綠一條ヲ矢筈ニ畫シタル黃色矢羽形板

夜間　前方及後方ヘ黃色燈

二　脫線轉轍器

定位ニ在ルトキ

晝間　前方及後方ヘ中央ニ白色綠一條ヲ横ニ畫シタル赤色長方形板

夜間　前方及後方ヘ赤色燈

定位ニ在ラサルトキ

晝間　前方及後方ヘ中央ニ黑色綠一條ヲ横ニ畫シタル白色圓板

夜間　前方及後方ヘ綠色燈

第六十九條　夜間車止ノ位置ヲ示ス必要アルトキハ車止ニ白色燈ヲ揭クヘシ

第四章　列車保安

第一節　總則

第七十條　列車保安ハ左ノ法式ニ依ルヘシ但シ閉塞信號機ヲ設置スル區間及全線ヲ通シ二箇以上ノ列車ヲ運轉スルコトナキ鐵道ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

一　複線ノ場合

閉塞器式

二　單線ノ場合

電氣通票器式、通票式又ハ票券式

第七十一條　列車保安ハ左ノ場合ニ限リ指導法ニ依ルコトヲ得

一　事故其ノ他ノ事由ニ因リ一時線路ヲ中斷シ又ハ複線ニ於テ一線ヲ一時閉鎖シタルトキ

二　電氣通票ノ破損又ハ喪失シタルトキ

三　電氣通票器ノ不良ナルトキ

四　通票ノ破損又ハ喪失シタルトキ

第七十二條　地方鐵道業者ハ列車保安ノ法式ヲ定メ鐵道大臣ニ之ヲ屆出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第七十三條　閉塞器及電氣通票器ニ添裝スル電鈴及電話機ハ列車運轉ノ用ニ供スルノ外他ノ目的ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第二節　閉塞式

第一款　閉塞器式

第七十四條　閉塞器式ヲ施行スル閉塞區間ノ兩端ニハ閉塞器ヲ備フヘシ

第七十五條　閉塞器ハ閉塞區間ニ列車ノ有無ヲ表示スル腕又ハ燈ヲ備ヘ電鈴及電話機ヲ添裝スヘシ

第七十六條　閉塞器ノ表示ハ左ノ法式ニ依ルヘシ

一　腕ノ位置ニ依ル場合

列車前方ニ進行ス

向テ左腕ノ位置水平

列車前方ヨリ進行シ來ル

向テ右腕ノ位置水平

閉塞區間ニ列車ナシ

腕ノ位置下向四十五度

二　燈ノ色ニ依ル場合

列車前方ニ進行ス　赤色燈

向テ左方

列車前方ヨリ進行シ來ル　赤色燈

向テ右方

閉塞區間ニ列車ナシ　白色燈

第七十七條　閉塞器ノ表示ハ對手ノ停車場又ハ信號所ノ閉塞器ノ表示ト聯動シ且列車前方ニ進行スノ表示ハ前方ノ停車場又ハ信號所ヨリ操縱スルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得サル裝置タルヘシ

第七十八條　閉塞器ノ電鈴合圖ハ左ノ法式ニ依ルヘシ

一　列車ヲ閉塞區間ニ進入セシメムトスルトキ又ハ承認ヲ與ヘムトスルトキ　二打

二　列車到著シタルトキ又ハ之カ應答　四打

三　通信ヲ爲サムトスルトキ又ハ之カ應答　三打

第七十九條　列車ヲ閉塞區間ニ進入セシメムトスルトキハ閉塞器ニ依リ前方ノ停車場又ハ信號所ニ其ノ合圖ヲ爲シ之カ承認ヲ受クヘシ

第八十條　前條ノ承認ハ左ノ條件ヲ具備スルニ非サレハ之ヲ與フルコトヲ得ス

一　閉塞區間ニ列車ナキコト

二　承認ヲ與ヘムトスル列車ノ到著線路ニ支障ナキコト

車輛ノ入換ヲ爲ストキ及到著セムトスル列車カ汽動車又ハ電車ナルトキハ線路其ノ他ノ狀況ニ依リ前項第二號ノ條件ヲ具備セサルモ承認ヲ與フルコトヲ得

承認ハ閉塞器ノ表示ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第八十一條　閉塞器不良ノ場合ニ於テ列車ヲ閉塞區間ニ進入セシメムトスルトキハ第五十七條ノ規定ヲ準用ス

第二款　電氣通票器式

第八十二條　電氣通票器式ヲ施行スル閉塞區間ノ兩端ノ停車場又ハ信號所ニハ電氣通票器ヲ備フヘシ

電氣通票器ハ通票ヲ收容シ閉塞區間ニ列車ノ有無及方向ヲ表示スル標識ヲ備ヘ電鈴及電話機ヲ添裝シ左ノ條件ヲ具備スル裝置タルヘシ

一　通票ハ對手ノ停車場又ハ信號所ト協同スルニ非サレハ之ヲ取出スコトヲ得サルコト

二　閉塞區間ノ兩端ニ於ケル電氣通票器ニ收容セラレタル通票ハ一箇ニ限リ取出スコトヲ得他ノ通票ハ取出サレタル通票ヲ電氣通票器ニ納入スルニ非サレハ之ヲ取出スコトヲ得サルコト

三　電氣通票器ニハ隣接閉塞區間ニ使用スル通票ヲ納入シ得サルコト

第八十三條　列車ハ當該閉塞區間ノ通票ヲ携帶スルニ非サレハ其ノ區間ヲ運轉スルコトヲ得ス

第八十四條　鄰接閉塞區間ノ通票ハ其ノ形狀ヲ異ニスヘシ

第八十五條　列車ノ運轉ニ使用シタル通票ハ之ヲ電氣通票器ニ納入スルニ非サレハ他ノ列車ノ運轉ニ使用スルコトヲ得ス

第八十六條　第七十八條乃至第八十條ノ規定ハ電氣通票器式ニ之ヲ準用ス

第三款　通票式

第八十七條　通票式ヲ施行スル區間ニハ通票ヲ備フヘシ通票ハ一閉塞區間一箇トス

第八十八條　通票ニハ當該閉塞區間ノ兩端ノ停車場名又ハ信號所名ヲ記スヘシ

第八十九條　第八十三條及第八十四條ノ規定ハ通票式ニ之ヲ準用ス

第三節　票券式

第九十條　票券式ヲ施行スル區間ニハ通票及通券ヲ備フヘシ

通票ハ一保安區間一箇トス

通券ハ各保安區間ノ兩端ノ停車場又ハ信號所ニ之ヲ備フヘシ

第九十一條　通票ニハ當該保安區間ノ兩端ノ停車場名又ハ信號所名ヲ記スヘシ

鄰接保安區間ノ通票ハ其ノ形狀ヲ異ニスヘシ

第九十二條　通券ニハ當該保安區間ノ兩端ノ停車場名又ハ信號所名ヲ記スヘシ

鄰接保安區間ノ通券ハ其ノ色ヲ異ニスヘシ

第九十三條　通券ハ當該保安區間ノ通票ヲ以テスルニ非サレハ開クコトヲ得サル通券函ニ之ヲ保管スヘシ

通券ハ列車ニ授與スルトキニ非サレハ通券函ヨリ之ヲ取出スコトヲ得ス

第九十四條　列車ハ當該保安區間ノ通票又ハ通券ヲ携帶スルニ非サレハ其ノ區間ヲ運轉スルコトヲ得ス

第九十五條　通券ハ同一保安區間ニ二箇以上ノ列車ヲ同一方向ニ運轉スル場合ニ於テ先發列車ニ限リ之ヲ使用スヘシ

第九十六條　通券ハ發行ノ月日、當該列車番號及通票ヲ携帶スヘキ列車番號ヲ記載シ之ヲ發行スヘシ

第九十七條　通券ヲ携帶スル列車ハ退行スルコトヲ得ス

第九十八條　通券ヲ列車ノ乘務員ニ交付スルトキハ當該保安區間ノ通票ヲ呈示スヘシ

列車ノ乘務員ハ當該保安區間ノ通票ヲ確認スルニ非サレハ通券ヲ受領

スルコトヲ得ス

第四節　指導法

第九十九條　指導法ヲ施行スル場合ニ於テハ一區間一人ノ指導者ヲ定メ赤色ノ腕章ヲ附セシムヘシ

第百條　指導者ノ氏名及擔當區間ハ指導者ノ乘込前之ヲ關係係員ニ告知スヘシ

第百一條　指導者ハ指導券ヲ發行スルコトヲ得但シ通票式ヲ施行スル區間ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第百二條　閉塞器式及電氣通票器式ヲ施行スル區間並閉塞信號機ヲ設置スル區間ニ於テハ電氣通信ヲ以テ前方ノ停車場又ハ信號所ノ承認ヲ受クルニ非サレハ指導者ハ列車ニ乘込ミ又ハ指導券ヲ發行スルコトヲ得ス

電氣通信ニ依ルコトヲ得サル場合ニハ第五十七條第二項ノ規定ヲ準用ス

第百三條　列車ハ指導者乘込ムカ又ハ指導券ヲ携帶スルニ非サレハ指導法ヲ施行スル區間ヲ運轉スルコトヲ得ス

第百四條　列車ノ乘務員ハ指導者ヨリ直接指導券ノ交付ヲ受クルニ非サレハ之ヲ受領スルコトヲ得ス

第百五條　指導法ヲ廢止セムトスル場合ニ於テハ指導法ニ依リ最終ニ運轉スル列車ニハ指導者ヲ乘込マシメ且廢止後ニ施行スル保安法式ヲ併用スヘシ

前項ノ場合ヲ除クノ外指導法ト他ノ保安法式トヲ併用スルコトヲ得ス

第百六條　第九十二條、第九十五條乃至第九十七條ノ規定ハ指導券ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正八年八月十五日ヨリ之ヲ施行ス

輕便鐵道營業規程ハ之ヲ廢止ス

本令ニ依リ許可又ハ認可ヲ受クヘキ事項ニシテ舊規程ニ許可又ハ認可ヲ受ケタル事項ハ本令ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

舊規程ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本令中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本令ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

●地方鐵道係員職制

（大正八年八月十三日　閣令第十三號）

【沿革】昭和十四年八月鐵道省令第六號改正

地方鐵道係員職制左ノ通定ム

地方鐵道係員職制

第一條　地方鐵道ノ係員職制ハ本令ノ定ムル所ニ依ルヘシ但シ鐵道ノ狀況ニ依リ本令ニ依リ難キ場合ニ於テハ別ニ職制ヲ定メ鐵道大臣ニ之ヲ屆出ツヘシ

第二章　運輸係員

第二條　地方鐵道ニ左ノ運輸係員ヲ置ク

運輸長
驛長
助役
出札掛
改札掛
貨物掛
小荷物掛
操車掛
轉轍手
驛夫
車掌
機關庫主任
機關手
機關助手
檢車手
機關夫
炭水夫

前項ノ係員ハ職務ノ狀況ニ依リ二以上ノ係員ノ職務ヲ兼ヌルコトヲ得

第三條　運輸長ハ鐵道ノ運輸、運轉及車輛ノ修理、保管ニ關スル事務ヲ掌理シ所屬係員ヲ監督ス

第四條　驛長ハ運輸長ノ指揮ヲ承ケ驛務ヲ處理シ構內ノ秩序ヲ保持シ所屬係員ヲ監督ス

第五條　助役ハ驛長ヲ補佐シ又ハ之ヲ代理ス

第六條　出札掛ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ乘車券ノ發賣ニ從事ス

第七條　改札掛ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ乘車券ノ檢査及取集ニ從事ス

第八條　貨物掛ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ貨物ノ受託、保管及引渡ニ從事ス

第九條　小荷物掛ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ手小荷物ノ受託、保管及引渡ニ從事ス

第十條　操車掛ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ車輛ノ入換及信號機ノ取扱ニ從事ス

第十一條　轉轍手ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ轉轍器ノ取扱ニ從事ス

第十二條　驛夫ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ掃除、荷物ノ積卸、運搬等ノ雜務ニ從事ス

第十三條　車掌ハ運輸長ノ指揮ヲ承ケ列車ノ運轉及旅客荷物ノ輸送ニ從事ス但シ列車カ停車場ニ在ルトキハ驛長ノ指示ヲ承クヘシ

車掌ハ車內ノ秩序ヲ保持シ必要アルトキハ旅客ニ對シ相當ノ指圖及處分ヲ爲スコトヲ得

第十四條　機關庫主任ハ運輸長ノ指揮ヲ承ケ機關庫ニ關スル事務ヲ處理シ所屬係員ヲ監督ス

第十五條　機關手ハ機關庫主任ノ指揮ヲ承ケ機關車ノ運轉ニ從事ス但シ列車運轉中ニ在リテハ車掌、列車カ停車場ニ在ルトキハ驛長ノ指示ヲ承クヘシ

第十六條　機關助手ハ機關庫主任ノ指揮ヲ承ケ機關手ヲ補助ス但シ機關車乘務中ニ在リテハ機關手ノ指示ヲ承クヘシ

第十七條　檢車手ハ機關庫主任ノ指揮ヲ承ケ車輛ノ檢査及注油ニ從事ス

第十八條　機關夫ハ機關庫主任ノ指揮ヲ承ケ機關車ノ掃除ニ從事ス

第十九條　炭水夫ハ機關庫主任ノ指揮ヲ承ケ機關車用燃料ノ搭載、給水等ノ雜務ニ從事ス

第三章　保線係員

第二十條　地方鐵道ニ左ノ保線係員ヲ置ク

保線長
保線手
線路工夫
踏切番

第二十一條　保線長ハ線路及諸建造物ノ修理及保存ニ關スル事務ヲ掌理シ所屬係員ヲ監督ス

第二十二條　保線手ハ保線長ノ指揮ヲ承ケ線路及諸建造物ノ修理及保存ニ從事シ所屬係員ヲ監督ス

第二十三條　線路工夫ハ保線手ノ指揮ヲ承ケ線路及諸建造物ノ看守、修理及保存ニ從事ス

第二十四條　踏切番ハ保線手ノ指揮ヲ承ケ踏切道ノ看守ニ從事ス但シ停車場構內踏切道ノ看守ニ付テハ驛長ノ指示ヲ承クヘシ

第四章　電氣係員

第二十五條　電氣ヲ動力トスル地方鐵道ニ左ノ電氣係員ヲ置ク

電氣長
發電所主任
變電所主任
電路主任
電車庫主任
運轉手
電工
電氣工夫

第二條第二項ノ規定ハ電氣係員ニ之ヲ準用ス

第二十六條　電氣長ハ電氣ニ關スル事務ヲ掌理シ所屬係員ヲ監督ス

第二十七條　發電所主任ハ電氣長ノ指揮ヲ承ケ發電所ニ關スル事務ヲ處理シ所屬係員ヲ監督ス

第二十八條　變電所主任ハ電氣長ノ指揮ヲ承ケ變電所ニ關スル事務ヲ處理シ所屬係員ヲ監督ス

第二十九條　電路主任ハ電氣長ノ指揮ヲ承ケ電線路及之ニ附帶スル器機ノ修理及保存ニ關スル事務ヲ處理シ所屬係員ヲ監督ス

第三十條　電車庫主任ハ電氣長ノ指揮ヲ承ケ電車庫ニ關スル事務ヲ處理シ所屬係員ヲ監督ス

第三十一條　運轉手ハ電車庫主任ノ指揮ヲ承ケ電氣機關車及電車ノ運轉ニ從事ス

第十五條但書ノ規定ハ運轉手ニ之ヲ準用ス

第三十二條　電工ハ發電所主任、變電所主任又ハ電車庫主任ノ指揮ヲ承ケ器機ノ檢査及修理其ノ他ノ雜務ニ從事ス

第三十三條　電氣工夫ハ電路主任ノ指揮ヲ承ケ電線路及之ニ附帶スル器機ノ看守、修理及保存ニ從事ス

附　則

本令ハ大正八年八月十五日ヨリ之ヲ施行ス

鐵道係員職制ハ之ヲ廢止ス

本令ニ依リ屆出ツヘキ事項ニシテ舊令ニ依リ屆出ヲ爲シタルモノハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

●地方鐵道會計規程（大正八年八月十三日閣令第十四號）

【沿革】昭和四年十二月鐵道省令第四號、同十四年八月同第九號改正

地方鐵道會計規程左ノ通定ム

地方鐵道會計規程

第一條　地方鐵道ノ會計ハ本規程ニ依リ之ヲ整理スヘシ但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ鐵道大臣ノ許可ヲ受ケ本規程ニ依ラサルコトヲ得

鐵道大臣ハ必要アリト認ムルトキハ本規程ニ依ラサル特別ノ整理ヲ命スルコトヲ得

第二條　地方鐵道ノ會計年度ハ一年又ハ六月トス

第三條　鐵道及附屬物件ノ建設及改良ニ要スル費用、貯藏物品ノ購入代金、借入金ノ償還金、借入金ノ運輸開始前ニ屬スル利子等ハ資本金、借入金其ノ他ノ資金ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第四條　鐵道及附屬物件ノ保存費其ノ他ノ營業費、建設及改良ノ費用ニ充當シタル借入金ノ運輸開始後ニ屬スル利子、株式公債ニ因リテ生スル差損金等ハ營業收入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第五條　資本減少ニ因リテ生スル差益金ハ缺損ノ塡補又ハ財產價額ノ消却ニ充當スルノ外之ヲ處分スルコトヲ得ス

第六條　運輸開始前ニ於ケル雜收入ハ之ヲ借入金ノ利子支拂ニ充當スヘシ

前項ニ依リ借入金ノ利子支拂ニ充當シタル殘額ハ之ヲ商法第二百九十一條ノ規定ニ依ル利息配當ニ充當スヘシ

前二項ノ規定ニ依リ利子支拂又ハ利息配當ニ充當シタル金額ハ之ヲ建設費ニ算入スルコトヲ得ス

第七條　削除

第八條　貯藏物品ハ原價ヲ以テ之ヲ出納スヘシ

第九條　財產目錄ニ記載スル有價證券以外ノ財產ノ價額ハ實費決算額ヲ超ユルコトヲ得ス

財產價額ヲ消却シタルトキハ消却額ヲ原價ヨリ控除シタル殘額ヲ以テ實費決算額トス

第十條　建設及營業ニ關聯スル費用ハ當該營業年度ニ於ケル建設費及營業費ノ決算額ノ割合ニ依リ百分率ヲ以テ之ヲ分割スヘシ但シ全部ヲ營業費ニ算入スルコトヲ妨ケス

第十一條　地方鐵道業者カ他ノ事業ヲ營ム場合ニ於テハ鐵道及他ノ事業ニ關聯スル興業費、營業費又ハ營業收入ハ當該營業年度ニ於ケル興業費、營業費又ハ營業收入ノ決算額ノ割合ニ依リ百分率ヲ以テ之ヲ分割スヘシ

鐵道及他ノ事業ノ興業及營業ニ關聯スル費用ハ當該營業年度ニ於ケル興業費及營業費ノ決算額ノ割合ニ依リ百分率ヲ以テ之ヲ分割スヘシ但シ全部ヲ營業費ニ算入スルコトヲ妨ケス

第十二條　第十條ノ規定ハ地方鐵道業者カ他ノ事業ヲ營ム場合ニ於ケル他ノ事業ノ興業及營業ニ關聯スル費用ニ付之ヲ準用ス

第十三條　區間ヲ分チテ建設費ヲ整理スル場合ニ於テ各區間ニ關聯スル建設費ハ當該營業年度ニ於ケル各區間ノ建設費ノ決算額ノ割合ニ依リ百分率ヲ以テ之ヲ分割スヘシ

附　則

本令ハ大正八年八月十五日ヨリ之ヲ施行ス

私設鐵道株式會社會計準則及輕便鐵道會計準則ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際地方鐵道會社カ現ニ有スル會社ノ株式ニ付テハ本令施行後六月內ニ許可ヲ申請スヘシ

附　則（昭和十四年鐵道省令第九號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第六條ノ改正規定ハ昭和十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●專用鐵道規程（大正八年八月十三日閣令第十九號）

【沿革】昭和十四年八月鐵道省令第七號改正

專用鐵道規程左ノ通定ム

專用鐵道規程

第一條　本規程ハ道府縣其ノ他ノ公共團體又ハ私人カ專用ニ供スル爲敷設スル鐵道ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ之ヲ適用ス

一　公衆ノ用ニ供スル鐵道又ハ軌道ト直通スルモノ

二　公衆ノ用ニ供スル鐵道又ハ軌道ト連絡スルモノ但シ人力又ハ馬力ヲ動力トスルモノヲ除ク

三　前各號ノ專用鐵道ト直通スルモノ

第二條　專用鐵道ヲ敷設セムトスル者ハ申請書ニ使用ノ目的ヲ記載シ鐵道ヲ敷設セムトスル地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由シ左ノ書類及圖面ヲ提出シ鐵道大臣ノ免許ヲ受クヘシ

一　線路實測圖

二　工事方法書

三　建設費豫算書

四　他ノ鐵道又ハ軌道ト連絡又ハ直通ニ關スル協定書ノ謄本

第三條　免許ニハ工事ノ著手及竣功ノ期限ヲ附ス

前項ノ期限ハ天災事變其ノ他已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ限リ其ノ伸長ヲ申請スルコトヲ得

第四條　工事ニ著手シタルトキハ一週間以内ニ鐵道大臣ニ之ヲ届出ツヘシ

第五條　免許ヲ受ケタル者ハ運轉、信號及列車保安ニ關スル規定ヲ定メ鐵道大臣ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ

第六條　專用鐵道ノ運轉ノ管理ノ委託ヲ爲サムトスルトキハ申請書ニ運轉ノ管理ノ委託ニ關スル協定書ノ謄本ヲ添附シ鐵道大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第七條　運輸ヲ開始シタルトキハ遲滯ナク所管鐵道局長ニ之ヲ届出ツヘシ

第八條　專用鐵道ヲ讓渡セムトスルトキハ讓受人ト連署シ鐵道ヲ敷設スル地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由シ鐵道大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第八條ノ二　會社ノ合併ニ因リ免許ニ屬スル權利義務ヲ承繼シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨鐵道大臣ニ届出ツヘシ

第九條　專用鐵道ハ鐵道大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ使用ノ目的ニ屬セサル物品運送ノ用ニ供スルコトヲ得ス

第十條　鐵道大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ工事方法、運轉、信號又ハ列車保安方法ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十一條　免許ヲ受ケスシテ專用鐵道ヲ敷設シ又ハ認可ヲ受ケスシテ運輸ヲ開始シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ規定ハ公共團體カ專用鐵道ヲ敷設スル場合ニ之ヲ適用セス

第十二條　地方鐵道法第十條第二項、第十一條、第十六條、第十七條、第十九條第一項第三號、同條第二項、第二十條、第二十三條、第二十五條、第三十七條第一項、第三十九條、第四十條、地方鐵道法施行規則第三條、第十一條、第十二條、第十七條、第十八條、第二十條、第二十一條、第二十六條、第五十二條、地方鐵道建設規程第十九條、第二十一條、第三十條ノ規定ハ專用鐵道ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正八年八月十五日ヨリ之ヲ施行ス

專用鐵道規則ハ之ヲ廢止ス

本令ニ依リ免許、許可又ハ認可ヲ受クヘキ事項ニシテ舊規則ニ依リ免許、許可又ハ認可ヲ受ケタルモノハ本令ニ依リ免許、許可又ハ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

舊規則ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本令中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本令ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

附　則（昭和十四年鐵道省令第七號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前鐵道大臣ニ於テ受付ケタル申請書及届書ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

●私設鐵道線路ニ於ケル事故報告ノ件

（明治三十年八月二十七日　遞信省訓令第四號）

警視總監　各府縣知事（東京府知事ヲ除ク）

其府縣管内ニ敷設スル私設鐵道線路ニ於テ左記ノ事故發生シタルトキハ直ニ其旨ヲ報告スヘシ

一　車輛脱線

一　車輛衝突

一　線路故障及其他危險ナル運轉上ノ事故

●地方鐵道法施行規則第五十條鐵道臺帳樣式（大正八年八月二十八日　鐵道院告示第六十六號）

【沿革】昭和五年六月省告示第一八一號改正

地方鐵道法施行規則第五十條鐵道臺帳樣式左ノ通定ム

第一表ノ一（用地臺帳調製面積式）

用地臺帳ノ一

府縣　郡市　町村

大字	字地番	原地目	面積 公簿	面積 實測	價額 土地代	價額 諸手當	價額 合計	取得 方法	取得 年月日	登記 種別	登記 番號	登記 年月日	地種組替 地所名稱	地種組替 年月日	原所有者 住所	原所有者 氏名	記事

備考

1 原地目欄ニハ土地臺帳ニ登錄ノ土地ハ公簿面ノ地目其ノ他ハ取得當時ノ地目ヲ記載スヘシ

2 面積欄ニハ一筆毎ニ歩又ハ坪ノ單位ヲ肩書シ土地臺帳登錄ノ面積ニ依リ取得シタルモノハ公簿面積ヲ其ノ他ノモノハ實測面積ヲ記載スヘシ

3 價格欄土地代價ニハ買收代價、收用補償交換ノ場合ニハ評價額、無償譲受ノ場合ニハ見積額ヲ記載シ諸手當ニハ地上物件ノ移轉費、補償費等ヲ記載スヘシ

4 取得欄方法ニハ買收、收用、有償譲受、交換、無償譲受等ヲ記載スヘシ

同欄年月日ニハ買收ハ土地賣渡證書記載ノ年月日、收用ハ收用審査會裁決ノ收用時期、譲受及交換ハ協定ノ年月日ヲ記載スヘシ

5 登記欄種別ニハ所有權ノ移轉又ハ保存ノ區別ヲ記載スヘシ

6 地種組替欄地所名稱ニハ鐵道線路敷地、鐵道用地ノ區別ヲ記載シ同欄年月日ニハ地種組替遲滯ノ年月日ヲ記載スヘシ

7 喪失欄原因ニハ有償譲渡、無償譲渡、賣渡、賣戻、交換等ノ區別ヲ記載スヘシ

同欄面積ニハ取得面積ニ對スル喪失面積ヲ記載スヘシ

第一表ノ二（用地臺帳調製面積式）

用地臺帳ノ二

第二表（橋梁臺帳様式）

橋梁臺帳

圖面番號第　號　　橋梁

種目		年月日現況	變更修理 年	月	日	變更修理由	變更修理要旨	摘要
位置		糸						
箇所		何郡道・何道路・何川・何谷・何運河・何湖橋						
軌道敷		單線、複線						
寸法	長（兩橋臺面間ノ距離及徑間ノ長箇數）	米						
		米　箇						
	拱軸ノ長	米						
角度及方向		直角又ハ斜角度右又ハ左						
各徑間ノ桁ノ總重量		米鐵桁、　瓩						
拱又ハ桁	材質	米鋼桁、米木桁						
	形式	米鋼何桁何式						
	製造年							
	製造者	會社　工場						
	所定動荷重	何瓩可動荷重何瓩聯隊何瓩聯隊車何臺聯隊車何臺聯隊及附隨等布荷重毎米瓩						
橋臺	材質							
	基礎工	杭打混凝土工						
橋脚	材質							
	基礎工	杭打混凝土工、煉瓦沈井工						
製壁ノ材質及構造		間知石空積、煉瓦積						
橋梁上線路ノ勾配								
橋梁上線路		直線又ハ曲線半徑						
起工年月								
竣工年月								
建設費								
記事		工事中重大ナル事故其ノ他ノ必要ナル事項ヲ記載スヘシ						

第一表ノ三（用地臺帳第四合計簿様式）

用地臺帳ノ三

府縣　郡市　町村

年月日	原因	面積	土地代價	氏名	記事	年月日	原因	面積	土地代價	氏名	記事

年月日	地所名稱	減 筆數	減 面積	減 價額	減 筆數	減 面積	減 價額	少 記事	年月日	地所名稱	增 筆數	增 面積	增 價額	加 筆數	加 面積	加 價額	少 記事

備考

1 增加臺面積ニハ取得面積ヲ記載シ同欄ノ價額ニハ土地代價及補手當ノ合計額ヲ記載スヘシ
2 減少臺面積ニハ取得面積ニ對スル喪失面積ヲ記載シ同欄價額ニハ土地代價ノミヲ記載スヘシ
3 毎期末ニ於テ其ノ期内ノ增加及減少ノ各面積・價額ヲ地所名稱毎ニ合計シ更ニ地所名稱毎ノ累計ヲ各朱記スヘシ

第四表ノ一(蒸氣機關車臺帳樣式)

蒸氣機關車臺帳ノ一

形式稱號＿＿＿＿＿＿　第＿＿＿＿號機關車

形式				直徑	輪鐵幅	輪緣 厚	輪緣 高	車輪一側ノ內側離	記事
最大寸法	長	耗	車輪 導輪	耗	耗	耗	耗	耗	
	幅	〃	働輪	〃	〃	〃	〃	〃	
	高	〃	從輪	〃	〃	〃	〃	〃	
汽筩	直徑	耗	炭水車輪	〃	〃	〃	〃	〃	
	衝程	〃							
實用最高汽壓		瓩/平方糎							
火床面積		平方米							
傳熱面積		〃							
煙管		〃							
火室		〃							
過熱面積		〃							
煙管	大	徑(耗)長(耗)數							
	小	〃 〃 〃							
水槽容積		立方米							
燃料櫃容積		〃〃〃							
機關車重量	盈	瓲							
	空	〃							
炭水車重量	盈	〃							
	空	〃							

車軸		ジョーナル 徑	ジョーナル 長	ホイール 徑	フイット 長	
導輪	一位	耗	耗	耗	耗	
	二位	〃	〃	〃	〃	
働輪	一位	〃	〃	〃	〃	
	二位	〃	〃	〃	〃	
	三位	〃	〃	〃	〃	
	四位	〃	〃	〃	〃	
從輪		〃	〃	〃	〃	
炭水車		〃	〃	〃	〃	
制動機	種類					
	制輪子					箇
緩衝器		種類	兩側中心間距離	軌心ヨリ中心迄ノ高	頭徑	
			耗	耗	耗	
聯結器種類						

備考

1　橋梁、溝橋、跨線道路橋及水道橋ヲ記載スヘシ

2　一箇ノ橋梁ニ二箇以上ノ鐵道線路ヲ敷設スルトキハ各所屬線ニ分割記載シ欄外橋梁名稱ノ下ニ何線ト連續ノ旨ヲ附記スヘシ

3　橋臺ヲ異ニスル少許ノ距離ヲ有シ併列スルモノハ一箇ノ橋梁ト看做シ記載スヘシ

第三表(隧道臺帳樣式)

隧道臺帳

圖面番號第＿＿＿號　＿＿＿＿＿＿隧道

種目		年月日現況	變更修理 年	月	日	變更修理理由	變更修理要旨	摘要
位置		自　耗　至　耗						
箇所		何山、何ノ下						
軌道敷		單線、複線						
長		米						
隧道內線路ノ勾配								
隧道內線路		直線又ハ曲線半徑						
構造	拱ノ厚、長、材質	厚耗、長米、材質						
	側壁ノ厚、長、材質	厚耗、長米、材質						
	仰拱ノ厚、長、材質	厚耗、長米、材質						
	排水渠ノ寸法、位置、材質	幅耗、深耗、長米、中央又ハ兩側ノ別及材質						
	待避所ノ寸法、位置	高耗、幅耗、深耗、左右ノ別及箇所數						
	坑門ノ材質							
地質								
起工年月								
竣工年月								
建設費								
記事		工事中重大ナル事故其ノ他ノ必要ナル事項ヲ記載スヘシ						

備考

1　本表ニハ工場及機關庫ニ於テ施行シタル機關車ノ改造、洗罐及主要ナル修繕並檢査成績ヲ記載スヘシ

2　改造工事ニシテ認可ヲ受ケタルモノハ其ノ年月日及番號ヲ朱記スヘシ

3　汽罐ノ一部ニ當金ヲ爲シタルトキ又ハ焔管、繋桿、綴浜等ノ取替ヲ爲シタルトキハ其ノ位置、形狀、寸法、材料ヲ示ス圖面ヲ添附シ焔管ニ在リテハ材料ノ新舊及材質ヲ記載スヘシ

4　特殊ノ癖、重要ナル部分ノ破損、古斑及變態並機關車ノ改良、保存及取扱上參考トナルヘキ事項ヲ記事欄ニ記載シ必要ニ應シ圖面ヲ添附スヘシ

5　常時外部ヨリ點檢不能ノ部分及特ニ破損又ハ故障多キ箇所ヲ修繕又ハ檢査シタルトキハ其ノ狀況及修繕後ノ經過ヲ記事ニ記載スヘシ

第四表ノ三(蒸氣機關車臺帳樣式)

蒸氣機關車臺帳ノ三　(運轉粁表)

年月		經過年月				運轉粁				記事
		最近大修繕後		使用開始後		一月		最近大修繕後	使用開始後	
		年	月	年	月	粁		粁	粁	

第四表ノ四(蒸氣機關車臺帳樣式)

蒸氣機關車臺帳ノ四　(一月檢査表)

檢査年月日 ＼ 檢査箇所			火室	罝管	管鈑	可鎔栓	制動機	檢水器	給水器及附屬活嘴	火粉止裝置	記事

車輪一對ノ軌條面上壓力 導輪 一位	〃	擔彈機	
導輪 二位	〃	製造所名	
働輪 一位	〃	製造年月	
働輪 二位	〃	使用開始年月	
働輪 三位	〃	代價	
働輪 四位	〃	前所有者名	
從輪	〃	舊番號	
牽引重量	瓲		

備考

機關車ノ配置替、貸與、借入、讓受、讓渡其ノ他ノ移動ニ關スル事項ハ記事欄ニ記載スヘシ

第四表ノ二(蒸氣機關車臺帳樣式)

蒸氣機關車臺帳ノ二　(修繕表)

年月日	修繕又ハ改造箇所	箇數	方法	記事
何年何月何日	右側前進**エキセントリック、ストラップシュー**	1	摺合	
〃	右側後**サイドロッドブラス**	1	取替	
自何月何日	左側第二働輪輪鐵	1	弛緩ニ付撓弁直シ	何月何日修繕落成ニ付試運轉ヲ兼ネ何日何列車ニ充用ス 成績良好、削正後ノ輪鐵ノ厚何粍車軸**ジョーナ**、車軸筐其ノ他ヲ檢査ス各部異狀ヲ認メス
	働輪輪鐵	4	削正	
	働輪**アクスルブラス**(右前)	1	取替	
	同上	3	**ホワイトメタル**詰替摺合	
至何月何日	右側**シリンダー**取附**ボールト**	2	取替	
何月何日	**フアイヤーグレート**	一式	**ロツキンググレート**ニ改造	何年何月何日監第何號認可、何工場製作何月何日落成取附、成績良好(製作圖面別紙)
〃	同上**ドロッププレート**	1	新設	

最大寸法 長	粍	燃料櫃容積	〃
最大寸法 幅	〃	重量（運轉整備）	瓲
最大寸法 高	〃	車輪 働輪	直徑 粍 / 輪鐵幅 粍 / 輪緣 厚 粍 / 輪緣 高 粍 / 車輪ノ內側ヨリ鐵距離 粍
內部寸法	長 粍 / 幅 粍 / 高 粍	車輪 從輪	
內部寸法 等室		車軸 働輪	ジョーナル 徑 粍 / ジョーナル 長 粍 / ホイールフィット 徑 粍 / ホイールフィット 長 粍
內部寸法 等室		車軸 從輪	
內部寸法 荷物室			
輪軸距 固定	粍		
輪軸距 全	〃		
制動機及制輪 種類			
制動機及制輪 種子數			
緩衝器	種類 / 頭徑	製造所名	
	前側面ヨリ中心迄距離 粍 / 機關ヨリ中心迄距離 粍	製造年月	
		使用開始年月	
連結器ノ種類		代價	
撞彈機		前所有者名	
臺框		舊番號	

備考

貸與、借入、讓受讓渡其ノ他ノ移動ニ關スル事項ハ記事欄ニ記載スヘシ

第五號表ノ二（汽動車臺帳樣式）

汽動車臺帳ノ二（修繕表）

本表ハ第四表ノ二樣式ニ準シ作製スヘシ

第五表ノ三（汽動車臺帳樣式）

汽動車臺帳ノ三（運轉紆表）

本表ハ第四表ノ三樣式ニ準シ作製スヘシ

第五表ノ四（汽動車臺帳樣式）

汽動車臺帳ノ四（一月檢査表）

本表ハ第四表ノ四樣式ニ準シ作製スヘシ

第五表ノ五（汽動車臺帳樣式）

汽動車臺帳ノ五（六月檢査表）

本表ハ第四表ノ五樣式ニ準シ作成スヘシ

第六表ノ一（電氣機關車臺帳樣式）

電氣機關車臺帳ノ一

形式稱號　　第　　號電氣機關車

第四表ノ五（蒸氣機關車臺帳樣式）

蒸氣機關車臺帳ノ五（六月檢査表）

檢査年月日	檢査箇所	汽筩 直徑 最大 左	汽筩 直徑 最大 右	汽筩 直徑 最小 左	汽筩 直徑 最小 右	汽筩 喞子及喞子桿 左	汽筩 喞子及喞子桿 右	汽筩 クリアランス 前 左	汽筩 クリアランス 後 左	汽筩 クリアランス 前 右	汽筩 クリアランス 後 右	汽櫃 內部	汽櫃 摺動弁厚 左	汽櫃 摺動弁厚 右	壓力計	眞空計	安全栓 第一 噴出壓力	安全栓 第一 噴出止壓力	安全栓 第二 噴出壓力	安全栓 第二 噴出止壓力	節汽弁	蒸氣管	放汽管	記事

第五號表ノ一（汽動車臺帳樣式）

汽動車臺帳ノ一

形式稱號　　第　　號汽動車

形式		燈ノ種類及箇數			記事
定員	等　人	汽筩ノ直徑及衝程	粍		
	等　〃	實用最高汽壓	瓩/平方糎		
客室面積	等室　平方米	火床面積	平方米		
	等室　〃	傳熱面積	〃		
定員一人ニ對スル面積	等室　〃	煙管	〃		
	等室　〃	火室	〃		
荷重（荷物室）	瓲	煙管	徑 粍	長 粍	數 本
容積（荷物室）	立方米				
自重	瓲	水槽容積	立方米		

第六表ノ四(電氣機關車臺帳樣式)

電氣機關車臺帳ノ四(一月檢査表)

檢査年月日 ＼ 檢査箇所			電路トノ間ニ於ケル大地絶縁抵抗	制動機	記事

第六表ノ五(電氣機關車臺帳樣式)

電氣機關車臺帳ノ五(一年檢査表)

檢査年月日 ＼ 檢査箇所			電動機 第一	第二	第三	第四	制御裝置	牽電裝置	開閉器	自働斷器	遮避器	雷布設電線	接續電纜	各種計器	記事

第七表ノ一(電車臺帳樣式)

電車臺帳ノ一

形式稱號＿＿＿＿＿＿　記號番號＿＿＿＿＿＿

| | | | | | | | | | | | | | | |

本表ハ第四表ノ二樣式ニ準シ作製スヘシ

第七表ノ三(電車臺帳樣式)

電車臺帳ノ三(運轉杆表)

本表ハ第四表ノ三樣式ニ準シ作製スヘシ

第七表ノ四(電車臺帳樣式)

電車臺帳ノ四(一月檢査表)

本表ハ第六表ノ四樣式ニ準シ作製スヘシ

第七表ノ五(電車臺帳樣式)

電車臺帳ノ五(一年檢査表)

本表ハ第六表ノ五樣式ニ準シ作製スヘシ

第八表ノ一(客車臺帳樣式)

客車臺帳ノ一

形式稱號　　記號番號

| | | |

輪軸距	固定	粍	前所有者名	
	全	〃	舊番號	

備考

貸與、借入、讓受、讓渡其ノ他ノ移動ニ關スル事項ハ記事欄ニ記載スヘシ

第八表ノ二(客車臺帳樣式)

客車臺帳ノ二(修繕表)

本表ハ第四表ノ二樣式ニ準シ作製スヘシ

第九表ノ一(貨車臺帳樣式)

貨車臺帳ノ一

形式稱號　　記號番號

| | | | |

第一表

貸借對照表

年　月　日現在

鐵道

借方 科目	借方 金額	貸方 科目	貸方 金額
	圓		圓
拂込未濟資本金		資本金	
何々間建設費		特別資金	
〃		法定準備金	
軌道業興業費		任意準備金	
船舶運送業興業費		社債金	
假出金		鐵道財團抵當借入金	
未收入金		借入金	
預金		當座借越金	
貯藏物品		支拂手形	
假出物品		未拂金	
有價證券		未拂配當金	
現金		假受金	
		通行稅	
		職員積立金	
		保證金	
		前期繰越金	
		當期純益金	
		政府補助金	
合計		合計	

備考

1　假出金、未收入金、預金、有價證券(額面又ハ拂込額ヲモ記入スヘシ)未拂金、假受金ハ其ノ内譯及性質ヲ欄外又ハ別紙ニ記載スヘシ製造物品、機械場勘定、支店勘定等アルトキ亦同シ

2　株式ニ優先株、普通株及舊株、新株等ノ區別アルトキハ各金額ヲ欄外ニ記載スヘシ

3　拂込未濟資本金ニ付テハ其ノ株數及各株ノ拂込未濟金額ヲ欄外ニ記載スヘシ

第四表

營業收入明細表

自　年　月　日至　年　月　日

鐵道

科目	金額	摘要
	圓	
運輸收入		
客車收入		
旅客運賃		
手荷物運賃		
小荷物運賃		
郵便物運賃		
貨車收入		
小口扱運賃		
貨切扱運賃		
運輸雜收		
車輛使用料		
入場料		
保管料		
雜入		
雜收入		
預金利子		
株式延滯利子		
株券替手數料		
物品賣拂代		
雜入		
計		
各事業收入額		
分聯營業計		
合計		

備考

1　前期ニ比シ著シキ增減アルモノハ其ノ事由ヲ摘要欄ニ說明スヘシ

2　雜入及物品賣拂代ハ其ノ主ナル内譯金額ヲ摘要欄ニ記載スヘシ

第五表

營業費明細表

自　年　月　日至　年　月　日　　鐵道

科目	金額	摘要	科目	金額	摘要	科目	金額	摘要
	圓			圓			圓	
保存費			石炭費			給料		
監督費			一一一			旅費		
給料			修繕費			一一一		
旅費			機關車			何々		
一一一			客車			諸稅		
修繕費			貨車			國稅		
軌道			一一一			所得稅		
橋梁			運輸費			營業稅		
停車場			監督費			收入印紙		
諸建物			給料			一一一		
一一一			旅費			府縣稅		
借地料			一一一			所得稅附加稅		
何々			停車場費			一一一		
一一一			給料			市町村稅		
汽車費(電車費)			乘車券費			一一一		
監督費			一一一			計		
給料			何々			各事業關聯營業費分擔額		
旅費			一一一			建設營業關聯費分擔額		
一一一			總係費			合計		
運轉費			本社費					
給料			報酬					

備考

1 前期ニ比シ著シキ增減アルモノハ其ノ事由ヲ摘要欄ニ說明スヘシ

2 雜費ハ其ノ主ナル內譯金額ヲ摘要欄ニ記載スヘシ

3 汽車費(電車費)ハ二種以上ノ動力ヲ使用スル場合ハ各動力別ニ項ヲ設ケ區別記載スヘシ

第六表

建設營業關聯費明細表

自　年　月　日至　年　月　日　　鐵道

科目	金額	摘要
	圓	
工事監督費		
給料		
旅費		
一一一一		
總係費		
報酬費		
旅費		
一一一一		
何々		
一一一一		
合計		

備考

1 前期ニ比シ著シキ增減アルモノハ其ノ事由ヲ摘要欄ニ說明スヘシ

2 雜費ハ其ノ主ナル內譯金額ヲ摘要欄ニ記載スヘシ

3 建設營業關聯費ヲ建設費營業費ニ分割スルトキハ其ノ割合ヲ說明スヘシ

4 各事業關聯興業費・各事業興業營業關聯費・各區間關聯建設費・各事業關聯營業收入及各事業關聯營業費アルトキハ本表ニ準シ調製添附スヘシ

第七表

建設費豫算

自　年　月

科目	豫算額	決算額 前期末決算額	決算額 當期決算額	決算額 計	摘要
	圓	圓	圓	圓	
測量及監督費					
用地費					
線路用地					
停車場用地					
川道付換用地					
發電所用地					
變電所用地					
諸手當					
雜費					
土工費					
線路切取					
線路築堤					
停車場地築					
川道付換					
踏切道					
土留石垣					
橋梁費					
何川橋梁					
何川拱橋					
何川外何箇所					
溝橋費					
開渠					
暗渠					

科目	豫算額	摘要
	圓	
伏樋費		
隧道費		
何隧道		
何隧道外何箇所		
軌道費		
軌條及附屬品		
轉轍器及轍叉		
枕木		
砂利		
敷設費		
雜費		
停車場費		
何驛		
何驛外何箇所		
停留場		
車輛費		
(蒸氣)(電氣)機關車		
(電動)(附隨)客車		
(電動)(附隨)貨車		
汽動車		
器械場費		
諸建物費		
運送費		

備考

1 本表ハ建設費豫算ヲ區別シタル區間毎ニ調製スヘシ

2 同一豫算ノ區間ニ開業線ト未開業線トアルトキハ各線別ニ其ノ合計金額ヲ區分説明スヘシ

3 當期決算又ハ戻入額アルトキハ其ノ事由ヲ摘要欄ニ説明スヘシ但シ未開

決算對照表

日至　年　月　日

鐵道

科目	豫算額	決算額 前期末決算額	決算額 當期決算額	決算額 計	摘要
	圓	圓	圓	圓	
築建列車費					
建築用具費					
柵垣及境界杭費					
通信線路費					
電力線路費					
送電線					
饋電線					
電車線					
電柱					
架線材料					
ポンド					
電氣信號					
工費					
發電所費					
變電所費					
總係費					
計					
各事業關聯興業費分擔額					
建設營業關聯費分擔額					
合計					

之ヲ設ケ準標ノ定一ハキトキルサハ能トコルスル確正ニ區分ニ記載スヘシ但シ欄外ヲ

セス要ヲ明説ハテリ在ニ間區業

第九表

職員表

在現日　年　月

鐵道

職名	人員	給料額	諸給與額	給月
		圓	圓	圓
社長				
取締役				
取締役				
取締役				
取締役人				
務				
記				
計				
記				
計				
設				
任者				
記				
手				
計				
雇				
計				
書				
雇				
計				
主				
技				
書				
技				
雇				

職名	人員	給料額	諸給與額	給月
		圓	圓	圓
計				
運輸長				
運輸長				
驛長				
助役				
出札掛				
改札掛				
貨物掛				
小荷物掛				
操車手				
轉轍夫				
驛掌				
車庫任				
機關手				
主任				
機關助手				
機關車手				
檢車夫				
機關水夫				
炭一				
計				

職名	人員	給料額	諸給與額	給月
		圓	圓	圓
保線長				
保線手				
保線工夫				
線路切番				
踏一				
計				
電氣長				
電氣所				
電發所				
主任				
電變電所				
主任				
電路庫				
主車任				
電轉手				
主運工				
電氣工夫				
計				
合計				

備考

1　給料月額欄ニハ年俸額ハ其ノ十二分ノ一、日給額ハ其ノ三十倍ヲ記載スヘシ

2　諸給與月額欄ニハ臨時手當、賞與金、社宅料、被服代其ノ他時間增手當等ノ諸給與金ヲ一月分ニ平均シタルモノヲ記載スヘシ

3　同一人ニテ他ノ業務ヲ兼務スルトキハ之ヲ明ニスヘシ

第八表

貯藏物品明細表

在現日　年　月

鐵道

種別	摘要	金額
		圓
工事用品		
軌條及附屬品		
轉轍器及附屬品		
枕木		
信號機及附屬品		
橋桁		
車輛用品		
電氣用品		
土管		
セメント		
砂利		
鐵材		
石材		
木材		
運轉用品		
石炭		
油脂		
絲屑		
營業及事務用品		
乘券類		
車類		
被服類		
薪炭類		
備消品		
合計		

備考

假出物品アルトキハ本表ニ準シ調製添附スヘシ

●地方鐵道法施行規則第四十九條統計報告書樣式（大正八年八月二十八日鐵道院告示第六十五號）

【沿革】大正十五年十一月會告第二一一號、昭和五年六月同第一八〇號改正

地方鐵道法施行規則第四十九條統計報告書樣式左ノ通定ム

年　月　日

鐵道院監督局長宛

鐵道代表者名

年上(下)期自年月日至年月日統計報告書

第一表

線路表

年　月　日現在　　鐵道

	區間	粁程			側線延長	停車場及停留場數	摘要
		單線	複線	計			
開業線	間	粁	粁	粁	粁		
	……						
	……						
	間(旅客專用線)						
	…(貨物專用線)						
工事施行認可線	間						
工事施行未認可線	……						
計							

備考

1 粁程ハ小數點以下第一位ニ止メ第二位以下ハ四捨五入ヲナシ計上スヘシ
2 停車場及停留場數ハ開業線ニ係ルモノノミヲ記載スヘシ
3 他ノ鐵道所屬ノ停車場ヲ共同使用スルモノハ之ヲ朱書スヘシ
4 他ノ鐵道線路ヲ共用シ又ハ借受使用スルモノアルトキハ開業線ノ欄ニ記載スヘシ
5 接續セサル營業線路ヲ有スルモノハ其ノ營業線路別ニ本表以下各表ヲ區分記載スヘシ

第二表

機關車表

年　月　日現在　　鐵道

種類			輛數	總重量	摘要
蒸氣機關車	テンダー機關車	四輪聯結六輪車	瓲	瓲	
		…… …… ……			
		計			
	タンク機關車	…… …… ……			
		…… …… ……			
		計			
	合計				
電氣機關車	四輪ボギー車				
	…… …… …… …… ……				
	計				
總計					

備考

1 瓲數ハ小數點以下第二位ニ止メ第三位以下ハ四捨五入ヲナシ計上スヘシ
2 瓦斯機關車ハ本表ニ準シ區分記載スヘシ
3 入換又ハ工事ニ專用スルモノ及修繕中若ハ貸借中ノモノハ各別ニ符號ヲ附シ區別記載スヘシ
4 蒸氣機關車ノ總重量ハ各車運轉整備ノトキニ於ケル重量ノ合計ヲ記載スヘシ

第三表

客車表

年　月　日現在　　鐵道

種類		輛數	定員總數			手荷物室郵便室容積合計	摘要
			二等	三等	計		
二等客車	定員　人		人	人	人	立方米	

貨車	四輪車	……				
		……				
		……				
		計				
無蓋貨車	ボギー車	材木車				
		石材車				
		……				
		計				
	四輪車	……				
		……				
		……				
		計				

備考

1　電車及汽動車ハ本表ニ準シ區別記載スヘシ

2　荷重總計ハ各車ノ標記荷重ノ合計ヲ記載スヘシ

第五表

機關車、列車、客車及貨車走行粁表

自　年　月　日至　年　月　日　　鐵道

種別			粁程 自己線車輛走行	他鐵道線車輛走行	計	自己線他鐵道車輛走行	摘要
			粁	粁	粁	粁	
機關車走行粁	列車牽引	蒸氣機關車					
		電氣機關車					
		汽動車					
		電車					
		計					
	補助	蒸氣機關車					
		電氣機關車					
		汽動車					
		電車					
		計					
	入換	蒸氣機關車					
		電氣機關車					
		汽動車					
		電車					
		計					
	單行	蒸氣機關車					
		電氣機關車					
		計					
合計							

ボギー車	二、三等合造車	定員二等　人 定員三等　人						
	三等客車	定員　人						
	手小荷物緩急車							
	郵便車							
	……							
	計							
四輪車	二等客車	定員　人						
	三等客車	定員　人						
	手小荷物緩急車							
	郵便車							
	……							
	計							
合計								

備考

1　電車、汽動車及瓦斯動車ハ本表ニ準シ區別記載スヘシ

2　定員總數ハ各車定員ノ合計ヲ記載スヘシ

3　修繕中又ハ貸借中ノモノハ各別ニ符號ヲ附シ區別記載スヘシ

第四表

貨車表

年　月　日現在　　鐵道

種類				輛數	荷重總計	摘要
有蓋	ボギー車	貨物車	7 瓩積		瓩	
		家畜車				
		緩急車				
		……				
		計				

第六表

運轉用燃料、電力及油脂消費額表

自　年　月　日至　年　月　日　　鐵道

種別				數量	代價	摘要
燃料	蒸氣機關車	運轉用	石炭	瓩	圓	
			……			
		點火用	石炭			
			……			
		計				
	汽動車	運轉用	石炭			
			……			
		點火用	石炭			
			……			
		計				
電力	電氣機關車			キロワット時		
	電車					
油脂	蒸氣機關車用		礦油	立		
			種油			
			……			
		計				
	汽動車用		礦油			
			種油			
			……			
		計				
	電氣機關車用		礦油			
			種油			
			……			
		計				
	電車用		礦油			
			種油			
			……			
		計				
	客貨車用		礦油			
			種油			
			……			
		計				

備考

1　數量及代價ハ營業上使用シタルモノ（點燈用油脂ヲ除ク）ノミヲ記載スヘシ

2　蒸氣機關車、汽動車、電氣機關車及電車ニ在リテハ自己所屬ノ車輛（借入車ヲ含ム）カ自己線路ヲ走行シタル場合ニ於テ消費シタルモノノミヲ記載シ他ノ鐵道所屬線路ヲ走行シタル場合ニ於ケルモノハ本表ニ準シ區別記載スヘシ

3　客貨車ニ在リテハ車輛所屬ヲ問ハス自己線路ヲ走行シタル場合ニ於ケルモノノミヲ記載スヘシ

4　瓦斯機關車及瓦斯動車ニ係ルモノハ本表ニ準シ記載スヘシ

列車走行粁	旅客列車	蒸氣機關車牽引				
		電氣機關車牽引				
		汽動車牽引				
		電車牽引				
		計				
	貨物列車	蒸氣機關車牽引				
		電氣機關車牽引				
		汽動車牽引				
		電車牽引				
		計				
	混合列車	蒸氣機關車牽引				
		電氣機關車牽引				
		汽動車牽引				
		電車牽引				
		計				
	合計					
客車走行粁	旅客列車聯結	蒸氣機關車牽引				
		電氣機關車牽引				
		汽動車				
		汽動車牽引				
		電車				
		電車牽引				
		計				
	混合列車聯結	蒸氣機關車牽引				
		電氣機關車牽引				
		汽動車				
		汽動車牽引				
		電車				
		電車牽引				
		計				
	合計					
貨車走行粁	貨物列車聯結	蒸氣機關車牽引				
		電氣機關車牽引				
		汽動車牽引				
		電車				
		電車牽引				
		計				
	混合列車聯結	蒸氣機關車牽引				
		電氣機關車牽引				
		汽動車牽引				
		電車				
		電車牽引				
		計				
	合計					

備考

1　粁程ハ營業上運轉シタルモノヲ記載シ建築及保線用ニ係ルモノヲ算入スヘカラス

2　自己所屬ノ客車及貨車ニシテ他鐵道走行ノ列車聯結別走行粁程不明ナルモノハ單ニ合計ノミヲ記載シ牽引內譯ヲ省略スルコトヲ得

3　借入車ノ走行粁程ハ自己車輛走行中ニ計上スヘシ

4　客貨車走行粁ハ四輪車一輛、汽動車一輛半、ボギー車ハ二輛ニ換算シテ計算スヘシ

5　瓦斯機關車及瓦斯動車ノ走行粁ハ本表ニ準シ記載スヘシ

第七表

旅客貨物數量及運輸收入月別表

自　年　月　日　至　年　月　日　鐵道

	數量									運輸收入												
	旅客			手小荷物			貨物			旅客			手小荷物			郵便物	貨物			運輸雜收	合計	摘要
	二等	三等	計	手荷物(有賃)	小荷物	計	小口扱	貨切扱	計	二等	三等	計	手荷物	小荷物	計		小口扱	貨切扱	計			
	人	人	人	瓩	瓩	瓩	瓩	瓩	瓩	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	
月																						
計																						

備考

1　貨物瓩數ハ小數點以下第一位ニ止メ第二位以下ハ四捨五入ヲナシ計上スヘシ

2　定期乘車ハ一日一往復トシ回數乘車ハ其ノ回數、團體及貨切乘車ハ運賃計算欄ニ記載スヘシ

3　區間制(發著不明ノモノ)ニ依ル乘車人員計算方ハ次ノ方法ニ依ル

イ　普通乘車ノ各區券ハ一券ヲ以テ一人トス

ロ　回數乘車ノ各區券ニヨルモノハ普通乘車ト同樣ニ取扱フモノトス但シ五十依ル

$$\frac{\text{普通乘車總延區數}}{\text{普通乘車人員}} = \text{一人平均乘車區數}$$

$$\frac{\text{回數乘車總延區數}}{\text{一人平均乘車總數}} = \text{乘車人員(推定)}$$

以上ノ推定乘車人員ヨリモ實際乘車人員ノ近似數ヲ算出スル方法アルモノハ人員ニ依リ延人員ヲ乘車券發賣當月分ニ算入シ該乘車券ノ券數、延人員及運賃ヲ摘要

4　箇數又ハ頭數ヲ以テ取扱ヒタルモノハ之ヲ瓩又ハ瓩ニ換算スヘシ

5　瓩ヲ以テ取扱ヒタルモノハ運賃計算瓩數ニ依リ之ヲ計上スヘシ

6　貨切扱又ハ瓩ヲ以テ取扱ヒタルモノハ運賃計算瓩數ニ依リ之ヲ計上スヘシ

7　本表ノ運輸收入合計ハ營業報告書營業收入明細表ノ運輸收入ト一致スルモノ

8　本表ノ運輸數量ハ第九、第十表所載ノモノト一致スルモノトス

區券、百區券等ヲ以テ乘車區數ニ應シ乘車券ヲ使用シ得ルモノニ在リテハ次ノ算式ニ依ル

本算式ニ依ラサルコトヲ得但シ此ノ場合ニ在リテハ其ノ算出方法ヲ說明スヘシ

第十表

旅客(貨物)發著、通過及延粁表

自　年　月　日至　年　月　日

鐵道

驛名		下り 發	下り 著	上り 發	上り 著	通過 下り	通過 上り	通過 計	驛間粁	延人粁(延噸) 下り	延人粁(延噸) 上り	摘要
本線	他鐵道扱								粁			
	支線											
	計											
支線	本線											
	計											

備考

1　驛間粁ハ營業粁ヲ記載スヘシ

2　區間制ノ乘車券ニシテ發著驛不明ノモノニ付テハ乘車延區間數、總區間數及下記算式ニ依リ計算シタル延人粁ヲ記載シ本表ヲ省略スルコトヲ得

$$\frac{\text{乘車延區間數}}{\text{總區間數}} \times \text{營業粁} = \text{延人粁}$$

3　均一制ノ乘車券ニシテ發著驛不明ノモノニ付キテハ適當ナル方法ニ依リ延人粁ヲ算出シ其ノ計算方法ヲ附記スヘシ

第八表

驛別運輸收入表

自　年　月　日至　年　月　日

鐵道

區間	驛名	旅客 圓	手小荷物 圓	郵便物 圓	貨物 圓	運輸雜收 圓	合計 圓	摘要
間								
	計							
間								
	計							
他鐵道扱ニシテ當會社所屬ノ分								
合計								

備考

1　他ノ鐵道ト連帶運輸ヲ爲スモノニ在リテハ他ノ鐵道ニ屬スルモノヲ控除スヘシ

2　他ノ鐵道所屬ノ驛ヲ共同使用スル場合ニハ其ノ驛ニ於テ取扱ヒタルモノハ他ノ鐵道扱ニ算入セス其ノ驛名ヲ揭ケ區別記載スヘシ

3　區間制及均一制ノ乘車券ニシテ發著驛不明ノモノハ驛名ノ項ニ欄ヲ設ケ一括記載スヘシ

第九表

旅客(貨物)各驛相互發著表

自　年　月　日至　年　月　日

鐵道

發驛名＼著驛名	(本線)省線	他鐵道線				(支線)		計
(本線)省線								
他鐵道線								
(支線)								
計								

備考

1　定期乘車ハ一日一往復トシ、回數乘車ハ其ノ回數、團體及貸切乘車ハ運賃計算員ニ依リ延人員ヲ乘車券發賣當月分ニ算入スヘシ

2　定期、回數及往復乘車券ニ對スル旅客人員ハ兩端驛ニ分記スヘシ

3　區間制及均一制ノ乘車券ニシテ發著驛不明ノモノニ付テハ本表ヲ省略スルコトヲ得但シ一部不明ノ場合ニ於テハ判明セル分ノミニ付本表ヲ作製スヘシ

●地方鐵道法第二十四條ニ依ル證票様式（大正八年九月三日鐵道院告示第七十八號）

地方鐵道法第二十四條ニ依ル證票様式左ノ通定ム

縦　二寸
横　三寸

表面

第　號

監　氏　名

年　月　日

鐵道院總裁　氏　名　印

裏面

注意

一　本證票ハ地方鐵道ノ監督事務ニ關シ往復スル場合ニ限リ之ヲ使用スルコトヲ得

一　本證票ハ記名人以外ノ者ニ於テ之ヲ使用スルコトヲ得ス

一　本證票ヲ亡失シタルトキハ速ニ發行者ニ屆出ツヘシ

●地方鐵道運賃割引規程（昭和十年五月二十三日鐵道省令第一號）

【沿革】昭和十四年八月省令第八號改正

地方鐵道運賃割引規程左ノ通定ム

地方鐵道運賃割引規程

第一條　地方鐵道業者臨時ニ運賃ノ割引ヲ爲サントスルトキハ本規程ノ定ムル所ニ依ルベシ

第二條　地方鐵道業者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ片道運賃及往復運賃ニ限リ其ノ五割以内ノ割引ヲ爲スコトヲ得但シ割引期間ハ同一區間ニ對シ一年ヲ通シテ九十日ヲ超ユルコトヲ得ズ

一　季節ニ依リ旅客ヲ誘致スルトキ

二　祝祭日、祭日、記念日等多數旅客ノ集散スルトキ

第三條　地方鐵道業者ハ特ニ出荷奬勵ノ必要アル場合ニ於テ荷物運賃ノ五割以内ノ割引ヲ爲スコトヲ得但シ割引期間ハ同一區間ニ對シ一品名ニ付一年ヲ通シテ百八十日ヲ超ユルコトヲ得ズ

第四條　地方鐵道業者ハ天災事變其ノ他之ニ準ズベキ場合ニ於テ公益上必要アリト認ムルトキハ旅客、復舊建築材料、救恤品等ノ無賃運送又ハ運賃ノ割引ヲ爲スコトヲ得

第五條　地方鐵道業者ハ前三條ノ規定ニ依リ運賃ノ割引又ハ無賃運送ヲ爲ストキハ實施ノ日ヨリ三日以内ニ其ノ理由、期間、區間、割引率其ノ他必要ナル事項ヲ具シ所管鐵道局長ニ屆出ツベシ

第六條　地方鐵道業者ハ本規程ニ定ムル割引率、割引期間其ノ他ノ制限ヲ超エテ運賃ノ割引ヲ爲サントスルトキハ所管鐵道局長ノ認可ヲ受クベシ

附・則

本令ハ昭和十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前地方鐵道業者ガ認可ヲ受ケタル運賃割引準則ハ本令施行ノ日ヨリ之ガ適用ヲ爲スコトヲ得ズ

附　則（昭和十四年鐵道省令第八號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前鐵道大臣ニ於テ受付ケタル申請書及屆書ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

第二九九號

●地方鐵道補助法

（明治四十四年三月二十三日　法律第十七號）

沿革　大正三年九月法律第四一號、六年七月第二四號、八年四月第五三號、一〇年三月第一四號、昭和六年三月第三四號、八年三月第一八號、一二年三月第二七號、一七年二月第七五號改正

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル地方鐵道補助法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

地方鐵道補助法

第一條　政府ハ豫算ノ範圍内ニ於テ地方鐵道ニ對シ建設費ノ百分ノ四ニ相當スル金額ヨリ益金ヲ控除シタル殘額以内ニ於テ運輸數量ニ基キ命令ノ定ムル所ニ依リ計算シタル金額ヲ補給スルコトヲ得

補助ヲ爲ス地方鐵道ノ範圍竝ニ前項ノ建設費、益金及運輸數量ノ算出方法ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　補助金ノ使途ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條乃至**第五條**　（削除）

第六條　地方鐵道ノ管理者カ法令若ハ法令ニ基キテ發スル命令、免許若ハ補助ニ附シタル條件ニ違反シ又ハ公益ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ政府ハ其ノ補助ヲ停止又ハ廢止スルコトヲ得

第七條　詐欺ノ行爲ヲ以テ補助金ヲ受ケタルトキハ法定ノ利息ヲ附シテ之ヲ償還セシム

前項ノ償還金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十四年十二月勅令第二九一號ヲ以テ同四十五年一月一日ヨリ施行）

第一條ノ規定ニ依ル補助金ハ昭和二十二年四月一日以後ノ期間ニ付テハ之ヲ交付スルコトヲ得ズ

附　則（昭和八年三月法律第一八號）

本法ハ昭和八年四月一日以後ニ補助ヲ爲ス場合ニ於ケル補助金ノ計算ニ付之ヲ適用ス

附　則（昭和十二年三月法律第二七號）

本法ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ附則第二項ニ掲グル地方鐵道以外ノ地方鐵道ニ對シテハ申請ニ依リ仍從前ノ第一條ノ規定ニ依リ補助ヲ爲スコトヲ妨ゲズ但シ昭和十二年四月一日以後ニ補助ヲ爲ス場合ニ於テハ同條中百分ノ五トアルハ百分ノ四トス

●地方鐵道補助法施行規則

（大正三年九月二十一日　閣令第三號）

沿革　大正八年八月閣令第一五號、九年一〇月鐵道省令第三號、一〇年一〇月第五號、昭和五年六月第九號、一二年七月第五號、一七年六月第八號改正

地方鐵道補助法施行規則左ノ通改正ス

地方鐵道補助法施行規則

第一條　地方鐵道補助法ニ依リ補助ヲ受ケントスル者ハ附屬第一號乃至第五號標式ニ依リ建設費明細表、運輸數量、車輛走行粁、營業收入、營業費及益金ノ計算表竝ニ補助ヲ受ケタル場合ノ事業計畫書ヲ具シ鐵道大臣ニ申請スヘシ

從前ノ地方鐵道補助法第一條ノ規定ニ依リ補助ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第二條　補助金ハ左ノ公式ニ依リ算出シ之ヲ交付ス但シ益金ト合セ建設費ノ百分ノ四ニ相當スル金額ヲ超ユルコトヲ得ス

Sハ補助金

Tハ當該地方鐵道ノ營業粁程（貨物ニ關シ別ニ制定シタルモノヲ除ク）ニ補助金計算期間ノ末日ヲ含ム最近一年間ノ營業日數ヲ乘シタルモノヲ以テ一年間ニ於ケル總換算運輸數量ヲ除シテ計算スル一日一粁平均換算運輸數量

Cハ當該地方鐵道ノ當該補助期間ニ於ケル總換算運輸數量

Tカ二百五十人瓲未滿ノ場合

$$S(\text{圓})=\left(\frac{0.081,3-0.000,17T}{2}\right)\times C$$

Tカ五百人瓲未滿ノ場合

$$S(\text{圓})=\left(\frac{0.051,1-0.000,049,2T}{2}\right)\times C$$

Tカ一千人瓲未滿ノ場合

$$S(\text{圓})=\left(\frac{0.035,6-0.000,018,2T}{2}\right)\times C$$

Tカ二千人瓲未滿ノ場合

$$S(\text{圓})=\left(\frac{0.022,3-0.000,004,9T}{2}\right)\times C$$

Tカ四千人瓲未滿ノ場合

$$S(\text{圓})=\left(\frac{0.014,77-0.000,001,135T}{2}\right)\times C$$

Tカ四千人瓲以上ノ場合

$$S(\text{圓})=\left(\frac{0.010,764,4-0.000,000,133,6T}{2}\right)\times C$$

補助金ノ概算拂ヲ爲ス場合ニ於ケル一日一粁平均換算運輸數量（T）ハ當該營業年度ノ計數ニ依ル

第三條　補助ヲ爲ス地方鐵道ハ國有鐵道ノ豫定線ニ該當スルモノ、國有鐵道ト連絡運輸ヲ爲スモノ又ハ地方產業上特ニ有用ナルモノニシテ左ノ各號ノ一ニ該當セサルモノニ限ル

一　經營事業ノ總利益カ拂込株式金額ニ對シ年百分ノ五ニ相當スル金額以上ナルコトヲ常トスルモノ但シ法令、法令ニ基ク命令又ハ鐵道大臣ノ指導若ハ斡旋ニ依リ補助ヲ受ケ得ヘキ會社ノ合併又ハ補助ヲ受ケ得ヘキ事業ノ讓渡アリタル場合ニ於テ其ノ補助ヲ受ケ得ヘキ合

併又ハ讓渡アリタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

二　專用鐵道ノ性質顯著ナルモノ

第四條　建設費及益金ハ左ノ各號ニ依ル

一　建設費ハ當該地方鐵道ノ豫算及決算額ヲ基礎トシ鐵道大臣ノ査定シタル額

二　益金ハ營業收入ヨリ營業費ヲ控除シタル殘額但シ法定準備金ノ積立ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ其ノ殘額ノ二十分ノ一ハ之ヲ控除ス

營業收入ハ當該地方鐵道ノ客車收入、貨車收入及運輸雜收決算額

營業費ハ左ノ公式ニ依リ算出シタル額(W)ニ營業費決算額ヲ基礎トシ鐵道大臣ノ査定シタル額ヲ加ヘ之ヲ二分シタル額ニ建設費ノ減價償却額ヲ基礎トシ鐵道大臣ノ査定シタル額ヲ加ヘタル額

T カ二百五十人粁未滿ノ場合

$$W(\text{圓})=(0.081,3-0.000,17T)\times C$$

T カ五百人粁未滿ノ場合

$$W(\text{圓})=(0.051,1-0.000,049,2T)\times C$$

T カ一千人粁未滿ノ場合

$$W(\text{圓})=(0.035,6-0.000,018,2T)\times C$$

T カ二千人粁未滿ノ場合

$$W(\text{圓})=(0.022,3-0.000,004,9T)\times C$$

T カ四千人粁未滿ノ場合

$$W(\text{圓})=(0.014,77-0.000,001,135T)\times C$$

T カ四千人粁以上ノ場合

$$W(\text{圓})=(0.010,764,4-0.000,000,133,6T)\times C$$

第二條ノ規定ハ本條ノ營業費算出方法ニ之ヲ準用ス

第五條　運輸數量ハ當該營業年度ノ收入決算額ニ對スル換算運輸數量ヲ基礎トシ鐵道大臣ノ査定シタルモノニ依ル

換算運輸數量ハ延人粁ト延噸粁ニ二ヲ乘シタルモノトノ和トス

延人粁又ハ延噸粁ノ計算ハ地方鐵道法施行規則第四十九條統計報告書樣式所定ノ方法ニ依ル

運賃制度其ノ他特別ノ事由アル爲前各項ニ依リ難キ場合ニ於ケル換算運輸數量ノ計算方法ハ補助命令書ノ定ムル所ニ依ル

第六條　補助金ハ運輸營業ノ施設改善、鐵道及其ノ附屬物件ノ增設其ノ他ノ改良ノ爲優先之ヲ使用スヘシ

鐵道大臣ハ必要アリト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス特別ノ使途ニ充當スルコトヲ命スルコトヲ得

第七條　社債及借入金ノ支出ハ固有資金ノ支出ノ後ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第八條　一年未滿ノ期間ヲ以テ營業年度トスル場合ニ於テハ益金ハ一年ヲ通シテ算出シタル額ヲ各期間ノ日數ノ割合ニ依リ分割シテ之ヲ定ム但シ營業年度ノ中間ニ於テ營業ヲ開始スルトキハ當該營業年度開始ノ日ヨリ一年內ニ於テ營業ヲ爲シタル期間ヲ通シテ算出シタル額ニ依ル

第九條　建設費ニ對スル益金ノ割合ハ一年ノ日數ヲ以テ補助日數ヲ除シタルモノヲ建設費ニ乘シタル額ト當該補助期間ノ益金トノ割合ニ依リテ之ヲ定ム

前項ノ規定ハ補給金ノ割合ノ算出ニ付之ヲ準用ス

第十條　區間ヲ分チテ漸次營業ヲ開始スル場合ト雖第八條ノ規定ニ依リ益金ヲ通算スヘキ期間及其ノ期間內ニ於テ補助ヲ受クル期間ノ一致スル區間ニ付テハ建設費、營業收入、營業費、益金及補助金ハ各區間ヲ通シテ之ヲ計算ス但シ第八條ノ規定ニ依リ益金ヲ通算スヘキ期間ノ區分ハ最先ニ補助ヲ開始スル區間ニ依ル

前項ノ場合ニ於テハ補助ノ開始又ハ終了ノ日ノ屬スル營業年度ノ益金ニ付テハ第八條ノ規定ヲ適用セス

第十一條　補助ヲ受クル區間及補助ヲ受ケサル區間ノ營業收入及營業費決算額ハ各區間ニ付之ヲ計算ス

補助ヲ受クル區間及補助ヲ受ケサル區間ニ跨ル營業收入及營業費決算額ハ左ノ各號ニ依リ各區間ニ付之ヲ分割ス

一　客車收入ハ補助ヲ受クル區間及補助ヲ受ケサル區間ニ跨ル旅客ノ各區間ニ於ケル延人粁數ニ依ル百分率

二　貨車收入ハ補助ヲ受クル區間及補助ヲ受ケサル區間ニ跨ル貨物ノ各區間ニ於ケル延噸粁數ニ依ル百分率

三　運輸雜收ハ補助ヲ受クル區間及補助ヲ受ケサル區間ニ於ケル他ノ收入總額ニ依ル百分率

四　營業費ハ補助ヲ受クル區間及補助ヲ受ケサル區間ニ於ケル營業收入ニ依ル百分率

前二項ノ規定ハ補助ヲ受クル期間及補助ヲ受ケサル期間アル場合又ハ補助ヲ受クル區間中補助日數ヲ異ニスル場合ニ於ケル營業收入及營業費決算額ノ計算ニ之ヲ準用ス

第十二條　補助ヲ受クル地方鐵道ハ營業年度每ニ第六號乃至第二十三號樣式ニ依リ建設費豫算決算差引對照表、營業收入決算表、營業費決算表、運輸數量及列車走行粁表竝ニ車輛走行粁表ヲ具シ補助金ノ交付ヲ申請スヘシ

補助ヲ受クル地方鐵道カ鐵道抵當法ニ依リ强制管理ニ付セラレタルトキハ前項ノ申請ハ管理人ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第十三條　補助金ヲ受クル權利ハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス

鐵道抵當法ニ依リ强制管理ニ付セラレタル地方鐵道ニ對スル補助金ハ管理人ニ之ヲ交付ス

第十四條　區間ヲ分チテ營業ヲ開始スル場合ニ於テハ建設費ハ區間每ニ之ヲ計上スヘシ

前項ノ場合ニ於テ二區間以上ニ關聯スル建設費ハ關係各區間ニ於ケル當該營業年度ノ建設費決算額ノ割合ニ依リテ之ヲ分割スヘシ

第十五條　建設及營業ニ關聯スル費用ハ當該營業年度ニ於ケル建設費及營業費ノ決算額ノ割合ニ依リテ之ヲ分割スヘシ

第十六條　補助ヲ受クル地方鐵道カ他ノ業務ヲ營ム場合ニ於テハ相互ニ關聯スル興業費、營業收入又ハ營業費ハ當該營業年度ニ於ケル興業費、營業收入又ハ營業費ノ決算額ノ割合ニ依リテ之ヲ分割スヘシ

前項ノ場合ニ於テ興業及營業ニ關聯スル費用ハ當該營業年度ニ於ケル興業費及營業費ノ決算額ノ割合ニ依リテ之ヲ分割スヘシ

附　則

本令ハ大正三年法律第四十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正三年九月二十一日ヨリ施行）

附　則（昭和五年六月鐵道省令第九號）

本令ハ昭和五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第一條ノ規定ヲ除クノ外昭和五年八月三十一日ヲ含ム營業年度ノ翌年度分ヨリ之ヲ適用ス

附　則（昭和十二年七月鐵道省令第五號）

沿革　昭和一七年六月鐵道省令第八號改正

本令ハ昭和十二年法律第二十七號施行ノ日ヨリ之ヲ適用ス（昭和十二年四月一日ヨリ施行）

從前ノ地方鐵道補助法第一條ノ規定ニ依ル補助ニ付テハ第四條第一項第二號中營業費ノ算出方法ハ左ノ通トス

營業費ハ左ノ公式ニ依リ算出シタル額(W)ニ營業費決算額ヲ基礎トシ鐵道大臣ノ査定シタル額ヲ加ヘ之ヲ二分シタル額ニ建設費ノ減價消却額ヲ基礎トシ鐵道大臣ノ査定シタル額ヲ加ヘタル額

D ハ補助日數

K ハ車輛走行粁（客車、貨車及電車走行粁ト機關車又ハ汽動車走行粁ニ軌間一米〇六七ノモノニ在リテハ三ヲ、七百六十二粍ノモノニ在リテハ二ヲ乘シタルモノトノ和）

R ハ圓ヲ單位トスル營業收入

蒸氣ヲ動力トスル軌間一米〇六七ノモノ及電氣ヲ動力トスルモノ

$$W(\text{圓}) = 23D + 0.03 \times 0.622K + 0.53R$$

蒸氣ヲ動力トスル軌間七百六十二粍ノモノ

$$W(\text{圓}) = 21D + 0.035 \times 0.622K + 0.51R$$

補助ヲ受クル區間及補助ヲ受ケサル區間アル場合ニ於テ車輛走行粁及營業收入ニ依リ計算スヘキモノハ各區間ニ付之ヲ算出シ補助日數ニ依リ計算スヘキモノハ各區間ノ車輛走行粁及營業收入ニ依ル算出額ヲ各區間毎ニ合計シタル額ニ依ル百分率ヲ以テ之ヲ分割ス

補助ヲ受クル區間中補助日數ヲ異ニスル場合ニ於テ一致スル補助期間ニ付テハ前項ノ規定ヲ準用ス

蒸氣又ハ電氣以外ノモノヲ以テ動力トスルモノニ在リテハ補助命令書ノ定ムル所ニ依ル

第一號様式

何々間建設費明細表

第二三〇號

項	目	數量	平均價	金額
測量及監督費	修繕手、	給費當	円	円
用地費	線路用地、停車場用地、發電所用地、	アール〃〃		
土工費	切土、取堤、	立米〃		
橋梁費	何川外何箇所橋梁、	延長米〃		
隧道費	何々隧道外何箇所隧道、	箇所延長米〃		
軌道費	軌條及附屬品、枕木、砂敷、設利費、	粁本米立粁		
停車場費	何々驛外何箇所驛、			
車輛費	機關車、客車、貨車、	輛〃〃		
諸建物費	本社建物、倉庫、電信機械、發電所建物、機關庫、機關所建物、電線路建物、	平米又ハ棟數〃		
電信線費	給費當、線路修繕手、電線柱、	粁本箇		
發電所費	物機、	平米又ハ棟數		
機關所費	物器、	平米又ハ棟數箇		
電線路費	電線、送電線、電柱、	粁〃本		
何々費	雜費、			
總係費	雜給費當、雜修繕手、			
合計一粁ニ付				

第二號樣式

何々間運輸數量計算表

何粁何分

	數量	一日一粁平均	備考
旅客延人粁			
貨物延瓲粁			

本表ニハ一年間ニ係ル計數ヲ記載スヘシ

備考欄ニハ算出ノ基礎其ノ他參考トナルヘキ事項ヲ記載スヘシ

第二號樣式ノ二

何々間車輛走行粁表

機關車	客車	貨車	備考

車輛走行粁ハ一年分ヲ記載シ備考欄ニハ算出ノ基礎其ノ他參考トナルヘキ事項ヲ記載スヘシ

第三號樣式

何々間營業收入計算表

何粁何分

	金額	一日一粁平均	備考
運輸收入	圓	圓	
旅客運賃			
貨物運賃			
雜收			
雜收入			
合計			

本表ニハ一年間ニ係ル計數ヲ記載スヘシ

運輸收入中雜收ノ金額ハ第十五號表ノ運輸收入中旅客運賃及貨物運賃以外ノ總テノ運輸收入ヲ記載スヘシ

備考欄ニハ算出ノ基礎(第二號表ノ延人粁及延瓲粁ヲ以テ本表ノ旅客運賃及貨物運賃ヲ除シタル平均賃率等)其ノ他參考トナルヘキ事項ヲ記載スヘシ

第四號樣式

何々間營業費計算表

何粁何分

	金額	一日一粁平均	備考
保存費	圓	圓	
動力費			
運輸費			
何々			
總係費			
諸稅			
合計			

本表ニハ一年間ニ係ル計數ヲ記載スヘシ

備考欄ニハ算出ノ基礎其ノ他參考トナルヘキ事項ヲ記載スヘシ

第五號樣式

何々間益金計算表

	金額	備考
營業收入	圓	
營業費		
利益ノ二十分一		
差引益金		

本表ニハ一年間ニ係ル計數ヲ記載スヘシ

營業收入ノ欄ニハ第三號表ノ運輸收入額ヲ記載スヘシ

第六號樣式

何々間建設費豫算決算差引對照表

何村

自　年　月　日至　年　月　日

科目	豫算額	決算額 前期未決算額	決算額 當期決算額	決算額 計	豫算決算差引不足額	豫算決算差引過額	備考
	圓	圓	圓	圓	圓	圓	
測量及監督費 俸給 旅費 手當、 各區間聯關費分擔額							
用地費 線路用地 停車場用地 發電所用地、 、							
土工費 切取、 築堤、 、							
何々、 、							
總係費 、 各區間聯關費分擔額							
計							
各事業聯關與業費分擔額							
建設營業聯關費分擔額							
合計							

數區間ニ區分シテ整理スルトキハ區間毎ニ本表ヲ調製シ更ニ項ノ金額ニ付總括表ヲ調製添附スヘシ補助ヲ受クル區間カ二區間以上ナルトキハ第十條ノ規定ニ依リ通算スヘキ區間ニ付亦同シ當期決算額ニ付テハ其ノ事由ヲ備考欄ニ記載シ且認可ヲ經又ハ屆出ヲ爲シタル事項ニ付テハ各其ノ年月日ヲ記載スヘシ

第七號樣式

各事業聯關與業費分割表

自　年　月　日至　年　月　日

事業種別	各事業專屬與業費當期決算額	分割率（百分比例）	聯關與業費分擔額	當期決算額合計
	圓		圓	圓
地方鐵道業				
軌道業				
水運業				
電氣業				
倉庫業				
何々				
合計				

各事業專屬與業費當期決算額中ニハ興業營業聯關費及建設營業聯關費ヲ含マス

第八號樣式

各事業聯關與業費明細表

自　年　月　日至　年　月　日

科目	金額	備考
	圓	
測量及監督費 俸給、費 報酬、給 、々 總係、計 何、 合		

雜費等ノ科目ヲ以テ總括記載スルモノアルトキハ其ノ主ナルモノノ種類及金額ヲ備考欄ニ記載スヘシ

第十二號樣式

建設營業關聯費明細表

自　年　月　日至　年　月　日

科目	金額	備考
測量及監督費	圓	
總係費		
何々費		
興業營業費分擔額		
建設營業關聯費分擔額		
合計		

雜費等ノ科目ヲ以テ總括記載スルモノアルトキハ其ノ主ナルモノノ種類及金額ヲ備考欄ニ記載スヘシ

第九號樣式

各事業興業營業關聯費分割表

自　年　月　日至　年　月　日

事業種別	各事業專屬興業費當期決算額	各事業專屬營業費當期決算額	各事業專屬興業營業關聯費當期決算額	合計	分割率（百分比例）	興業營業關聯費分擔額
地方鐵道業	圓	圓	圓	圓		圓
軌道運輸業						
水氣業						
電氣庫業						
倉庫業						
何々業						
合計						

各事業專屬興業費當期決算額ハ第七號表中當期決算額合計ノ金額ヲ記載スヘシ

各事業專屬營業費當期決算額ハ第二十號表中當期決算額合計ノ金額ヲ記載スヘシ

各事業專屬興業營業關聯費當期決算額ハ第十二號表ノ合計金額ヨリ興業營業關聯費分擔額ヲ控除シタル金額ヲ記載スヘシ

各事業專屬興業費、營業費及工業營業關聯費ノ當期決算額ハ前各號ニ該當セサルモノト雖總テ之ヲ各相當欄ニ計上スヘシ

第十號樣式

各事業興業營業關聯費明細表

本表ハ第八號樣式ニ準シ調製スヘシ

第十一號樣式

建設營業關聯費分割表

自　年　月　日至　年　月　日

	專屬費當期決算額	分割率（百分比例）	關聯費分擔額
建設費	圓		圓
營業費			
合計			

第十四號樣式

各區間關聯建設費明細表

自　年　月　日至　年　月　日

科目	金額	備考
	圓	
監督費給、々、費酬給、擔額計		
及保、、、擔額		
測量俸、報俸、業費分費		
何總關聯興業聯		
各事業設營關聯業合		

雜費等ノ科目ヲ以テ總括記載スルモノアルトキハ其ノ主ナルモノノ種類及金額ヲ備考欄ニ記載スヘシ

第十五號樣式

營業收入決算表

自　年　月　日至　年　月　日

科目	決算額	備考
	圓	
運輸收入		
客車收入		
旅客運賃		
手荷物運賃		
小荷物運賃		
郵便物運賃、		
貨車收入		
貨物運賃		
發著手數料、		
雜收料		
車輛使用料		
廣告掲示料		
入場、入料		
雜收入		
預金利子		
株金延滯利子		
株券書替手數料		
雜入		
計		
關聯營業收入分當額		
合計		

前年度ニ比シ著シキ增減スルモノハ其ノ事由ヲ備考欄ニ記載スヘシ
雜入等ノ科目ヲ以テ總括記載スルモノアルトキハ其ノ主ナルモノノ種類及金額ヲ備考欄ニ記載スヘシ

第十六號樣式

各事業關聯營業收入分割表

自　年　月　日至　年　月　日

事業種類	各事業營業當期決算收入額	分割率（百分比例）	關聯營業收入分當額	備考
	圓		圓	
地方鐵道業				
軌道運輸業				
水氣業				
電庫業				
倉業				
何々				
合計				

第十七號樣式

各事業關聯營業收入明細表

自　年　月　日至　年　月　日

科目	金額	備考
	圓	
雜收入		
預金利子		
株金延滯利子		
株券書替手數料		
、、、		
何々		
、、、		
合計		

雜入等ノ科目ヲ以テ總括記載スルモノアルトキハ其ノ主ナルモノノ種類及金額ヲ備考欄ニ記載スヘシ

第十八號樣式

營業收入區間又ハ期間分割表

自　年　月　日至　年　月　日

區間	粁數	客車收入			貨車收入			運輸雜收			合計
		延人粁	分割率(百分比例)	分當額	延噸粁	分割率(百分比例)	分當額	客車貨車收入	分割率(百分比例)	分當額	
何々間				圓			圓	圓		圓	圓
何々間											
合計											

第十九號樣式

營業費決算表

自　年　月　日至　年　月　日

科目	決算額	備考
保存費	圓	
監督費		
俸給費		
旅費		
工事費		
動力費		
監督費		
發電所費		
何々費		
各事業關聯營業費分擔額計		
建設營業關聯費分擔額		
合計		

前年度ニ比シ著シキ增減アルモノハ其ノ事由ヲ備考欄ニ記載スヘシ

雜費等ノ科目ヲ以テ總括記載スルモノアルトキハ其ノ主ナルモノノ種類及金額ヲ備考欄ニ記載スヘシ

營業收入ヲ以テ新設改良工事費、借入金利子及社債差損金等ヲ支出シタルトキハ之ヲ營業費ニ計上セス欄外ニ記載スヘシ

第十九號樣式ノ二

營業費區間又ハ期間分割表

自　年　月　日至　年　月　日

區間	營業粁	營業收入	分割率(百分比例)	分擔額
		圓		圓
何々間				
何々間				
合計				

營業收入ハ第十八號表中合計欄ノ金額ヲ記載スヘシ

第二十號樣式

各事業關聯營業費分割表

自　年　月　日至　年　月　日

事業種別	各事業營業決算專屬營業費當期決算額	分割率(百分比例)	關聯營業費分擔額	當期決算額合計
	圓		圓	圓
地方鐵道業				
軌道業				
水運業				
電氣業				
倉庫業				
何々業				
合計				

各事業專屬營業費當期決算額ニハ興業營業關聯費及建設營業關聯費ヲ含マス

第二十一號樣式

各事業關聯營業費明細表

自　年　月　日至　年　月　日

科目	金額	備考
總本社費 報酬費 給與費 手當 、、 何々、計	円	

雜費等ノ科目ヲ以テ總括記載スルモノアルトキハ其ノ主ナルモノノ種類及金額ヲ備考欄ニ記載スヘシ

第二十二號樣式

何々間運輸數量及列車走行粁表

自　年　月　日至　年　月　日

何粁何分

	延人粁		延噸粁		列車走行粁	備考
	數量	一日一粁平均	數量	一日一粁平均		
何月 何月 、、 、、 、、 合計						

地方鐵道法施行規則第四十九條統計報告書第七號樣式ノ記事ハ本表ニ之ヲ準用ス

列車單位著シク不同ナルモノニ在リテハ其ノ列車走行粁ヲ區分シテ記載スヘシ

補助ヲ受クル區間及補助ヲ受ケサル區間又ハ補助ヲ受クル期間及補助ヲ受ケサル期間アル場合ハ各別ニ本表ヲ調製スヘシ補助ヲ受クル區間中補助日數ヲ異ニスルモノアル場合亦同シ

第二十三號樣式

何々間車輛走行粁表

自　年　月　日至　年　月　日

	車輛走行粁			備考
	機關車	客車	貨車	
何月 何月 合計				

第二十二號樣式ノ記事第三號ハ本表ニ之ヲ準用ス

●地方鐵道法第四條但書ニ依ル線路敷設ノ許可手續（明治四十三年八月二日内務省令第二十七號）

【沿革】大正八年八月省令第九號改正

地方鐵道法第四條但書ニ依ル線路敷設ノ許可手續左ノ通相定ム

第一條　地方鐵道法第四條但書ニ依リ線路敷設ノ許可ヲ得ントスル者ハ道路上ニ敷設スル必要ナル事由ヲ詳記シ左ノ書類及圖面ヲ具シ敷設地ノ地方長官ヲ經由シテ内務大臣ニ申請ス可シ

一　起業目論見書

二　工事方法概略書

三　全線路ノ豫測平面圖及道路上ニ敷設ス可キ線路ノ豫測圖竝說明書

四　道路上ニ於ケル敷設費ノ概算書

第二條　全線路ノ豫測平面圖ハ縮尺一吋三十鎖（二萬分ノ一ヲ以テ代用スルコトヲ得）トシ沿線ノ地勢市街村落附近ノ道路及既設又ハ未設ノ鐵道又ハ軌道及其ノ名稱ヲ記入ス可シ

第三條　道路上ニ敷設ス可キ線路ノ豫測圖ハ左ノ二種トス

一　豫測平面圖

縮尺ハ五千分ノ一トシ鐵道ノ中心線ハ赤色ヲ以テ之ヲ彩リ鐵道ヲ敷設セントスル國道縣道里道ノ分界竝其ノ地名及沿線ノ地勢市街村落附近ノ道路又ハ既設若ハ未設ノ鐵道又ハ軌道及其ノ名稱等ヲ明ニシ距離ハ百間毎ニ記入ス可シ

二　豫測縱斷面圖

縮尺ハ平面圖ト同一ニシ高ハ縮尺五百分ノ一トシ鐵道中心線路面ノ高低（黑色）鐵道面ノ高低（赤色）及隧道橋梁ノ長鐵道ノ勾配竝其ノ距離ヲ記入ス可シ

第四條　線路豫測圖ノ說明書ニハ沿線ノ地勢及線路撰定ノ理由ヲ詳記シ附近ノ道路、市街、村落、池沼、河川、港灣、社寺、公園、名所、舊蹟、學校、病院、兵營、工場等重ナルモノトノ關係ヲ說明ス可シ

第五條　道路上ニ於ケル敷設費ノ概算書ニハ其ノ總額及用地、橋梁、溝渠、伏樋、隧道、軌道、土工、雜費其ノ他各種ノ項目ニ區別シ其ノ金額ヲ記載ス可シ

第六條　本則ニ規定シタルモノノ外必要ナル事項ハ許可ノ際命令書ヲ以テ之ヲ定ム

●地方鐵道法第四條但書ニ依リ線路敷設ノ許可ヲ申請スル者ニ關スル件（明治四十三年八月二日内務省訓令第十三號）

【沿革】大正八年八月訓令第九號改正

地方鐵道法第四條但書ニ依リ線路敷設ノ許可ヲ申請スル者アルトキハ明治三十四年本省訓令第十七號ニ準シ意見書ヲ調製シ命令書案ヲ添付シテ之ヲ本大臣ニ進達ス可シ

●地方鐵道敷設出願ニ關スル件（大正十一年四月二十日内務省通牒發土第三一號）

廳府縣

各地方長官宛

標記ノ件ニ關シ大正四年六月十五日發土第五七號ヲ以テ意見開申及通牒置候處地方鐵道ノ敷設ハ軌道交通ハ勿論道路交通ト密接ノ關係ヲ有スルヲ以テ自今鐵道敷設免許申請書ヲ鐵道大臣ニ進達セラレタルトキハ同時ニ別紙事項御報告相成度

鐵道敷設願書進達報告

出願者	何鐵道株式會社發起人何某外何名
敷設出願區間	自郡何町村（陸地測量部發行帝國地形圖ニ依リ明示スルコト）・至郡何町村
延長	哩鎖節
目的	
動力	蒸汽、電氣等ノ別
軌間	
建設費	
願書受理年月日	
建設費ニ對スル益金ノ割合	
知事意見ノ概要	

●地方鐵道ノ工事ニ因リ必要ヲ生シタル道路河川等ノ工事ニ關スル件（大正八年十一月二十七日内務省通牒發土第一一六號）

第二八八號

地方長官宛

標記ノ件ニ付左ノ通御承知相成度

一　地方鐵道法施行規則第二十三條第二項ノ規定ニ所謂工事竣功ト稱スルハ當該工事ニ付所管行政廳ニ於テ竣功檢査ヲ爲ス場合ニ在リテハ其ノ檢査ノ完了ヲ必要トスル場合ニ付御承知相成度

二　地方鐵道業者ヨリ地方鐵道法第十六條ノ規定ニ依ル工事ノ竣功檢査ノ申請アリタルトキハ遲滯ナク處理セラルヘキハ勿論輕易ナル事件ニ付テハ豫メ郡市町村長其ノ他地方ニ駐在スル官吏等ヘ其ノ檢査ノ權限ヲ委任スル等便宜ノ方法ヲ採リ努メテ簡易迅速ニ之カ檢査ヲ完了セシメ苟モ鐵道ノ運輸開始ヲ遲滯セシムルカ如キコトナキ樣厚ク御注意相成度

三　鐵道工事ノ竣功檢査ハ監督官廳ニ於テ地方長官立會ノ上之ヲ行フコトト相成候ニ付其ノ機會ヲ利用シ地方鐵道法第十六條ノ規定ニ依ル工事ノ監督ニ關シ一層御注意相成度

四　從來鐵道業者カ地元トノ設計協議ヲ爲セルニ當リ往々地元ヨリ過大ノ要求ヲナシ爲ニ起業者ノ困惑ヲ來ス場合有之ヤニ及聞候ニ付爾今如斯コト無之樣郡市町村長ニ篤ト御示達相成度尙地元トノ協定纏マラザル場合ニ於テハ可然御配慮相成度

●北海道拓殖鐵道補助ニ關スル件（大正九年八月七日法律第五十六號）

【沿革】大正十三年七月法律第二三號、昭和二年四月同第五二號、同十二年七月同第四八號、同十六年三月同第四五號改正

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル北海道拓殖鐵道補助ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

北海道拓殖促進ノ爲必要アリト認ムル地方鐵道及軌道ニ對シテハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ該鐵道營業開始ノ日ヨリ十五年ヲ限リ北海道拓殖費ヨリ補助ヲ爲スコトヲ得

政府ハ必要アリト認ムルトキハ更ニ十年ヲ限リ前項ノ期間ヲ伸長スルコトヲ得

附　則（大正十三年七月法律第二三號）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ從前ノ規定ニ依リ補助ヲ爲シタル地方鐵道ニシテ本法施行前補助期間滿了シタルモノニ付テハ其ノ滿了ノ日ノ翌日ヨリ之ヲ適用ス

附　則（昭和十二年七月法律第四八號）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ從前ノ規定ニ依リ補助ヲ爲シタル地方鐵道及軌道ニシテ本法施行前補助期間滿了シタルモノニ付テハ其ノ滿了ノ日ノ翌日ヨリ之ヲ適用ス

附　則（昭和十六年三月法律第四五號）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ從前ノ規定ニ依リ補助ヲ爲シタル地方鐵道及軌道ニシテ本法施行前補助期間滿了シタルモノニ付テハ其ノ滿了ノ日ノ翌日ヨリ之ヲ適用ス

●北海道ニ於テ經營スル地方鐵道及軌道ノ補助ニ關スル件

（大正十一年四月十日勅令第百九十七號）

【沿革】昭和二年八月勅令第二六六號、同十一年九月同第三五四號、同十二年七月同第三四四號、同十五年六月同第三九七號改正

朕北海道ニ於テ經營スル地方鐵道及軌道ノ補助ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　北海道ニ於テ經營スル地方鐵道又ハ軌道ノ每營業年度ニ於ケル益金ガ建設費ニ對シ年五分ノ割合ニ達セザルトキハ大正九年法律第五十六號ニ依リ其ノ不足額ヲ補給スルコトヲ得但シ補助金ハ建設費ニ對シ年六分ニ相當スル金額ヲ超ユルコトヲ得ズ

前項ノ建設費及益金ハ命令ノ定ムル所ニ依リ算出シタル金額ニ依ル

第一項ノ補助金ハ地方鐵道補助法ニ依リ補給ヲ受クルモノニ在リテハ其ノ補助金ニ相當スル金額ヲ控除シタル額ヲ超ユルコトヲ得ス

第二條　補助ヲ爲スヘキ地方鐵道及軌道ハ二呎六吋以上ノ軌間ヲ有スルモノニ限ル

第三條　地方鐵道又ハ軌道ノ管理者カ法令、法令ニ基キテ爲ス命令、免許特許若ハ補助ニ附シタル條件ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ補助ヲ停止シ又ハ廢止スルコトヲ得

第四條　詐欺ニ因リテ補助金ヲ受ケタルトキハ法定ノ利息ヲ附シテ之ヲ償還セシム

附　則

本令ハ大正九年法律第五十六號施行ノ日ヨリ之ヲ適用ス

附　則（昭和十二年七月勅令第三四四號）

本令ハ昭和十二年法律第四十八號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十二年七月十七日ヨリ施行）但シ同法附則但書ノ適用ヲ受クル地方鐵道及軌道ニ付テハ其ノ適用ヲ受クル日ヨリ之ヲ適用ス

●北海道拓殖促進ノ爲必要アリト認ムル地方鐵道及軌道ノ補助施行ニ關スル件

（大正十一年四月十日内務省令第八號）

【沿革】大正十二年五月省令第一四號、昭和十一年十月同第四一號、同十五年六月同第二三號、同十六年十月同第二八號改正

北海道拓殖促進ノ爲必要アリト認ムル地方鐵道及軌道ノ補助施行ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　大正十一年勅令第百九十七號（以下令ト稱ス）ニ依リ補助ヲ受ケントスルモノハ營業年度開始前別表第一號乃至第四號樣式ニ依リ建設費明細表、豫定工事調、營業收入及營業費ノ計算表竝ニ補助ヲ受ケタル場合ノ事業計畫書ヲ具シ北海道廳長官ニ申請スベシ但シ前年度ニ於テ北海道廳長官ノ檢査ヲ受ケタルモノハ建設費明細表ノ提出ヲ省略スルコトヲ得

第一條ノ二　令第一條ノ建設費及益金ハ左ノ各號ノ額ニ依ル

一　建設費ハ當該地方鐵道及軌道ノ豫算額及決算額ヲ基礎トシ北海道廳長官ノ査定シタル額

二　益金ハ營業收入ヨリ營業費ヲ控除シタル殘額但シ法定準備金ノ積立ヲ爲ス場合ニ於テハ益金ノ二十分ノ一ハ之ヲ益金ニ算入セズ

營業收入ハ當該地方鐵道及軌道ノ客車收入、貨車收入及運輸雜收決算額

營業費ハ營業費決算額（建設費ノ減價消却額ヲ含ム）ヲ基礎トシ北海道廳長官ノ査定シタル額

第二十類　通信、交通及電氣　第二編　交通

第二條　地方鐵道及軌道ノ補助ハ一年未滿ノ期間ヲ以テ營業年度ト爲ス

地方鐵道及軌道ニ對シテハ營業年度經過後其ノ期間ニ相當スル割合ヲ以テ概算渡ヲ爲スコトヲ得

第三條　地方鐵道及軌道ノ補助ニ關シテハ本令ニ規定スルモノヲ除クノ外大正三年閣令第三號地方鐵道補助法施行規則第六條乃至第十六條ノ規定ヲ準用ス但シ其ノ規定中「鐵道大臣」トアルハ「北海道廳長官」トス

附　則

本令ハ大正十一年勅令第百九十七號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正九年法律第五十六號施行ノ日ヲ含ム營業年度分ヨリ之ヲ適用ス）

（別表略ス）

●北海道拓殖鐵道建設費利子支出ニ關スル件

（大正六年七月二十一日法律第十號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル北海道拓殖鐵道建設費利子支出ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

北海道拓殖事業促進ノ目的ヲ以テスル鐵道建設ノ爲帝國鐵道會計法第二條第一項ノ規定ニ依リ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲ストキハ豫算ノ定ムル所ニ依リ其ノ利子ノ全部又ハ一部ニ相當スル金額ヲ北海道拓殖費ヨリ支出スルコトヲ得

前項ノ金額ハ之ヲ帝國鐵道特別會計ニ繰入ルヘシ

●朝鮮私設鐵道補助法

（大正十年四月一日法律第三十四號）

【沿革】大正十二年三月法律第二三號、同十四年三月同第三一號、昭和五年五月同第七號、同九年二月同第二七號、同十四年三月同第一四號改正

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル朝鮮私設鐵道補助法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

朝鮮私設鐵道補助法

第一條　朝鮮總督ハ朝鮮ニ於テ公衆ノ用ニ供スル爲經營スル私設鐵道ニ對シ該鐵道營業開始ノ日ヨリ十五年ヲ限リ豫算ノ範圍内ニ於テ補助金ヲ交付スルコトヲ得

朝鮮總督ハ必要アリト認ムルトキハ更ニ十年ヲ限リ前項ノ期間ヲ伸長スルコトヲ得

第二條　前條ノ補助金ハ毎營業年度ニ於ケル建設費ニ對シ年五分ノ割合ニ相當スル金額ヲ限度トス但シ毎營業年度ニ於ケル益金カ建設費ニ對シ年一分ノ割合ニ相當スル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ハ之ヲ補助金額ヨリ控除ス

第三條　朝鮮總督ハ必要アリト認ムルトキハ一經營者ノ經營スル鐵道ヲ數區ニ分チ各區ニ付前二條ノ規定ニ準シ補助ヲ爲スコトヲ得

第四條　前二條ノ規定ニ依リ建設費及益金ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ算出シタル金額ニ依ル

第五條　削除

第六條　補助金ノ毎年度ノ豫算殘額ハ遞次之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第七條　補助ヲ受クル鐵道ノ管理者カ法令、法令ニ基キテ爲ス命令、免許若ハ補助ニ附シタル條件ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ朝鮮總督ハ其ノ補助ヲ停止シ又ハ廢止スルコトヲ得

第八條　削除

第九條　詐欺ニ因リテ補助ヲ受ケタルトキハ法定ノ利息ヲ附シテ之ヲ償還セシム

第十條　前條ノ規定ニ依ル償還金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次グモノトス

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和九年三月法律第二七號）

本法ハ昭和九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本法施行ノ際現ニ補助ヲ受クル鐵道ニ對スル補助ニ付テハ會社設立登記ノ日ヨリ十五年ノ期間滿了ノ日（朝鮮鐵道株式會社ニ在リテハ昭和九年十二月十四日）ヲ含ム營業年度ノ末日迄ハ改正規定ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ依ル

本法施行ノ際現ニ補助ヲ受クル鐵道ニ對スル補助ノ期間ニ付テハ該鐵道ノ建設費ニ充テタル資金ニ對シ初メテ補助ヲ爲シタル日ヲ以テ第一條第一項ノ營業開始ノ日ト看做ス

附　則（昭和十四年三月法律第一四號）

本法ハ昭和十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本法施行ノ際現ニ補助ヲ受クル鐵道ニ對スル補助ニ付テハ各現在ノ補助期間滿了ノ日ノ屬スル營業年度ノ末日迄ハ改正規定ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ依ル

●臺灣私設鐵道補助法

（大正十一年三月三十日法律第二十四號）

【沿革】昭和九年三月法律第二八號、同十一年六月同第四一號、同十五年四月同第八二號改正

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル臺灣私設鐵道補助法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

臺灣私設鐵道補助法

第一條　臺灣總督ハ臺灣ニ於テ公衆ノ用ニ供スル爲經營スル私設鐵道ニ對シ該鐵道營業開始ノ日ヨリ十五年ヲ限リ補助金ヲ交付スルコトヲ得

臺灣總督ハ必要アリト認ムルトキハ更ニ十年ヲ限リ前項ノ期間ヲ伸長スルコトヲ得

第一條ノ二　前條ノ補助金ハ毎營業年度ニ於ケル建設費ニ對シ年五分ノ割合ニ相當スル金額ヲ限度トス但シ毎營業年度ニ於ケル益金カ建設費ニ對シ年一分ノ割合ニ相當スル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ハ之ヲ補助金額ヨリ控除ス

第二條　補助ヲ爲スヘキ私設鐵道ハ二呎六吋以上ノ軌間ヲ有スルモノニ限ル

第三條　臺灣總督ハ必要アリト認ムルトキハ一經營者ノ經營スル鐵道ヲ數區ニ分チ各區ニ付第一條及第一條ノ二ノ規定ニ準シ補助ヲ爲スコトヲ得

第四條　第一條ノ二及前條ノ規定ニ依ル建設費及益金ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ算出シタル額ニ依ル

第五條　補助金ノ年總額ハ最高八十萬圓トス

第六條　補助金ノ毎年度ノ豫算殘額ハ遞次之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第七條　補助ヲ受クル鐵道ノ管理者カ法令、法令ニ基キテ爲ス命令、許可若ハ補助ニ附シタル條件ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ臺灣總督ハ其ノ補助ヲ停止シ又ハ廢止スルコトヲ得

第八條　詐欺ニ因リテ補助金ヲ受ケタルトキハ法定ノ利息ヲ附シテ之ヲ償還セシム

第九條　前條ノ規定ニ依ル償還金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次グモノトス

第十條　本法ハ專用鐵道ヲ公衆ノ用ニ供スル鐵道ニ變更シタル私設鐵道及本法施行前營業ヲ開始シタル私設鐵道ニ之ヲ適用セス但シ此等ノ私設鐵道ニシテ交通ノ要路ニ當リ軌間三呎六吋以上ノモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附　則

本法ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和九年三月法律第二八號）

本法ハ昭和九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本法施行ノ際現ニ補助ヲ受クル鐵道ニ對スル補助金計算ニ付テハ昭和九年三月三十一日ヲ含ム營業年度ノ末日迄ハ仍從前ノ例ニ依ル

附　則（昭和十五年四月法律第八二號）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ本法施行ノ際現ニ補助ヲ受クル鐵道ニ對スル補助ニ付テハ各現在ノ補助期間滿了ノ日ノ屬スル營業年度ノ末日迄ハ改正規定ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ依ル

●樺太地方鐵道補助法

（大正十年四月四日法律第四十號）

【沿革】昭和三年五月法律第二號、同八年三月同第三九號、同十三年三月同第二〇號、同十五年四月同第八三號改正

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル樺太地方鐵道補助法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

樺太地方鐵道補助法

第一條　政府ハ樺太ニ於テ公衆ノ用ニ供スル爲經營スル地方鐵道ニ對シ

該鐵道營業開始ノ日ヨリ十五年ヲ限リ豫算ノ範圍内ニ於テ補助金ヲ交付スルコトヲ得

政府ハ必要アリト認ムルトキハ更ニ五年ヲ限リ前項ノ期間ヲ伸長スルコトヲ得

第二條　前條ノ補助金ハ毎營業年度ニ於ケル建設費ニ對シ年五分ノ割合ニ相當スル金額ヲ限度トス但シ毎營業年度ニ於ケル益金カ建設費ニ對シ年一分ノ割合ニ相當スル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ハ之ヲ補助金額ヨリ控除ス

第三條　政府ハ必要アリト認ムルトキハ一經營者ノ經營スル鐵道ヲ數區ニ分チ各區ニ付前二條ノ規定ニ準シ補助ヲ爲スコトヲ得

第四條　前二條ノ規定ニ依ル建設費及益金ハ政府ノ定ムル所ニ依リ算出シタル金額ニ依ル

第五條　（削除）

第六條　補助金ノ毎年度ノ豫算殘額ハ遞次之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第七條　補助ヲ受クル鐵道ノ管理者カ法令、法令ニ基キテ爲ス命令、免許若ハ補助ニ附シタル條件ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ政府ハ其ノ補助ヲ停止シ又ハ廢止スルコトヲ得

第八條　詐欺ニ因リテ補助金ヲ受ケタルトキハ法定ノ利息ヲ附シテ之ヲ償還セシム

第九條　前條ノ規定ニ依ル償還金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次グモノトス

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和十三年三月法律第二〇號）

本法ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本法施行ノ際現ニ補助ヲ受クル鐵道ニ對スル補助ニ付テハ會社設立又ハ資本增加ノ登記ノ日ヨリ十五年ノ期間滿了ノ日ヲ含ム營業年度ノ末日迄ハ改正規定ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ依ル

本法施行ノ際現ニ補助ヲ受クル鐵道ニ對スル補助ノ期間ニ付テハ該鐵道ノ建設費ニ充テタル資金ニ對シ初メテ補助ヲ爲シタル日ヲ以テ第一條第一項ノ營業開始ノ日ト看做ス

附　則（昭和十五年四月法律第八三號）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ本法施行ノ際現ニ補助ヲ受クル鐵道ニ對スル補助ニ付テハ各現在ノ補助期間滿了ノ日ノ屬スル營業年度ノ末日迄ハ改正規定ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ依ル

●南滿洲鐵道株式會社ニ關スル件

（明治三十九年六月八日勅令第百四十二號）

【沿革】明治三十九年九月勅令第二四三號、同四十年三月同第二二號、同四十一年五月同第一三四號、同四十三年一月同第四號、同四十五年五月同第一三三號、大正六年七月同第八九號、同八年四月同第一〇四號、同十年十一月同第四三〇號、昭和四年六月同第一七八號、同八年三月同第二二號、同十一年六月同第九三號、同十二年六月同第二五九號、同十三年六月同第四二三號、同十五年一月同第二〇號、同十六年六月同第四一六號改正

朕南滿洲鐵道株式會社ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　政府ハ南滿洲鐵道株式會社ヲ設立セシメ滿洲地方ニ於テ鐵道運輸業ヲ營マシム

第二條　會社ノ株式ハ總テ記名ト爲シ日滿兩國政府及日滿兩國人ニ限リ之ヲ所有スルコトヲ得

第三條　日本政府ハ滿洲ニ於ケル鐵道其ノ附屬財産及炭坑ヲ以テ其ノ出資ニ充ツルコトヲ得

第四條　會社ハ新ニ募集スル株式總額ヲ數回ニ分ツテ募集スルコトヲ得但シ第一回募集額ハ總額ノ五分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

第五條　株金ノ第一回ノ拂込金額ハ株金ノ十分ノ一迄下ルコトヲ得

第五條ノ二　政府所有ノ株式ノ株金拂込ハ其ノ他ノ株式ノ株金拂込ト之ヲ異ニスルコトヲ得

政府ノ株式引受ハ株式申込證ヲ以テスルコトヲ要セズ

第六條　會社ハ本社ヲ大連市ニ、支社ヲ東京市及新京ニ置ク

第七條　會社ニ總裁一人副總裁二人理事四人以上監事三人乃至六人ヲ置ク

第八條　總裁ハ會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

總裁事故アルトキハ副總裁ノ一人其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

副總裁及理事ハ總裁ヲ補助シ會社ノ業務ヲ分掌ス

監事ハ會社ノ業務ヲ監査ス

第九條　總裁副總裁ハ勅裁ヲ經テ政府之ヲ命シ其ノ任期ハ五箇年トス

理事ハ百株以上ヲ有スル株主中ヨリ政府之ヲ命シ其ノ任期ハ四箇年トス

監事ハ株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ハ三箇年トス

第十條　總裁副總裁及理事ノ報酬及手當ノ額ハ政府之ヲ定ム

第十一條　總裁副總裁及理事ハ在任中何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ス但シ政府ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十一條ノ二　會社カ一年ヲ營業年度ト定ムル場合ニ於テ當該營業年度ノ利益配當ヲ確實ニ爲シ得ヘキ見込アルトキハ其ノ營業年度經過前一回ヲ限リ一定ノ時期ニ於テ政府及滿洲國政府以外ノ株主ニ對シ其ノ拂込金額ニ見込配當率ノ半ヲ乘シタル金額ヲ分配スルコトヲ得但シ其ノ分配金額ハ前營業年度繰越金額以内タルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ分配シタル金額ハ當該營業年度ノ計算ニ付テハ之ヲ會社財産ト看做シ株主ノ異動ニ拘ラス其ノ計算ニ基キ政府及滿洲國政府以外ノ株主ニ配當スル金額ヨリ之ヲ控除ス

第十一條ノ三　會社ノ社債ノ總額ハ拂込株金額ノ二倍ニ至ルコトヲ得

第十一條ノ四　社債ノ募集及定款ノ變更ハ總資本ノ半額以上ニ當ル株主出席シ其ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第十一條ノ五　株主名簿及社債原簿ハ之ヲ東京支社ニ備置クコトヲ得

第十二條　政府ハ南滿洲鐵道株式會社監理官ヲ置キ會社ノ業務ヲ監視セシム

監理官ハ何時ニテモ事業ノ施設ヲ監査シ會社ノ金庫帳簿及諸般ノ文書物件ヲ檢査スルコトヲ得

監理官ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ會社ニ命シテ營業上諸般ノ計算及景況ヲ報告セシムルコトヲ得

監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第十三條　政府ハ會社ノ事業ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發スルコトヲ

得

關東軍司令官ハ會社ノ業務ニシテ軍事ニ關スルモノニ付必要ナル指示ヲ爲スコトヲ得

第十四條　會社ノ決議又ハ役員ノ行爲ニシテ法律命令若ハ會社ノ目的ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ又ハ監督官廳ノ命シタル事項ヲ執行セサルトキハ政府ハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ役員ヲ解職スルコトヲ得

第十五條　政府ハ必要ト認ムルトキハ帝國內ニ於ケル鐵道ニ關スル法令ノ規定ヲ會社ニ適用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ政府ハ適用スヘキ法令ノ事項ヲ會社ニ豫告スヘシ

第十六條　本令ニ別段ノ定ナキモノハ商法及附屬法令ノ規定ヲ適用ス

第十七條　明治三十三年勅令第三百六十六號ハ本令ニ依リ設立スル會社ニ之ヲ適用セス

附　則

第十八條　政府ハ設立委員ヲ置キ南滿洲鐵道株式會社設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第十九條　設立委員ハ定款ヲ作リ政府ノ認可ヲ得タル後第一回株式ヲ募集スヘシ

第二十條　設立委員ハ第一回株式ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ政府ニ差出シ會社設立ノ許可ヲ稟請スヘシ

第二十一條　前條ノ許可ヲ得タルトキハ設立委員ハ遲滯ナク各株式ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

前項ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク創立總會ヲ招集スヘシ

第二十二條　創立總會終結シタルトキハ創立委員ハ其ノ事務ヲ南滿洲鐵道株式會社總裁ニ引渡スヘシ

附　則（昭和四年六月勅令第一七八號）

本令ハ昭和四年六月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ南滿洲鐵道株式會社ノ社長又ハ副社長ノ職ニ在ル者ハ別ニ辭令書ヲ用ヒス社長ハ總裁ヲ、副社長ハ副總裁ヲ命セラレタルモノトス但シ其ノ任期ハ各社長又ハ副社長ヲ命セラレタル時ヨリ之ヲ起算ス

附　則（昭和十五年一月勅令第二〇號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二條ノ改正規定ニ拘ラズ當分ノ內支那國人ハ南滿洲鐵道株式會社ノ株式ヲ所有スルコトヲ得

●南滿洲鐵道株式會社ノ資本增加ニ關スル件（大正九年三月三十一日勅令第七十號）

朕南滿洲鐵道株式會社ノ資本增加ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

南滿洲鐵道株式會社カ資本ヲ增加スル場合ニ於テハ新株式ノ半數ヲ限リ之ヲ募集スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●南滿洲鐵道株式會社ノ株式引受ニ關スル件（大正九年八月三日法律第三十四號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル南滿洲鐵道株式會社ノ株式引受ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

政府ハ現ニ所有スル南滿洲鐵道株式會社ノ株式ノ外更ニ其ノ株式額面一億二千萬圓ヲ引受クルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ株式ヲ引受ケタルトキハ政府ハ其ノ引受ノ日ニ於テ南滿洲鐵道株式會社ノ發行ニ係ル英貨社債額面一千二百萬磅ノ元利支拂義務ヲ承繼ス此ノ場合ニ於テハ政府ノ引受ケタル株式ニ付株金一億一千七百十五萬六千圓ノ拂込アリタルモノト看做ス

第一項ノ規定ニ依ル株式引受ハ株式申込證ヲ以テスルコトヲ要セス

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（昭和八年三月二十九日法律第三十四號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル南滿洲鐵道株式會社ノ株式引受ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　政府ハ現ニ所有スル南滿洲鐵道株式會社ノ株式ノ外更ニ其ノ株式額面一億八千萬圓ヲ引受クルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル株式引受ハ株式申込證ヲ以テスルコトヲ要セズ

第二條　前條第一項ノ規定ニ依リ株式ヲ引受ケタルトキハ政府ハ其ノ引受ノ日ニ於テ南滿洲鐵道株式會社ノ發行ニ係ル英貨社債額面四百萬磅ノ元利支拂義務ヲ承繼ス此ノ場合ニ於テハ大正九年法律第三十四號ニ依リ政府ノ引受ケタル株式ニ付株金二百八十四萬四千圓、前條第一項ノ規定ニ依リ政府ノ引受ケタル株式ニ付株金三千六百二十萬八千圓ノ拂込アリタルモノト看做ス

第三條　前條ノ英貨社債ノ元金償還（買入銷却ノ方法ニ依ル場合ヲ除ク）又ハ利子支拂ニ要シタル邦貨金額ガ其ノ償還社債ノ額面金額又ハ支拂利札ノ券面金額ヲ英貨一磅ニ付九圓七十六錢三厘ノ割合ヲ以テ換算シタル金額ニ比シ多額ナルトキハ其ノ超過額ニ相當スル金額ヲ南滿洲鐵道株式會社ヨリ政府ニ納付シ少額ナルトキハ其ノ不足額ニ相當スル金額ヲ政府ヨリ南滿洲鐵道株式會社ニ交付ス

前項ノ元金償還又ハ利子支拂ニ要シタル邦貨金額ノ計算方法其ノ他必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●南滿洲鐵道株式會社ノ株式引受ニ關スル法律第三條ニ依リ政府ト南滿洲鐵道株式會社トノ間ニ於テ授受スヘキ金額ノ計算及整理ニ關スル件（昭和八年七月十七日大藏省令第十七號）

昭和八年法律第三十四號第三條ニ依リ政府ト南滿洲鐵道株式會社トノ間ニ於テ授受スヘキ金額ノ計算及整理ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　昭和八年法律第三十四號ニ依リ政府ニ承繼シタル南滿洲鐵道株式會社ノ發行ニ係ル英貨社債ノ元利金支拂ニ付同法第三條ニ依リ政府ト南滿洲鐵道株式會社トノ間ニ於テ授受スヘキ金額アルトキハ元金償還ノ場合ニ在リテハ其ノ都度、利子支拂ノ場合ニ在リテハ利拂期毎ニ整理シ之カ授受ヲ爲ス

第二條　前條英貨社債ノ元利支拂資金トシテ政府ヨリ取扱銀行ニ交付シタル英貨金額ハ之ヲ左ノ各號ニ依リ邦貨金額ニ換算スルモノトス

一、元金償還ノ場合ニ在リテハ其ノ都度其ノ當時ニ於ケル爲替相場ヲ參酌シ政府ノ定ムル換算率ニ依ル

二、利子支拂ノ場合ニ在リテハ利拂資金交付日（利拂期日ノ十日前）ニ於ケル横濱正金銀行ノ倫敦向電信賣相場ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●外國ニ於テ鐵道ヲ敷設スル帝國會社ニ關スル件（明治三十三年九月十五日法律第八十七號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル外國ニ於テ鐵道ヲ敷設スル帝國會社ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

帝國臣民ニシテ外國ニ於テ鐵道ヲ敷設シ運輸業ヲ營マム爲ニ帝國內ニ於テ設立スル會社ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設ケ之ニ準據セシムルコトヲ得

●外國ニ於テ鐵道ヲ敷設スル帝國會社ニ關スル件（明治三十三年九月十五日勅令第三百六十六號）

【沿革】明治四十一年十二月勅令第三〇四號、大正九年五月同第一五六號改正

朕外國ニ於テ鐵道ヲ敷設スル帝國會社ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　外國ニ於テ鐵道ヲ敷設シ運送業ヲ營ム爲帝國內ニ於テ帝國臣民ノ設立スル株式會社ニ關シテハ本令ニ別段ノ定アルモノヲ除クノ外商法及附屬法令ノ規定ヲ適用ス

第二條　會社ノ發起人ハ株金第一回拂込前定款、工事方法書、線路實測圖及工費豫算書ヲ具シ鐵道大臣ニ會社設立ノ免許ヲ申請スヘシ

前項免許ノ申請ニハ株式申込證ノ謄本及必要ナル書類圖面ヲ添附スルコトヲ要ス

第三條　會社ハ資本總額ヲ數回ニ分ツテ募集スルコトヲ得但シ第一回募集額ハ資本總額ノ五分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

第四條　株金ノ第一回ノ拂込金額ハ株金ノ十分ノ一迄下ルコトヲ得

第五條　第一回募集ノ資本ニ對スル第一回ノ株金拂込アリタルトキハ發起人ハ創立總會ヲ招集スルコトヲ得

第六條　定款變更ノ決議ハ鐵道大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效ヲ生セス

第七條　會社ハ鐵道大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ社債ヲ發行スルコトヲ得ス

社債總額ハ拂込株金額ノ十倍ニ至ルコトヲ得但シ其ノ額ハ資本總額ノ五分ノ四ヲ超過スルコトヲ得ス

第八條　會社ハ鐵道大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ工費豫算及工事方法ヲ變更スルコトヲ得ス

第九條　會社ハ鐵道大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ合併又ハ任意ノ解散ヲ爲スコトヲ得ス

第十條　會社カ本令ノ規定又ハ免許若ハ認可ニ附シタル條件ニ違反シタルトキハ鐵道大臣ハ役員ノ改選ヲ命シ又ハ免許若ハ認可ヲ取消スコトヲ得

會社ハ前項免許ノ取消ニ因リテ解散ス

第十一條　第六條、第八條乃至第十條ノ規定ハ外國ニ於テ鐵道ヲ敷設シ運輸業ヲ營ム爲帝國內ニ於テ舊商法ノ規定ニ依リテ設立シタル合資會社ニ之ヲ準用ス

第三款　軌道

●軌道法（大正十年四月十四日法律第七十六號）

【沿革】昭和四年四月法律第六一號、同十四年三月同第二〇號改正

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル軌道法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

軌道法

第一條　本法ハ一般交通ノ用ニ供スル爲敷設スル軌道ニ之ヲ適用ス

第二十類　通信、交通及電氣　第二編　交通

一般交通ノ用ニ供セサル軌道ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條　軌道ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外之ヲ道路ニ敷設スヘシ

第三條　軌道ヲ敷設シテ運輸事業ヲ經營セムトスル者ハ主務大臣ノ特許ヲ受クヘシ

第四條　前條ノ規定ニ依リ特許ヲ受ケタル軌道經營者ハ軌道敷設ニ要スル道路ノ占用ニ付道路管理者ノ許可又ハ承認ヲ受ケタルモノト看做ス

此ノ場合ニ於ケル道路ノ占用料ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第五條　軌道經營者ハ主務大臣ノ指定スル期間內ニ工事施行ノ認可ヲ申請スヘシ

天災事變其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ前項ノ期間內ニ工事施行ノ認可ヲ申請スルコト能ハサル場合ニ於テハ其ノ期間ノ伸長ヲ申請スルコトヲ得

第六條　軌道經營者工事施行ノ認可ヲ受ケタルトキハ道路ニ關スル工事ニ付道路管理者ノ許可又ハ承認ヲ受ケタルモノト看做ス河川法、砂防法及之ニ基キテ發スル命令ニ依ル許可又ハ認可ニ付亦同シ

第七條　軌道經營者工事施行ノ認可ヲ受ケタルトキハ主務大臣ノ指定スル期間內ニ工事ニ著手シ之ヲ竣功セシムヘシ

第五條第二項ノ規定ハ前項ノ期間ニ付之ヲ準用ス

第八條　地方長官必要アリト認ムルトキハ道路管理者ヲシテ道路ニ敷設スル軌道工事及之カ爲必要ヲ生シタル道路ニ關スル工事ノ全部又ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル工事ニ要スル費用ノ負擔ニ付道路管理者及軌道經營者ノ協議調ハサルトキハ申請ニ因リ主務大臣之ヲ裁定ス

第九條　道路管理者道路ノ新設又ハ改築ノ爲必要アリト認ムルトキハ軌道經營者ノ新設シタル軌道敷地ヲ無償ニテ道路敷地ト爲スコトヲ得

第十條　軌道經營者ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ運輸ヲ開始ス

ルコトヲ得ス

第十一條　軌道經營者ハ旅客及荷物ノ運賃其ノ他運輸ニ關スル料金竝運轉速度及度數ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ運賃、料金、運轉速度、度數又ハ發著時刻ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十二條　軌道經營者ハ軌條間ノ全部及其ノ左右各二尺ヲ限リ道路ノ維持及修繕ヲ爲スヘシ

地方長官必要アリト認ムルトキハ道路管理者ヲシテ前項ノ維持及修繕ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル費用ノ負擔ニ付テハ第八條第二項ノ規定ヲ準用ス

第九條ノ規定ニ依リ道路敷地ト爲シタルモノニ付テハ第一項ノ維持及修繕ハ道路管理者之ヲ爲スヘシ

第十三條　主務大臣又ハ地方長官ハ監督上必要アリト認ムルトキハ軌道經營者ヲシテ帳簿、書類及圖面ヲ提出セシメ又ハ監査員ヲ派遣シテ軌道ノ設備、事業ノ狀況竝會計及財産ノ實況ヲ監査セシムルコトヲ得

第十四條　軌道ノ建設、運輸、運轉、係員及會計ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條　軌道經營者ハ主務大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ニ限リ特許ニ因リテ生スル權利義務ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得

第十六條　軌道經營者ハ主務大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ニ限リ軌道ノ讓渡又ハ事業若ハ運轉ノ管理ノ委託若ハ受託ヲ爲スコトヲ得

前項ノ管理ノ委託ヲ受ケタル者ハ其ノ管理ニ付主務大臣ニ對シ委託ヲ爲シタル者ト共ニ其ノ責ニ任ス

第十七條　公共團體ニ於テ公益上ノ必要ニ因リ軌道（未タ運輸開始ニ至ラサル線路ヲ含ム）ノ全部又ハ一部及其ノ附屬物件ヲ買收セムトスルトキハ軌道經營者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依リテ一部買收セラレタル爲殘存線路ノミニ付事業ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキハ軌道經營者ハ殘存開業線路ニ付テハ該線路及其ノ附屬物件ノ買收ヲ求メ未タ運輸開始ニ至ラサル殘存線路ニ付テハ其ノ事業廢止ニ因リテ生スル損失ノ補償ヲ求ムルコトヲ得

第十八條　公共團體ニ於テ前條ノ規定ニ依ル買收ヲ爲サムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

公共團體ニ於テ前條ノ規定ニ依ル買收ヲ爲シタルトキハ特許ニ因リテ生スル權利義務ヲ承繼ス

第十九條　公共團體カ第十七條ノ規定ニ依ル買收又ハ補償ヲ爲ス場合ニ於テハ買收價額又ハ補償金額ハ協定ニ依ル協議調ハサルトキハ申請ニ因リ地方鐵道法第三十一條乃至第三十三條又ハ第三十六條ノ二ノ規定ニ準シ算出シタル金額ヲ標準トシテ主務大臣之ヲ裁定ス

第二十條　公共團體カ第十七條ノ規定ニ依ル買收ヲ爲ス場合ニ於テ公益上ノ必要ニ因リ兼業ニ屬スル資産及軌道經營ニ必要ナル貯藏物品ヲ買收セムトスルトキハ軌道經營者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

公共團體カ第十八條第一項ノ規定ニ依ル買收ヲ爲ス場合ニ於テハ軌道經營者ハ兼業ニ屬スル資産及軌道經營ニ必要ナル貯藏物品ノ買收ヲ求ムルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ買收價額ニ付協議調ハサルトキハ申請ニ因リ主務大臣之ヲ裁定ス

第二十一條　軌道會社ノ株金ノ第一回拂込金額ハ株金ノ十分ノ一迄下ルコトヲ得但シ地方鐵道會社ニ非サル會社カ兼業トシテ軌道ヲ敷設スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條　軌道會社ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ合併ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條　左ノ場合ニ於テハ特許ハ其ノ效力ヲ失フ

一　工事施行ノ認可申請期間內ニ認可ヲ申請セサルトキ

二　工事施行ノ認可ヲ受ケサルトキ

三　事業廢止ノ許可ヲ受ケタルトキ

四　特許ヲ受ケタル者會社ノ發起人ナルトキハ工事施行ノ認可申請期間內ニ會社設立ノ登記ヲ爲ササルトキ

第二十四條　軌道經營者軌道ニ關スル工作物ノ使用ヲ廢止シタルトキハ地方長官ノ指示スル所ニ從ヒ道路ヲ原狀ニ回復スヘシ

地方長官必要アリト認ムルトキハ軌道經營者ノ負擔ニ於テ道路管理者ヲシテ前項ノ規定ニ依ル工事ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十五條　本法ニ規定スル主務大臣ノ職權ノ一部ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ地方長官又ハ鐵道局長ニ委任スルコトヲ得

第二十六條　地方鐵道法第七條、第八條、第十條第二項、第十一條、第十五條、第十七條、第十九條第二項、第二十三條第二項第三項、第二十五條、第二十七條、第三十條乃至第三十六條ノ二及第三十六條ノ四ノ規定ハ軌道ニ之ヲ準用ス但シ地方鐵道法第七條第二項及第八條中鐵道抵當法トアルハ明治四十二年法律第二十八號トス

第二十七條　軌道經營者カ法令若ハ法令ニ基キテ爲ス命令又ハ特許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　取締役其ノ他ノ役員ヲ解任スルコト

二　他人ヲシテ軌道經營者ノ計算ニ於テ必要ナル施設又ハ事業ノ管理ヲ爲サシムルコト

三　特許ノ全部又ハ一部ヲ取消スコト

前項ノ規定ニ依リテ解任セラレタル取締役其ノ他ノ役員ハ再任セラルルコトヲ得ス

第一項第二號ノ規定ニ依リ事業ノ管理ヲ爲ス者ハ其ノ管理ニ付主務大臣ニ對シ當該軌道經營者ト共ニ其ノ責ニ任ス

第二十八條　特許ヲ受ケスシテ軌道ヲ敷設シ又ハ認可ヲ受ケスシテ運輸ヲ開始シタル者ハ百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條　左ノ場合ニ於テハ軌道經營者又ハ其ノ役員若ハ使用人ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一　前條ノ場合ヲ除クノ外本法ニ依リ許可又ハ認可ヲ受クヘキ事項ヲ許可又ハ認可ヲ受ケスシテ爲シタルトキ

二　法令ニ基キテ爲シタル命令又ハ特許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ基キテ爲シタル命令ニ違反シタルトキ

三　監査員ノ職務ノ執行ヲ妨ケタルトキ

四　法令又ハ法令ニ基キテ爲ス命令ニ依リテ爲スヘキ屆出、報告其ノ他ノ書類圖面ノ提出若ハ調製ヲ怠リ又ハ虛僞ノ屆出、報告若ハ記載ヲ爲シタルトキ

第三十條　前二條ノ規定ハ公共團體カ軌道ヲ經營スル場合ニ之ヲ適用セス

第三十一條　本法ハ一般交通ノ用ニ供スル軌道ニ準スヘキモノニ之ヲ準用ス

前項ノ軌道ニ準スヘキモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條　國ニ於テ軌道ヲ敷設シテ運輸事業ヲ經營セムトスルトキハ當該官廳ハ主務大臣ニ協議ヲ爲スヘシ其ノ工事施行ニ付亦同シ

國ニ於テ經營スル軌道ニ付テハ第二條、第十二條第一項、第十四條及

第二十四條第一項ノ規定ヲ除クノ外本法ヲ適用セス但シ第十四條中軌道ノ係員及會計ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第一項ノ規定ニ依リ主務大臣ニ協議ヲ了シタルトキハ第四條及第六條ノ規定ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十二年十二月勅令第五〇八號ヲ以テ同十三年一月一日ヨリ施行）

軌道條例ハ之ヲ廢止ス

舊法ニ依リテ爲シタル特許、認可、處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ其ノ特許、認可其ノ他ノ處分ニ附シタル條件ニシテ本法ニ抵觸スルモノハ其ノ效力ヲ失フ

他ノ法令中軌道條例トアルハ軌道法トス

附　則（昭和四年四月法律第六一號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和四年十二月勅令第三三七號ヲ以テ同年十二月五日ヨリ施行）

附　則（昭和十四年三月法律第二〇號）

本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十四年四月勅令第二二六號ヲ以テ第十九條及第二十五條ノ改正ニ關スル規定竝ニ第二十六條ノ改正ニ關スル規定中地方鐵道法第三十六條ノ四及第三十六條ノ五ニ關スル部分ハ同年四月二十五日ヨリ、其ノ他ノ規定ハ昭和十三年法律第七十二號施行ノ日（昭和十五年一月一日）ヨリ施行）

●軌道法施行規則

（大正十二年十二月二十日　内務、鐵道省令）

【沿革】昭和四年十二月内務、鐵道省令、同五年六月同、同十五年三月同第一號改正

軌道法施行規則左ノ通定ム

軌道法施行規則

第一條　軌道ノ特許申請書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添附スヘシ

一　起業目論見書

二　線路豫測圖

三　建設費概算書（第一號樣式）

四　運輸事業ノ收支概算書（第二號樣式）

軌道ヲ道路ニ敷設スルコトヲ得サル場合ニ在リテハ其ノ事由書ヲ前項申請書ニ添附スヘシ

第二條　起業目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　目的（旅客運送、荷物運送ノ別）

二　商號又ハ名稱、主タル事務所ノ設置地

三　軌道事業ニ要スル資金ノ總額及其ノ出資方法

四　線路ノ起終點及併用軌道ノ始終點ノ地名、地番竝其ノ經過市町村名

五　軌道ヲ敷設スヘキ道路ノ種類每ノ延長、一般幅員及計畫幅員

六　線路ノ延長及單線、複線等ノ別

七　軌間及車輛ノ最大幅員

八　動力（人力、馬力、蒸汽、電氣等ノ別）、電氣ヲ動力トスルモノニシテ自ラ發電設備ヲ有スルモノニ在リテハ原動力ノ種類（火力、水力ノ

別）、他ヨリ電力ノ供給ヲ受クルモノニ在リテハ供給者名

第三條　線路豫測圖ハ縮尺二萬五千分一以上ノ平面圖トシ線路ノ經過市町村名、地形、一粁每及單線複線等ノ分界點ノ粁程、道路ノ種類竝沿線人家連檐ノ狀況ヲ記シ縮尺、方位ヲ示スヘシ

第四條　地方長官特許申請書ヲ受付タルトキハ期限ヲ指定シ軌道敷設ニ關シ關係道路管理者ノ意見ヲ徵スヘシ

道路管理者ハ前項ノ意見ヲ決定スルニ付期限ヲ指定シ道路ニ關スル費用ヲ負擔スル公共團體ノ議會ノ意見ヲ徵スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ期限内ニ意見ヲ答申セサルトキハ直ニ之ヲ處理スルコトヲ得

第五條　地方長官ハ特許申請書ニ左ノ事項ニ關スル調査書ヲ添ヘ特許ノ許否ニ關スル意見ヲ附シ之ヲ進達スヘシ

一　申請者ノ資產及信用程度

二　事業ノ成否

三　事業ノ效果

四　道路管理者ノ意見

五　他ノ鐵道、軌道、索道又ハ自動車等（未開業ノモノヲ含ム）ニ及ホス影響

六　他ノ鐵道、軌道、索道又ハ自動車等ノ競願アルトキハ其ノ名稱、區間、申請者名及申請書ノ受付年月日

第六條　工事施行ノ認可ヲ受クル前ニ於テ起業目論見書ノ記載事項ヲ變更セムトスルトキハ内務大臣及鐵道大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ商號又ハ名稱、主タル事務所ノ設置地及電力供給者ノ變更ハ之ヲ届出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ記載事項ノ變更カ道路ニ重大ナル關係ヲ有スルトキハ第四條ノ規定ヲ準用ス

第七條　工事施行認可申請書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添附スヘシ

一　線路實測圖

二　工事方法書

三　建設費豫算書（第三號樣式）

四　特許ヲ受ケタル者會社ノ發起人ナルトキハ定款及會社設立登記謄本

第八條　線路實測圖ハ左ノ三種トス

一　平面圖

縮尺ハ二千五百分一以上トシ線路ノ左右各四十米以内ノ地形ヲ明ニシ道路ノ種類、軌道ノ中心線、線路ノ單線複線等ノ分界點ノ粁程、道路水路等ノ附換、人家連檐又ハ連檐スヘキ箇所、行政區劃ノ境界、縮尺及方位ヲ示スヘシ

線路ノ中心線ニハ二百米每ニ粁程ヲ記シ曲線ノ半徑、交角、停留場ノ位置、名稱及中心粁程ヲ記スヘシ

二　縱斷面圖

縮尺ハ横平面圖ト同一、縱二百分一以上トシ中心線ノ地盤高及施工基面高ヲ二十米每ニ記シ隧道ノ長、橋梁溝橋ノ徑間及徑間數、桁ノ種類及材質、停留場ノ名稱及中心粁程、交通頻繁ナル踏切道竝線路ノ勾配ヲ記シ縮尺ヲ示スヘシ

三　軌道ヲ敷設スル道路ノ横斷定規圖

軌道ノ中心、車道歩道ノ區別、横斷勾配、路上建設物ノ位置、車體

外有效輻員ヲ記スヘシ

第九條　工事方法書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　動力
二　軌間
三　單線、複線等ノ別
四　軌道中心間隔
五　最小曲線半徑及最急勾配
六　土工定規（新設軌道ニ限ル）
七　橋梁、溝橋
八　隧道
九　軌條、轉轍器、轍叉及枕木
十　停留場
十一　踏切ノ構造（圖面ニ依リ明示スルコト）
十二　他ノ軌道又ハ鐵道トノ交叉方法
十三　閉塞信號機
十四　車輛
十五　特殊設計

電氣ヲ動力トスルモノニ在リテハ前項ノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　送電系統
二　電氣軌道ノ方式
三　發電所、變壓所、蓄電所及配電所
四　送電線路及饋電線路
五　電車線路
六　電氣機關車及電車
七　軌道ノ動力トシテ他ヨリ電力ノ供給ヲ受クル場合
（イ）供給電力ノ電氣方式、最大電壓、容量及受給時間
（ロ）送電上ノ責任分界點、電氣工作物ノ所有權分界點（圖面ニ依リ明示スルコト）
（ハ）受電設備ノ大要（圖面ヲ添附シ說明スルコト）

地方鐵道法施行規則第十二條ノ規定ハ前二項ニ規定スル事項ノ記載方法ニ之ヲ準用ス

併用軌道ニ在リテハ前三項ニ規定スルモノヲ除クノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　道路ノ種類毎ニ區別セル併用軌道ノ延長及其ノ始終點ノ地名、地番
二　軌道ノ構造及道路ノ鋪裝（圖面ニ依リ明示スルコト）
三　軌道ノ排水設備（圖面ニ依リ明示スルコト）

第十條　地方長官工事施行認可申請書ヲ受付タルトキハ軌道工事ニ關シ關係道路管理者ノ意見ヲ徵シ認可ノ可否ニ關スル意見ヲ附シ之ヲ進達スヘシ

第四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十一條　工事施行ノ認可ヲ受ケタル後線路ヲ變更セムトスルトキハ第八條ノ規定ニ準シ線路實測圖（新舊對照圖添附）ヲ、工事方法書ノ記載事項ヲ變更セムトスルトキハ第九條ノ規定ニ準シ變更セムトスル事項ニ關スル工事方法書（停留場ノ變更ニ在リテハ新舊對照圖添附）ヲ作製シ其ノ事由ヲ具シ內務大臣及鐵道大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ認可申請書ニハ工費豫算書ヲ添附シ工費支出ノ途ヲ明ニスヘシ

但シ重要ナラサル變更ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第一項ノ場合ニ於テ變更セムトスル事項カ道路ニ重大ナル關係ヲ有スルトキハ第四條ノ規定ヲ準用ス

第一項ノ認可申請書ニシテ運輸開始後ニ於ケル變更ニ關スルモノハ同時ニ其ノ副本ヲ所管鐵道局長ニ提出スヘシ

第十二條　工事施行又ハ前條第一項ノ認可申請書ヲ提出スルトキハ同時ニ軌道敷設ノ爲ニスル道路及河川ノ占用面積圖ヲ地方長官ニ提出スヘシ

工事施行又ハ前條第一項ノ認可アリタルトキハ地方長官其ノ旨ヲ道路又ハ河川管理者ニ通知シ前項ノ占用面積圖ヲ送付スヘシ

第十三條　軌道經營者工事ニ著手シ又ハ之ヲ竣工セシメタルトキハ遲滯ナク地方長官ニ屆出ツヘシ

前項ノ屆出ヲ受ケタルトキハ地方長官ハ遲滯ナク之ヲ內務大臣及鐵道大臣ニ報告スヘシ

第十四條　地方長官軌道法第八條ノ規定ニ依リ道路管理者ヲシテ工事ヲ執行セシメムトスルトキハ道路管理者及軌道經營者ノ意見ヲ徵シ事由ヲ具シ左ノ書類ヲ添附シ內務大臣及鐵道大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一　工事設計書
二　工費豫算書
三　工費負擔調書
四　道路ニ關スル費用ヲ負擔スル公共團體ノ當該年度歲入出豫算書

第十五條　地方長官前條ノ認可ヲ受ケタルトキハ工事ノ設計、著手及竣功ノ期限並工費豫算書ヲ道路管理者ニ示シ工事ヲ執行セシメ軌道經營者ニ之ヲ通知スヘシ

道路管理者工事ヲ竣功セシメタルトキハ遲滯ナク工事竣功調書及工費精算書ヲ作製シ地方長官ニ報告シ軌道經營者ニ通知スヘシ

第十六條　道路管理者軌道法第九條ノ規定ニ依リ軌道敷地ヲ道路敷地ト爲サムトスルトキハ其ノ事由及區間ヲ記載シ工事設計書ヲ添附シ內務大臣及鐵道大臣ノ認可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ道路管理者ハ軌道經營者ノ意見ヲ徵シ之ヲ申請書ニ附記スヘシ

道路管理者前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク道路敷地ト爲スヘキ區間ヲ示シ工事設計書ヲ添附シ其ノ旨ヲ軌道經營者ニ通知スヘシ

第十七條　地方長官運輸開始認可申請書ヲ受付タルトキハ工事ヲ檢査シ支障ナシト認メタル場合ニ限リ運輸開始ヲ認可スヘシ

軌道經營者運輸ヲ開始シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ內務大臣、鐵道大臣、地方長官及所管鐵道局長ニ屆出ツヘシ

第十八條　第十五條ノ規定ハ軌道法第十二條第二項及第二十四條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條　旅客運賃ノ認可申請書ニハ粁制ニ在リテハ一粁當ノ運賃、區間制ニ在リテハ區間ノ運賃、均一制ニ在リテハ均一運賃及運賃計算ノ方法ヲ記載シ鐵道大臣ニ之ヲ提出スヘシ

前項ノ申請書ニハ粁制及區間制ニ在リテハ實測換算中心粁程表（第四號樣式）營業粁程表（第五號樣式）及旅客運賃表（第六號樣式）ヲ添附スヘシ

第二十條　荷物運賃ノ認可申請書ニハ手荷物、荷物等ヲ區別シ其ノ品種等級ニ依リ粁制ニ在リテハ一粁當運賃、區間制ニ在リテハ區間ノ運賃、

均一制ニ在リテハ均一運賃竝運賃計算ノ方法ヲ記載シ鐵道大臣ニ之ヲ提出スヘシ

荷物運賃ニ關シ別ニ營業粁程ヲ制定セムトスルトキハ其ノ增加割合ヲ前項ノ申請書ニ記載シ其ノ計算方法ヲ附記シ荷物營業粁程表（第七號樣式）ヲ添附スヘシ

第二十一條　旅客運賃又ハ荷物運賃ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ變更後ニ於ケル收支豫算書ヲ添附シ鐵道大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十二條　運輸ニ關スル料金ノ認可申請書ニハ其ノ種類及金額ヲ記載シ鐵道大臣ニ之ヲ提出スヘシ

運輸ニ關スル料金ヲ變更セムトスルトキハ其事由ヲ具シ鐵道大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十二條ノ二　前四條ノ認可申請書ハ所管鐵道局長ヲ經由スヘシ此ノ場合ニ於テハ同時ニ其ノ副本ヲ地方長官ニ提出スヘシ

第二十三條　前五條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル運賃又ハ料金ヲ實施シタルトキハ遲滯ナク其ノ月日ヲ鐵道大臣及地方長官ニ屆出ツヘシ

第二十四條　運轉速度及度數ノ認可申請書ニハ運轉速度及度數表（第八號樣式）ヲ添附シ鐵道大臣ニ之ヲ提出ズヘシ

前項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル運轉速度ヲ增加シ又ハ度數ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ鐵道大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル事項ヲ實施シタルトキ及發著時刻ヲ變更シタルトキハ發著時刻表（第八號樣式ノ二）ヲ添附シ遲滯ナク其ノ月日ヲ鐵道大臣及地方長官ニ屆出ツヘシ

第二十四條ノ二　前條ノ規定ニ依ル認可申請書ニ付テハ其ノ副本ヲ所管鐵道局長ニ提出シ前二條ノ規定ニ依ル屆書ニシテ鐵道大臣ニ提出スヘキモノハ所管鐵道局長ヲ經由シ之ヲ提出スヘシ

第二十五條　軌道法第十八條第一項ノ規定ニ依ル買收ノ認可申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　買收ノ事由書

二　買收物件ノ範圍ニ關スル調書

三　買收價格算出說明書

四　買收ニ關シ軌道經營者ト爲シタル交涉ノ顚末書

五　買收代價支拂ニ關スル說明書（支拂ノ方法、時期等ヲ記載スルコト）

六　買收ニ關スル公共團體ノ議會ノ決議書謄本

七　買收後ニ於ケル軌道事業計畫書及收支豫算書

八　公共團體ノ當該年度歲入出豫算書

第二十六條　車輛ノ衝突、顚覆其ノ他旅客ニ死傷ヲ生シタル重大ナル運轉事故ハ即時電信、電話又ハ口頭ヲ以テ內務大臣、鐵道大臣、地方長官及所管鐵道局長ニ報告スルノ外七日以內ニ第九號樣式ニ依リ內務大臣、鐵道大臣及地方長官ニ之ヲ屆出ツヘシ

前項以外ノ事故ハ一月分ヲ取纏メ翌月十五日限リ第十號樣式ニ依リ地方長官及所管鐵道局長ニ之ヲ屆出ツヘシ

第二十七條　地方鐵道法施行規則第三條、第八條、第十三條、第十五條、第二十一條第一項第二項、第二十二條、第二十五條第一項本文第二項、第二十六條、第三十條乃至第三十三條、第四十五條、第四十六條、第四十八條乃至第四十九條、第五十一條乃至第五十六條ノ規定ハ之ヲ軌道ニ準用ス但シ鐵道大臣トアルハ內務大臣及鐵道大臣トアルハ地方長官トス

前項ニ於テ準用スル地方鐵道法施行規則第二十一條第一項第二項及第二十五條第一項本文第二項但書ノ規定ニ依リ申請書又ハ屆書ヲ提出スル場合ニハ同時ニ其ノ副本ヲ所管鐵道局長ニ、第四十八條及第四十八條ノ二ノ規定ニ依リ屆書ヲ提出スル場合ニハ同時ニ其ノ副本ヲ地方長官ニ提出スヘシ但シ第二十一條第一項第二項及第二十五條第一項本文ノ場合ニ在リテハ運輸開始後ニ於ケルモノニ限ル

地方鐵道法施行規則第十八條ノ規定ハ新設軌道ニ之ヲ準用ス但シ所管鐵道局長トアルハ內務大臣、鐵道大臣及地方長官トス

前項ノ規定ニ依リ屆書ヲ提出スル場合ニハ運輸開始後ニ於ケルモノニ限リ同時ニ其ノ副本ヲ所管鐵道局長ニ提出スヘシ

第二十八條　地方鐵道法施行規則第二十條但書ノ場合ニ於テ內務大臣ニ提出スル申請書ニハ地方鐵道ノ車輛ニ限リ機關車ニ在リテハ重量、主要寸法（圖面ヲ除ク）、制動機ノ種類及裝置ヲ、客車及貨車ニ在リテハ車種、

輛數、自重、定員、定員一人ニ對スル客室面積、積載容積及荷重最大寸法、固定輪軸距、制動機ノ種類及裝置竝汽動車、電氣機關車及電車ニ關スル事項ヲ記載スヘシ地方鐵道法施行規則第二十六條ノ認可申請ニ付亦同シ

第二十九條　軌道法又ハ本令ノ規定ニ依ル特許、許可及認可申請書竝屆書ニシテ內務大臣又ハ鐵道大臣ニ提出スヘキモノハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外軌道ヲ敷設スル地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スヘシ但シ二府縣以上ニ亙リ敷設スル軌道ニ在リテハ事件カ二府縣以上ニ關スル場合ニ限リ其ノ起點所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スヘシ

前項但書ノ場合ニ於テ申請書又ハ屆書ヲ受付タル地方長官ハ關係地方長官ニ商議スヘシ

附　則

本令ハ軌道法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正十三年一月一日ヨリ施行）

從來爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本令中之レニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本令ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

附　則（昭和五年六月內務鐵道省令）

本令ハ昭和五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前內務大臣、鐵道大臣及地方長官ニ於テ受付ケタル書類及圖面ニ付テハ從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

附　則（昭和十五年內務鐵道省令第一號）

本令ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前內務大臣、鐵道大臣及地方長官ニ於テ受付ケタル申請書及屆書ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

第二六九號

式樣號一第

書算概費建設間

延長　　粁

軌道

項	數量	單價	金額	摘要
監督及測量費	粁	圓	圓	
用地費	平方米			
土工費	立方米			
路面費	平方米			
橋梁溝橋費	米			
隧道費	米			
軌道費	粁			
停留場費	箇所			
車輛費	輛			
諸建物費	粁			
通信線路費	粁			
電力線路費	粁			
發電所費	キロワット			
變電所費	キロワット			
總係費	粁			
豫備費				
合計				
一粁當				

備考

用地費、土工費、橋梁溝橋費、隧道費及軌道費ニ在リテハ併用軌道及新設軌道ニ區別記載スヘシ

第三號樣式

間建設費豫算書

延長　　粁

項	目	數量	平均單價	金高	合計
測量及監督費		粁	圓	圓	圓
用地費					
	線路用地	平方米			
	道路用地	〃			
	停留場用地	〃			
	川道附替用地	〃			
	發電所用地	〃			
	變電所用地	〃			
	雜費				
土工費					
	線路切取	平方米			
	線路築堤	〃			
	川道附換	〃			
	踏切道	〃			
	土留石垣	平方米			
路面費					
	鋪裝	平方米			
	排水設備	米			
	地下工作物整理	〃			
	踏切工	平方米			
橋梁費					
	何川橋梁	米			
	何川掛橋	〃			
	何川外何箇所	〃			
隧道費					
	何隧道	米			
	何隧道外何箇所	〃			
軌道費					
	軌條及附屬品	粁			
	轉轍器及轍叉	組			
	枕木	挺			
	道床	粁			
	敷設	〃			
	雜費				

項	目
溝橋費	
	開渠
	暗渠
伏樋費	
停留場費	
	何停留場
	何停留場外何箇所
車輛費	
	(蒸氣)(電氣)機關車
	(電動)(附隨)客車
	(電動)(附隨)貨車
	汽動車
器械費	
諸建物費	
運送費	
建築用具費	
柵垣及境界杭費	
通信線路費	
電力線路費	
	送電線
	饋電線
	電車線
	電柱
	架線材料
	ボンド
	電氣信號
	工費
發電所費	
變電所費	
總係費	
豫備費	
合計	
一粁當	

備考　建設資金出資ノ方法ヲ記載スヘシ

第二號樣式

運輸事業收支概算書

軌道
動力

軌間　米
區間　延長　粁

軌道

數量	平均單價	金高	合計
	圓	圓	圓
箇所			
〃			
粁			
箇所			
〃			
輛			
〃			
〃			
〃			
粁			
〃			
〃			
〃			
〃			
〃			
粁			
〃			
〃			
〃			
〃			
〃			
〃			
〃			
キロワット			
〃			

	金額	摘要
旅客		
人粁		
一粁當		
一日一粁當		
荷物		
噸粁		
一粁當		
一日一粁當		
旅客收入		
一粁當		
一日一粁當		
荷物收入		
一粁當		
一日一粁當		
雜收入		
收入合計		
一日一粁當		
營業費		
一日一粁當		
益金		
建設費		
建設費ニ對スル益金割合		

備　考

1　營業粁程ハ小數點以下第一位ニ止メ第二位ハ四捨五入ヲ爲シ計上スヘシ

2　起點停留場ト他ノ停留場トノ營業粁程ハ第四號樣式所載各停留場ノ實測換算中心粁程ヨリ起點停留場ノ實測換算中心粁程ヲ控除シ殘餘ノ粁程ヲ換算スヘシ

3　起點停留場ニ非サル各停留場相互間ノ營業粁程ハ前號ノ營業粁程ヲ差引算出スヘシ

4　支線ノ營業粁程ハ前各號ニ依リ算出シ支線各停留場ト幹線各停留場相互間ノ營業粁程ハ各停留場ヨリ分岐點ニ至ル營業粁程ヲ合計シ順次記載スヘシ

第六號樣式

旅客運賃表

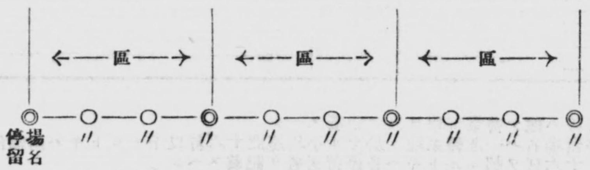
軌　道

停留場名	錢 3	7	13	17					
	停留場名	5	11	15					
		停留場名	7	10					
			停留場名	4					
				停留場名					
							支		
								線	

備　考

1　運賃表ハ各等別ニ調製スヘシ

2　區間制運賃ニ在リテハ下ノ例示ニ依リ運賃區間ノ停留場名ヲ標示スヘシ



3　粁制運賃ニ在リテハ地方鐵道法施行規則附屬第十二號樣式ニ準シ一粁當ノ運賃ヲ表示スヘシ

第四號樣式

實測換算中心粁程表

軌　道

停留場名	粁程	摘要
	0.粁320	
	0.511	
	1.239	

備　考

1　粁程ハ少數點以下第三位ニ止メ第四位ハ四捨五入ヲ爲シ計上スヘシ

2　停留場名ニハ振假名ヲ附シ摘要欄ニ所在地(府縣郡市町村大字名)ヲ記載スヘシ

第五號樣式

營業粁程表

軌　道

停留場名	粁 0.9	2.6	5.1	6.6							
	停留場名	1.7	4.2	5.7							
		停留場名	2.5	4.0							
			停留場名	1.5							
				停留場名							
									支		
										線	

第八號樣式ノ二

發著時刻表

軌道

下り				累計粁程	停留場名	區間粁程	上り			
1 ※混 午前	3 急客 午前	21 貨 午後	5 客 午後				2 ※混 午前			
	11.20					0.9				
	24 25			0.9		1.7				
	— 31			2.6		2.5				
	×40 42			5.1		1.5				
	47 48			6.6		2.1				
	— 55			8.7		2.4				
	12.03 05			11.1		2.6				
	14 15			13.7		2.4				
	22 23			16.1						

備考

1 粁程ハ總テ營業粁程ヲ以テ記載スヘシ

2 符號ヲ以テ車輛運行ノ種別ヲ示ストキハ欄外ニ其ノ凡例（例※印ハ不定期車輛ノ如キ）ヲ記載スヘシ

3 時刻ハ上段ヲ著、下段ヲ發（上リ車輛ハ其ノ反對）トスヘシ

4 通過車輛ハ發時刻ノミヲ記載シ著時刻ノ段ニ——ヲ記入スヘシ

5 車輛カ行違ヲ爲ス著時刻ニハ×印ヲ附スヘシ

6 停車時間一分未滿ノ場合ニハ著發共同一時分ヲ記載シ欄外ニ「著發同時分ヲ記載セルモノハ發時刻何秒前ニ到著スルモノトス」ト記載スヘシ

7 支線ノ時刻ハ別ニ記載スヘシ

8 等間隔時分ヲ以テ運轉スル場合ニ在リテハ最初ノ上下各一箇車輛ノ發著時刻ヲ明記シ（間隔時分ヲ異ニスル毎ニ各別ニ）其ノ他ノ車輛ノ發著時刻ノ記載ヲ省略スルコトヲ得

9 本表ハ各運轉系統ニ於ケル始發終發時刻及停車時分ヲ記載シ（成ルヘク運轉系統圖ヲ添附スルコト）之ニ代フルコトヲ得

第七號樣式

荷物營業粁程表

軌道

停留場名	2	4	8	10					
	停留場名	3	7	9					
		停留場名	4	6					
			停留場名	3					
				停留場名					
							支		
								線	

備考

荷物營業粁程ハ第五號樣式ニ依ル營業粁程表ノ各停留場間營業粁程ヲ割增シ計算上生シタル端數ノ取捨ヲ說明スヘシ

第八號樣式

運轉速度及度數表

軌道

停留場間	粁程	速度				度數					
		（車輛ノ種別）				（車輛ノ種別）				總計	
		運轉時分	平均速度			最大	最小			最大	最小
停留場名——停留場名	粁										
——											
——											
——											
——											
——											
——											
——											
——											
——											
——											

備考

1 粁程ハ總テ營業粁程ヲ以テ記載スヘシ

2 停留場名ハ一運轉系統ニ於ケル平均速度十六粁以下ナルトキハ兩端停留場名ヲ、十六粁ヲ超ユルトキハ各停留場名ヲ記載スヘシ

3 速度及度數ハ旅客（急行又ハ普通）及混合等車輛ノ種別アル場合ニハ各別ニ記載スヘシ

4 運轉時分ハ停車時分ヲ除キ車輛ニ依リ同一區間ノ運轉時分ヲ異ニスルトキハ最小時分ニ依リ記載スヘシ

第九號樣式（半紙判形）

年　月　日

宛　名

事故屆

軌道代表者

事故ノ種類及原因	
發生日時分	
場所	
當該車輛	
現場ノ狀況及當時ノ處置	
損害ノ程度	
進行停止時間	
當務者處分ノ顚末	

備考

一　事故ノ種類ハ左ノ如ク區別シテ之ヲ記載スヘシ

車輛ノ衝突　衝突シタル車輛ノ種類及衝突ノ種別ヲ記載スヘシ

車輛ノ接觸　同　上

脫線　車輛ノ種類ヲ記載スヘシ

顚覆　同　上

傾倒　同　上

車輛ノ分離　同　上

車輛ノ異線進入　同　上

車輛ノ不良　車輛ノ種類及其ノ輛數ヲ記載スヘシ

車輛逸走　同　上

線路障害　天災事變ニ因リ車輛運轉ニ支障ヲ及ホシタル事項ヲ記載スヘシ

車輛妨害　故意ニ車輛ノ運轉ヲ支障シタル一切ノ事項ヲ記載スヘシ

電氣設備ノ故障　車輛ノ運轉ニ支障ヲ及ホシタル事項ヲ記載スヘシ

火災　車輛、建造物及沿線被害物ノ種類ヲ記載スヘシ

死傷　乘客、係員及公衆ニ區別シ記載スヘシ

二　場所ハ停留場名又ハ起點ヨリノ粁程（何停留場間ヲ記載スヘシ）

三　當該車輛ハ其ノ種類及番號ヲ記載スヘシ

四　現場ノ狀況及當時ノ處置ハ詳細ニ說明シ必要ニ依リ圖面ヲ添附スヘシ

五　當務者處分ノ顚末ハ解職、降職、減給、譴責等ノ別ニ依リ記載スヘシ但シ處分未了ノ場合ハ其ノ旨ヲ附記シ處分結了ト同時ニ之ヲ追報スヘシ

第十號樣式（半紙判形）

年　月　日

宛　名

月分事故屆

軌道代表者

事故ノ種類及原因	
發生日時分	
場所	
當該車輛損害ノ程度	
現場ノ狀況及進行停止時間	
當務者處分ノ顚末	

備考

第九號樣式備考ニ同シ

●軌道建設規程

（大正十二年十二月二十九日　內務、鐵道省令）

【沿革】昭和五年六月內務鐵道省令改正

軌道建設規程左ノ通定ム

軌道建設規程

第一章　總則

第一條　軌道ノ建設ハ本令ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第二條　車輛ノ運轉ニ常用スル線路ヲ本線路ト謂ヒ其ノ他ノ線路ヲ側線ト謂フ

第三條　道路上其ノ他公衆ノ通行スル場所ニ敷設スル軌道ヲ併用軌道ト謂ヒ其ノ他ノ軌道ヲ新設軌道ト謂フ

第二章　線路及建造物

第一節　軌間及輪緣路

第四條　軌間ハ直線ニ於テ軌條頭ノ內側ヨリ內側迄ノ距離ニ依リ之ヲ測定ス

第五條　軌間ハ七百六十二粍、一米〇六七、一米四三五ト爲スヘシ

第六條　併用軌道ノ曲線ニ於テ軌間ニ擴度ヲ付スル場合ハ左ノ制限ニ依ルヘシ

一　軌間一米〇六七若ハ一米四三五ニシテ曲線ノ半徑百二十米以下ノモノニ在リテハ二十五粍以内

二　軌間七百六十二粍ニシテ曲線ノ半徑六十米以下ノモノニ在リテハ十三粍以内

第七條　輪緣路ハ車輛ノ輪緣ニ對シ適當ノ大サヲ有セシムヘシ

市街地ニ於ケル併用軌道ニシテ交通特ニ頻繁ナル箇所、轉轍器又ハ轍叉ヲ設置スル箇所ニ在リテハ溝軌條ヲ用ヰ若ハ之ニ準スヘキ施設ヲ爲スヘシ

第二節　軌道定規

第八條　併用軌道ハ道路ノ中央ニ之ヲ敷設シ左ニ掲クル車體外有效幅員ヲ存セシムヘシ

道路ノ種別		車道歩道ノ區別アル道路ノ車道各側	車道歩道ノ區別ナキ道路各側 兩側人家連檐又ハ連檐スヘキ場所	其ノ他ノ場所
特ニ主要ナル街路		八米一八以上	—	—
主要ナル街路 特ニ主要ナル國道		四米五五以上	—	—
主要ナル國道 特ニ主要ナル府縣道		三米六四以上	四米五五以上	四米一〇以上
國道 主要ナル府縣道及市道 特ニ主要ナル町村道		—	三米六四以上	

第九條　街路、特ニ主要ナル國道、主要ナル國道及特ニ主要ナル府縣道ヲ除ク他ノ道路ニ於テハ左ニ掲クル車體外有效幅員ヲ存シ軌道ヲ其ノ一方ニ偏シテ敷設スルコトヲ得

道路ノ種別		車道歩道ノ區別ナキ道路 兩側人家連檐又ハ連檐スヘキ場所	其ノ他ノ場所
國道 主要ナル府縣道及市道 特ニ主要ナル町村道	一側	四米五五以上	二米七三以上
	他ノ一側	二米七三以上	一米二八以上
府縣道	一側	四米五五以上	三米六四以上
	他ノ一側	一米二八以上	〇米九一以上
市町村道		三米六四以上	一米八二以上

第十條　本線路ニ於テハ竝行セル兩軌道中心間ノ間隔ハ車輛ノ最大幅員ニ四百粍ヲ加ヘタルモノヨリ小ナルコトヲ得ス

本線路ニ於テハ車輛ト中央柱其ノ他ノ工作物トノ間隔ハ二百三十粍ヨリ小ナルコトヲ得ス

本線路ノ曲線ニ於テハ前二項ニ規定スル間隔ハ之ニ兩車輛ノ偏倚スル寸法ヲ加ヘタルモノヨリ小ナルコトヲ得ス

第十一條　併用軌道ニ於テハ軌條間ノ全部及左右各六百十粍ハ其ノ軌道ヲ敷設スル道路ノ路面ト同一構造トシ軌條面ト道路面ト高低ナカラシムヘシ

第三節　電車柱、排水設備及地下工作物ニ對スル防備

第十二條　道路ニ建設スル電車柱ハ特別ノ事由アル場合ヲ除ク側柱式ト爲スヘシ

側柱ハ車道歩道ノ區別アル箇所ニ於テハ歩道ノ車道側ニ之ヲ建設スヘシ

中央柱式ニ依ル電車柱ニハ點燈ノ設備ヲ爲スヘシ

第十三條　併用軌道ニ於テハ排水ノ設備ヲ爲スヘシ

第十四條　軌道ヲ地下工作物ト交叉又ハ接近シテ敷設スル爲其ノ工作物ヲ防護スル必要アルトキハ適當ノ設備ヲ爲スヘシ

軌道ハ人孔、制水瓣等ノ操業ニ障碍ヲ與ヘサル適當ノ距離ヲ存シ之ヲ敷設スヘシ

第四節　曲線及勾配

第十五條　本線路ノ曲線半徑ハ十一米ヨリ小ナルコトヲ得ス

第十六條　本線路ノ勾配ハ千分ノ四十ヨリ急ナルコトヲ得ス但シ特殊ノ箇所ニ於テハ千分ノ六十七迄ト爲スコトヲ得

停留場ニ於ケル本線路ノ勾配ハ千分ノ十ヨリ急ナルコトヲ得ス

第五節　軌道及橋梁

第十七條　軌道及橋梁ノ各部ハ動荷重ニ耐フル負擔力ヲ有スルコトヲ要ス

併用軌道ニ於ケル軌道及橋梁ノ構造ハ前項ニ規定スルモノヲ除クノ外街路ニ係ルモノハ街路構造令、其ノ他ノ道路ニ係ルモノハ道路構造令ノ規定ニ依ルコトヲ要ス

第十八條　新設軌道ノ橋梁ニシテ交通頻繁ナル道路上又ハ水面上ニ架設スルモノニ在リテハ物件ノ墜落ヲ防ク爲車輛ノ全幅員及其ノ兩側各三百粍以上之ヲ蓋フコトヲ要ス

第六節　踏切道

第十九條　軌道ト道路トノ平面交叉ノ交角ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外國道、府縣道及主要ナル市道町村道ニ在リテハ四十五度以上其ノ他ニ在リテハ三十度以上ト爲スヘシ

第二十條　踏切道ハ軌條間ノ全部及其ノ左右各六百十粍ニ木石其ノ他適當ナル材料ヲ敷キ軌條面ト道路面ト高低ナカラシムヘシ

新設軌道ノ踏切道ニハ通行人ノ注意ヲ惹クヘキ警標ヲ設ケ交通頻繁ナル箇所ニハ門扉其ノ他相當ノ保安設備ヲ爲スヘシ

第七節　保安裝置

第二十一條　線路カ本線路ヨリ分岐シ又ハ本線路カ鐵道、軌道ト平面交叉ヲ爲ス箇所ニハ相當ノ保安裝置ヲ爲スヘシ新設軌道ノ停留場ニ於テ車輛ノ行違ヲ爲スモノニ付亦同シ

第三章　車輛

第一節　裝置

第二十二條　車輛ニハ適當ナル制動機ヲ裝置スヘシ但シ貨車ニ在リテハ特別ノ事由アル場合ニ限リ之ヲ省略スルコトヲ得

動力車ニハ手用制動機ヲ裝置スヘシ但シ特殊ノ軌道ニ使用スルモノニ在リテハ手用制動機及動力制動機ヲ備フヘシ

第二十三條　車輛ニハ救助器、擔彈機、音響器及乘務員間ノ合圖器ヲ裝置スヘシ但シ人力又ハ馬力ヲ動力トスル車輛及新設軌道ノミヲ運轉スル車輛ニ在リテハ救助器ヲ裝置スルコトヲ要セス

客車ニハ前項ニ規定スルモノノ外乘降用把手及車窓保護棒ヲ裝置スヘシ二車以上連結スル車輛ニハ彈性ノ緩衝器及聯結器ヲ裝置スヘシ

第二十四條　客車内ニハ點燈ノ設備ヲ爲スヘシ但シ瓦斯燈又ハ電燈ナル

トキハ豫備燈ノ設備ヲ爲スヘシ

第二節　車輪

第二十五條　車輪輪鐵ノ幅ハ左ノ寸法ニ依ルヘシ

一　軌間一米〇六七及一米四三五ノモノニ在リテハ百五粍以上百三十粍以下

二　軌間七百六十二粍ノモノニ在リテハ八十五粍以上百十五粍以下

三　主トシテ溝軌條ヲ使用スル線路ニ在リテハ七十五粍以上百十五粍以下

第二十六條　車輪輪緣ノ高ハ輪鐵中央ノ踏面ヨリ測リ常ニ左ノ寸法ヲ保タシムヘシ

一　軌間一米〇六七及一米四三五ノモノニ在リテハ十二粍以上三十六粍以下

二　軌間七百六十二粍ノモノニ在リテハ十九粍以上三十粍以下

三　主トシテ溝軌條ヲ使用スル線路ニ在リテハ十三粍以上二十五粍以下

輪緣ノ厚ハ輪鐵中央ノ踏面ヨリ十粍下位ニ於テ測リ常ニ左ノ寸法ヲ保タシムヘシ

一　軌間一米〇六七及一米四三五ノモノニ在リテハ十六粍以上

二　軌間七百六十二粍ノモノニ在リテハ十三粍以上

三　主トシテ溝軌條ヲ使用スル線路ニ在リテハ十粍以上

第三節　機關車及電車

第二十七條　蒸汽機關車ニハ左ノ裝置ヲ爲スヘシ

一　給水器、驗水器、安全彈各二箇ヲ備フルコト

二　可鎖栓、實用最高汽壓ヲ特記シタル驗壓器各一箇ヲ備フルコト

三　煙室ニハ火粉止ヲ灰箱ニハ灰燼止ヲ備フルコト

四　火室側控ニ知ラセ孔ヲ設クルコト

第二十八條　電氣機關車及電車ニハ左ノ裝置ヲ爲スヘシ

一　自動遮斷器ヲ備フルコト

二　特別ノ場合ヲ除クノ外前後ニ制御器ヲ備フルコト

三　架空線式ノ場合ニ在リテハ避雷器ヲ備フルコト

第四節　客車及汽動車

第二十九條　客車内ノ面積ハ乘客定員一人ニ付平均零平方米二八ヨリ小ナルコトヲ得ス但シ起立乘客ニ對スル相當ノ設備アル場合ニ限リ之ヲ零平方米一八迄縮小スルコトヲ得

第三十條　客車ノ乘降踏段ノ蹴上ハ三百八十粍以内、有效蹴込ハ二百十五粍以上タルコトヲ要ス

第三十一條　客車ノ出入口ノ戸ハ有效開キ五百五十粍以上タルコトヲ要ス乘降臺ノ有效長ニ付亦同シ

第三十二條　汽動車ニハ蒸汽機關車及客車ニ關スル規定ヲ準用ス

第四章　雜則

第三十三條　第五條、第六條、第十條、第二十條第二項、第二十一條、第二十五條、第二十六條及第二十九條乃至第三十一條ノ規定ハ人力又ハ馬力ヲ動力トスル軌道ニ之ヲ適用セス

第三十四條　地方鐵道建設規程第十七條、第二十八條、第三十三條及第三十五條ノ規定ハ軌道ニ第五條、第六條、第十六條、第二十條、第二十九條及第三十條ノ規定ハ新設軌道ニ之ヲ準用ス但シ人力又ハ馬力ヲ

動力トスルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條　特別ノ事由アル場合ニ於テハ内務大臣鐵道大臣ハ本令ニ依ラサル設計ヲ命スルコトヲ得

特別ノ事由アル場合ニ於テハ内務大臣鐵道大臣ノ許可ヲ受ケ前各條ニ規定スル設計ニ依ラサルコトヲ得

附　則

本令ハ大正十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

從來爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本令ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

●軌道運輸規程（大正十二年十二月二十九日　鐵道省令第四號）

沿革　昭和五年二月鐵道省令第一號、一二年六月第二號、一二年四月第四號、一四年八月第一一號、一六年九月第一六號、一七年三月第六號改正

軌道運輸規程左ノ通定ム

軌道運輸規程

第一章　總則

第一條　軌道ノ運輸ハ本令ノ定ムル所ニ依ルヘシ但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ鐵道大臣ノ許可ヲ受ケ本令ニ依ラサルコトヲ得

鐵道大臣ハ軌道ノ狀況ニ依リ本令ニ依ラサル特別ノ運輸ヲ命スルコトヲ得

第二條　運貨、料金其ノ他ノ運送條件ハ公告ヲ爲シタル後ニ非サレハ之ヲ實施スルコトヲ得ス

運賃、料金其ノ他ノ運送條件ノ加重ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ前項ノ公告ハ二週間以上之ヲ爲スコトヲ要ス

第三條　軌道ハ見易キ場所ニ客車ノ運轉時刻表又ハ運轉系統、運賃表及料金表ヲ掲示スヘシ

第四條　戰時又ハ事變ニ際シ運送上ノ必要アル場合ニ於テハ軌道ハ豫メ鐵道大臣ノ認可ヲ受ケ前條及第六條第一項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第五條　鐵道營業法第六條及第十四條、鐵道運輸規程第二條ノ規定ハ軌道ノ運輸ニ付之ヲ準用ス

第二章　旅客運送

第六條　軌道ハ旅客ノ同伴スル六年未滿ノ小兒ヲ旅客一人ニ付少ク共一人迄無賃ヲ以テ之ヲ運送スベシ

割引乘車券ヲ以テ乘車スル旅客又ハ乘車位置ノ指定ヲ爲ス車輛ニ乘車シ特ニ小兒ノ爲其ノ座席ヲ請求スル旅客ニ付テハ軌道ハ鐵道大臣ノ認可ヲ受ケ前項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

軌道ハ十二年未滿ノ小兒ヲ第一項ノ規定ニ依リ無賃ヲ以テ運送スルモノヲ除キ大人ノ運賃ノ半額ヲ以テ運送スベシ但シ主トシテ市街地内ノ運輸ヲ目的トスル軌道及均一運賃制ヲ採ル軌道ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依ル運賃ニ十錢未滿ノ端數アルトキハ軌道ノ定ムル所ニ依リ切上ゲ計算ヲ爲スコトヲ得

第七條　旅客ハ市街地ヲ運轉スル客車内ニ於テハ喫煙ヲ爲スヘカラス軌道カ指定スル客車内亦同シ

第八條　旅客ハ軌道係員ヨリ乘車券ノ檢査及取集ヲ求メラレタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

無效ノ乘車券ヲ以テ乘車シ又ハ乘車券ノ檢査ヲ拒ミ若ハ取集ノ際之ヲ渡サザル者ニ對シ軌道ハ相當運賃及其ノ二倍以内ノ增運賃ヲ請求スルコトヲ得

第九條　（削除）

第十條　鐵道運輸規程第十一條及第二十三條乃至第二十五條ノ規定ハ軌道ノ旅客運送ニ付之ヲ準用ス

第三章　荷物運送

第十一條　長尺物、重量品、濶大品、危害ヲ他ニ及ホス虞アル物品、臭氣ヲ發シ若ハ不潔ナル物品ハ旅客ト同一車輛ヲ以テ之ヲ運送スルコトヲ得ス

第十二條　軌道ハ火藥類其ノ他爆發質危險品ヲ運送スルコトヲ得ス

第十三條　死體ヲ託送セムトスル者ハ死亡證書ヲ呈示シ其ノ寫ヲ提出ス

ヘシ

死體ノ運送ニハ託送人ニ於テ附添人ヲ附シ之カ積卸ヲ爲サシムヘシ

第十四條　犬其ノ他ノ小動物ハ逸出ノ虞ナキ容器ニ容ルルニ非サレハ之ヲ託送スルコトヲ得ス

第十五條　運送狀ノ交付ヲ請求セサル荷物ノ到達後六時間內ニ引取ラサルトキハ保管料ヲ請求スルコトヲ得

第十六條　鐵道營業法第七條乃至第十條、第十三條乃至第十三條ノ三、鐵道運輸規程第五條、第二十六條乃至第二十八條、第三十二條乃至第三十五條、第四十七條、第五十條乃至第五十二條、第五十四條、第五十七條、第五十九條乃至第六十二條、第六十六條第二項第三項、第六十八條、第七十條、第七十一條、第七十五條及第七十六條並ニ明治四十三年閣令第十一號ノ規程ハ軌道ノ荷物運送ニ付之ヲ準用ス但シ鐵道營業法第十三條中引渡期間滿了後トアルハ人力、馬力ノミヲ以テ動力ト爲ス軌道ニ付テハ引渡ヲ爲スベカリシ日後トス

鐵道營業法第十一條乃至第十二條、鐵道運輸規程第二十九條乃至第三十一條、第五十六條、第七十三條、第七十四條及第七十八條乃至第八十條ノ規定ハ蒸氣、電氣、瓦斯倫ヲ以テ動力ト爲ス軌道ノ荷物運送ニ付之ヲ準用ス

鐵道營業法第十一條及第十一條ノ二、鐵道運輸規程第二十九條、第三十條及第七十三條ノ規定ハ人力、馬力ノミヲ以テ動力ト爲ス軌道ノ託送手荷物及動物運送ニ付之ヲ準用ス

第四章　罰則

第十七條　運送品ノ種類及性質ヲ詐稱シタル者ハ科料ニ處ス

第十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　火藥類其ノ他爆發質危險品ノ種類及性質ヲ詐稱シタル者

二　火藥類其ノ他危害ヲ他ニ及ホス虞アル物品ヲ客車內ニ持込ミタル者但シ少量ノ銃用火藥類及緩燃導火線ヲ携帶スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條　軌道係員ノ制止ニ反シ左ノ所爲ヲ爲シタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　客車ノ乘降口以外ヨリ乘降シタルトキ

二　旅客ノ乘用ニ供セサル場所ニ乘車シタルトキ

三　喫煙禁止ノ車內ニ於テ喫煙シタルトキ

第二十條　軌道係員ノ許諾ヲ受ケスシテ新設軌道內ニ立入リタル者ハ科料ニ處ス踏切番人ノ制止ニ反シ踏切道ニ立入リタル者亦同シ

第二十一條　前二條ノ罪ヲ犯シ又ハ車內ニ於テ秩序ヲ紊ルモノアルトキハ軌道係員ハ之ヲ車外又ハ軌道地外ニ退去セシムルコトヲ得

第二十二條　軌道係員職務取扱中旅客若ハ公衆ニ對シ失行アリタルトキハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ大正十三年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

從來爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本令中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本令ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

●軌道運轉信號保安規程

（大正十二年十二月二十九日　鐵道省令第五號）

沿革　昭和五年六月鐵道省令第六號、九年一二月第三號改正

軌道運轉信號保安規程左ノ通定ム

第一章　總則

第一條　軌道ノ運轉、信號及保安ハ本令ノ定ムル所ニ依ルヘシ但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ鐵道大臣ノ許可ヲ受ケ本令ニ依ラサルコトヲ得

鐵道大臣ハ軌道ノ狀況ニ依リ本令ニ依ラサル特別ノ運轉、信號及保安ヲ命スルコトヲ得

第二條　第四條、第五條、第十九條、第二十一條、第三章及第四章ノ規定ハ人力及馬力ヲ動力トスル軌道ニハ之ヲ適用セス

第二章　運轉

第一節　線路

第三條　線路ハ車輛ヲ安全且正確ニ運轉スルコトヲ得ヘキ狀態ニ之ヲ保持スルコトヲ要ス

第四條　本線路ニ於ケル轉轍器ノ取柄ハ車輛ノ對向通過ノ際之ヲ支持スヘシ但シ鎖錠其ノ他ノ安全裝置ヲ爲シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五條　新設軌道ニ於ケル交通頻繁ニシテ遠方ヨリ展望スルコト能ハサル踏切道其ノ他必要ナル踏切道ニハ車輛運轉中番人ヲ置キ之ヲ看守セシムヘシ但シ夜間交通稀ナル際ハ此ノ限ニ在ラス

第二節　車輛

第六條　車輛ハ安全ニ運轉スルコトヲ得ヘキモノノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス

第七條　製作又ハ購入シタル車輛、重要ナル改造又ハ修繕ヲ爲シタル車輛及六月以上使用ヲ停止シタル車輛ハ其ノ各部ノ檢査ヲ爲シタル後ニ

非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第八條　蒸氣機關車及汽動車ニ付テハ左ノ定期檢査ヲ行フヘシ

一　使用ノ狀況ニ依リ三年ヲ超エサル期間每ニ重要ナル部分ヲ取外シテ各部ノ檢査及汽罐ノ試驗ヲ行ヒ試運轉ヲ爲スコト

二　六月ヲ超エサル期間每ニ汽筩及汽櫃ノ內部、蒸氣管、放汽管、節汽弁、安全弁及檢壓器ノ檢査ヲ爲スコト

三　每月少クトモ一回火室內部、可鎔栓、火粉止器、檢水器、給水器及制動機ノ檢査ヲ爲スコト

前項ノ規定ハ瓦斯機關車及瓦斯動車ノ定期檢査ニ付之ヲ準用ス

第九條　電氣機關車及電車ニ付テハ左ノ定期檢査ヲ行フヘシ

一　使用ノ狀況ニ依リ三年ヲ超エサル期間每ニ重要ナル部分ヲ取外シテ各部ノ檢査及電動機ノ絕緣耐力試驗ヲ行ヒ試運轉ヲ爲スコト

二　一年ヲ超エサル期間每ニ電動機、制御裝置、集電裝置、開閉器、自働遮斷器、避雷器、布設電線、接續電纜及各種計器ノ檢査ヲ爲スコト

三　每月少クトモ一回電路ト大地トノ間ノ絕緣抵抗ノ試驗ヲ行ヒ制動機ノ檢査ヲ爲スコト

第十條　客車及貨車ニ付テハ使用ノ狀況ニ依リ客車ニ在リテハ一年半、貨車ニ在リテハ三年ヲ超エサル期間每ニ重要ナル部分ヲ取外シテ定期檢査ヲ行ヒ試運轉ヲ爲スヘシ

第十一條　第七條乃至第十條ノ規定ニ依リ施行シタル檢査及試驗ノ年月日及成績ハ之ヲ帳簿ニ記錄スヘシ

第十二條　車輛ハ使用ノ狀況ニ依リ每日少クトモ一回其ノ要部ヲ點檢スヘシ

第十三條　車輛ニハ左ノ事項ヲ標記スヘシ

一　所屬軌道ノ名稱又ハ徽章

二　番號

三　製造ノ年

四　等級、旅客定員、荷重及自重

五　第八條第一項第一號、第九條第一號及第十條ノ規定ニ依リ施行シタル最近檢査ノ年月

第三節　車輛運轉

第十四條　併用軌道ニ於テハ車輛ヲ聯結シテ運轉スルコトヲ得ス但シ機關車ニ客車又ハ貨車一輛ヲ聯結スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　動力車ノ停止中機關手又ハ運轉手其ノ位置ヲ離ルルトキハ制動機ヲ緊締シ其ノ他自動防止ノ手段ヲ爲シ置クヘシ

第十六條　客車ニハ外側見易キ場所ニ其ノ行先ヲ明示スヘシ

客車内ニハ夜間點燈スヘシ晝間ニ於テ隧道通過ニ二分時以上ヲ要スルトキ亦同シ

第十七條　車輛ハ停留場内ノ運轉其ノ他特別ノ場合ヲ除クノ外左方ノ線路ヲ進行スヘシ

第十八條　併用軌道ニ於ケル車輛ノ運轉速度ハ動力制動機ヲ裝置セル車輛ニ在リテハ一時間平均二十五粁、最高三十五粁其ノ他ノ車輛ニ在リテハ平均十六粁、最高二十四粁ヲ超ユルコトヲ得ス

第十九條　車輛ヲ聯結シテ運轉スル場合ニ於テハ線路ノ勾配千分ノ十ヨリ急ニシテ其ノ延長四百米以上連續スル區間アルトキハ最後部ニ手用制動機ノ裝置アル車輛ヲ聯結スヘシ但シ最後部ノ車輛カ貨車ニシテ之ニ隣接スル車輛ニ手用制動機ノ裝置アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十條　車輛ニハ夜間左ノ標識ヲ掲クヘシ晝間ニ於テ隧道通過ニ二分時以上ヲ要スルトキ亦同シ

一　車輛ノ平均運轉速度一時間十六粁ヲ超ユル場合

前部ニ白色燈後部ニ赤色燈　各一箇

二　前號以外ノ場合

前部ニ白色燈　一箇

第二十一條　車輛ノ運轉保安ヲ施行セサル單線ニ於テ同一方向ニ二箇以上ノ車輛ヲ引續キ運轉スルトキハ必要ニ應シ最後發以外ノ車輛ニハ其ノ前部ニ左ノ標識ヲ掲クヘシ

晝間　赤色圓板　一箇

夜間　赤色燈　一箇

第三章　信號

第一節　通則

第二十二條　天候ノ狀況ニ因リ相當距離ヨリ晝間ノ信號現示ヲ認識シ難キトキハ夜間ノ現示法式ニ依ルヘシ隧道内ニ於テ現示スル信號亦同シ

第二十三條　信號ヲ現示スヘキ場所ニ所定ノ信號ノ現示ナキトキハ停止信號ト看做スヘシ

第二十四條　信號ハ二箇以上ノ線路又ハ二種以上ノ目的ニ之ヲ兼用スルコトヲ得ス

第二節　信號機

第一款　常置信號機

第二十五條　常置信號機ハ柱上ニ裝置セル腕又ハ燈ヲ以テ車輛ニ對シ運轉ノ條件ヲ指示スルモノニシテ其ノ種類左ノ如シ

一　場内信號機　停留場ニ進入セムトスル車輛ニ對シ其ノ進入ノ可否ヲ表示ス

二　出發信號機　停留場ヨリ進行セムトスル車輛ニ對シ其ノ進行ノ可否ヲ表示ス

前項以外ノ常置信號機ヲ設ケムトスルトキハ其ノ信號ノ現示法式ヲ定メ鐵道大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十六條　同一柱上ニ同一種類ノ信號二箇以上ヲ設クルトキハ最上位ニアルモノハ最左側ノ線路ニ屬シ以下順次右方ノ線路ニ屬ス

第二十七條　場内信號機及出發信號機ハ停止信號ヲ現示スルヲ定位トス

第二十八條　場内信號機及出發信號機ハ向テ之ヲ視ルトキ左ノ法式ニ依リ信號ヲ現示ス

停止信號

晝間　左腕ノ位置水平又ハ赤色燈

夜間　赤色燈

進行信號

晝間　左腕ノ位置下向四十五度又ハ綠色燈

夜間　綠色燈

第二十九條　場内信號機及出發信號機ノ腕ハ長方形トシ其ノ表面ヲ赤色、背面ヲ白色トシ腕端ニ近ク之ト竝行シテ表面ニ白色線、背面ニ黑色線ヲ畫ス

第二款　閉塞信號機

第三十條　閉塞信號機ハ複線ニ於ケル閉塞區間ノ始點ニ之ヲ設置シ柱上ニ裝置シタル腕又ハ燈ヲ以テ閉塞區間ニ進入セムトスル車輛ニ對シ運轉ノ條件ヲ指示ス

第三十一條　閉塞信號機ハ車輛カ閉塞區間ニ進入シタルトキハ自働作用ニ依リ停止信號ヲ現示シ車輛カ閉塞區間ヲ通過シタルトキハ閉塞區間ノ終點トノ關聯動作ニ依リ進行信號又ハ注意信號ヲ現示スル裝置タルヘシ

第三十二條　閉塞信號機ハ進行信號ヲ現示スルヲ定位トシ車輛カ閉塞區間ニ在ル間ハ停止信號ヲ現示ス

第三十三條　閉塞信號機ハ向テ之ヲ視ルトキ左ノ法式ニ依リ信號ヲ現示ス

一　三位式

停止信號

晝間　左腕ノ位置水平又ハ赤色燈

夜間　赤色燈

進行信號

晝間　左腕ノ位置上向九十度又ハ綠色燈

夜間　綠色燈

注意信號

晝間　左腕ノ位置上向四十五度又ハ橙黃色燈

夜間　橙黃色燈

二　二位式

停止信號

晝間　左腕ノ位置水平又ハ赤色燈

夜間　赤色燈

通行信號

晝間　左腕ノ位置下向四十五度又ハ綠色燈

夜間　綠色燈

第三十四條　閉塞信號機ノ腕端ハ尖形トシ腕ハ表面ヲ赤色、背面ヲ白色トシ腕端ニ近ク之ト並行シテ表面ニ白色線、背面ニ黑色線ヲ畫ス

第三十五條　車輛カ自働閉塞信號機ノ停止信號ノ現示ニ依リ停止スル場合ニ於テ三分時ヲ經過スルモ進行信號又ハ注意信號ノ現示ナキトキハ一時間十粁ヲ超エサル速度ヲ以テ前途支障ナキ箇所迄進行スルコトヲ得

第三十六條　閉塞信號機不良ノ場合ニ於テ車輛ヲ進行セシメムトスルトキハ其ノ平均運轉速度ヲ一時間十六粁以下ニ制限シ前途支障ナキ箇所迄運轉セシムルコトヲ得

第三節　手信號

第三十七條　手信號ハ信號機ナキ場合又ハ之ヲ用フルコト能ハサル場合ニ於テ使用スルモノニシテ左ノ方式ニ依リ信號ヲ現示ス

停止信號

晝間　赤色旗ヲ提示ス但シ已ムコトヲ得サル場合ニハ兩腕ヲ高ク擧ケ又ハ綠色旗以外ノ任意ノ物體ヲ急激ニ振リ廻シテ之ニ代フルコトヲ得

夜間　赤色燈ヲ提示ス但シ已ムコトヲ得サル場合ニハ綠色燈以外ノ任意ノ燈ヲ急激ニ振リ廻シテ之ニ代フルコトヲ得

進行信號

晝間　綠色旗ヲ提示ス但シ已ムコトヲ得サル場合ニハ片腕ヲ高ク擧ケテ之ニ代フルコトヲ得

夜間　綠色燈ヲ提示ス

徐行信號

晝間　橙黃色旗ヲ提示ス但シ已ムコトヲ得サル場合ニハ頭上ニ高ク赤色旗及綠色旗ヲ交叉シテ之ニ代フルコトヲ得

夜間　橙黃色燈ヲ提示ス但シ已ムコトヲ得サル場合ニハ綠色燈ヲ明滅シテ之ニ代フルコトヲ得

第四節　發雷信號

第三十八條　發雷信號ハ雷管ノ爆音ニ依リ停止信號ヲ現示ス

第三十九條　雷管ハ相當ノ距離ヲ隔テ二箇以上ヲ軌條ニ裝置スヘシ但シ併用軌道ニ於テハ之カ裝置ヲ爲スヘカラス

第四章　保安

第一節　通則

第四十條　車輛ノ運轉保安ハ閉塞信號機ヲ設置スル區間ヲ除クノ外通票式又ハ票券ニ依ルヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ指導法ニ依ルコトヲ得

一　一時線路ヲ中斷シ又ハ複線ニ於テ一線ヲ閉塞シタルトキ

二　通票ノ破損又ハ喪失シタルトキ

第四十一條　左ノ場合ニ於テハ車輛ノ運轉保安ヲ施行セサルコトヲ得

一　全線ヲ通シ二箇以上ノ車輛ヲ運轉セサルトキ

二　車輛ノ平均運轉速度一時間十六粁ヲ超エサルトキ

第四十二條　軌道經營者ハ車輛ノ運轉保安ノ法式又ハ車輛ノ運轉保安ヲ施行セサル理由ヲ具シ鐵道大臣及地方長官ニ之ヲ屆出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第二節　通票式

第四十三條　車輛ハ當該閉塞區間ノ通票ヲ携帶スルニ非サレハ其ノ區間ヲ運轉スルコトヲ得ス

第四十四條　通票式ヲ施行スル區間ニハ通票ヲ備フヘシ

通票ハ一閉塞區間一箇トス

第四十五條　通票ニハ當該閉塞區間ノ兩端ノ停留場名ヲ記スヘシ

隣接閉塞區間ノ通票ハ其ノ形狀ヲ異ニスヘシ

第三節　票券式

第四十六條　票券式ハ線路ノ標準勾配千分ノ二十ヨリ緩ナル區間ニ限リ之ヲ施行スルコトヲ得

地方鐵道運轉信號保安規程第二十一條第二項第一號ノ規定ハ前項ノ標準勾配ニ付之ヲ準用ス

第四十七條　車輛ハ當該保安區間ノ通票又ハ通券ヲ携帶スルニ非サレハ其ノ區間ヲ運轉スルコトヲ得ス

第四十八條　票券式ヲ施行スル區間ニハ通票及通券ヲ備フヘシ

通票ハ一保安區間一箇トス

通券ハ各保安區間ノ兩端ノ停留場ニ之ヲ備フヘシ

第四十九條　通票ニハ當該保安區間ノ兩端ノ停留場名ヲ記スヘシ

隣接保安區間ノ通票ハ其ノ形狀ヲ異ニスヘシ

第五十條　通券ニハ當該保安區間ノ兩端ノ停留場名ヲ記スヘシ

隣接保安區間ノ通券ハ其ノ色ヲ異ニスヘシ

第五十一條　通券ハ當該保安區間ノ通票ヲ以テスルニ非サレハ開クコトヲ得サル通券函ニ之ヲ保管スヘシ

通券ハ車輛ニ授與スルトキニ非サレハ通券函ヨリ之ヲ取出スコトヲ得ス

第五十二條　通券ハ同一保安區間ニ二箇以上ノ車輛ヲ同一方向ニ運轉スル場合ニ於テ先發車輛ニ限リ之ヲ使用スヘシ

續行車輛ハ先發車輛ノ出發後五分時ヲ經過スルニ非サレハ之ヲ出發セシムルコトヲ得ス

第五十三條　通券ヲ携帶スル車輛ハ退行スルコトヲ得ス

第五十四條　車輛ノ乘務員ハ當該保安區間ノ通票ヲ確認スルニ非サレハ通券ヲ受領スルコトヲ得ス

第四節　指導法

第五十五條　車輛ハ指導者乘込ムカ又ハ指導券ヲ携帶スルニ非サレハ指導法ヲ施行スル區間ヲ運轉スルコトヲ得ス

第五十六條　指導者ハ一區間一人トシ赤色ノ腕章ヲ附スヘシ

第五十七條　指導者ノ氏名及擔當區間ハ指導者ノ乘込前之ヲ關係係員ニ告知スヘシ

第五十八條　指導者ハ指導券ヲ發行スルコトヲ得但シ通票式ヲ施行スル區間ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第五十九條　車輛ノ乘務員ハ指導者ヨリ直接指導券ノ交付ヲ受クルニ非サレハ之ヲ受領スルコトヲ得ス

第六十條　指導法ヲ廢止セムトスル場合ニ於テハ指導法ニ依リ最終ニ運轉スル車輛ニハ指導者ヲ乘込マシメ且廢止後ニ施行スル保安法式ヲ併用スヘシ

前項ノ場合ヲ除クノ外指導法ト他ノ保安法式トヲ併用スルコトヲ得ス

第六十一條　第五十條、第五十二條及第五十三條ノ規定ハ指導券ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正十三年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

從來爲シタル處分又ハ手續其ノ他ノ行爲ハ本令中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本令ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

●軌道係員規程（大正十二年十二月二十九日 鐵道省令第六號）

【沿革】昭和十四年八月省令第六號改正

軌道係員規程左ノ通定ム

軌道係員規程

第一條　軌道係員ノ職制ニ付テハ本令ニ特別ノ定メアル場合ノ外地方鐵道係員職制ヲ準用ス但シ鐵道大臣トアルハ地方長官トス

第二條　軌道經營者ハ機關手、運轉手及車掌ノ採用ニ關スル規程ヲ定メ鐵道大臣及地方長官ニ之ヲ屆出ツヘシ

第三條　旅客及公衆ニ對シ職務ヲ行フ軌道係員ハ一定ノ制服ヲ著クヘシ

第四條　軌道係員ハ職務上ノ義務ニ違背シ若ハ職務ヲ怠リ又ハ矢行アリタルトキハ懲戒ヲ受ク

軌道經營者ハ懲戒ニ關スル規程ヲ定メ地方長官ニ之ヲ屆出ツヘシ

本條ノ規定ハ公共團體ノ軌道ニハ之ヲ適用セス

第五條　前各條ノ規定ハ人力及馬力ヲ動力トスル軌道ニハ之ヲ適用セス

附　則

本令ハ大正十三年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

從來爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本令中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本令ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

●軌道會計規程（大正十二年十二月二十九日 鐵道省令第七號）

【沿革】昭和四年十二月省令第五號、同十四年八月同第一〇號改正

軌道會計規程左ノ通定ム

軌道會計規程

軌道ノ會計ニ付テハ地方鐵道會計規程ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正十三年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

●軌道運賃割引規程（昭和十年五月二十三日 鐵道省令第二號）

軌道運賃割引規程左ノ通定ム

軌道運賃割引規程

軌道運賃ノ割引ニ付テハ地方鐵道運賃割引規程ヲ準用ス

附　則

本令ハ昭和十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

軌道經營者ガ現ニ監督官廳ノ認可ヲ受ケ施行中ノ運賃割引準則ハ本令施行ノ日ヨリ之ガ適用ヲ爲スコトヲ得ズ

●軌道法第一條第二項ノ規定ニ依ル一般交通ノ用ニ供セサル軌道ニ關スル件（大正十二年十二月二十九日 內務省令第四十五號）

【沿革】昭和十五年四月省令第一〇號改正

軌道法第一條第二項ノ規定ニ依ル一般交通ノ用ニ供セサル軌道ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　一般交通ノ用ニ供セサル軌道ヲ道路ニ敷設セムトスル者ハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第二條　明治四十三年內務省令第二十七號第一條乃至第五條ノ規定ハ前條ノ許可申請ニ之ヲ準用ス

許可申請書ニハ運轉及信號ニ關スル方法ヲ記載スヘシ

第三條　地方長官第一條ノ許可ヲ爲サムトスルトキハ軌道ノ敷設ニ關シ關係道路管理者ノ意見ヲ徵スヘシ

第四條　大正八年閣令第十九號專用鐵道規程第三條、第四條、第七條乃至第十條ノ規定ハ本令ニ規定スル軌道ニ之ヲ準用ス但シ鐵道大臣又ハ所管鐵道局長トアルハ地方長官トス

第五條　軌道法第十二條、第十八條、第十九條及第二十四條ノ規定ハ本令ニ規定スル軌道ニ之ヲ準用ス但シ主務大臣トアルハ地方長官トス

第六條　許可ヲ受ケタル者カ法令若ハ法令ニ基キテ爲ス命令又ハ許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ地方長官ハ許可ノ全部又ハ一部ヲ取消スコトヲ得

第七條　許可ヲ得スシテ本令ニ規定スル軌道ヲ敷設シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本令ハ大正十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令ニ規定スル軌道ニシテ本令施行ノ際現ニ存スルモノハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス但シ地方長官ハ本令施行ノ日ヨリ三月內ニ六月ヲ下ラサル期間ヲ指定シ其ノ期間經過後許可ノ效力ヲ失フヘキ旨ヲ告示スルコトヲ得

●軌道法第二十五條ノ規定ニ依ル職權委任ニ關スル件（大正十二年十二月二十九日 內務省令）

【沿革】昭和四年十二月內務省令、同五年六月同、同十五年三月同第二號改正

軌道法第二十五條ノ規定ニ依ル職權委任ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　人力又ハ馬力ヲ動力トスル軌道ニ關スル事項ニシテ左ニ揭クルモノハ之ヲ地方長官ニ委任ス

一　工事施行及工事方法ノ變更

二　運賃並料金ノ制定及其ノ變更

三　運轉速度及度數ノ制定及其ノ變更

前項第一號ノ規定ニ依リ處分ヲ爲シタルトキハ線路實測圖並動力、軌間、單線複線等ノ別ヲ具シ內務大臣及鐵道大臣ニ、第二號ノ規定ニ依リ處分ヲ爲シタルトキハ書類並運賃、料金ヲ具シ其ノ處分ノ月日ヲ鐵道大臣ニ報告スヘシ

第二條　人力又ハ馬力ヲ動力トセサル軌道ニ關スル事項ニシテ左ニ揭クルモノハ之ヲ地方長官ニ委任ス

一　認可ヲ受ケタル工事方法ノ變更ニシテ左ニ該當スルモノ

イ　道路上ニ於ケル軌道中心線ノ變更ニシテ一米以內ナルトキ

ロ　道路上ニ於ケル軌道面高低ノ變更ニシテ六十糎以內ナルトキ

ハ　道路上ニ於ケル曲線半徑ヲ長カラシムルトキ若ハ三十米迄短縮スルトキ

ニ　道路上ニ於ケル勾配ヲ緩ナラシムルトキ又ハ千分ノ三十三迄急ナラシムルトキ
ホ　道床ニ關スル工事
ヘ　軌道ノ排水設備ニ關スル工事
ト　枕木ノ寸法ヲ增大シ又ハ枕木敷設間隔ヲ縮小スル工事
チ　軌條（附屬品ヲ含ム）重量ノ增加
リ　渉線ニ關スル工事（既認可ノ轉轍器又ハ轍叉ト異ルモノヲ使用スル場合ヲ除ク）
ヌ　既認可ト同一設計ノ轉轍器又ハ轍叉ヲ使用スル引込線、側線（避離線及道路上ニ於ケル貨物側線ヲ除ク）及待避線ニ關スル工事
ル　踏切道ノ改良ニ關スル工事
ヲ　認可ヲ得タル設計ト同一設計ニ依ル橋梁又ハ溝橋ニ關スル工事
ワ　停留場ニ於ケル建造物ニ關スル工事（保安設備ヲ除ク）
カ　併用軌道ニ於ケル停留場ノ新設、名稱、位置及配線ノ變更（既認可ノ轉轍器又ハ轍叉ト異ルモノヲ使用スル場合ヲ除ク）
ヨ　使用期間六箇月ヲ超エサル假線敷設ニ關スル工事
タ　假線使用期限ノ伸長
レ　車庫ニ關スル工事
ソ　電線路（補助歸線ヲ含ム）ノ亘長及延長ノ增加ニ關スル工事
ツ　饋電方法ノ變更ニ關スル工事
二　運轉速度及度數ノ制定及其ノ變更

前項第一號ノ規定ニ依リ處分ヲ爲シタルトキハ書類及圖面ヲ具シ內務大臣及鐵道大臣ニ、第二號ノ規定ニ依リ處分ヲ爲シタルトキハ運轉速度及度數表ヲ具シ其ノ處分ノ月日ヲ遲滯ナク鐵道大臣ニ報告スヘシ

第三條　人力又ハ馬力ヲ動力トセサル軌道ニ關スル事項ニシテ左ニ揭グルモノハ之ヲ鐵道局長ニ委任ス
一　運賃ノ臨時割引
二　運輸ニ關スル料金ノ變更

前項ノ規定ニ依リ處分ヲ爲シタルトキハ運賃及料金ヲ具シ其ノ處分ノ月日ヲ鐵道大臣ニ報告スヘシ

附　則

本令ハ大正十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和十五年內務鐵道省令第二號）

本令ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前鐵道大臣又ハ地方長官ニ於テ受付ケタル申請書ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

●軌道法第二十五條ノ規定ニ依ル職權委任ニ關スル件第二條第二項ノ規定ニ依ル市指定

（大正十二年十二月二十九日內務省告示第四百四號）

大正十二年內務鐵道省令軌道法第二十五條ノ規定ニ依ル職權委任ニ關スル件第二條第二項ノ規定ニ依リ左ノ市ヲ指定ス

東京市、京都市、大阪市、橫濱市、神戶市、長崎市、名古屋市、仙臺市、金澤市、廣島市、奥市、八幡市、鹿兒島市、札幌市、函館市、小樽市、堺市、尼崎市、新潟市、岡山市、下關市、福岡市、門司市、小倉市、若松市（福岡縣）、熊本市、濱松市、豐橋市、岐阜市、靜岡市、大牟田市

●樺太ニ於ケル軌道法施行ニ關スル件（昭和六年十月三十日拓務省令第四號）

樺太ニ於ケル軌道法施行ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　軌道ノ特許申請書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添附シ申請者又ハ其ノ代理人記名捺印スベシ但シ代理人ニ於テ記名捺印スルトキハ代理權ヲ證スル書面ヲ添附スベシ
一　起業目論見書
二　線路豫測圖
三　建設費概算書（第一號樣式）
四　運輸事業ノ收支概算書（第二號樣式）
五　組合事業ニ在リテハ其ノ組合ニ關スル契約書謄本
六　會社ヲ設立セムトスルモノニ在リテハ定款ノ謄本
七　既設ノ會社ニ在リテハ軌道ノ營業ヲ目的トスルモノヲ除クノ外其ノ登記謄本及定款謄本
八　公共團體ニ在リテハ軌道經營ニ關スル決議書
九　軌道ヲ道路ニ敷設スルコトヲ得ザル場合ニ在リテハ其ノ事由書

前項ノ特許申請書ハ樺太廳長官ヲ經由スベシ

第二條　起業目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ
一　目的（旅客運送、荷物運送ノ別）
二　商號又ハ名稱、主タル事務所ノ設置地
三　軌道事業ニ要スル資金ノ總額及其ノ出資方法
四　線路ノ起終點及併用軌道ノ始終點ノ地名、地番竝其ノ經過町村名
五　軌道ヲ敷設スベキ道路ノ延長、一般幅員及計畫幅員
六　線路ノ延長及單線、複線等ノ別
七　軌間及車輛ノ最大幅員
八　動力（人力、馬力、蒸汽、電氣等ノ別）、電氣ヲ動力トスルモノニシテ自ラ發電設備ヲ有スルモノニ在リテハ原動力ノ種類（火力、水力ノ別）、他ヨリ電力ノ供給ヲ受クルモノニ在リテハ供給者名

第三條　線路豫測圖ハ縮尺二萬五千分一以上ノ平面圖トシ線路ノ經過町村名、地形、一キロメートル每及單線複線等ノ分界點ノキロメートル程竝沿線人家連檐ノ狀況ヲ記シ縮尺、方位ヲ示スベシ

第四條　樺太廳長官特許申請書ヲ受付タルトキハ左ノ事項ニ關スル調査書ヲ添ヘ特許ノ許否ニ關スル意見ヲ附シ之ヲ逃達スベシ
一　申請者ノ資產及信用程度
二　事業ノ成否
三　事業ノ效果
四　他ノ鐵道、軌道、索道又ハ自動車等（未開業ノモノヲ含ム）ニ及ボス影響
五　他ノ鐵道、軌道、索道又ハ自動車等ノ競願アルトキハ其ノ名稱、區間、申請者名及申請書ノ受付年月日

第五條　特許失效シタルトキハ遲滯ナク樺太廳長官ヲ經由シ特許狀ヲ返納スベシ

附　則

本令ハ昭和六年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式

開建設費概算書

延長　キロメートル

軌道

項	數量	單價	金額	摘要
測量及監督費	キロメートル	圓	圓	
用地費	平方メートル			
土工費	立方メートル			
路面費	平方メートル			
橋梁溝橋費	メートル			
隧道費	メートル			
軌道費	キロメートル			
停留場費	箇所			
車輛費	輛			
諸建物費	キロメートル			
通信線路費	キロメートル			
電力線路費	キロメートル			
發電所費	キロワット			
變電所費	キロワット			
●●●●●●●●●●				
總係費	キロメートル			
豫備費				
合計				
一キロメートル當				

備考　用地費、土工費、橋梁溝橋費、隧道費及軌道費＝在リテハ併用軌道及新設軌道＝區別記載スベシ

第二號樣式

運輸事業收支概算表

軌道

軌道區間　動力　メートル　延長　キロメートル

摘要	數量金額割合
旅客	
人キロメートル當	
一キロメートル當	
一日一キロメートル	
荷物	
トンキロメートル當	
一キロメートル當	
一日一キロメートル	
旅客收入	
一キロメートル當	
一日一キロメートル	
荷物收入	
一キロメートル當	
一日一キロメートル	
雜收入	
收入合計	
一日一キロメートル當	
營業費	
一日一キロメートル當	
益金	
建設費ニ對スル益金割合	

●軌道法施行ニ關スル件

（大正十二年十二月二十日）
（内務省通牒發甲第一一號）

今般軌道法施行規則公布相成同規則第十七條第二項、第二十三條及第二十四條第三項ノ規定ニ依ル屆出ノ處理竝同規則第十九條乃至第二十二條ノ規定ニ依ル認可ハ鐵道大臣ノ權限ニ屬セシメラレ候處左記市内ニ敷設スル軌道及其ノ市ニ起點又ハ終點ヲ有スル軌道ニ關シ鐵道大臣カ右處分ヲ爲スニ方リテハ當省大臣ニ合議ノ上決定スルコトニ同省ト協議相整居候條右書類ヲ進達セラルルトキハ同時ニ貴官ノ意見ヲ附シ其ノ副本ヲ當省大臣ニ進達候樣御取扱相成度

記

東京市、京都市、大阪市、横濱市、神戸市、長崎市、名古屋市、仙臺市、金澤市、廣島市、呉市、八幡市、鹿兒島市、札幌市、函館市、小樽市、堺市、尼崎市、新潟市、岡山市、下關市、福岡市、門司市、小倉市、若松市（福岡）、熊本市、濱松市、豐橋市、岐阜市、大牟田市　以上

道廳府縣知事宛

●併用軌道ノ維持ニ關スル件

（大正十年十一月十七日）
（内務省通牒發土第一一七號）

道廳府縣知事宛（宮崎縣鳥根縣ヲ除ク）

軌道ヲ道路上ニ敷設スル場合ハ軌條間ノ全部及其左右ハ木石砂利其他適當ノ材料ヲ以テ塡充シ鐵軌面ト道路面ト高低ナカラシムルコトニ相成居候處當省吏員ノ實地調査スル所ニ依レハ右區間ノ路面損壞スルモ之カ修補ヲ怠ルモノ甚タ多ク或ハ却テ軌條間ノ一般交通ヲ阻止セムカ爲殊更ニ右ノ施設ヲ爲サス軌道カ道路ヲ固定的ニ占用シテ一般交通ヲ阻害スルモノアリ其ノ甚シキニ至リテハ併用軌道部ノ通行ヲ禁止セルモノモ有之右ハ軌道本來ノ性質ニ反シ道路交通上遺憾ニ存候就テハ此際貴管下ニ於ケル軌道ノ施設ヲ御監査ノ上右ニ該當スルモノ有之候ハハ相當御措置ノ上其ノ顚末御回報相成度

●道路上ニ軌道敷設ニ關スル件

（大正十三年七月十九日）
（内務省通牒發甲第二〇號）

軌道敷設ニ依リ之ト同時ニ道路ヲ改良スルハ得策ナル義ト存候得共未タ軌道敷設ノ特許ヲ受ケサル以前ニ於テ軌道ヲ敷設スルモノトシテ道路改良計畫ヲ樹立スル向往々有之事務ノ處理上不都合不尠候條是等ノ場合ニ於テハ特許ヲ受ケタル後相當御計畫相成樣御留意相成度

●軌道取扱ニ關スル件

（大正十四年三月三十日）
（内務省通牒發甲第五號）

警視總監、道廳府縣知事宛

標記ノ件ニ關シ左記ノ通決定相成候條御了知相成度

一　軌道ヲ道路ニ橫斷シテ敷設スル場合ニハ軌道法施行規則第四條及第十條ノ規定ヲ適用セサルモノトス

二　大正十二年十二月軌道法第二十五條ノ規定ニ依ル職權委任ニ關スル省令第二條第二項ノ規定ハ指定セラレタル市ノ區域内ニ於ケル軌道工事ニ付テノミ適用スルモノトス

三　地方ノ狀況ニ依リ軌道取締上必要ナル事項ハ軌道法附屬命令ノ規定ニ抵觸セサル範圍ニ於テ廳府縣令ヲ以テ規定スルコトヲ得ルモノトス

●軌道條例及二省以上交涉ノ事項ニ關スル件ニ依ル願書差出方

（明治四十一年十月二十二日）
（遞信省令第四十五號）

軌道條例及明治四十一年勅令第二百六十六號ニ依ル願書ハ内務遞信兩大臣宛トシ地方長官ヲ經由シテ之ヲ差出スヘシ

●軌道營業報告書樣式

（大正十四年六月十三日　鐵道省　內務省　告示）

【沿革】略ス

軌道營業報告書樣式左ノ通之ヲ定ム

（樣式省略）

●軌道統計報告書樣式

（大正十四年六月十三日　鐵道省　內務省　告示）

【沿革】略ス

軌道統計報告書樣式左ノ通之ヲ定ム

（樣式省略）

第四款　鐵道營業

●鐵道營業法（明治三十三年三月十六日　法律第六十五號）

【沿革】明治四十三年四月法律第五〇號、大正八年四月同第五四號、昭和四年三月同第三八號改正

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル鐵道營業法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

鐵道營業法

第一章　鐵道ノ設備及運送

第一條　鐵道ノ建設、車輛器具ノ構造及運轉ハ命令ヲ以テ定ムル規程ニ依ルヘシ

第二條　本法其ノ他特別ノ法令ニ規定スルモノノ外鐵道運送ニ關スル特別ノ事項ハ鐵道運輸規程ノ定ムル所ニ依ル

鐵道運輸規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條　運賃其ノ他ノ運送條件ハ關係停車場ニ公告シタル後ニ非サレハ之ヲ實施スルコトヲ得ス

運賃其ノ他ノ運送條件ノ加重ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ前項ノ公告ハ一月以上之ヲ爲スコトヲ要ス

第四條　傳染病患者ハ主務大臣ノ定ムル規程ニ依ルニ非サレハ乘車セシムルコトヲ得ス

附添人ナキ重病者ノ乘車ハ之ヲ拒絕スルコトヲ得

第五條　火藥其ノ他爆發質危險品ハ鐵道カ其ノ運送取扱ノ公告ヲ爲シタル場合ノ外其ノ運送ヲ拒絕スルコトヲ得

第六條　鐵道ハ左ノ事項ヲ具備シタル場合ニ於テハ貨物ノ運送ヲ拒絕スルコトヲ得ス

一　荷送人カ法令其ノ他鐵道運送ニ關スル規定ヲ遵守スルトキ

二　貨物ノ運送ニ付特別ナル責務ノ條件ヲ荷送人ヨリ求メサルトキ

三　運送カ法令ノ規定又ハ公ノ秩序若ハ善良ノ風俗ニ反セサルトキ

四　貨物カ成規ニ依リ其ノ線路ニ於ケル運送ニ適スルトキ

五　天災事變其ノ他已ムヲ得サル事由ニ基因シタル運送上ノ支障ナキトキ

前項ノ規定ハ旅客運送ニ之ヲ準用ス

第七條　運送ニ付特別ノ設備ヲ要スル貨物ニ關シテハ鐵道ハ其ノ設備アル場合ニ限リ之ヲ引受クルノ義務ヲ負フ

第八條　鐵道ハ直ニ運送ヲ爲シ得ヘキ場合ニ限リ貨物ヲ受取ルヘキ義務ヲ負フ

第九條　貨物ハ運送ノ爲受取リタル順序ニ依リ之ヲ運送スルコトヲ要ス

但シ運輸上正當ノ事由若ハ公益上ノ必要アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十條　鐵道ハ貨物ノ種類及性質ヲ明告スヘキコトヲ荷送人ニ求ムルコトヲ得若シ其ノ種類及性質ニ付疑アルトキハ荷送人ノ立會ヲ以テ之ヲ點檢スルコトヲ得

點檢ニ因リ貨物ノ種類及性質カ荷送人ノ明告シタル所ト異ナラサル場合ニ限リ鐵道ハ點檢ニ關スル費用ヲ負擔シ且之カ爲生シタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任ス

前二項ノ規定ハ火藥其ノ他爆發質危險品ヲ成規ニ反シ手荷物中ニ收納シタル疑アル場合ニ之ヲ準用ス

第十一條　旅客又ハ荷送人ハ手荷物又ハ運送品託送ノ際鐵道運輸規程ノ定ムル所ニ依リ表示料ヲ支拂ヒ要償額ヲ表示スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル表示額カ託送手荷物又ハ運送品ノ引渡期間末日ニ於ケル到達地ノ價格及引渡ナキ場合ニ於テ旅客又ハ荷送人カ受クヘキ其ノ他ノ損害ノ合計額ヲ超ユルトキハ其ノ超過部分ニ付テハ其ノ表示ハ之ヲ無效トス

第十一條ノ二　要償額ノ表示アル託送手荷物又ハ運送品ノ滅失又ハ毀損ニ因ル損害ニ付賠償ノ責ニ任スル場合ニ於テハ鐵道ハ表示額ヲ限度トシテ一切ノ損害ヲ賠償スル責ニ任ス此ノ場合ニ於テ鐵道ハ損害額カ左ノ額ニ達セサルコトヲ證明スルニ非サレハ左ノ額ノ支拂ヲ免ルルコトヲ得ス

一　全部滅失ノ場合ニ於テハ表示額

二　一部滅失又ハ毀損ノ場合ニ於テハ引渡アリタル日（延著シタルトキハ引渡期間末日）ニ於ケル到達地ノ價格ニ依リ計算シタル價格ノ減少割合ヲ表示額ニ乘シタル額

託送手荷物、高價品又ハ動物ニ付テハ託送ノ際旅客又ハ荷送人カ要償額ノ表示ヲ爲ササル場合ニ於テハ鐵道ハ鐵道運輸規程ノ定ムル最高金額ヲ超エ其ノ滅失又ハ毀損ニ因ル損害ヲ賠償スル責ニ任セス

前二項ノ賠償額ノ制限ハ託送手荷物又ハ運送品カ鐵道ノ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リテ滅失又ハ毀損シタル場合ニハ之ヲ適用セス

第十二條　引渡期間滿了後託送手荷物又ハ運送品ノ引渡ヲ爲シタル場合ニ於テハ延著トス

引渡期間ハ鐵道運輸規程ノ定ムル所ニ依ル

延著ニ因ル損害ニ付賠償ノ責ニ任スル場合ニ於テハ鐵道ハ左ノ額ヲ限

度トシテ鐵道運輸規程ノ定ムル所ニ依リ一切ノ損害ヲ賠償スル責ニ任ス

一　要償額ノ表示アルトキハ其ノ表示額

二　要償額ノ表示ナキトキハ其ノ運賃額

前項ノ賠償額ノ制限ハ託送手荷物又ハ運送品カ鐵道ノ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リテ延著シタル場合ニハ之ヲ適用セス

第十三條　鐵道カ引渡期間滿了後一月ヲ經過スルモ託送手荷物又ハ運送品ノ引渡ヲ爲ササル場合ニ於テハ旅客又ハ貨主ハ滅失ニ因ル損害賠償ヲ請求スルコトヲ得但シ鐵道ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ引渡ヲ爲ササル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ賠償ヲ受ケタル者ハ其ノ請求ノ際留保ヲ爲シタルトキハ到達ノ通知ヲ受ケタル後一月内ニ限リ賠償金ヲ返還シテ託送手荷物又ハ運送品ノ引渡ヲ受クルコトヲ得

第十三條ノ二　荷受人及荷送人ヲ確知スルコト能ハサル運送品ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ公告ヲ爲シタル後六月内ニ其ノ權利者ヲ知ル能ハサル場合ニ於テハ鐵道其ノ所有權ヲ取得ス託送手荷物及一時預リ品ニ付亦同シ

第十三條ノ三　鐵道カ其ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ貨物ノ引渡ヲ爲スコト能ハサルトキハ貨主ノ費用ヲ以テ之ヲ倉庫營業者ニ寄託スルコトヲ得

貨物ヲ寄託シタルトキハ鐵道ハ遲滯ナク荷送人及荷受人ニ對シ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

貨物ヲ寄託シタル場合ニ於テ倉庫證券ヲ作製セシメタルトキハ其ノ證券ノ交付ヲ以テ貨物ノ引渡ニ代フルコトヲ得

鐵道ハ第一項ノ費用ノ辨濟ヲ受クル迄倉庫證券ヲ留置スルコトヲ得

前四項ノ規定ハ貨物ノ引取期間内ニ其ノ引取ナキ場合ニ之ヲ準用ス

第十四條　運賃償還ノ債權ハ一年間之ヲ行ハサルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

第十五條　旅客ハ營業上別段ノ定アル場合ノ外運賃ヲ支拂ヒ乘車券ヲ受クルニ非サレハ乘車スルコトヲ得ス

乘車券ヲ有スル者ハ列車中座席ノ存在スル場合ニ限リ乘車スルコトヲ得

第十六條　旅客カ乘車前旅行ヲ止メタルトキハ鐵道運輸規程ノ定ムル所ニ依リ運賃ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

乘車後旅行ヲ中止シタルトキハ運賃ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ス

第十七條　天災事變其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ運送ニ著手シ又ハ之ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキハ旅客及荷送人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ鐵道ハ既ニ爲シタル運送ノ割合ニ應シ運賃其ノ他ノ費用ヲ請求スルコトヲ得

第十八條　旅客ハ鐵道係員ノ請求アリタルトキハ何時ニテモ乘車券ヲ呈示シ檢査ヲ受クヘシ

有效ノ乘車券ヲ所持セス又ハ乘車券ノ檢査ヲ拒ミ又ハ取集ノ際之ヲ渡ササル者ハ鐵道運輸規程ノ定ムル所ニ依リ割增賃金ヲ支拂フヘシ

前項ノ場合ニ於テ乘車停車場不明ナルトキハ其ノ列車ノ出發停車場ヨリ運賃ヲ計算ス乘車等級不明ナルトキハ其ノ列車ノ最優等級ニ依リ運賃ヲ計算ス

第十八條ノ二　第三條、第六條乃至第十三條、第十四條、第十五條及第十八條ノ規定ハ鐵道ト通シ運送ヲ爲ス場合ニ於ケル船舶、軌道、自動車又ハ索道ニ依ル運送ニ付之ヲ準用ス

第十八條ノ三　鐵道ト船舶ト通シ運送ヲ爲ス場合ノ運送ニ付テハ請求ニ因リ荷送人ハ全運送ニ對シ運送狀ヲ交付スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ荷送人ノ請求ニ因リ全運送ニ對シ貨物引換證ヲ交付スルコトヲ要ス

前二項ノ運送狀又ハ貨物引換證ニ付テハ鐵道運送ニ於ケル運送狀又ハ貨物引換證ニ關スル規定ヲ準用ス

第十八條ノ四　前二條ノ規定ノ適用ヲ受クヘキ船舶ニ依ル運送ノ區間及其ノ運送業者ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二章　鐵道係員

第十九條　鐵道係員ノ職制ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條　地方鐵道業者ハ鐵道係員ノ服務規程ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第二十一條　主務大臣ハ鐵道係員タルニ要スル資格ヲ定スルコトヲ得

第二十二條　旅客及公衆ニ對スル職務ヲ行フ鐵道係員ハ一定ノ制服ヲ著スヘシ

第二十三條　地方鐵道係員ノ職務上ノ義務ニ違背シ若ハ職務ヲ怠リ又ハ失行アリタルトキハ懲戒ヲ受ク

地方鐵道業者ハ懲戒ニ關スル規程ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

懲戒ヲ爲スヘキ場合ニ於テ地方鐵道業者之ヲ爲ササルトキハ監督官廳ニ於テ懲戒ヲ爲スコトヲ得

第二十四條　鐵道係員職務取扱中旅客若ハ公衆ニ對シ失行アリタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十五條　鐵道係員職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リ旅客若ハ公衆ニ危害ヲ釀スノ虞アル所爲アリタルトキハ三月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條　鐵道係員旅客ヲ强ヒテ定員ヲ超エ車中ニ乘込マシメタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十七條　（削除）

第二十八條　鐵道係員道路踏切ノ開通ヲ怠リ又ハ故ナク車輛其ノ他ノ器具ヲ踏切ニ留置シ因テ往來ヲ妨害シタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十八條ノ二　第十九條及第二十一條ノ規定ハ政府及公共團體ノ鐵道ニ、第二十條及第二十三條ノ規定ハ公共團體ノ鐵道ニ之ヲ適用セス

第三章　旅客及公衆

第二十九條　鐵道係員ノ許諾ヲ受ケスシテ左ノ所爲ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　有效ノ乘車券ナクシテ乘車シタルトキ

二　乘車券ニ指示シタルモノヨリ優等ノ車ニ乘リタルトキ

三　乘車券ニ指示シタル停車場ニ於テ下車セサルトキ

第三十條　託送手荷物又ハ運送品ノ種類又ハ性質ヲ詐稱シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス記名乘車券ヲ買求ムル際氏名ヲ詐稱シタル者亦同シ

第三十條ノ二　前二條ノ所爲ハ鐵道ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

第三十一條　鐵道運送ニ關スル法令ニ背キ火藥類其ノ他爆發質危險品ヲ託送シ又ハ車中ニ携帶シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十二條　列車警報機ヲ濫用シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十三條　旅客左ノ所爲ヲ爲シタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料

ニ處ス

一　列車運轉中乘降シタルトキ

二　列車運轉中車輛ノ側面ニ在ル車扉ヲ開キタルトキ

三　列車中旅客乘用ニ供セサル箇所ニ乘リタルトキ

第三十四條　制止ヲ肯セスシテ左ノ所爲ヲ爲シタル者ハ十圓以下ノ科料ニ處ス

一　停車場其ノ他鐵道地內吸煙禁止ノ場所及吸煙禁止ノ車內ニ於テ吸煙シタルトキ

二　婦人ノ爲ニ設ケタル待合室及車室等ニ男子妄ニ立入リタルトキ

第三十五條　鐵道係員ノ許諾ヲ受ケスシテ車內、停車場其ノ他鐵道地內ニ於テ旅客又ハ公衆ニ對シ寄附ヲ請ヒ、物品ノ購買ヲ求メ、物品ヲ配付シ其ノ他演說勸誘等ノ所爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

第三十六條　車輛、停車場其ノ他鐵道地內ノ標識掲示ヲ改竄、毀棄、撤去シ又ハ燈火ヲ滅シ又ハ其ノ用ヲ失ハシメタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

信號機ヲ改竄、毀棄、撤去シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第三十七條　停車場其ノ他鐵道地內ニ妄ニ立入リタル者ハ十圓以下ノ科料ニ處ス

第三十八條　暴行脅迫ヲ以テ鐵道係員ノ職務ノ執行ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第三十九條　車內、停車場其ノ他鐵道地內ニ於テ發砲シタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十條　列車ニ向テ瓦石類ヲ投擲シタル者ハ科料ニ處ス

第四十一條　第四條ノ規定ニ違反シ傳染病患者ヲ乘車セシメタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス傳染病患者其ノ病症ヲ隱蔽シテ乘車シタルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ途中下車セシメタルトキ雖既ニ支拂ヒタル運賃ハ之ヲ還付セス

第四十二條　左ノ場合ニ於テ鐵道係員ハ旅客及公衆ヲ車外又ハ鐵道地外ニ退去セシムルコトヲ得

一　有效ノ乘車券ヲ所持セス又ハ檢査ヲ拒ミ運賃ノ支拂ヲ肯セサルトキ

二　第三十三條第三號ノ罪ヲ犯シ鐵道係員ノ制止ヲ肯セサルトキ又ハ第三十四號ノ罪ヲ犯シタルトキ

三　第三十五條、第三十七條ノ罪ヲ犯シタルトキ

四　其ノ他車內ニ於ケル秩序ヲ紊ルノ所爲アリタルトキ

前項ノ場合ニ於テ既ニ支拂ヒタル運賃ハ之ヲ還付セス

第四十三條　（削除）

附　則

第四十四條　（削除）

第四十五條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ於テ之ヲ定ム（明治三十三年八月勅令第三三〇號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）

鐵道略則、鐵道犯罪罰例、明治十六年七月第二十三號布告ハ之ヲ廢止ス

附　則（昭和四年三月法律第三八號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和五年三月勅令第四九號ニ依リ同五年四月一日ヨリ施行）

●國有鐵道運轉規程

（大正十三年十二月十九日）
（鐵道省令第三號）

〔沿革〕昭和三年三月省令第一號、同五年五月同第四號、同七年一月同第二號、同年五月同第四號、同第五號、同第九號、同年十二月同第二號、同十年六月同第四號、同十五年一月同第一號改正

國有鐵道運轉規程左ノ通定ム

國有鐵道運轉規程

第一章　總則

第一條　國有鐵道ニ於ケル運轉ハ本規程ノ定ムル所ニ依ル但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　特ニ簡易ナル構造ノ鐵道ニシテ別ニ定ムル規程ニ依ルトキ

二　試運轉ヲ爲ス場合ニシテ本規程ニ依ルコト能ハサルトキ

三　其ノ他已ムコトヲ得サルトキ

第二條　列車トハ停車場外ノ本線路ヲ進行スルノ目的ヲ以テ仕立テタル車輛又ハ車輛列ヲ謂フ

第二章　線路

第一節　線路ノ保持

第三條　線路ハ所定ノ速度ヲ以テ列車又ハ車輛ヲ安全ニ運轉シ得ル狀態ニ之ヲ保持スルコトヲ要ス

本線路カ一時前項ノ狀態ニ在ラサル場合ニ於テハ信號ヲ以テ之ヲ表示シ特ニ注意ヲ必要トスル箇所ハ之ヲ監視スルコトヲ要ス

第四條　本線路ハ每日少クトモ一回之ヲ巡視スルコトヲ要ス

本線路ニ被害ノ虞アルトキハ之ヲ監視スルコトヲ要ス

第五條　新設線路、改築又ハ修繕ヲ爲シタル線路及一時使用ヲ休止シタル線路ハ檢査シ試運轉ヲ爲スニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ本線路ノ改築又ハ修繕ニシテ輕易ナル場合及使用休止十日未滿ノ場合竝側線ニ在リテハ試運轉ヲ省略スルコトヲ得

第二節　電力設備ノ保持

第六條　列車運轉用電力設備ハ所定ノ速度ヲ以テ安全ニ列車又ハ車輛ヲ運轉シ得ル狀態ニ之ヲ保持スルコトヲ要ス

第七條　架空電車線路、第三軌條及歸線ニシテ本線路ニ係ルモノハ每日少クトモ一回之ヲ巡視スルコトヲ要ス

第八條　架空電車線ノ支持又ハ取付部分ニシテ可撓性ヲ缺クモノハ三月以內每ニ之ヲ檢査スルコトヲ要ス

第九條　前條ニ規定スル部分以外ノ架空電車線路、第三軌條、歸線、高壓及特別高壓用開閉器、自動遮斷器、繼電器竝開閉器及變壓器ニ使用スル絕緣油ハ六月以內每ニ之ヲ檢査スルコトヲ要ス

第十條　前二條ニ規定スルモノヲ除クノ外電力設備ハ一年以內每ニ之ヲ檢査スルコトヲ要ス

第三節　信號裝置、轉轍裝置及閉塞裝置ノ保持

第十一條　信號裝置、轉轍裝置及閉塞裝置ハ安全ナル狀態ニ之ヲ保持スルコトヲ要ス

第十二條　本線路ニ於ケル轉轍器ハ列車對向シテ通過スルトキ之ヲ鎖錠シ又ハ取柄ヲ支持スルコトヲ要ス

第十三條　信號裝置、轉轍裝置及閉塞裝置ハ一年以內每ニ一回其ノ各部ヲ檢査スルコトヲ要ス

第四節　踏切道及障碍物

第十四條　相當時間連續シテ交通頻繁ナル踏切道ニハ其ノ時間中看守人ヲ附シ列車又ハ車輛ノ通過前門扉其ノ他ノ遮斷裝置ヲ閉チ其ノ通過後之ヲ開カシムヘシ但シ自動踏切遮斷裝置又ハ通行人ニ注意ヲ喚起セシムヘキ警報裝置ヲ設クル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　建築限界內ニ物ヲ置クコトヲ得ス但シ作業上必要ニシテ運轉ニ支障ナキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三章　車輛

第一節　車輛ノ保持

第十六條　車輛ハ安全ニ運轉シ得ル狀態ニ在ルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十七條　新製車輛及改造又ハ修繕ヲ爲シタル車輛ハ檢査シ試運轉ヲ爲スニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ改造又ハ修繕ニシテ輕易ナル場合ハ試運轉ヲ省略スルコトヲ得

蒸氣機關車、蒸氣動車又ハ列車暖房用罐ニシテ新製ノモノ及重要ナル改造又ハ修繕ヲ爲シタルモノハ水壓試驗ヲ行フコトヲ要ス

電氣機關車若ハ電車ノ電氣暖房裝置ニシテ新製ノモノ及重要ナル改造又ハ修繕ヲ爲シタルモノハ絕緣耐力試驗ヲ行フコトヲ要ス

第十八條　機關車、電車及氣動車ハ使用ノ狀況ニ應シ相當ノ期間內每ニ各部解體ノ上全般ニ亘リ檢査シ且罐ニ在リテハ水壓試驗ヲ、電氣裝置ニ在リテハ絕緣耐力試驗ヲ行ヒ試運轉ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ期間ハ機關車ニ在リテハ三年半ヲ、電車及氣動車ニ在リテハ一年半ヲ超ユルコトヲ得ス

第十九條　削除

第二十條　第十七條及第十八條ノ水壓試驗ニ在リテハ罐ノ最高使用壓力ニ其ノ三割五分ヲ增加シタル壓力ヲ使用シ五分間以上、同條ノ絕緣耐力試驗ニ在リテハ最大使用電壓ニ其ノ六割五分以上ヲ增加シタル電壓ヲ使用シ一分間以上之ヲ持續セシムルコトヲ要ス

第二十一條　機關車、電車及氣動車ノ動力ノ發生及傳達裝置、制動裝置其ノ他ノ重要部分ハ九月以內每ニ之ヲ檢査スルコトヲ要ス

第二十二條　機關車、電車及氣動車ハ各部ノ狀態及作用ニ付四十日以內每ニ少クトモ一回之ヲ檢査スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ電氣回路ニ在リテハ絕緣抵抗試驗ヲ行フコトヲ要ス

第二十三條乃至第二十六條　削除

第二十七條　客車及貨車ハ使用ノ狀況ニ應シ相當ノ期間內每ニ各裝置ヲ取外シ全般ニ亘リ檢査スルコトヲ要ス

前項ノ期間ハ客車ニ在リテハ一年半、貨車ニ在リテハ三年ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十七條ノ二　客車及貨車ノ空氣制動機ハ九月以內每ニ之ヲ檢査スルコトヲ要ス

第二十七條ノ三　客車及貨車ハ各部ノ狀態及作用ニ就キ五十日以內每ニ少クトモ一回之ヲ檢査スルコトヲ要ス

第二十七條ノ四　稀ニ使用スル特種ノ車輛ヲ檢査スル場合ニ於テハ第十八條第二項、第二十一條、第二十二條第一項、第二十七條第二項、第二十七條ノ二及第二十七條ノ三ノ期間ハ之ヲ相當延長スルコトヲ得

第二十八條　機關車、電車及氣動車ニハ第十八條ニ依リ施行シタル最近檢査ノ年月日ヲ、客車及貨車ニハ第二十七條ニ依リ施行シタル最近檢

査ノ年月日ヲ標記スルコトヲ要ス

第二節　列車ヲ組成スル車輛ノ檢査

第二十九條　列車ヲ組成スル車輛ノ運轉要部ハ車輛ノ種類及運轉ノ狀況ニ應シ相當ノ距離ヲ運轉スル每ニ之ヲ檢査スルコトヲ要ス

第三十條　列車ノ貫通制動機ハ列車ヲ組成シ又ハ其ノ組成ヲ變更シタル場合ニ於テ列車出發前之ヲ試驗スルコトヲ要ス

第四章　運轉

第一節　列車ノ組成

第三十一條　列車ノ最大軸數ハ之ヲ組成スル車輛ノ臺枠及連結裝置ノ强度ニ應シ之ヲ定ムルコトヲ要ス

第三十二條　列車ヲ組成スル車輛ハ之ヲ相互ニ連結スルコトヲ要ス但シ千分ノ三ヨリ急ナル下リ勾配ヲ有セサル線路ヲ運轉スル列車ノ後部補助機關車ハ此ノ限ニ在ラス

自動連結器ヲ有セサル車輛ノ連結ハ特殊ノ場合ヲ除クノ外螺旋連結器及連環連結器ヲ以テ二重ニ之ヲ行フコトヲ要ス

第三十三條　旅客列車及一時間六十五粁ヲ超ユル速度ヲ以テ運轉スル其ノ他ノ列車ハ貫通制動機ヲ使用シ其ノ連結軸數百ニ對シ八十以上ノ割合ノ制動軸ヲ備フルコトヲ要ス

前項ノ列車ニシテ第三十七條ニ依リ貫通制動機ノ作用セサル車輛ヲ連結スル場合ニ於テハ貫通制動機ノ作用スル部分ニ付前項ノ規定ヲ適用ス

第一項以外ノ列車ハ線路ノ勾配及速度ニ應シ其ノ連結軸數ニ對シ左ノ割合以上ノ制動軸ヲ備フルコトヲ要ス

連結軸數百ニ對スル制動軸數

勾配＼速度一時間ニ付	千分ノ二以下	千分ノ四	千分ノ六	千分ノ八	千分ノ一〇	千分ノ一二	千分ノ一四	千分ノ一六	千分ノ一八
二〇粁	六	六	六	六	六	八	一一	一三	一六
二五粁	六	六	六	六	七	九	一二	一五	一八
三〇粁	六	六	六	六	九	一一	一四	一七	二〇
三五粁	六	六	六	七	一〇	一三	一六	一九	二二
四〇粁	六	六	六	九	一二	一五	一八	二二	二五
四五粁	六	六	八	一一	一五	一八	二一	二五	二八
五〇粁	六	七	一〇	一四	一八	二一	二四	二八	三一
五五粁	六	一〇	一三	一七	二一	二四	二七	三一	三五
六〇粁	九	一三	一六	二〇	二三	二七	三〇	三四	三八
六五粁	一二	一六	二〇	二三	二七	三一	三四	三八	四二

勾配 ＼ 速度一時間ニ付	千分ノ二〇	千分ノ二五	千分ノ三〇	千分ノ三五	千分ノ四〇	千分ノ四五	千分ノ五〇	千分ノ五五	千分ノ六〇	千分ノ六五	千分ノ七〇
二〇粁	一八	二四	三一	三七	四四	五六	六九	八一	—	—	—
二五粁	二一	二七	三四	四一	四八	六一	七四	—	—	—	—
三〇粁	二三	三〇	三七	四四	五二	六五	—	—	—	—	—
三五粁	二五	三三	四一	四八	五五	七〇	—	—	—	—	—
四〇粁	二八	三六	四四	五二	六〇	—	—	—	—	—	—
四五粁	三一	四〇	四八	五六	六四	—	—	—	—	—	—
五〇粁	三五	四三	五二	六〇	—	—	—	—	—	—	—
五五粁	三八	四七	五六	—	—	—	—	—	—	—	—
六〇粁	四二	五一	六〇	—	—	—	—	—	—	—	—
六五粁	四六	五五	—	—	—	—	—	—	—	—	—

線路ノ勾配及列車ノ速度ニシテ本表ニ掲クルモノノ中間ニ在ル場合ニ於ケル制動軸數ノ割合ハ挿入法ニ依リ算出ス

前三項ノ場合ニ於テハ左ノ各號ニ依ル

一　勾配ハ線路上一粁ヲ距テタル二點ヲ結付クル直線ノ勾配トス

二　機關車ノ働輪一軸ハ連結軸及制動軸トシテ之ヲ二軸ニ　炭水車ノ一軸ハ連結軸及制動軸トシテ之ヲ一軸半ニ換算ス

三　齒軌條用齒車付電氣機關車ノ働輪一軸ハ連結軸トシテ之ヲ二軸ニ制動軸トシテ之ヲ五軸ニ換算ス

四　空貨車ノ一軸ハ連結軸トシテ之ヲ半軸ニ換算ス

五　制動力ヲ增加スル爲特ニ自重ヲ增加シタル貨車ノ一軸ハ制動軸トシテ之ヲ一軸半ニ換算ス

六　車側制動機ヲ使用スル車輛ノ一軸ハ制動軸トシテ之ヲ〇・二軸ニ換算ス

七　齒軌條用齒車付緩急車ノ一軸ハ制動軸トシテ之ヲ二軸ニ換算ス

八　制動機ヲ備フルモ其ノ取扱人ナキ車輛ノ車軸ハ制動軸トシテ之ヲ計上セス

千分ノ三ヨリ急ナル上リ勾配ヲ有スル區間ヲ運轉スル列車ニ在リテハ前頭ノ機關車及炭水車ヲ除キタル殘餘ノ車輛ニ對シ連結軸數ト制動軸數トノ割合ヲ第三項ノ表中一時間二十軸ノ速度ニ該當スルモノ以上ト爲スコトヲ要ス但シ救援列車ハ此ノ限ニ在ラス

第三十四條　列車ヲ組成スルニハ制動力ヲ其ノ全長ニ亙リ成ルヘク均等ナラシムル樣車輛ヲ配置スルコトヲ要ス

第三十五條　機關車、汽動車又ハ電動車ハ列車ノ前頭ニ之ヲ連結スルコトヲ要ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　總括制御法ニ依リ列車ノ前頭ヨリ制御セラルルトキ

二　千分ノ五十ヨリ急ナル上リ勾配ヲ有スル區間ヲ運轉スルトキ

三　救援列車及排雪列車ヲ運轉スルトキ

千分ノ十ヨリ急ナル上リ勾配ヲ有スル區間及特ニ必要アル區間ヲ運轉スル列車竝故障ヲ生シタル列車ニハ其ノ最後部ニ補助機關車ヲ使用スルコトヲ得

左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ列車ノ後部ノミニ機關車、汽動車又ハ電動車ヲ連結スルコトヲ得

一　線路又ハ列車ニ故障アルトキ

二　工事列車及監視列車ヲ運轉スルトキ

三　停車場ト其ノ附近ノ採礦所、工場、材料置場等トノ間ニ於テ列車ヲ運轉スルトキ

四　特殊ノ事由アルトキ

第三十六條　列車ノ後部（推進ノ場合ニ於テハ前頭）ニハ手用制動機附車輛ヲ連結シ之ニ制動機取扱人ヲ乘込マシムルコトヲ要ス但シ全部ニ貫通制動機ヲ使用スル列車、排雪列車竝救援列車ハ此ノ限ニ在ラス

毀損車輛及特殊構造ノ車輛ニシテ列車ノ中部ニ連結シ得サルモノハ一輛ニ限リ前項ノ後部手用制動機附車輛ノ後部ニ之ヲ連結スルコトヲ得

第三十七條　列車（軍用ニ專用スル列車ヲ除ク）中貨車ハ客車（回送ノモノヲ除ク）ノ中間ニ之ヲ連結スルコトヲ得ス但シ有蓋緩急車ヲ荷物車ニ代用スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

旅客列車又ハ混合列車ニ在リテハ貫通制動機ノ作用スル車輛ノ後部ニ左ノ範圍ヲ超エテ其ノ制動機ノ作用セサル客貨車ヲ連結スルコトヲ得ス

列車ノ最大速度一時間五十粁以下　十六軸

同六十五粁以下　十二軸

同七十五粁以下　八軸

同七十五粁ヲ超ユルトキ　六軸（運轉中最後部車輛ノ貫通制動機故障ヲ生シ已ムコトヲ得サル場合ニ限ル）

前項以外ノ列車ニシテ一時間六十五粁ヲ超ユル速度ヲ以テ運轉スル場合ニ在リテハ貫通制動機ノ作用スル車輛ノ後部ニ十軸ヲ超エテ其ノ制動機ノ作用セサル客貨車ヲ連結スルコトヲ得ス

第三十八條　（削除）

第三十九條　火藥類ヲ積載シタル車輛ノ連結ニ就テハ別ニ定ムル所ニ依ル

第四十條　火藥類以外ノ貨物ニシテ發火又ハ爆發ノ虞アルモノヲ積載シタル車輛ハ旅客ノ乘用ニ供スル車輛ヨリ四軸以上ヲ隔ツルニ非サレハ列車ニ之ヲ連結スルコトヲ得ス

第四十一條　列車ニハ列車標識ヲ掲クルコトヲ要ス

第二節　列車ノ運轉

第四十二條　車輛ハ之ヲ列車ト爲スニ非サレハ停車場外ノ本線路ヲ運轉スルコトヲ得ス但シ入換ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十三條　上下列車ヲ區別シテ運轉スル一對ノ軌道ニ於テハ列車ノ進路ハ左側タルコトヲ要ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　線路又ハ列車ニ故障ヲ生シタル場合ニ於テ亙リ線ノ設アル最近ノ停車場ニ到ル退行運轉

二　工事列車、監視列車、救援列車及排雪列車ノ運轉

三　後部補助機關車ノ退行運轉

四　停車場ト其ノ附近ノ採礦所、工場、材料置場等トノ間ニ於ケル運

轉

五　入換運轉

六　停車場内ノ運轉

第四十四條　本線路ハ之ヲ閉塞區間ニ分ツコトヲ要ス但シ停車場内ノ本線路ハ之ヲ閉塞區間ト爲サザルコトヲ得

單線運轉ヲ爲ス本線路ニ在リテハ列車運轉ノ方向ニ依リ閉塞區間ノ區分ヲ異ニスルコトヲ得

第四十五條　一閉塞區間ニハ二以上ノ列車ヲ同時ニ運轉スルコトヲ得ス

但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　第四十六條又ハ第五十條ニ依リ運轉スルトキ

二　故障列車ノ在ル閉塞區間ニ於テ救援列車ヲ運轉スルトキ

三　路線不通トナリタル閉塞區間ニ於テ工事列車ヲ運轉スルトキ

四　閉塞區間内ニ於テ後部補助機關車ヲ列車ヨリ分離シタルトキ

五　列車ノ入換若ハ誘導又ハ分割運轉ヲ爲ストキ

第四十六條　閉塞區間兩端相互間ノ閉塞裝置ニ故障ヲ生シ且電氣通信不可能トナリタル場合ニ於テハ列車其ノ閉塞區間ヲ出ツヘキ豫定時刻ヲ經過シタルトキハ同一方向ニ次ノ列車ヲ進入セシムルコトヲ得但シ先發列車其ノ閉塞區間ニ進入シタル後五分時ヲ經過シタル後タルコトヲ要ス

第四十七條　列車ハ左ノ場合ニ限リ退行スルコトヲ得

一　路線又ハ列車ニ故障アルトキ

二　工事列車、監視列車、救援列車及排雪列車ノ運轉

三　後部補助機關車ノ退行運轉

四　停車場ト其ノ附近ノ採礦所、工場、材料置場等トノ間ニ於ケル運轉

五　入換運轉

六　特殊ノ事由アルトキ

第四十八條　二以上ノ列車ノ發著ニ際シ相互ニ其ノ進路ヲ支障スル虞アル場合ニ於テハ二以上ノ列車ヲ同時ニ進入又ハ出發セシムルコトヲ得ス

第四十九條　列車又ハ車輛ハ停止信號ノ現示アルトキハ其ノ現示箇所ヲ超エテ進行スルコトヲ得ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ速ニ停止スルコトヲ要ス

一　發信信號ノ現示アリタルトキ

二　入換手信號ニ依リ停止信號ノ現示アリタルトキ

三　現示箇所ニ停止シ能ハサル距離ニ於テ停止信號現示アリタルトキ

第五十條　列車ハ自動ノ閉塞信號機ノ停止信號現示ニ依リ停止シタル後ハ停止信號現示中ト雖其ノ閉塞區間内ニ進入スルコトヲ得

自動ノ閉塞信號機ニ徐行許容標ヲ添裝セルモノニ在リテハ其ノ信號機ニ停止信號ノ現示アル場合ト雖列車ハ停止セスシテ其ノ閉塞區間内ニ進入スルコトヲ得

第五十一條　列車ハ注意信號現示アル場合ニ於テハ次ノ信號機ニ停止信號ノ現示アルコトヲ豫期シテ進行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ次ノ信號機ノ設ナキトキハ注意信號ヲ現示スル信號機ノ防護スル區域内ニ停止スルコトヲ豫期シテ進行スルコトヲ得

第五十一條ノ二　列車ハ減速信號ノ現示アルトキハ次ノ信號機迄ニ速度ヲ低減スルコトヲ要ス

第五十二條　列車ハ進行信號現示アルトキハ其ノ現示箇所ヲ超エテ進行スルコトヲ得

第五十三條　列車ハ出發合圖アルニ非サレハ停車場ヲ出發スルコトヲ得ス

第三節　入換

第五十四條　列車カ隣接セル停車場又ハ信號所ヲ出發シタル後ハ其ノ列車ニ對スル場内信號機外ニ亙リ列車又ハ車輛ノ入換ヲ爲スコトヲ得ス但シ特殊ノ事由アル場合ニ於テ相當ノ防護ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十五條　車輛ハ適當ニ制動セラレ得ル場合ヲ除クノ外突放ヲ爲シ又ハ重力ヲ利用シテ之ヲ入換スルコトヲ得ス

第五十六條　旅客ノ乘込ミタル車輛及火藥類其ノ他ノ爆發質危險品ヲ積載シタル車輛ハ之ヲ突放シ又ハ之ニ向ウテ他ノ車輛ヲ突放スルコトヲ得ス重力ヲ利用シテ入換ヲ爲ス場合亦同シ

第四節　運轉速度

第五十七條　半徑六百米以下ノ曲線ニ於テハ列車ハ左ノ速度ヲ超過シテ運轉スルコトヲ得ス

曲線半徑（米）	速度（一時間ニ付粁）線路ノ分岐ニ附帶セサル曲線ノ場合	線路ノ分岐ニ附帶スル曲線ノ場合
六〇〇	八五	六五
五〇〇	八〇	六〇
四〇〇	七〇	五五
三〇〇	六〇	五〇
二〇〇	五〇	四五

曲線半徑本表ニ掲クルモノノ中間ニ在ル場合ニ於ケル速度ハ挿入法ニ依リ算出ス

一〇〇	三〇	二五

第五十八條　第五十條ニ依リ運轉スル列車速度ハ相當ニ制限スルコトヲ要ス

第五十九條　列車ハ徐行信號現示セラルルトキハ其ノ速度ヲ一時間十五粁以下ニ低減スルコトヲ要ス但シ其ノ速度指定シアルトキハ其ノ定ニ依ル

第六十條　列車推進ノ場合ニ於ケル速度ハ一時間二十五粁ヲ超ユルコトヲ得ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　前部ニ附隨車二輛以内ヲ連結シ總括制御法ニ依リ前部ヨリ操縱スル電車

二　排雪列車

三　特殊ノ事由アルトキ

第六十一條　第四十七條第一號ニ依リ列車退行スル場合ニ於ケル速度ハ一時間十五粁ヲ超ユルコトヲ得ス

第六十二條　炭水車附機關車ヲ逆向シテ列車ノ前頭ニ連結シ運轉スル場合ニ於ケル速度ハ一時間四十五粁ヲ超ユルコトヲ得ス炭水車附機關車ヲ逆向シテ單行運轉ヲ爲ス場合及雪掻車ヲ機關車ノ前位ニ連結シテ廻送スル場合亦同シ

第六十三條　列車又ハ車輛入換ノ速度ハ一時間二十五粁ヲ超ユルコトヲ得ス但シ機關車、汽動車及電動車ハ此ノ限ニ在ラス

第五節　信號及合圖

第六十四條　信號ヲ現示スヘキ所定ノ場所ニ信號ノ現示ナキトキ又ハ其

ノ現示正確ナラサルトキハ列車ノ運行ニ最大ノ制限ヲ附スル信號ノ現示アルモノト看做ス

常置信號機ト手信號トカ異リタル信號ヲ現示スルトキハ列車ハ其ノ運行ニ大ナル制限ヲ附スルモノニ依ルコトヲ要ス但シ豫メ通告アリタルトキハ手信號ノ現示ニ依ル

第六十五條　列車又ハ車輛ノ進路ニ支障ナキ場合ニ非サレハ之ニ對シ進行ヲ指示スル信號ヲ現示スルコトヲ得ス

第六十六條　列車又ハ車輛ニ對シ進行ヲ指示スル信號ノ現示アル場合ニ於テハ其ノ進路ヲ支障スルコトヲ得ス

第六十七條　遠方信號機ハ其ノ主體ノ信號機停止信號ヲ現示スルトキハ注意信號ヲ現示スルコトヲ要ス

第六十八條　場内信號機ノ設アル停車場ニ於テ之ヲ通過スヘキ列車ヲ停止セシメムトスル場合ニ於テ出發信號機ノ遠方信號機又ハ之ニ相當スル信號機ノ設ナキトキハ場内信號機ニ停止信號ヲ現示スルコトヲ要ス但シ豫メ通告シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六十九條　線路ニ支障アル爲列車ヲ停止セシメムトスル場合ニ於テ常置信號機ヲ使用シ得サルトキハ支障箇所ノ外方二百米以上ノ地點ニ臨時信號機又ハ手信號ニ依リ停止信號ヲ現示シ且豫メ之ヲ通告セサルトキハ現示箇所ノ外方相當ノ距離ニ信號用雷管ヲ裝置スルコトヲ要ス列車故障ノ爲途中ニ停止シ他ノ列車ヲ停止セシムルヲ要スル場合ハ相當防護ノ手段ヲ爲スコトヲ要ス

第七十條　列車ヲ徐行セシメムトスル場合ニ於テハ徐行區域ノ始端ニ臨時信號機又ハ手信號ニ依リ徐行信號ヲ現示シ且豫メ之ヲ通告セサルトキハ徐行信號現示箇所ノ外方相當ノ距離ニ信號用雷管ヲ裝置スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ徐行區域ノ終端ニ臨時信號機ニ依リ徐行解除信號ヲ、又ハ手信號ニ依リ進行信號ヲ現示スルコトヲ要ス

第七十一條　天候ノ狀態ニ依リ百米ノ距離ヨリ信號ノ現示ヲ認識シ難キ場合ニ於テ場内信號機、掩護信號機又ハ閉塞信號機（自動ノ閉塞信號機ヲ除ク）停止信號ヲ現示スルトキハ其ノ信號現示箇所ノ外方相當ノ距離ニ列車ノ通過前信號用雷管ヲ裝置スルコトヲ要ス第六十九條ニ依リ臨時信號機又ハ手信號ノ停止信號ヲ現示スルトキ亦同シ

第七十二條　列車常置信號機ノ設アル箇所ヲ通過スル毎ニ誘導信號機ニ在リテハ信號ヲ現示セサルコトヲ、遠方信號機ニ在リテハ注意信號ヲ現示スルコトヲ、其ノ他ノ信號機ニ在リテハ停止信號ヲ現示スルコトヲ要ス

第七十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ氣笛合圖ヲ爲スコトヲ要ス

一　列車（電車ヲ除ク）運轉ヲ始ムルトキ

二　列車分離其ノ他非常ノ事故ヲ生シタルトキ

第六節　停止中ノ車輛

第七十四條　本線路ニ停止中ノ車輛ニハ不測ノ運動ニ對スル防備ヲ爲シ置クコトヲ要ス側線ニ停止中ノ車輛ニシテ本線路ニ逸出スル虞アルモノニ付亦同シ

第七十五條　機關車、汽動車及電動車停止中ハ其ノ自動ヲ防止スルニ必要ナル手段ヲ施シ且動力ヲ有スル間ハ之ヲ看守スルコトヲ要ス

第五章　閉塞

第一節　通則

第七十六條　閉塞區間ニ於ケル閉塞ハ左ノ方式ニ依ル

一　複線運轉ヲ爲ス場合

閉塞器式、自動閉塞式又ハ聯動閉塞器式

二　單線運轉ヲ爲ス場合

通票閉塞器式、通票式、票券式ト閉塞器式若ハ通信閉塞式トノ併用

自動閉塞式又ハ聯動閉塞器式

第七十七條　事故其ノ他ノ事由ニ因リ已ムコトヲ得サル場合ニ於ケル閉塞ハ左ノ方式ニ依ル

一　複線運轉ヲ爲ス場合

通信閉塞式

二　單線運轉ヲ爲ス場合

指導法ト通信閉塞式又ハ閉塞器式トノ併用

但シ自動閉塞式又ハ聯動閉塞器式ニ依リ複線運轉ヲ爲ス區間ノ一軌道ニ於テ一時單線運轉ヲ爲ス場合ニ於テハ複線運轉ノ場合ト同一方向ニ運轉スル列車ニ對シテハ指導法ト其ノ閉塞方式トノ併用ニ依ルコトヲ得

第七十八條　第四十六條ノ場合ニ於テ單線運轉ヲ爲ス區間ニハ指導法又ハ票券式ヲ施行スルコトヲ要ス

第二節　閉塞器式

第七十九條　閉塞器式ヲ施行スル閉塞區間兩端ノ停車場又ハ信號所ニハ閉塞器ヲ備フルコトヲ要ス

第八十條　閉塞器ハ標識ヲ以テ左ノ表示ヲ爲シ得ル裝置トシ電鈴ヲ備フルコトヲ要ス

一　列車閉塞區間ニ無シ

二　列車閉塞區間ニ在リ

第八十一條　閉塞器ハ列車ヲ進入セシメタル停車場又ハ信號所ニ於テ「列車閉塞區間ニ在リ」ノ表示ヲ變更シ能ハサル裝置ノモノタルコトヲ要ス

第八十二條　列車ヲ閉塞區間ニ進入セシメムトスルトキハ「列車閉塞區間ニ無シ」ノ表示ヲ確認シ前方ノ停車場又ハ信號所ニ「列車進入シ得ルヤ」ノ電鈴合圖ヲ爲シ承認ヲ受クルコトヲ要ス

前項ノ承認ハ標識ニ依リ之ヲ表示スルコトヲ要ス但シ「列車閉塞區間ニ在リ」ノ表示ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第八十三條　前條ノ承認ハ其ノ閉塞區間ニ列車又ハ車輛在ラサルコトヲ確認スルニ非サレハ之ヲ與フルコトヲ得ス

第三節　聯動閉塞器式

第八十四條　聯動閉塞器式ヲ施行スル閉塞區間兩端ノ停車場又ハ信號所ニハ聯動閉塞器ヲ備フルコトヲ要ス

第八十五條　聯動閉塞器ハ信號機ト聯動シ標識ヲ以テ左ノ表示ヲ爲シ得ル裝置トシ電鈴ヲ備フルコトヲ要ス

一　列車閉塞區間ニ無シ

二　列車閉塞區間ニ在リ

第八十六條　聯動閉塞器ハ列車閉塞區間ニ在ルトキハ其ノ區間ノ信號機ニ他ノ列車ニ對シ進行ヲ指示スル信號ヲ現示シ能ハサラシムル裝置ノ

モノタルコトヲ要ス

第八十七條　聯動閉塞器ハ閉塞區間ニ進入シタル列車カ其ノ區間ヲ通過シ了リタル後ニ非サレハ「列車閉塞區間ニ在リ」ノ表示ヲ變更シ能ハサル裝置ノモノタルコトヲ要ス

第八十八條　列車ヲ閉塞區間ニ進入セシメントスルトキハ「列車閉塞區間ニ無シ」ノ表示ヲ確認シ前方ノ停車場又ハ信號所ニ「列車進入シ得ルヤ」ノ電鈴合圖ヲ爲シ承認ヲ受クルコトヲ要ス但シ前方ノ停車場又ハ信號所ヨリ豫メ其ノ承認アリタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八十三條ノ規定ハ前項ノ承認ニ付之ヲ準用ス

第四節　自動閉塞式

第八十九條　自動閉塞式ヲ施行スル閉塞區間ノ場內信號機、出發信號機及閉塞信號機ハ自動作用ニ依リ左ノ條件ヲ具備スル裝置ノモノタルコトヲ要ス

一　閉塞區間ニ列車又ハ車輛在ルトキハ停止信號ヲ現示スルコト

二　裝置ニ故障ヲ生シタルトキハ停止信號ヲ現示スルコト

三　閉塞區間ニ在ル轉轍器カ正當ノ方位ニ在ラサルトキ又ハ分岐線若ハ交叉線ニ於ケル列車若ハ車輛カ閉塞區間ヲ支障スルトキハ停止信號ヲ現示スルコト

四　單線運轉ヲ爲ス場合ニ於テハ閉塞區間ニ進入セントスル列車ニ對シ進行ヲ指示スル信號ヲ現示シタルトキハ反對ノ方向ヨリ其ノ閉塞區間ニ進入セムトスル列車ニ對シ停止信號ヲ現示スルコト

第五節　通信閉塞式

第九十條　通信閉塞式ヲ施行スル閉塞區間兩端ノ停車場又ハ信號所ニハ特設ノ電話機ヲ備フルコトヲ要ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ他ノ電話機又ハ電信機ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

一　運轉閑散ナルトキ

二　特設ノ電話機ニ故障ヲ生シタルトキ

三　事故其ノ他已ムコトヲ得サル場合ニ於テ電話機ヲ特設シ難キトキ

第九十一條　列車ヲ閉塞區間ニ進入セシメントスルトキハ電氣通信ニ依リ前方ノ停車場又ハ信號所ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第八十三條ノ規定ハ前項ノ承認ニ付之ヲ準用ス

第六節　通票閉塞器式

第九十二條　通票閉塞器式ヲ施行スル閉塞區間兩端ノ停車場又ハ信號所ニハ通票閉塞器ヲ備フルコトヲ要ス

第九十三條　通票閉塞器ハ其ノ區間專用ノ通票ヲ收容シ且電鈴ヲ備フルコトヲ要ス

第九十四條　通票閉塞器ハ左ノ條件ヲ具備スル裝置ノモノタルコトヲ要ス

一　通票ハ閉塞區間兩端ノ停車場又ハ信號所ニ於テ協同スルニ非サレハ之ヲ取出シ能ハサルコト

二　閉塞區間兩端ニ於ケル通票閉塞器ニ收容セラレタル通票ハ一箇ニ限リ之ヲ取出スコトヲ得他ノ通票ハ取出サレタル通票ヲ通票閉塞器ニ納入スルニ非サレハ之ヲ取出シ能ハサルコト

三　隣接閉塞區間用ノ通票ヲ收容シ能ハサルコト

第九十五條　隣接閉塞區間ノ通票ハ其ノ形狀ヲ異ニスルコトヲ要ス

第九十六條　列車ハ當該區間ノ通票ヲ携帶スルニ非サレハ其ノ區間ヲ運轉スルコトヲ得ス

第九十七條　列車ノ運轉ニ使用シタル通票ハ通票閉塞器ニ收容シタル後ニ非サレハ之ヲ他ノ列車ノ運轉ニ使用スルコトヲ得ス

第九十八條　第八十二條第一項及第八十三條ノ規定ハ通票閉塞器式ニ之ヲ準用ス

第七節　通票式

第九十九條　通票式ヲ施行スル閉塞區間ニハ通票ヲ備フルコトヲ要ス

通票ハ一閉塞區間ニ一箇トシ其ノ區間兩端ノ停車場名ヲ記入スルコトヲ要ス

第百條　第九十五條及第九十六條ノ規定ハ通票式ニ之ヲ準用ス

第八節　票券式

第百一條　票券式ヲ施行スル場合ニ於テハ對向列車ニ對スル閉塞區間ニハ通票ヲ、其ノ區間兩端ノ停車場ニハ通券ヲ收容シタル通券函ヲ備フルコトヲ要ス

通票ハ對向列車ニ對スル一閉塞區間ニ一箇トシ之ニ其ノ區間兩端ノ停車場名ヲ記入スルコトヲ要ス

第百二條　通券函ハ其ノ區間ノ通票ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ開クコトヲ得サル裝置ノモノタルコトヲ要ス

第百三條　隣接區間ノ通票ハ其ノ形狀ヲ異ニシ、通券ハ其ノ色ヲ異ニスルコトヲ要ス

第百四條　列車ハ當該區間ノ通票又ハ通券ヲ携帶スルニ非サレハ其ノ區間ヲ運轉スルコトヲ得ス

第百五條　通券ニハ其ノ區間兩端ノ停車場名、發行年月日及之ヲ使用スル列車名ヲ記入スルコトヲ要ス

一列車ニ使用シタル通券ハ他ノ列車ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第百六條　列車ニ通券ヲ交付スルトキハ當該區間ノ通票ヲ示スコトヲ要ス

列車ハ當該區間ノ通票ヲ確認スルニ非サレハ通券ヲ受領スルコトヲ得ス

第九節　指導法

第百七條　指導法ヲ施行スル區間ニハ指導者ヲ定ムルコトヲ要ス

指導者ハ對向列車ニ對スル一閉塞區間ニ一人トス

第百八條　指導者ノ氏名及擔當區間ハ豫メ之ヲ關係係員ニ通告スルコトヲ要ス

指導者ハ赤色ノ腕章ヲ著クルコトヲ要ス

第百九條　指導者ハ指導券ヲ發行スルコトヲ得

第百十條　列車ハ當該區間ノ指導者之ニ乘込ミ又ハ指導券ヲ携帶スルニ非サレハ其ノ區間ヲ運轉スルコトヲ得ス

第百十一條　列車ハ指導者ヨリ直接指導券ノ交付ヲ受クルニ非サレハ之ヲ受領スルコトヲ得ス

第百十二條　第百五條ノ規定ハ指導券ニ付之ヲ準用ス

附則

第百十三條　本令ハ大正十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

第百十四條　鐵道運轉規程ハ之ヲ廢止ス

●國有鐵道簡易線運轉規程

（昭和七年五月二十七日　鐵道省令第十號）

【沿革】　昭和七年九月省令第一三號改正

國有鐵道簡易線運轉規程左ノ通定ム

國有鐵道簡易線運轉規程

第一條　國有鐵道簡易線ニ於ケル運轉ハ本規程ノ定ムル所ニ依ル

第二條　本規程ニ規定セザル事項ハ國有鐵道運轉規程ノ定ムル所ニ依ル

連結軸數百ニ對スル制動軸數

線路ノ勾配	千分ノ一〇以下	千分ノ一二	千分ノ一四	千分ノ一六	千分ノ一八	千分ノ二〇	千分ノ二五	千分ノ三〇	千分ノ三五
制動軸數	六	八	一二	一三	一六	一八	二四	三一	三七

線路ノ勾配ニシテ本表ニ掲グルモノノ中間ニ在ル場合ニ於ケル制動軸數ノ割合ハ挿入法ニ依リ算出ス

第三條　列車ノ最大軸數ハ機關車ヲ除キ之ヲ二十軸トス但シ特ニ必要アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第四條　列車ハ貫通制動機ヲ使用シ機關車ヲ除キ其ノ連結現軸數百ニ對シ旅客列車ハ八十以上其ノ他ノ列車ハ五十以上ノ割合ノ制動現軸ヲ備フルコトヲ要ス但シ必要ニ應ジ貫通制動機ノ作用スル車輛ノ後部ニ其ノ制動機ノ作用セザル車輛ヲ連結スルコトヲ得

特種ノ事由アル場合ハ貫通制動機ノ作用セザル列車ヲ運轉スルコトヲ得

第一項但書ノ列車ニ於ケル貫通制動機ノ作用セザル部分及第二項ノ列車ニ於テハ線路ノ勾配ニ應ジ其ノ連結軸數ニ對シ左ノ割合以上ノ制動軸ヲ備フルコトヲ要ス

第五條　列車ノ後部（推進ノ場合ニ於テハ前頭）ニハ制動筒附車輛ヲ連結スルコトヲ要ス

前條第一項但書及同條第二項ノ列車ニハ其ノ後部（推進ノ場合ニ於テハ前頭）ニ緩急車ヲ連結シ之ニ車掌ヲ乘務セシムベシ

前二項ノ場合ニ於テ列車ノ後部ニ制動機ノ作用セザル貨車又ハ廻送車輛ハ一輛ニ限リ之ヲ連結スルコトヲ得

第六條　列車ノ後部標識ハ之ヲ掲ゲザルコトヲ得但シ左ノ各號ノ列車ニ對シテハ之ヲ省略スルコトヲ得ズ

一　臨時列車ノ運轉ヲ豫メ關係ノ向ニ通告スル能ハザル場合ニ於テ之ニ先チ同方向ニ運轉スル直前ノ列車

二　事故ノ爲隔時法ニ依リ運轉スル列車

第七條　安全側線又ハ脫線裝置等ノ設備ナキ停車場ニ於テハ左ノ條件ヲ具備スル場合ニ限リ上下列車ヲ同時ニ進入セシムルコトヲ得

一　上下列車ガ何レモ貫通制動機ヲ使用スルトキ

二　最遠轉轍器外八十米以内ニ千分ノ十ヨリ急ナル勾配ナキトキ

第八條　本線路ニ於ケル轉轍器ハ列車對向シテ通過スルトキ之ヲ鎖錠シ又ハ其ノ取柄ヲ支持スルコトヲ要スル但シ發條轉轍器ハ此ノ限ニ在ラズ

第九條　列車ハ出發合圖アルニ非ザレバ停車場ヲ出發スルコトヲ得ズ但シ特別ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十條　列車ガ停車場ニ進入スベキ時刻ノ十分時前ヨリ到著スル迄ハ其ノ方面ニ於テ停車場外ニ亘リ列車又ハ車輛ノ入換ヲ爲スコトヲ得ズ

第十一條　列車ハ一時間四十五粁ノ速度ヲ超エテ運轉スルコトヲ得ズ但シ軌道及橋梁ニ對シ其ノ負擔力ヨリ大ナル影響ヲ與ヘザル場合ハ一時間六十五粁迄增スコトヲ得

〔註〕　本條但書ハ氣動車運轉ノ如キ場合ヲ考慮セルモノナリ

第十二條　列車ノ行進ヲ爲ス場合ニ於ケル停車場進入速度ハ對向轉轍器通過ノ際一時間二十粁以下タルコトヲ要ス

第十三條　半徑六百米以下ノ曲線ニ於テハ列車ハ左ノ速度ヲ超エテ運轉スルコトヲ得ズ

曲線半徑（米）	速度（一時間ニ付粁）線路ノ分岐附帶セザル曲線ノ場合	速度（一時間ニ付粁）線路ノ分岐ニ附帶スル曲線ノ場合
六〇〇	六〇	四五
五〇〇	五五	四〇
四〇〇	五〇	三五
三〇〇	四五	三〇
二〇〇	三五	二五
一〇〇	二〇	一五

曲線半徑本表ニ掲グルモノノ中間ニ在ル場合ノ速度ハ挿入法ニ依リ算出ス

第十四條　閉塞區間ニ於ケル閉塞ハ票券式ト通信閉塞式トノ併用ニ依ルヲ通例トス

附　則

本令ノ適用ニ當タリ既設線路ニシテ現ニ一時間四十五粁ヲ超ユル速度ヲ以テ列車ノ運轉ヲナス區間ニ在リテハ當分ノ内軌道及橋梁ノ負擔力ノ範圍内ニ於テ第十一條ノ制限ヲ超過スルコトヲ得但シ一時間六十五粁ヲ超ユルコトヲ得ズ

●國有鐵道信號規程（大正十年十月十四日鐵道省令第三號）

【沿革】大正十一年十月省令第四號、同十三年十二月同第二號、昭和三年三月同第二號、同五年五月同第五號、同六年八月同第二號、同十年六月同第三號改正

國有鐵道信號規程左ノ通定ム

國有鐵道信號規程

第一章　總則

第一條　國有鐵道ニ於ケル信號、合圖及標識ノ方式ハ本規程ノ定ムル所ニ依ル但シ特別ノ事情アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　晝間ト夜間トニ依リ現示方式ヲ異ニスル信號、合圖及標識ハ日出ヨリ日沒迄ハ晝間ノ方式、日沒ヨリ日出迄ハ夜間ノ方式ニ依ル但シ天候ノ狀態ニ依リ相當距離ヨリ晝間ノ現示ヲ認識シ難キトキハ夜間ノ方式ニ依ル

第三條　隧道內ニ於ケル信號、合圖及標識ハ夜間ノ方式ニ依ル但シ長一粁以下ノ隧道內ニ於ケル列車標識ハ此ノ限ニ在ラス

第二章　信號

第一節　常置信號機

第四條　常置信號機ノ主ナル種類左ノ如シ

一　場內信號機　停車場ニ進入セムトスル列車ニ對スルモノ

二　出發信號機　停車場ヨリ進出セムトスル列車ニ對スルモノ

三　閉塞信號機　閉塞區間ニ進入セムトスル列車ニ對スルモノ

四　掩護信號機　特ニ防護ヲ要スル箇所ヲ通過セムトスル列車ニ對スルモノ

五　遠方信號機　前四號ノ常置信號機ニ從屬シ主體ノ信號機ニ向テ進行スル列車ニ對スルモノ

六　誘導信號機　場內信號機又ハ出發信號機ニ停止信號ノ現示アル場合誘導ヲ受クヘキ列車ニ對スルモノ

七　入換信號機　入換スヘキ列車又ハ車輛ニ對スルモノ

第五條　常置信號機ハ向テ之ヲ視ルトキ左腕、色燈又ハ燈列ヲ以テ左ノ方式ニ依リ信號ヲ現示ス

一　場內信號機、出發信號機、閉塞信號機及掩護信號機

三位式ニ依ル現示

腕木式

停止信號　晝間　腕水平
夜間　赤色燈

注意信號　晝間　腕上向四十五度
夜間　橙黃色燈

進行信號　晝間　腕上向九十度
夜間　綠色燈

減速信號　晝間　上位橙　下位綠
夜間　黃色燈　色燈

二　遠方信號機

主體ノ信號機カ三位式ニ依ル場合ノ現示

腕木式

注意信號　晝間　腕上向四十五度
夜間　橙黃色燈

進行信號　晝間　腕上向九十度
夜間　綠色燈

三　誘導信號機

燈列式ニ依ル現示

進行信號　晝間　白色燈列左下向四十五度
夜間

四　入換信號機

三位式ニ依ル現示

燈列式

停止信號　晝間　白色燈列水平
夜間

二位式ニ依ル現示

腕木式

停止信號　晝間　腕水平
夜間　赤色燈

（注意信號）　晝間　腕上向四十五度
夜間　橙黃色燈

（進行信號）　晝間　腕下向四十五度
夜間　綠色燈

色燈式

注意信號　晝間　橙黃色燈
夜間

進行信號　晝間　綠色燈
夜間

腕木式ニ依ル現示

晝間　腕下向四十五度
夜間　綠色燈

色燈式ニ依ル現示

晝間　綠色燈
夜間

二位式ニ依ル現示

腕木式

晝間　腕水平
夜間　赤色燈

燈列式

晝間　白色燈列水平
夜間

注意信號　晝間　白色燈列左下向四十五度
　　夜間
進行信號　晝間　白色燈列垂直
　　夜間
上リ勾配區間ニ於ケル自動ノ閉塞信號機ニハ必要ニ應シ左ノ方式ニ依リ徐行許容標ヲ添裝ス
晝間　白色緣ノ群青色圓板
夜間　紫色燈

第六條　場內信號機、出發信號機、閉塞信號機、掩護信號機及入換信號機ハ停止信號ヲ、遠方信號機ハ注意信號ヲ現示シ誘導信號機ハ信號ヲ現示セサルヲ其ノ定位トス但シ自動ノ閉塞信號機及其ノ遠方信號機ハ進行信號ヲ現示スルヲ其ノ定位トス

第七條　常置信號機ノ腕ハ長方形トス但シ腕端ハ自動ノ閉塞信號機ニ在リテハ尖形、出發信號機ノ遠方信號機ニ在リテハ撥形、其ノ他ノ遠方信號機ニ在リテハ矢筈形トス

常置信號機ノ腕ノ表面ハ遠方信號機ニ在リテハ橙黃色、其ノ他ノ信號機ニ在リテハ赤色トシ腕端ニ近ク之ト竝行シテ遠方信號機ニ在リテハ黑色、其ノ他ノ信號機ニ在リテハ白色線ヲ劃ス

常置信號機ノ腕ノ背面ハ白色トシ腕端ニ近ク之ト竝行シテ黑色線ヲ劃ス

第八條　常置信號機ノ現示ヲ夜間後方ヨリ識別スル爲用フル背面光ハ左ノ方式ニ依ル

一　遠方信號機　大ナル白光
　　注意信號　小ナル白光
　　進行信號
二　其ノ他ノ信號機

停止信號
注意信號及進行信號
同一柱ニ於テ同一種類ノ信號二以上ヲ現示スル場合ニ於テハ最上位ニ在ルモノハ最左側ノ線路ニ、以下順次右方ノ線路ニ關スルモノトス但シ自動閉塞式施行區間ニ於ケル場內信號機、出發信號機及閉塞信號機ニ在リテハ最上位ノモノハ最主要ノ線路ニ關スルモノトス

第九條

第二節　臨時信號機

第十條　臨時信號機ノ種類及現示方式左ノ如シ

一　停止信號機
　　停止信號　晝間　白色緣ノ赤色長方形板
　　夜間　赤色燈
二　徐行信號機
　　徐行信號　晝間　白色緣ノ橙黃色圓板
　　夜間　橙黃色燈
三　徐行解除信號機
　　徐行解除信號　晝間　白色緣ノ綠色圓板
　　夜間　綠色燈

臨時信號機ノ標板ノ背面及背面光ハ白色トス但シ單線ニ於テハ徐行信號機ノ標板及燈ノ背面ニ徐行解除信號ヲ現示スルコトヲ得

第三節　手信號

第十一條　信號機ナキ場合及之ヲ用フルコト能ハサル場合ニ於テ使用スル手信號ノ現示方式左ノ如シ

停止信號
晝間　赤色旗
但シ已ムコトヲ得サル場合ニ於テハ兩腕ヲ高ク擧ケ又ハ綠色旗以外ノ物ヲ急激ニ振リテ之ニ代フルコトヲ得
夜間　赤色燈
但シ已ムコトヲ得サル場合ニ於テハ綠色燈以外ノ燈ヲ急激ニ振リテ之ニ代フルコトヲ得

進行信號
晝間　綠色旗
但シ已ムコトヲ得サル場合ニ於テハ片腕ヲ高ク擧ケテ之ニ代フルコトヲ得
夜間　綠色燈

徐行信號
晝間　頭上ニ高ク交叉シタル赤色旗及綠色旗
夜間　明滅スル綠色燈

第十二條　入換ヲ爲ス場合ニ於テ使用スル手信號ノ現示方式左ノ如シ

信號者ノ方ヘ來レ
晝間　綠色旗ヲ左右ニ振ル
但シ已ムコトヲ得サル場合ニ於テハ片腕ヲ左右ニ動カシテ之ニ代フルコトヲ得
夜間　綠色燈ヲ左右ニ振ル

信號者ヨリ去レ
晝間　綠色旗ヲ上下ニ振ル
但シ已ムコトヲ得サル場合ニ於テハ片腕ヲ上下ニ動カシテ之ニ代フルコトヲ得
夜間　綠色燈ヲ上下ニ振ル

停止信號
晝間　赤色旗
但シ已ムコトヲ得サル場合ニ於テハ兩腕ヲ高ク擧ケテ之ニ代フルコトヲ得
夜間　赤色燈

第四節　發雷信號

第十三條　發雷信號ハ雷管ノ爆發ニ依リ停止信號ヲ現示ス

雷管ハ相當距離ヲ隔テテ二箇所以上ニ之ヲ裝置スルモノトス

第三章　合圖

第十四條　列車ノ出發合圖ハ左ノ方式ニ依ル但シ手笛吹鳴ヲ併用スルコトヲ妨ケス

晝間　片腕ヲ高ク擧ク
夜間　綠色燈ヲ圓形ニ動カス

第十五條　保線係員ニ對シ直ニ線路ヲ檢査スヘキコトヲ請求スル場合ニ於テ列車乘務員ノ爲ス合圖ハ左ノ方式ニ依ル

晝間　帽又ハ其ノ他ノ物ヲ緩ニ振ル
夜間　燈ヲ緩ニ振ル

第十六條　氣笛合圖ハ左ノ方式ニ依ル

運轉ヲ始ムルトキ其ノ他注意ヲ促ストキ　適度氣笛一聲
列車ノ接近ヲ告クルトキ　長緩氣笛一聲

制動機ノ緊締ヲ促ストキ　短急氣笛三聲
制動機ノ緩解ヲ促ストキ　適度氣笛二聲
危險ヲ警告スルトキ　短急氣笛數聲
列車ノ分離シタルトキ　短急氣笛數聲及適度氣笛一聲
保線係員ヲ招集スルトキ　長緩氣笛數聲
列車防護ノ解除ヲ告クルトキ　長緩氣笛及短急氣笛各一聲
機關車二輛以上ヲ連結スル列車退行セムトスルトキ　短急氣笛二聲及適度氣笛一聲

第四章　標識

第一節　列車標識

第十七條　列車ノ前部標識ハ左ノ方式ニ依ル

晝間　無標識　但シ臨時列車(電車ヲ除ク)ニハ機關車前面ノ中央上部ニ白色圓板一箇

夜間　機關車前面ノ中央上部ニ白色燈一箇　但シ臨時列車(電車ヲ除ク)ニハ更ニ機關車前部端梁ノ左側ニ白色燈一箇

前項ノ規定ハ機關車ヲ前頭ニ連結セサル列車ニ付之ヲ準用ス

第十八條　列車ノ後部標識ハ左ノ方式ニ依ル

晝間　後部車輛ノ後部端梁ノ左側ニ赤色圓板一箇但シ電車ニ限リ之ヲ省略スルコトヲ得

夜間　後部車輛ノ後部端梁ノ左側ニ赤色燈一箇

臨時列車ト同方向ニ運轉スル直前ノ列車(電車ヲ除ク)ニハ前項ノ標識ノ外左ノ標識ヲ掲ク

晝間　後部車輛ノ後部端梁ノ右側ニ赤色圓板一箇但シ已ムコトヲ得サル場合ハ赤色旗ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

夜間　後部車輛ノ後部端梁ノ右側ニ赤色燈一箇

第十九條　列車標識ノ圓板ハ同色緣ノ燈器ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第二節　入換機關車標識

第二十條　入換機關車ノ標識ハ左ノ方式ニ依ル

晝間　無標識

夜間　前部端梁ノ右側及後部端梁ノ左側ニ赤色燈各一箇

第三節　轉轍器標識

第二十一條　轉轍器ノ標識ハ左ノ方式ニ依ル

轉轍器定位ニ在ルトキ
- 晝間　前方及後方ヘ中央ニ白色線一條ヲ横ニ劃シタル群青色圓板
- 夜間　前方及後方ヘ紫色燈

轉轍器反位ニ在ルトキ
- 晝間　前方及後方ヘ中央ニ黑色線一條ヲ矢筈ニ劃シタル橙黃色矢羽形板
- 夜間　前方及後方ヘ橙黃色燈

第四節　遷移轉轍器、脫線轉轍器及脫線器ノ標識

第二十二條　遷移轉轍器、脫線轉轍器及脫線器ノ標識ハ左ノ方式ニ依ル

脫線セシムヘキ位置ニ在ルトキ
- 晝間
  - 前方ヘ白色線ノ赤色長方形板
  - 後方ヘ白色長方形板
- 夜間
  - 前方ヘ赤色燈
  - 後方ヘ白色燈

脫線セシムルコトナキ位置ニ在ルトキ
- 晝間　前方及後方ヘ中央ニ黑色線一條ヲ横ニ劃シタル橙黃色菱形板
- 夜間　前方及後方ヘ橙黃色燈

第五節　車止標識

第二十三條　車止ノ標識ハ左ノ方式ニ依ル

晝間　無標識

夜間　×形白色燈

附　則

第二十四條　本規程ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十五條　鐵道信號規程ハ之ヲ廢止ス

本規程施行前工事ニ著手シ又ハ竣功シタル信號機及標識等ニシテ第七條第二項、第十七條及第二十二條ノ規定ニ抵觸スルモノハ六月內ニ、第十條ノ規定ニ抵觸スルモノハ一年內ニ、第五條ノ規定ニ抵觸スルモノハ二年內ニ、第二十三條ノ規定ニ抵觸スルモノハ三年內ニ之ヲ改築スルコトヲ要ス

●鐵道運輸規程

(昭和十七年二月二十三日鐵道省令第三號)

鐵道運輸規程左ノ通改正ス

鐵道運輸規程

第一章　總則

第一條　鐵道ハ運輸ノ安全便益ヲ旨トシ係員ヲシテ懇切ニ其ノ職務ヲ行ハシムベシ

第二條　旅客、貨主及公衆ハ鐵道係員ノ職務上ノ指圖ニ從フベシ

第三條　旅客、手荷物又ハ貨物ノ取扱ニ關スル鐵道ノ處置ヲ不當ナリトシテ申告ヲ爲シタル者ニ對シテハ鐵道ハ遲滯ナク之ガ辯明ヲ爲スベシ但シ氏名及住所ヲ明示セザル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第四條　鐵道ハ停車場ニ運賃表、料金表、旅客列車(混合列車ヲ含ム以下同ジ)ノ時刻表其ノ他運輸上必要ナル諸表規則等ヲ備附クベシ

第五條　鐵道ハ旅客又ハ貨主ニ對シ通知ヲ發スベキ場合ニ於テ其ノ實ニ歸スベカラザル事由ニ因リ之ヲ發スルコト能ハザルトキ又ハ著シク困難ナルトキハ當該停車場ニ於ケル掲示ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第六條　鐵道ガ朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ外國ノ鐵道及之等ノ地域ニ至ル船舶ト通シ運送ヲ爲ス場合ニ於ケル運送ニ關シテハ鐵道ハ鐵道大臣ノ認可ヲ受ケ本令ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第七條　第十九條、第二十八條乃至第三十四條、第五十七條、第七十條、第七十三條乃至第七十五條及第七十八條乃至第八十條ノ規定ハ鐵道ト通シ運送ヲ爲ス場合ニ於ケル軌道、自動車又ハ索道ニ依ル運送ニ之ヲ準用ス

第二章　旅客運送

第八條　鐵道ハ停車場ニ當該停車場ヨリノ旅客運賃表及當該停車場ニ於ケル旅客列車ノ出發時刻表ノ摘要ヲ掲示スベシ

鐵道ハ主要ナル停車場ニハ當該停車場ニ於ケル旅客列車ノ到著時刻表ノ摘要ヲ掲示スベシ

第一項ノ出發時刻表ニハ終著停車場ノ名稱、列車及之ニ連結スル客車ノ種類竝ニ連結列車ノ編要ヲ附記スベシ

第九條　鐵道ハ旅客列車ガ著シク遲延シテ發著シ又ハ其ノ運轉ヲ中斷シ若ハ休止シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ關係停車場ニ掲示スベシ

第十條　鐵道ハ旅客ノ同伴スル六年未滿ノ小兒ヲ旅客一人ニ付少クトモ一人迄無賃ヲ以テ運送スベシ

割引乘車券ヲ以テ乘車スル旅客又ハ乘車位置ノ指定ヲ爲ス列車若ハ客車ニ乘車シ特ニ小兒ノ爲其ノ座席ヲ請求スル旅客ニ付テハ鐵道ハ鐵道大臣ノ認可ヲ受ケ前項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

鐵道ハ十二年未滿ノ小兒ヲ第一項ノ規定ニ依リ無賃ヲ以テ運送スルモノヲ除キ大人ノ運賃ノ半額ヲ以テ運送スベシ

前項ノ規定ニ依ル運賃ニ十錢未滿ノ端數アルトキハ鐵道ノ定ムル所ニ依リ切上ゲ計算ヲ爲スコトヲ得

第十一條　鐵道ハ旅客ニ對シ運賃及料金ノ正算拂ヲ請求スルコトヲ得

第十二條　乘車券ニハ適用區間、適用期間、客車ノ等級、運賃額及發行ノ日附ヲ記載スルコトヲ要ス

特種ノ乘車券ニ在リテハ前項ノ規定ニ依ル記載事項ヲ省略スルコトヲ得

第十三條　乘車券ハ其ノ適用區間中何レノ部分ニ付テモ其ノ效力ヲ有ス但シ特種ノ乘車

券又ハ列車ニ付鐵道ガ鐵道大臣ノ認可ヲ受ケ別段ノ定ヲ爲シタルトキハ其ノ限ニ在ラズ

鐵道ハ前項ノ規定ニ拘ラズ乘繼停車場ヲ限定スルコトヲ得

第十四條　旅客ハ改札前旅行ヲ止メタルトキハ乘車券ノ發行當日ニ限リ當該乘車券ヲ返還シテ運賃ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ鐵道ハ相當ノ手數料ヲ請求スルコトヲ得

旅客ハ改札後乘車券相當ノ座席ナキ爲旅行ヲ止メタルトキハ遲滯ナク鐵道係員ノ認諾ヲ受ケ當該乘車券ヲ返還シテ運賃ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

前二項ノ場合ヲ除ク外旅客ハ旅行ヲ止メタルコトヲ事由トシテ運賃ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ズ

第十五條　旅客ハ乘車券相當ノ座席ナキトキハ除メ鐵道係員ノ認諾ヲ受ケ下級車ニ乘車シテ運賃ノ差額ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ヲ除ク外旅客ハ下級車ニ乘車シタルコトヲ事由トシテ運賃ノ差額ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ズ

旅客ハ除メ鐵道係員ノ認諾ヲ受ケ鐵道ノ定ムル運賃ヲ支拂ヒ上級車ニ乘車スルコトヲ得

第十六條　旅客ハ列車ニ乘後レタル爲發行當日限リ通用ノ乘車券ガ其ノ效力ヲ失フベキ場合ニ於テハ遲滯ナク當該乘車券ヲ鐵道係員ニ提出シ其ノ翌日迄通用期間ノ延長ヲ請求スルコトヲ得但シ特ニ列車ヲ指定シタル乘車券ヲ所持スル旅客ニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

第十七條　天災事變其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ列車ノ運轉ヲ中斷シタルトキハ鐵道ハ旅客ニ對シ相當ノ便宜ヲ與ヘ之ガ保護ヲ爲スベシ

前項ノ場合ニ於テ旅客ノ請求アルトキハ出發停車場迄無賃ヲ以テ送還スベシ

前項ノ規定ニ依リ旅客ヲ送還スル場合ニ於テハ鐵道ハ既ニ運送シタル區間ニ對スル運賃ヲ控除シ殘額ノ拂戻ヲ爲スベシ

第十八條　列車ガ遲延シテ到著シタル爲旅客ガ相當ノ時間中ニ接續スル列車ニ乘織グコト能ハザルトキハ鐵道ハ旅客ノ請求ニ因リ出發停車場（途中下車シタルトキハ其ノ最近下車停車場）迄無賃ヲ以テ送還スベシ但シ旅客ガ出發停車場ニ向ヒ運轉スル最初ノ列車ヲ以テ中斷ナク復歸スル場合ニ限ル

前項ノ規定ニ依リ旅客ヲ送還スル場合ニ於テハ鐵道ハ既ニ支拂ヲ受ケタル運賃（途中下車シタルトキハ其ノ最近下車停車場ト出發停車場トノ區間ニ對スル運賃ヲ控除シタル殘額）ノ拂戻ヲ爲スベシ

第十九條　有效ノ乘車券ヲ所持セズシテ乘車シタル乘車券ノ檢査ヲ拒ミ若ハ取集ノ際之ヲ渡サザル者ニ對シ鐵道ハ其ノ旅客ガ乘車シタル區間ニ對スル相當運賃及其ノ二倍以內ノ增運賃ヲ請求スルコトヲ得

第二十條　旅客ハ列車ノ出發合圖アリタル後ハ乘車スルコトヲ得

旅客ハ列車ガ停車場ニ停車シタル後ニ非ザレバ下車スルコトヲ得ズ

旅客ハ列車ガ停車場外ニ於テ停車シタルトキハ鐵道係員ノ許諾ヲ受クルニ非ザレバ下車スルコトヲ得ズ

第二十一條　旅客ハ左ニ掲グル行爲ヲ爲スベカラズ

一　秩序ヲ紊シ又ハ風俗ヲ害スル行爲

二　保健衛生上有害ナル行爲

三　車輛、器具其ノ他鐵道ノ設備ヲ損壞スベキ虞アル行爲

四　他人ニ危害ヲ及ボスベキ虞アル行爲

第二十二條　鐵道ハ時刻表ニ指示シタル列車ヲ其ノ時刻前ニ出發セシムルコトヲ得ズ

鐵道ハ天災事變其ノ他已ムコトヲ得ザル事由アル場合又ハ公益上ノ急要アル場合ヲ除クノ外時刻表ニ指示シタル列車ノ運轉ヲ休止スルコトヲ得ズ

第二十三條　旅客ハ自ラ携帶シ得ル物品ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當セザルモノニ限リ之ヲ客車內ニ持込ムコトヲ得

一　爆發質、自然發火質、腐蝕質其ノ他危害ヲ他ニ及ボスベキ虞アル物品但シ携帶制限ヲ超エザル火藥類ヲ除ク

二　酒精、油類其ノ他引火易キ物品但シ旅行中使用スル少量ノモノヲ除ク

三　煙硝及煙硝但シ醫中用ノモノ又ハ直ニ使用シ得ザルモノヲ除ク

四　死體

五　動物但シ鐵道ニ於テ客車內ニ携帶スルコトヲ許諾シタル小動物ニシテ同乘者ニ迷惑ヲ及ボスベキ虞ナキモノヲ除ク

六　不潔、臭氣等ノ爲同乘者ニ迷惑ヲ及ボスベキ虞アル物品

七　座席又ハ通路ヲ塞グベキ虞アル物品及客車ヲ毀損スベキ虞アル物品

前項ノ物品ニ付テハ旅客自ラ之ヲ保管スル責ニ任ズ

第二十四條　旅客ガ前條第一項第一號乃至第六號ニ掲グル物品ヲ客車內ニ持込ミ又ハ持込マントシタルトキハ鐵道係員ハ旅客ヲ車外又ハ鐵道地外ニ退去セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ旅客ハ既ニ支拂ヒタル運賃及料金ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ズ

鐵道ハ前二項ノ規定ニ依ル外其ノ物品ニ付乘車券ニ記載シタル通用區間（有效ノ乘

車券ヲ所持セザルトキハ乘車列車ノ運轉區間）ニ對スル相當運賃及其ノ十倍以內ノ增運賃竝ニ前條第一項第一號及第二號ニ掲グル物品ニ在リテハ尙其ノ重量一瓩ニ付金千圓以內ノ增運賃ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ損害賠償ノ請求ヲ妨ゲズ

第二十五條　旅客ガ第二十三條第一項第七號ニ掲グル物品ヲ客車內ニ持込ミタルトキハ鐵道ハ其ノ物品ニ付旅客ノ乘車區間ニ於ケル運送ノ委託ヲ受ケタルモノト看做シ相當運賃ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其ノ物品ガ直ニ運送ノ引受ヲ爲スニ適セザルモノナルトキハ鐵道ハ旅客ヲ最近停車場ニ下車セシメ且其ノ物品ニ付既ニ運送シタル區間ニ對スル相當運賃ヲ請求スルコトヲ得

第三章　荷物運送

第一節　通則

第二十六條　旅客又ハ荷送人ハ託送手荷物又ハ貨物ノ種類、性質、重量、運送距離其ノ他運送ノ態樣ニ從ヒ其ノ滅失、毀損及鐵道ノ設備又ハ他ノ託送手荷物若ハ貨物其ノ他ニ對スル損害ヲ生ゼシメザル樣適當ナル荷造ヲ爲スベシ

第二十七條　荷送人ハ貨物ノ外面ニ其ノ品名、到達停車場ノ名稱、荷送人及荷受人ノ氏名若ハ商號及住所竝ニ配達ヲ爲スベキモノニ在リテハ其ノ關係ヲ明瞭ニ記載シ又ハ之等ノ事項ヲ記載セル荷札ヲ添附スベシ旅客ガ託送スル手荷物ニ付亦同ジ

第二十八條　左ニ掲グルモノヲ高價品トス

一　金貨、銀貨、紙幣、銀行券、軍用手票、印紙、郵便切手及公債證書、大藏省證券、株券、債券、商品券其ノ他ノ有價證券竝ニ金、銀、白金其ノ他ノ貴金屬、イリヂウム、タングステン其ノ他ノ稀金屬、金剛石、紅玉、雜柱石、琥珀、眞珠其ノ他ノ寶玉石、象牙、鼈甲、珊瑚及其ノ各製品

二　美術品及骨董品

三　容器荷造ヲ加ヘ一瓩ノ價格金八十圓ノ割合ヲ超ユル物但シ動物ヲ除ク

高價品ト高價品ニ非ザルモノトヲ混ゼル場合ニ於テ容器荷造ヲ加ヘ一瓩ノ價格金八十圓ノ割合ヲ超エザルトキハ之ヲ高價品ニ非ザルモノト看做ス

第一項第三號及前項ノ場合ニ於ケル重量及價格ハ一荷造毎ニ之ヲ計算ス

第二十九條　要償額ノ表示ハ運送狀ヲ提出スル場合ニ於テハ運送狀ニ之ヲ記載シ、運送狀ヲ提出セザル場合ニ於テハ鐵道ノ定ムル要償額申告書ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第五十三條ノ規定ハ前項ノ要償額申告書ニ之ヲ準用ス

第三十條　要償額ノ表示料ハ左ノ割合ヲ超ユルコトヲ得ズ

一	託送手荷物（第二號及第三號ニ該當スルモノヲ含ム）	表示額金百圓迄毎ニ	金十錢
二	高價品	同	金十錢
三	動物	金千圓迄ノ部分ニ付テハ	金三十錢
		金千圓ヲ超エル部分ニ付テハ	金五十錢
四	其ノ他ノ貨物	同	金五錢

前項ノ規定ハ一口ニ付金十錢ヲ超エザル範圍內ニ於テ最低料金ヲ設定スルコトヲ妨ゲズ

（鐵道營業法第十一條第二項ノ規定ニ依ル超過部分ニ對スル表示料ニ付テハ之ガ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ズ

第三十一條　託送手荷物又ハ貨物ニ對スル引渡期間ハ左ノ各號ノ期間ヲ合算シタルモノトス

一　發送期間

二　輸送期間

三　集配期間

發送期間ハ託送手荷物ニ在リテハ運送ノ爲受取リタル日トシ其ノ他ノ貨物ニ在リテハ運送ノ爲受取タル日及其ノ翌日トス但シ第五十六條ノ規定ニ依リ受取リタル貨物ニ在リテハ之ヲ發送シ得ルニ至リタル日ヲ以テ運送ノ爲受取リタル日ト看做ス

輸送期間ハ運賃計算ノ場合ニ於ケル輸送ノ經路ニ由リ各鐵道毎ニ左ノ各號ノ通トス

一　託送手荷物ニ付テハ四百粁迄毎ニ一日

二　貨物ニ付テハ百六十粁迄毎ニ一日

集配期間ハ停車場外ニ於テ託送手荷物又ハ貨物ノ受取又ハ引渡ヲ爲ス場合ニハ其ノ各ニ付一日トス

鐵道ノ責ニ歸スベカラザル事由ニ因リ前各項ノ規定ニ依リ計算シタル引渡期間滿了後託送手荷物又ハ貨物ノ引渡アリタル場合ニ於テハ其ノ遲延日數丈ケ引渡期間ハ延長セラレタルモノト看做ス

前各項ノ規定ニ依リ計算シタル引渡期間滿了後託送手荷物又ハ貨物ノ引渡アリタル場合ニ於テハ鐵道ガ其ノ引渡ノ準備ヲ爲シ且到達ノ通知ヲ發スベキモノニ付其ノ通知ヲ發シタルトキハ其ノ後ノ期間ニ付テハ鐵道ノ責ニ歸スベキ事由アル場合ヲ除クノ外引渡期間ハ之ヲ超過セザリシモノト看做ス

第三十二條　鐵道ハ運送ヲ引受ケタル動物ニ付テハ之ガ飼養ノ責ニ任ゼズ

第三十三條　鐵道ハ託送手荷物又ハ貨物ガ損敗スベキ虞アル場合ニ於テハ旅客又ハ貨主ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ其ノ處分ニ付指圖ヲ爲スベキ旨ヲ催告スベシ

前項ノ場合ニ於テ旅客若ハ貨主ガ指圖ヲ爲

サザルトキ又ハ其ノ指圖ヲ待ツコト能ハザルトキハ鐵道ハ旅客又ハ貨主ノ費用ヲ以テ之ヲ公賣スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ公賣ヲ爲シタルトキハ鐵道ハ遅滯ナク之ヲ旅客又ハ貨主ニ通知スベシ

第二項ノ規定ニ依リ公賣ヲ爲シタル場合ニ於テハ鐵道ハ其ノ費却代金ヲ運賃、料金其ノ他ノ費用ノ辨濟ニ充當シ殘額アルトキハ之ヲ旅客又ハ貨主ニ交付シ不足額アルトキハ之ガ支拂ヲ請求スルコトヲ得

第三十四條　鐵道ハ託送手荷物又ハ貨物ノ引渡ヲ爲ス際滅失、毀損又ハ延着ヲ事由トシテ旅客又ハ貨主ノ請求アルトキハ其ノ引渡品ノ價額、狀態又ハ引渡ノ年月日ニ付證明ヲ爲スコトヲ要ス

第三十五條　第二十四條ノ規定ハ旅客又ハ公衆ガ物品ノ無賃運送ヲ圖リ因テ運賃ヲ逋脫シ又ハ逋脫セントシタル場合ニ之ヲ準用ス

第二節　手荷物運送

第三十六條　旅客ハ其ノ旅行ニ必要ナル物品ヲ手荷物トシテ託送スルコトヲ得

鐵道ハ鐵道大臣ノ認可ヲ受ケ旅客ガ手荷物トシテ託送シ得ベキ物品ノ種類、重量又ハ容積ヲ制限スルコトヲ得

特種ノ鐵道又ハ列車ニ在リテハ鐵道ハ鐵道大臣ノ認可ヲ受ケ手荷物ノ運送ヲ爲サザルコトヲ得

第三十七條　旅客ハ火藥類其ノ他ノ危險品、危害ヲ他ニ及ボスベキ虞アル物品又ハ臭氣ヲ發シ若ハ不潔ナル物品ヲ手荷物トシテ託送スルコトヲ得ズ

第三十八條　鐵道ハ旅客一人ニ付少クトモ一箇ノ手荷物ヲ其ノ重量二十瓩迄ハ無賃ヲ以テ運送スベシ

動物其ノ他特種ノ手荷物又ハ特種ノ乘車券ヲ以テ乘車スル旅客ノ手荷物ニ付テハ鐵道ハ鐵道大臣ノ認可ヲ受ケ前項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第三十九條　旅客ハ手荷物ヲ託送セントスルトキハ其ノ乘車券ヲ鐵道係員ニ呈示スベシ

第四十條　鐵道ハ運送ノ爲手荷物ヲ受取リタルトキハ手荷物符票ヲ交付スベシ

第四十一條　鐵道ハ託送手荷物ヲ旅客ト同一列車ヲ以テ運送スベシ但シ運送上ノ支障アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第四十二條　鐵道ハ手荷物符票ヲ所持スル旅客ニ託送手荷物ノ引渡ヲ爲スベシ

旅客ガ手荷物符票ヲ所持セズシテ託送手荷物ノ引渡ヲ請求シタルトキハ鐵道ハ當該旅客ガ其ノ權利ヲ證明シ又ハ相當ノ擔保ヲ供シタル場合ニ限リ之ガ引渡ヲ爲スコトヲ得

第四十三條　鐵道ハ隙メ旅客ノ請求アルトキハ途中停車場ニ於テ託送手荷物ノ引渡ヲ爲スベシ但シ運送上ノ支障アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ場合ニ於テハ旅客ハ即チ支拂ヒタル運賃ヲ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ズ

第四十四條　鐵道ハ第十七條第二項又ハ第十八條第一項ノ規定ニ依リ送還スル旅客ノ託送手荷物ヲ其ノ旅客ガ送還セラルベキ區間ニ限リ無賃ヲ以テ之ヲ返送スベシ

第十七條第三項又ハ第十八條第二項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ返送スル託送手荷物ノ運賃ノ拂戻ニ之ヲ準用ス

第四十五條　旅客ガ託送手荷物ノ到達シタル後二十四時間内ニ之ヲ引取ラザルトキハ鐵道ハ其ノ後ノ時間ニ對シ相當ノ保管料ヲ請求スルコトヲ得

第四十六條　第五十九條ノ規定ハ旅客ガ手荷物トシテ託送シ得ザル物品ヲ他ノ品名ニ依リ託送シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三節　貨物運送

第四十七條　貨物ヲ託送セントスル者ハ鐵道ノ許諾ヲ受ケタルトキハ當該貨物ヲ託送スルニ至ル迄自己ノ責任ヲ以テ停車場其ノ他鐵道地内ニ一時之ヲ留置スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ鐵道ハ相當ノ留置料ヲ請求スルコトヲ得

第四十八條　貨物ヲ託送セントスル者ハ鐵道ノ定ムル時間内ニ其ノ手續ヲ爲スベシ

第四十九條　死體ヲ託送セントスル者ハ死亡證書ヲ呈示シテ之ガ運送ノ申込ヲ爲スベシ

死體ノ託送人ハ運送狀ニ死亡證書ノ寫ヲ添附スベシ

第五十條　荷送人ハ貨物ヲ託送スル際運送狀ヲ提出スルコトヲ要ス

運送狀ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス但シ貸切貨車積以外ノ貨物ノ運送狀ニ在リテハ鐵道ノ定ムル所ニ依リ第一號乃至第三號ニ掲グル事項ヲ省略スルコトヲ得

一　貨物ノ品名、重量又ハ容積及其ノ荷造ノ種類、箇數竝ニ記號

二　發送停車場ノ名稱

三　到達停車場ノ名稱

四　荷受人ノ氏名又ハ商號及住所

五　要價額ヲ表示スルトキハ其ノ金額

六　高價品ニ付其ノ價額ヲ明告スルトキハ其ノ金額

七　運賃ノ支拂方法

八　貨物引換證ノ交付ヲ請求スルトキハ其ノ旨

九　特約アルトキハ其ノ事項

十　運送狀ノ作成地及其ノ作成ノ年月日

十一　荷送人ノ氏名又ハ商號及住所

第五十一條　荷送人ハ運送狀ノ記載ニ付鐵道ニ對シ其ノ責ニ任ズ

第五十二條　鐵道ハ荷送人ヨリ貨物ヲ受取リタルトキハ運送狀ニ其ノ受取番號ヲ記入スベシ

第五十三條　荷送人ハ運送狀ヲ提出スル際其ノ證本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ運送狀ノ證本ヲ交付スル場合ニ於テハ鐵道ハ相當ノ手數料ヲ請求スルコトヲ得

第五十四條　荷送人ハ貨物ヲ託送スル際其ノ運賃及料金ヲ支拂フベシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ金額ヲ確定スルコト能ハザルトキハ鐵道ノ請求ニ因リ概算額ヲ支拂フベシ

第五十五條　鐵道ハ死體又ハ動物ノ運送ヲ引受ケタルトキハ其ノ受取ノ日時ヲ指定スルコトヲ得

第五十六條　鐵道ハ貨物ノ運送ヲ引受ケタル場合ニ於テ直ニ其ノ運送ヲ爲シ得ザルトキト雖モ特約ヲ以テ當該貨物ヲ受取ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ運送狀ニ其ノ特約條項ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ鐵道ハ其ノ貨物ノ運送ヲ爲スコトヲ得ルニ至ル迄ノ期間ニ對シ相當ノ保管料ヲ請求スルコトヲ得

第五十七條　貨物引換證ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　第五十條第一項第一號乃至第七號、第九號及第十一號ニ掲グル事項

二　運賃及料金ノ金額

三　貨物引換證ノ作成地及其ノ作成ノ年月日

第五十八條　鐵道ハ死體、動物其ノ他特種ノ管理ヲ要スル貨物ノ運送ニ付附添人ヲ附スベキコトヲ請求スルコトヲ得

鐵道ハ荷送人ニ對シ相當ノ附添人料ヲ請求スルコトヲ得

附添人ノ管理スル貨物ニ付テハ鐵道ハ之ガ保管ノ責ニ任ゼズ

附添人ハ貨物ノ運送中ニ於ケル管理ニ必要ナル物品ニ非ザレバ之ヲ車内ニ持込ムコトヲ得ズ

第五十九條　貨物ノ品名、重量其ノ他運送狀ノ記載ニ基キ計算シタル運賃ガ正當運賃ニ不足スル場合ニ於テハ鐵道ハ不足額及其ノ十倍以内ノ追徵運賃ヲ請求スルコトヲ得

荷送人ガ火藥類其ノ他ノ危險品ヲ他ノ品名ニ依リ託送シタルトキハ前項ノ規定ニ依ルノ外鐵道ハ其ノ重量一瓩ニ付金十圓以内ノ追徵運賃ヲ請求スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ損害賠償ノ請求ヲ妨ゲズ

第六十條　貨物ノ積卸ハ鐵道ニ於テ之ヲ爲スベシ但シ貸切、貨車積貨物、死體、動物及一箇ノ長六米、重量三百瓩又ハ容積一立方米ヲ超ユル貨物ノ積卸ハ貨主ニ於テ之ヲ爲スベシ

第六十一條　貨主ガ貨物ノ積卸ヲ爲スベキ場合ニ於テハ鐵道ハ其ノ積卸ノ準備ヲ爲シタル後貨主ニ對シ其ノ旨ノ通知ヲ發スベシ

第六十二條　貨主ガ鐵道ノ定ムル積卸時間内ニ貨物ノ積卸ヲ完了セザルトキハ鐵道ハ其ノ後ノ時間ニ對シ相當ノ貨車留置料ヲ請求スルコトヲ得

鐵道ハ貨主ガ取卸時間内ニ貨物ノ取卸ヲ爲サザルトキハ貨主ノ費用ヲ以テ其ノ取卸ヲ爲スコトヲ得

第六十三條　貨主ガ貨物ノ積卸ヲ爲スベキ場合ニ於テ鐵道ノ機械又ハ器具ヲ使用スルトキハ鐵道ハ相當ノ使用料ヲ請求スルコトヲ得

第六十四條　鐵道ハ無蓋貨車用ノ覆布及綱ヲ準備スベシ

鐵道ハ前項ノ覆布又ハ綱ノ使用ニ付テハ料金ヲ請求スルコトヲ得ズ

第六十五條　貨物ノ種類又ハ性質ニ因リ鎖錠ヲ要スルモノ又ハ濡損若ハ引火ノ虞アルモノハ有蓋貨車ニ搭載スベシ但シ特約アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第六十六條　死體ハ特約ニ依リ特別車ニ搭載スル場合ヲ除クノ外手荷物車又ハ有蓋貨車ニ搭載スベシ

死體ハ他ノ託送手荷物又ハ貨物ト混雜シテ搭載スベシ

飲食物又ハ其ノ原料品ハ死體ト同一車ニ搭載スルコトヲ得ズ

第六十七條　死體ガ運送上ノ支障アル場合ヲ除クノ外到達停車場ニ到達シタル後六時間内ニ之ヲ引取ラザルトキハ鐵道ハ到達地所轄警察署ニ其ノ旨ヲ届出ヅベシ

第六十八條　貨物ガ到達停車場ニ到達シタルトキハ鐵道ハ遅滯ナク到達ノ通知ヲ發スベシ但シ配達ヲ爲スベキモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

第六十九條　死體ガ到達停車場ニ到達シタルトキハ遅滯ナク之ヲ引取ルベシ

死體ガ到達シタル後六時間内ニ之ヲ引取ラザルトキハ鐵道ハ到達地所轄警察署ニ其ノ旨ヲ届出ヅベシ

第七十條　貨物引換證ノ紛失其ノ他ノ事由ニ因リ之ト引換ニ貨物ノ引渡ヲ請求スルコトノ能ハザル場合ニ於テ引渡請求者ガ其ノ權利ヲ證明シ又ハ相當ノ擔保ヲ供シタルトキニ限リ鐵道ハ貨物ノ引渡ヲ爲スコトヲ得

第七十一條　貨主ガ鐵道ノ定ムル引取時間内ニ貨物ノ引渡ニ應ゼザルトキハ鐵道ハ其ノ後ノ時間ニ對シ相當ノ保管料ヲ請求スルコトヲ得

貨主ガ貨物ノ引渡ヲ受ケタル後之ノ引取ラザルトキハ鐵道ハ相當ノ留置料ヲ請求スルコトヲ得但シ引取時間内ハ此ノ限ニ在ラズ

第七十二條　天災事變其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ貨物ノ運送ヲ繼續スルコト能ハザル場合ニ於テ荷送人ノ請求アルトキハ鐵道ハ發送停車場迄無賃ヲ以テ之ヲ返送スベシ

第十七條　第三項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ返送スル貨物ノ運賃ノ拂戻ニ之ヲ準用ス

一　託送手荷物（第二號及第三號ニ該當スルモノヲ含ム）　一箇ニ付　金三百圓　但シ旅客一人ニ付金五百圓ヲ最高額トス

二　高價品　一瓩（容器荷造ヲ含ム）迄毎ニ　金二圓　但シ一口金三百圓ヲ最高額トス

三　動物

牛、馬　一頭ニ付　金二百四十圓

犢　同　金六十圓

豚、緬羊　同　金四十圓

其ノ他ノ獸類　同　金二十圓

其ノ他ノ動物　一瓩（容器荷造ヲ含ム）迄毎ニ　金一圓　但シ一口金百圓ヲ最高額トス

第七十四條　要償額ノ表示アル託送手荷物又ハ貨物ノ延著ニ因ル損害ニ付鐵道ガ賠償ノ責ニ任ズル場合ニ於テ支拂フベキ金額ハ鐵道ニ惡意又ハ重大ナル過失アル場合ヲ除クノ外左ノ各號ニ依ル

一　請求者ニ於テ延著ニ因ル損害額ヲ證明シタル場合ニ於テハ表示額ヲ限度トシテ一切ノ損害額

二　其ノ他ノ場合ニ於テハ運賃額ヲ限度トシテ延著ノ期間一日迄毎ニ運賃額ノ百分ノ十

第七十三條　要償額ノ表示ナキ託送手荷物、高價品又ハ動物ノ滅失又ハ毀損ニ因ル損害ニ付鐵道ガ賠償ノ責ニ任ズル場合ニ於テハ鐵道ハ惡意又ハ重大ナル過失アル場合ヲ除クノ外左ノ金額ヲ超エ賠償ノ責ニ任ゼズ

第四章　鐵道ノ責任

一　請求者ニ於テ延著ニ因ル損害額ヲ證明シタル場合ニ於テハ運賃額ノ二分ノ一ヲ限度トシテ延著ノ期間一日迄毎ニ運賃額ノ百分ノ五

前二項ノ場合ニ於ケル運賃額ハ當該託送手荷物又ハ貨物ノ運賃額及其ノ集配ノ爲受クル金額ヲ合算シタル額トス

第一項第二號及第二項第二號ノ場合ニ於テ託送手荷物又ハ貨物ノ一部ガ延著シ又ハ延著ノ期間ヲ異ニスルトキ鐵道ノ支拂フベキ金額ハ延著シタル各部分ノ數量ニ付之ヲ計算ス

第七十五條　鐵道營業法第十三條第二項ノ規定ニ依ル留保アリタル場合ニ於テ留保者ノ請求アルトキハ鐵道ハ之ガ證明ヲ爲スコトヲ要ス

鐵道營業法第十三條第二項ノ規定ニ依ル留保アリタル託送手荷物又ハ貨物ニ付其ノ到達、發見等ニ因リ引渡ヲ爲スコトヲ得ルニ至リタルトキハ鐵道ハ賠償ヲ受ケタル者ニ對シ遲滯ナク其ノ旨ヲ通知スベシ

第七十六條　一時預リ品ノ滅失又ハ毀損ニ因ル損害ニ付鐵道ガ賠償ノ責ニ任ズル場合ニ於テハ鐵道ニ惡意又ハ重大ナル過失アル場合ヲ除クノ外一箇ニ付金百圓ヲ超エ賠償ノ責ニ任ゼズ

第五章　戰時又ハ事變下ノ運送

第七十七條　戰時又ハ事變ニ際シ運送上ノ必要アル場合ニ於テハ鐵道ハ第四條、第八條、第十條第一項、第二十二條第一項及第三十八條第一項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第七十八條　戰時又ハ事變ニ際シ運送上ノ必要アル場合ニ於テハ鐵道ハ貨物ノ受取ノ日時ヲ指定シ又ハ貨物ヲ託送セントスル者ニ對シ其ノ託送前貨物ノ品名、數量、到達停車場ノ名稱等ヲ申告スベキコトヲ請求スルコトヲ得

第七十九條　戰時又ハ事變ニ際シ運送上ノ必要アル場合ニ於テハ鐵道ハ託送手荷物又ハ貨物ニ對スル引渡期間ノ算定ニ當リ合算セラルベキ發送期間其ノ他ノ期間ヲ各二倍以内ニ延長スルコトヲ得

第八十條　前三條ノ規定ニ依ル運送ニ付テハ鐵道ハ豫メ鐵道大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

附則

本令ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●旅客及手荷物運送規則

（昭和十七年二月二十五日鐵道省告示第二十六號）

沿革（略ス）

旅客及手荷物運送規則左ノ通定ム

（左記ハ別冊トシテ省線各驛ニ備付ケ縱覽ニ供ス）

別冊略ス

●荷物代金引換規程

（大正四年一月十二日鐵道院告示第二號）

沿革（昭和九年マテ略ス）

一〇年八月鐵道省告示第三四〇號、一四年一二月第二五七號、一五年一〇月第二三二號改正

荷物代金引換規程左ノ通定メ大正四年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

荷物代金引換規程

第一條　荷送人ハ本規程ノ定ムル所ニ依リ其ノ託送ニ係ル荷物（小荷物賣ニ宅扱及小口扱貨物ヲ謂フ、以下同シ）ニ付代金引換ノ取扱ヲ請求スルコトヲ得但シ左ニ掲クル荷物ハ此ノ限ニ在ラス

一　新聞紙

二　鮮魚介蝦類、動物、鮮肉、農産其ノ他腐敗變質シ易キモノ又ハ死スル虞アルモノ

三　危險品

四　貨物引換證又ハ船荷證券付ノモノ

第二條　引換代金額ハ一口ニ付五百圓以下シ一錢未滿ノ端數ナキモノニ限ル但シ貨物ニ在リテハ其ノ最低額ヲ十圓トス

第三條　代金引換ハ特ニ定アル場合ヲ除キ各驛所（運輸機關所屬鐵道過ノ場合ヲ含ム）ニ於テ其ノ取扱ヲ爲ス

第四條　代金引換荷物ヲ受付ケタルトキハ代金引換證ヲ荷送人ニ送付スルモノトス

第五條　代金引換荷物ニシテ配達付ノモノハ配達先ニ於テ、又驛留ノモノハ著驛ニ於テ之ヲ引渡ス際荷受人ヨリ代金ヲ收受ス但シ配達付ノモノト雖荷主ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ配達先ニ於テ引換ヲ爲スコト能ハサルトキハ驛留ノモノノ例ニ依ル

第六條　荷受人ヨリ引換代金ヲ收受シタルトキハ荷送人ニ對シ發驛所（委託小荷物扱所又ハ鐵道省係員ノ配達ナキ驛發ノモノハ其ノ所屬驛又ハ管理驛、以下同シ）ヨリ其ノ旨ヲ通知シ發驛所ニ於テ之カ支拂ヲ爲ス

第七條　荷送人ハ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ引換代金ノ支拂時間内ニ代金引換證ヲ提出シ之ト引換ニ發驛所ヨリ代金ヲ受取ルモノトス

前項ノ引換代金ノ支拂時間ハ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外午前八時ヨリ午後四時迄トス

第八條　前條ノ場合荷送人ニ於テ代金引換證ヲ提出シ難キトキハ其ノ要旨ヲ記載シタル保證書（保證人連署）ヲ提出スヘキモノトス

前項ノ保證書ハ左ノ文例ニ依ルモノトス

三錢印紙

保證書

一金　也

但シ昭和　年　月　日　驛所發行代金引換證第　號ニ對スル引換代金額

右ハ代金引換證ヽヽヽヽノ爲本書ヲ以テ前記金額領收致候ニ付今後該證ヲ提出セサルニ因リテ生スル一切ノ損害ハ拙者等ニ於テ連帶シテ其ノ責ニ任シ貴省ニ對シテハ毫モ御迷惑相懸ケ申間敷候也

昭和　年　月　日

住所
荷送人　氏　名圓
住所
保證人　氏　名圓

鐵道省　御中

第九條　荷送人ハ代金引換證（代金引換ノ追付ノ場合ハ小荷物切符又ハ貨物通知書）ヲ發驛所（委託小荷物扱所及鐵道省係員ノ配達無キ驛ヲ含ム）ニ呈示シ左ニ掲クル指圖ヲ請求スルコトヲ得但シ代金引換ノ追付ハ荷物及關係書類發送前ニ限ル

一　代金引換ノ追付又ハ取消　二十圓迄　十錢

二　引換代金ノ增額又ハ減額　三十圓迄　十五錢

第十條　代金引換荷物ニ對シテハ左ノ代金引換手數料ヲ收受ス　五十圓迄　二十錢

引換代金額　代金引換手數料　百圓迄　三十錢

百圓ヲ超ユルモノハ百圓迄ヲ增ス毎ニ　十錢

第十一條　第九條ニ定ムル指圖ノ請求ニ應シタルトキハ左ノ代金引換指圖手數料ヲ收受ス但シ荷主ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因ル場合又ハ荷物ノ指圖ト同時ニ請求アル場合ハ之ヲ收受セス

一　小荷物
荷物及關係書類發送前　一回ニ付　十錢
其ノ他　同　三十錢
二　貨物
貨物及關係書類發送前　一回ニ付　十錢
其ノ他　同　五十錢

第十二條　代金引換手數料及代金引換指圖手數料ハ發驛ニ於テ荷物ヲ受取リタル際又ハ指圖ノ請求ニ應シタル際荷送人ヨリ之ヲ收受ス但シ運賃及料金ガ豫納又ハ後拂ナルトキハ之ヲ豫納又ハ後拂トシ代金引換手數料ハ一旦收受ノ手續ヲ爲シタル後ト雖モ代金引換ノ目的ヲ遂スルコト能ハサルトキハ之ヲ拂戻ス

第十三條　第九條ニ定ムル指圖ノ請求ニ應シタル場合著驛ニ於テ荷物ヲ保管シタルトキハ旅客及荷物運送規則又ハ貨物運送規則ニ定ムル指圖ノ場合ノ例ニ依リ保管料ヲ收受ス

●貨物運送規則

（昭和十七年二月二十五日鐵道省告示第三十一號）

沿革　（略ス）

貨物運送規則左ノ通定ム

（左記ハ別冊トシテ省線各驛ニ備付ケ閲覧ニ供ス）

別冊略ス

●小口混載貨物運送規則

（昭和十七年三月二十三日鐵道省告示第五十號）

小口混載貨物運送規則左ノ通定メ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

小口混載貨物運送規則

第一條　小口混載貨物ノ運送ニ付テハ別ニ定アル場合ノ外本規則ノ定ムル所ニ依ル

第二條　小口混載ト爲ス貨物ハ日本通運株式會社ニ於テ左ノ各號ニ依ル取扱ヲ爲スモノトス

一　運賃主ヨリ鐵道省所定小口扱貨物運賃ノ一割（品目ニ依ル賃率ノ割增ヲ爲サザル貨物一品種ニシテ實重量二千瓩ヲ超ユルモノハ二割）ヲ低減シタル運賃ニ依リ運送ヲ引受クルコト此ノ場合運賃計算上生ジタル五錢未滿ノ端數ハ五錢ニ、五錢ヲ超エ十錢未滿ノ端數ハ十錢ニ切上グルコト

二　前號ノ運賃ハ其ノ全部ヲ現拂又ハ著拂トシテ收受スルコト

三　運賃主指定ノ集貨先ヨリ集貨シ、屆先ニ配送ヲ爲スコト但シ運賃主ヨリ申出アルトキハ集貨又ハ配達ヲ爲サザルコトヲ得

四　前號ニ依ル集貨及配達ニ對シテハ別ニ料金ヲ收受セザルコト但シ左ニ掲グル貨物ニ在リテハ其ノ集貨又ハ配達ニ付鐵道局長ニ於テ承認シタル料金ヲ收受スルコトヲ得

イ　一箇ノ長四・五米、重量二百瓩又ハ容積一・五立方米ヲ超ユルモノ

ロ　集貨先又ハ屆先ガ鐵道省所定ノ集配區域内ニ在ラザルモノ

五　第三號但書ノ規定ニ依リ集貨又ハ配達ヲ爲サザルトキハ持込費用又ハ引取費用トシテ鐵道局長ノ承認ヲ受ケタル相當金額ヲ申出入ニ支拂フコト

第三條　小口混載貨物ハ車扱トシテ託送スルモノニシテ左ノ條件ヲ具備スルモノナルコトヲ要ス

一　貴重品ニシテ一級十割增ノモノ、死體、遺骨、危險品、汚穢品、動物、魚介類（鹽ヲシタルモノ及乾シタルモノヲ除ク）其ノ他本扱ニ適セザルモノニ非ザルコト

二　一口中ニ五品種以上ヲ混載スルコト

三　一口中ニ等級ノ異ル貨物ヲ混載スルコト

四　各品種ノ數量ハ四瓲ヲ超エザルコト

五　著驛ニ於テ託送ヲ禁トナルベキ貨物ハ鐵道省ニ於テ承認シタルモノニ限ルコト

第四條　小口混載貨物ノ發驛及著驛ハ鐵道局長ニ於テ別ニ之ヲ指定ス

第五條　小口混載貨物ハ特ニ鐵道局長ノ承認ヲ受ケタル場合ハ其ノ一部ヲ途中驛ニ取卸スコトヲ得

第六條　小口混載貨物ノ賃率ハ別表ノ通トス

第七條　小口混載貨物ノ運賃計算瓲數ハ貨物ノ重量ニ依リ其ノ最低ヲ使用貨車ノ標記瓲數ヨリ左ニ掲グル瓲數ヲ控除シタル瓲數トス

一　標記瓲數十二瓲以上ノ貨車ヲ使用スルトキ　四瓲

二　前號以外ノ貨車ヲ使用スルトキ　二瓲

第八條　小口混載貨物ノ運賃計算杆程ハ發著驛間ノ運賃計算杆程ニ依ル但シ東京、名古屋及大阪市内所在鐵道省線各驛發又ハ著ニ係ル貨物ニ對スル運賃計算上ノ發驛又ハ著驛ハ左ノ通トス

都市名	運賃計算上ノ經路	運賃計算上ノ發驛又ハ著驛名
東京市	川崎驛經由（川崎驛發送又ハ到著ノモノヲ含ム） 吉祥寺驛經由（吉祥寺驛發送又ハ到著ノモノヲ含ム） 川口驛又ハ松戸驛經由（川口驛又ハ松戸驛發送又ハ到著ノモノヲ含ム） 市川驛經由（市川驛發送又ハ到著ノモノヲ含ム）	汐留 飯田町 秋葉原 錦糸町
名古屋市	八尾驛又ハ德塩驛經由（八尾驛又ハ德塩驛發送又ハ到著ノモノヲ含ム）但シ笹島驛以遠發送又ハ到著ノモノヲ除ク	笹島
大阪市	其ノ他經由	湊町 梅田

第五條ノ規定ニ依リ貨物ノ一部ヲ途中驛ニ於テ取卸ス場合ニ於ケル運賃計算杆程ハ發驛ト途中取卸驛ヲ經由シタル終著驛トノ間ノ運賃計算杆程ニ依ル

第九條　日本通運株式會社ハ鐵道局長ノ承認ヲ得タル小運送業者ヲシテ小口混載貨物ニ關スル業務ヲ爲サシムルコトヲ得

第十條　前各條以外ノ事項ハ貨物運送規則ノ定ムル所ニ依ル

第十一條　小口扱貨物申告書ヲ提出シタル貨物ニシテ貨主ヨリ特ニ小口混載貨物ニ依ラザル旨ノ申出ナキモノニ對シ鐵道省ニ於テ運輸上必要アリト認メタルトキハ之ヲ本規則ニ定ムル小口混載貨物トシテ日本通運株式會社ヲシテ取扱ハシムルコトアルベシ

（別表小口混載車扱賃率表省略）

●貨物運賃料金豫納規程

（大正八年九月二十日鐵道院告示第八十四號）

沿革　大正八年一〇月鐵道院告示第九九號、九年九月鐵道省告示第七三號、一四年四月第六四號、昭和五年三月第七八號、七年九月第三五七號、一七年三月第五一號改正

貨物運賃料金豫納規程左ノ通定ム

貨物運賃料金豫納規程

第一條　貨物託送書ハ本規程ニ依リ貨物ノ運賃及料金（以下運賃ト稱ス）豫納ノ取扱ヲ請求スルコトヲ得

第二條　前條ノ取扱ヲ受ケントスル者ハ別ニ定ムル樣式ノ申込書ニ關係書類ニ押捺スヘキ印鑑ヲ添ヘ託送停車場、營業所又ハ鐵道特合所所管ノ鐵道局長ノ承認ヲ受クルモノトス

第三條　前條ノ承認ヲ受ケタル者ハ一箇月間又ハ一旬間ノ運賃概算額ヲ運賃計算期間開始五日前迄ニ豫納スルモノトス

前項ノ概算額ハ鐵道局長之ヲ指定ス

豫納ノ運賃ハ毎月又ハ毎旬末日ヨリ打切リ精算スルモノトス

第四條　豫納金ノ最低ハ小荷物級ノミノ場合ハ百圓其ノ他ノ場合ハ三百圓トス

第五條　運賃豫納ノ取扱ニ係ル貨物運賃カ二計算期間引續キ前條ノ金額ニ達セサルトキハ豫納ノ承認ヲ取消スコトアルヘシ

第六條　貨物託送者カ豫納金又ハ運賃ノ精算不足額ノ納入ヲ遲延スルトキハ其ノ日數ニ應シ別ニ定ムル延滯賃金ヲ徴收シ且豫納ノ取扱ヲ停止シ又ハ其ノ承認ヲ取消スコトアルヘシ

附　則

本規程ハ大正八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●荷扱所荷物取扱規則

（昭和十一年九月二十五日鐵道省告示第三百二十二號）

沿革　昭和一五年一月鐵道省告示第二二號、一〇月第二三〇號改正

荷扱所荷物取扱規則左ノ通定メ昭和十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

荷扱所荷物取扱規則

第一條　荷扱所ニ於ケル荷物ノ取扱ハ本規則ニ依ルノ外旅客及荷物運送規則竝ニ貨物運送規則ニ依ル

第二條　荷扱所ト其ノ所屬驛相互間ニ發著スル荷物ノ取扱ヲ爲サズ但シ荷扱所ヘノ送又ハ著驛變更ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條　荷扱所ニ於テハ左ノ荷物ノ取扱ヲ爲サズ

一　小荷物
貴重品中金貨、銀貨、紙幣、銀行券、軍用手票、印紙、郵便切手、公債證書、大藏省證券、株券、商品券其ノ他ノ有價證券

二　貨物
イ　一箇ノ長四・五米、高二・三五米、幅一・六米又ハ重量二千瓩若ハ容積八・〇立方米ヲ超ユルモノ

ロ　貴重品ニシテ鐵道ヲ車扱ニ依ル場合

一　級十割增ノモノ、奢侈ヲ用ヒザル動物、建物取毀材、死體、火藥類、危險品ニ屬スル生石灰及燒成ドロマイト、汚穢品

第四條　一口ノ荷物ヲ分割シテ集荷又ハ配達ヲ爲ス場合ノ引渡期間ハ最後ノ集荷又ハ配達ノ時ヲ以テ計算ノ始期又ハ終期トス

第五條　小荷物ハ集配區域內ニ於テ荷送人ガ荷扱所ニ持込ミ託送スルモノヲ除キ集荷ノ取扱ヲ爲ス但シ左ノ物品ハ此ノ限ニ在ラズ

一　貴重品（旅客及荷物運送規則第二百二十四條第一項第七號乃至第九號ノ物品ヲ除ク）

二　レントゲン管球、太陽燈發光管、水銀制流器ノ類、ネオン管

三　貨物引換證ノ發行ヲ要スル小荷物

四　遺骨、死體

五　水ニ容レタル魚介類

六　動物（魚介類ヲ除ク）

七　車輛類

貨物ハ集配區域內ニ於テ集貨又ハ配達ノ取扱ヲ爲ス

第六條　小荷物ノ集荷ヲ爲シタル場合ハ其ノ品名、箇數、集荷先及荷送人ノ氏名又ハ商號ヲ記載シタル假領收證ヲ荷送人ニ交付シ集荷ヲ了リタル後小荷物切符ヲ荷送人ニ交付ス但シ前段ノ假領收證ハ他ノ方法ニ依リ小荷物ノ受授明カナルトキハ之ヲ交付セザルコトアルベシ

宅扱以外ノ貨物ノ集貨又ハ配達ヲ爲ス場合ノ取扱ニ付テハ宅扱貨物ノ例ニ依ル但シ配達付ノモノヲ貨主ノ實ニ歸スベキ事由ニ因リ荷先ニ於テ引渡スコト能ハザルトキハ荷扱所ニ於テ引渡ヲ爲ス此ノ場合再配達ノ取扱ヲ爲サズ

第七條　一口ノ荷物ヲ分割シテ集荷又ハ配達ヲ爲ス場合運賃及料金、引換代金、貨物引換證等ハ最初ノ集荷又ハ引渡ノ際ニ之ヲ收受ス

第八條　所屬驛ニ於ケル荷物ノ積換竝ニ貨車ノ施封又ハ開封ハ鐵道省ニ於テ之ヲ爲ス

第九條　荷扱所ニ於テ取扱フ荷物ニ對シテハ左ノ荷扱所料金ヲ收受ス

一　小荷物

發送	集荷付	一箇ニ付	七錢
其ノ他	同	二	錢
到著	同	二	錢

二　貨物（發著各）

宅扱	運賃計算重量	三十瓩迄	三錢
同	同	五十瓩迄	五錢
		以上十瓩ヲ增ス毎ニ	一錢
同	小口扱	百瓩ニ付	二十錢
	車扱	一瓩ニ付	八十錢

荷主ノ實ニ歸スベキ事由ニ因リ荷扱所ニ返送若ハ荷扱所到著後登驛ニ返送又ハ著驛變更ノ請求ニ應ジタル場合ニ於テハ別ニ小荷物ニ在リテハ一箇ニ付金二錢、貨物ニ在リテハ第九條ニ定ムル荷扱所料金ヲ追徵ス

●荷扱所設置

（昭和十一年九月二十五日鐵道省告示第三百十九號）

昭和十一年十月一日ヨリ姬津線播磨新宮停車場山崎荷扱所ヲ設置シ貨物及小荷物ノ取扱ヲ爲ス

小口扱	同	百瓩ニ付	四十錢
車扱	同	一瓩ニ付	一圓八十錢

（所屬驛ニ於ケル積換費ヲ含ム）

第十條　荷扱所發送前ノ荷物ニ對シ荷主ノ實ニ歸スベキ事由ニ因リ託送取消ノ請求ニ應ジタル場合ニ於テハ荷扱所料金中左ノ金額ノ拂戻ヲ爲ス

一　集荷附小荷物	一箇ニ付		二錢
二　貨物			
宅扱	運賃計算重量	三十瓩迄	三錢
同	同	五十瓩迄	五錢
		以上十瓩ヲ增ス毎ニ	一錢
同	小口扱	百瓩ニ付	二十錢
同	車扱	一瓩ニ付	八十錢

（昭和十一年九月二十五日鐵道省告示第三百二十號）

昭和十一年十月一日ヨリ伯備線備中高梁停車場成羽荷扱所ヲ設置シ貨物及小荷物ノ取扱ヲ爲ス

荷扱所名	所在地
播磨新宮停車場山崎荷扱所	兵庫縣宍粟郡山崎町
備中高梁停車場成羽荷扱所	岡山縣川上郡成羽町

●倉庫營業規則

（昭和六年九月八日鐵道省告示第二百三十六號）

沿革　昭和七年一月鐵道省告示第一九號、八年九月第三九七號、一一年三月第七八號、一二年一月第二三號、一三年九月第二一二號、一五年一月第三號改正

倉庫營業規則左ノ通定ム、

倉庫營業規則

第一章　總則

第一條　鐵道省(以下單ニ省ト稱ス)所管ノ倉庫營業ニ付テハ別段ノ規定又ハ特約アル場合ノ外本規則ニ依ル

第二條　營業課目ハ左ノ通トス

一　鐵道ニ依リ到著シ又ハ發送スベキ貨物ノ保管

二　倉庫ノ貸貸

第三條　營業時間ハ毎日午前八時ヨリ午後四時迄トス但シ省ノ都合ニ依リ臨時變更スルコトアルベシ

第四條　營業ニ關シ關係者ニ通知又ハ催告ヲ爲スベキ場合省ノ責ニ歸スベカラザル事由ニ因リ之ヲ爲スコト能ハザルトキハ其ノ要領ヲ營業所ニ掲示シ通知又ハ催告ニ代フ

第二章　貨物ノ保管

第一節　受託

第五條　左ニ掲グル貨物ハ寄託ヲ受ケズ

一　貨物運送規則所定ノ貴重品ニシテ車扱ニ依ル場合一殺十制瘤ノモノ、危險品及汚穢品竝ニ硝酸パリウム、ストロンシウム、硝酸曹達、スピリットニス、セルロイド、ザイロナイト、活動寫眞用フイルムニシテ罐入ニ非ザルモノ、油類ニシテ揮氏六十六度以下ニ於テ可燃性瓦斯ヲ發散スルモノ及上記品目ト危險程度類似ノモノ

二　腐敗、變質、減量等損傷シ易キモノ(省ニ於テ特ニ承諾シタルモノヲ除ク)又ハ動物

三　內地消費稅未納ノモノ

四　荷造不完全ナルモノ其ノ他省ニ於テ保管ニ適セズト認メルモノ

前項ニ掲グル以外ノ貨物ト雖モ其ノ保管ガ法令ノ規定、公ノ秩序若ハ善良ノ風俗ニ反スルトキ又ハ天災事變等ノ不可抗力其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ因ル支障アルトキハ寄託ヲ受ケズ

第六條　寄託ノ時、保管期間、料金計算方、火災保險事項等ノ條件ヲ同ジクスル貨物ハ之ヲ一口ト爲スコトヲ得但シ省ニ於テ必要ト認ムルトキハ貨物ノ種類、數量等ニ付制限ヲ附スルコトアルベシ

第七條　寄託者ハ寄託ノ際一口毎ニ寄託申込書ヲ提出スルモノトス

寄託申込書ノ記載事項及樣式ハ左ノ通トシ寄託者ニ於テ記名捺印スルモノトス但シ倉荷證券ヲ請求セザル場合寄託者ニ於テ其ノ要項ヲ申告シタルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

一　記載事項

イ　寄託申込ノ日

ロ　寄託者ノ住所(又ハ營業所、以下同ジ)及氏名(又ハ商號、以下同ジ)

ハ　貨物ノ種類、品質、數量及荷造ノ種類、箇數竝ニ記號

ニ　貨物ノ價格

ホ　保管期間

ヘ　第二十八條ニ依リ貨物ヲ保險ニ附スルトキハ其ノ金額及保險期間又保險ニ附セザルトキハ其ノ旨

ト　保管ニ付特別ノ注意ヲ要スルトキハ其ノ事項

チ　特約アルトキハ其ノ事項

リ　倉荷證券請求ノ有無

寄託申込書

昭和　年　月　日作成申込

本書記載ノ貨物ヲ鐵道省所定ノ倉庫營業規則ニ依リ　　課ニ寄託ス

寄託者　住所又ハ營業所　氏名又ハ商號

貨物ノ種類品質	記號	荷造箇數	數量	價格(火災保險金額)	倉敷料	入庫料	出庫料
			單量	總量	單價	總額	割合	割合	割合

保管期間　自昭和年月日　至昭和年月日

倉荷證券請求ノ有無

特約事項

倉庫番號　第　號

貨物保管書　第　號

入庫　昭和　年　月　日　第

注意　本欄區劃內ハ鐵道係員ニ於テ記入スベシ

No.

備考　洋紙、黑刷トス

第八條　寄託者申告ノ不備又ハ不正ニ關シテハ寄託者ニ於テ一切ノ責ニ任ズルモノトス

寄託申込ノ際價格ノ明告ナキカ若ハ不當ナル價格ノ申告アルトキハ省ニ於テ相當ト認ムル所ヲ以テ其ノ價格トス

第九條　省ニ於テ貨物ノ引渡ヲ受ケムトスルトキハ貨物提供ノ場所及日時ヲ指定ス

指定シタル場所及日時ニ貨物ノ全部ヲ提供セザルトキハ受託ヲ拒絶スルコトアルベシ貨物提供後ト雖モ已ムヲ得ザル事由アルトキ亦同ジ

第十條　貨物ノ提供アリタルトキハ寄託者ノ申告ニ付之ヲ監査ス此ノ場合荷造ノ開披ヲ要スルトキハ寄託者ノ立會ヲ求ムルモノトス

前項ニ依リ監査ノ結果寄託者ノ申告ト相違アルトキハ特ニ要シタル費用其ノ他ノ損害ヲ寄託者ノ負擔トス

貨物ノ種類、品質、荷造等ニ依リ中味ノ點檢ヲ不適當ト認ムルトキハ之ヲ省略スルコトアルベシ此ノ場合入庫票、貨物保管書又ハ倉荷證券ハ寄託者ノ申告ニ依リ之ヲ作成ス

第一項及第二項ノ規定ハ受託後保管中ノ貨物ニ對シ省ニ於テ監査ヲ必要ト認ムル場合ニ之ヲ準用ス但シ荷造ノ開披ヲ要スル場合倉荷證券付貨物ニ在リテハ證券所持人ノ明カナルトキニ限リ其ノ立會ヲ求ムルモノトス

第十一條　第九條第二項又ハ前條第二項及第四項ノ場合受託ヲ拒絶又ハ契約ヲ解除シタルトキハ既ニ持込ミタル貨物ハ現狀ナリ之ヲ搬出スベキモノトス若シ之ニ應ゼザルトキハ第二十六條ノ例ニ依リ處理ス

第十二條　貨物ノ入庫作業ハ省ニ於テ之ヲ爲ス出庫作業ニ付亦同ジ

第十三條　貨物全部ノ入庫ヲ終リタルトキハ寄託者ニ對シ一口毎ニ貨物保管書（貨物保管通帳ヲ含ミ以下單ニ保管書ト稱ス）又ハ請求ニ因リ倉荷證券（以下單ニ證券ト稱ス）ヲ交付ス

寄託者ハ保管書ニ代ヘ入庫傳票ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第十四條　保管書ノ記載事項及樣式ハ左ノ通トス

一　記載事項

イ　第七條第二項第一號ロ乃至チニ掲グル事項

ロ　入庫日及入庫番號

ハ　保管場所

ニ　倉敷料

ホ　入庫料及出庫料

ヘ　第二十八條ニ依リ貨物ヲ保險ニ附スルトキハ保險者名

ト　保管書ノ作成年月日

（表　面）

貨物保管書　　No. 1

昭和　年　月　日　　下記ノ貨物ハ本書ト引換ニ御渡シ致シマス

寄託者　住所又ハ營業所　氏名又ハ商號　殿

入庫　昭和　年　月　日　第　號

保管期限　昭和　年　月　日

保管場所

注意　入庫料ハ受託ノ際收受濟　本書ハ讓渡又ハ質入出來マセヌ

貨物ノ種類品質	記號	荷造	箇數	數量 單量	數量 總量	價格（火災保險金額） 單價	價格（火災保險金額） 總額	倉敷料 割合	入庫料 割合	出庫料 割合

火事災保險ノ項				特約條件及記事
期間	自入庫日 至出庫日			
保險者				

驛

備考　洋紙、黑刷トス　番號ハ一號ヨリ百號迄トス

（裏　面）

出庫月日	出庫箇數	殘箇數	記事	係員認印	
出					昭和　年　月　日　貨物正ニ受取候也 （住所氏名印）
庫					
間					
殘					

口　貨物保管通帳

第二四五號

（紙　表）

倉第　號

貨物保管通帳

寄託者

殿

驛鐵道倉庫

↑……二一・〇糎……↓

←……一四・八糎……→

（内容）

第十五條　證券ノ記載事項及様式ハ左ノ通トス

一　イ　前條第一號イ乃至ヘニ掲ゲル事項

No. 1

昭和　年　月　日

入庫	昭和　年　月　日 第　號	保管期限	昭和　年　月　日	保管場所		火災保険事項 期間	自入庫日 出庫日 至	保険者	特約及記事條件

貨物ノ種類品質	記號	荷造	箇數	數量 単量	數量 総量	出庫料 割合	入庫料 割合	倉敷料 割合	價格（火災保険金額） 総額	単價

出庫記載	出庫月日	出庫箇數	残箇數	記事	保員認印

本書記載ノ貨物正ニ受取候也

昭和　年　月　日

（住所氏名　印）

注意　入庫料ハ受託ノ際收受濟

備考　帳簿式黒刷トス

番號ハ一號ヨリ五十號迄トス

（表面）

寄託者	……殿
受寄物	種類及品質 / 記號 / 荷造
數	箇數 / 單量 / 總量
倉敷料割合	三付金　圓
入庫料割合	三付金　圓
出庫料割合	三付金　圓
價（火災保險金額）	總額　圓 / 總額　圓
火災保險期間	自入庫日　至出庫日
入庫日	昭和　年　月　日
保管場所	
特約條件及記事	

保管期限　昭和　年　月　日

上記ノ貨物受面ノ約條ニ從ヒ正ニ預リ候本證券引換ニ寄託者又ハ指圖人ニ……

昭和　年　月　日

備考　黒刷印刷ノ文字ハ百枚毎ニ赤色印刷トス、淡赤色ハ番號ハ地數ヲ表シ、淡赤色ハ地數ハ番號ヲ表シ、黒色ハ地數ハ番號ヲ表シ、黒色ハ地數ハ番號ヲ表シ、黒

（裏面）

讓渡記載欄				
月	日	讓渡人氏名印	讓受人氏名	記事

倉敷料起算日欄			

出庫記載欄						
出庫月	出庫日	出庫箇數	殘箇數	受取人氏名印	記事	驛長認印

第十六條　入庫傳票ノ樣式ハ左ノ通トス

入庫傳票　昭和　年　月　日　No. 1 甲

寄託者　殿　庫番　第　號　入庫　年　月　日　第　號　保管書證券又ハ引換證　第　號

貨物ノ種類品質	記號	荷造	箇數	發驛	貨車
				通知書	年　月　日第　號

數量		價格		摘要
單量	總量	單價	總額	

倉敷料割合	出庫料割合	入庫料割合金額	特約條件及記事

驛

切取線

一四・八糎

二一・〇糎

一・五糎　備考

甲片ハ貨主交付用、乙片ハ控、丙片ハ收入報告用、丁片ハ料金領收用ノ四片制（炭酸紙用）黑刷トス但シ秋葉原驛ニ限リ丁片ヲ省略シ三片制トス

丁片ニハ「入庫傳票」ノ次ニ「（料金領收用）」ト附記スルコト

番號ハ一號ヨリ百號迄トス

第十七條　證券ノ名義變更、書換、分割若ハ價格ノ變更又ハ保管書ト證券トノ引換ヲ請求セムトスル者ハ保管書ヲ呈示シ且請求書（入庫傳票ヲ交付シタル場合新證券ノ交付、他證券ヘノ併合等ヲ請求スルトキハ請求書ノミヲ提出）ヲ提出スルモノトス

證券ノ所持人ガ證券ヲ喪失シタルニ因リ之ガ再交付ヲ請求セムトスルトキハ公示催告申立後擔保物ヲ提供シ且請求書ヲ提出スルモノトス

前項ノ擔保物ノ取扱方ニ付テハ第二十五條第一項第二號及第二項ノ例ニ依ル

請求書ノ樣式ハ左ノ通トス

請求書

下記ノ通リ請求候也

昭和……年……月……日

……殿　御中

請求者 住所又ハ營業所……
氏名又ハ商號……

請求要旨	原在庫證券高面又ハ現	證券		貨物ノ種類品質	記號荷造箇數	數量	價格
		日付	番號				

二　様式

イ　出庫請求書(普通)

出庫請求書(普通)

No.＿＿＿甲

出庫請求書有效期間ハ發行當日限リトス

貨物ノ種類品質	記號荷造	數量	入庫番號

入庫傳票又ハ保管書番號	倉庫番號	殘箇數	記事

上記ノ貨物御渡相成度候也

昭和　年　月　日

驛鐵道倉庫御中

※　上記ノ貨物正ニ受取候也

※　昭和　年　月　日

(住所氏名印)

切取線

一・五糎　二一・〇糎　一四・八糎

備考　四片制(炭酸紙用)黑刷トシ、乙、丙、丁片ハ※印ノ行ヲ削除ス
甲片ハ貨物引渡後受領ノ證トシ、乙片及丙片ハ出庫指圖用、丁片ハ控トス
一冊百通トス

ロ　出庫請求書(證券付)

出庫請求書(證券付)

No.＿＿＿甲

出庫請求書有效期間ハ發行當日限リトス

貨物ノ種類品質	記號荷造	數量	證券番號

倉庫番號	證券面現在箇數	引取先	記事
		殿	

上記ノ貨物此書持參人ヘ御渡相成度候也

昭和　年　月　日

驛鐵道倉庫御中

※　上記ノ貨物正ニ受取候也

※　昭和　年　月　日

(受取人住所氏名印)

切取線

一・五糎　二一・〇糎　一四・八糎

備考　二片制(炭酸紙用)黑刷トシ、乙片ハ※印ノ行ヲ削除ス
甲片ハ貨物引渡後受領ノ證トシ、乙片ハ控トス
一冊百通トス

第二十五條　因リ物ヲ提供シ之ニ代フルコトヲ得キハ左ニ掲グル區別ニ依リ貨主ニ於テ貨物受取書又ハ擔保物ヲ提供シタルトキハ第二十三條第一項第一號ノ場合保管書又ハ證券ノ滅失其ノ他ノ事由ニ一提出保管書ヲ發行シタルトキハ省ニ於テ適當ト認ムル保證人連署ノ貨物受取書ヲ二提出證券ヲ發行シタルトキハ公示催告申立後省ニ於テ相當ト認ムル擔保物ヲ提供スルコト

前項第二號ノ場合省ニ於テ敢受シタル擔保物ハ除權判決確定後ニ非ザレバ之ヲ還付セズ

貨物受取書

下記ノ貨物保管書……候間本書ヲ以テ
貨物引渡相受候ニ付テハ之カ爲貴省ニ對シ損害相
壓候節ハ保證人連帶シテ賠償可致候

昭和……年……月……日

……御中

受取人名
住所氏名……

保證人
住所氏名……

官官務ル鮮
公公上モヲ
署吏ニノ要
又ノ關ハセ
ハ職ス印ス

貨物保管書					數量		價格（火災保險金額）	
月日	番號	入庫月日	貨物ノ種類品質	記號	荷造箇數	單位	總量	單價	總額
記事									

……二一・〇糎……

備考　洋紙、無刷トス
保管書ヲ呈示シ難キトキハ一部出庫ノ場合ト雖モ記號欄ニ其ノ旨ヲ記載シ本書ヲ提出スベキモノトス

……一四・八糎……

貨物受取書ノ雛形ハ左ノ通トス

第二十六條　契約終了後貨主ニ於テ遲滯ナク貨物ノ引取ヲ爲サザルトキハ必要ニ應ジ商法第三百八十一條ニ依ル處分其ノ他機宜ノ處置ヲ爲スコトアルベシ

前項ノ場合ニ因リテ生ジタル損害及特ニ要シタル費用ハ省ノ責ニ歸スベキ事由ニ因ルモノヲ除キ貨主ノ負擔トス

第二十七條　受託手續未濟ノ貨物又ハ引渡濟ノ貨物ヲ貨主カ自己ノ責任ニ於テ構内ニ留置セムトスルトキハ省ノ承諾ヲ受クベキモノトス

第四節　火災保險

第二十八條　寄託ヲ受ケタル貨物ハ貨主ノ爲ニ省ニ於テ適當ト認ムル保險者ノ火災保險ニ附ス但シ寄託者ガ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

貨物ヲ保險ニ附シタル場合ハ保險ニ關スル一切ノ事項ニ付テハ省ト保險者トノ間ニ於ケル約定ニ依ル

第二十九條　保險金額ハ寄託者申告ノ價格トス但シ第八條第二項ノ場合又ハ價格變更ノ請求ニ應ジタル場合ハ其ノ價格トス

一部出庫ノ請求ニ應ジタルトキハ保險金額モ亦其ノ割合ニ應ジ減少スルモノトス

第三十條　省ニ於テ必要ト認ムルトキハ貨主ニ通知セズシテ保險者ヲ變更スルコトアルベシ

第三十一條　貨主ガ保險契約ノ效力ニ關シ影響ヲ及ボスベキ事項ヲ通知セザルニ因リ生ジタル一切ノ損害ニ付テハ省ニ於テ其ノ責ニ任セズ

第三十二條　火災保險金ハ省ヲ經由シテ其ノ支拂ヲ爲スモノトス

第三章　著後寄託並ニ受寄物ノ運送

第一節　著後寄託

第三十三條　鐵道ニ依ル貨物ノ荷送人ハ發驛ニ於テ貨物託送ノ際其ノ著驛到著後ノ倉庫寄託（以下著後寄託ト稱ス）ヲ申込ムコトヲ得

第三十四條　著後寄託ノ取扱範圍ハ左ノ通トス

一　申込ヲ受クル驛

東海道線
　汐留、川崎、富士、濱松、梅小路、梅田、湊川、名古屋港、小野濱、神戸港、西九條、櫻島

北陸線
　虎姫、福井、金澤、伏木

中央線
　中津川

山陽線
　兵庫、和田岬

關西線

桑名、富田、四日市、湊町、四日市港、浪速、津、山田

東北線

宇都宮、岡本、寶積寺、氏家、小牛田、田尻、瀬峯、新田、石越、一ノ關、前澤、水澤、花卷、北千住、龜有、土浦、石岡、小高、原ノ町、鹿島、高崎、下館、眞岡

奥羽線

新庄、眞室川、大曲

羽越線

新發田、羽前水澤、鶴岡、藤島、余目、砂越、本楯、遊佐、象潟、羽後本荘、最上川

陸羽線

陸前古川、中新田、涌谷、前谷地、石巻

信越線

長岡、見附、三條、沼垂、西吉田

總武線

小名木川、佐原

二　貨物ノ保管ヲ爲ス驛

東海道線　笹島、梅田

東北線　秋葉原

三　取扱ヲ爲ス貨物ノ種類

イ　笹島驛保管ノモノ

綿糸、綿織物、紙及加工紙、米、砂糖、棉花（機械梱ノモノ）

ロ　梅田驛保管ノモノ

綿絲、綿織物、紙及加工紙、米

ハ　秋葉原驛保管ノモノ

綿絲、紙及加工紙、米

前項第三號ニ掲グル貨物ト雖モ車扱ニ非ザルモノ、代金引換ノ取扱ヲ請求スルモノ又ハ第五條ニ依リ寄託ヲ受ケザルモノハ著後寄託ノ引受ヲ爲サズ

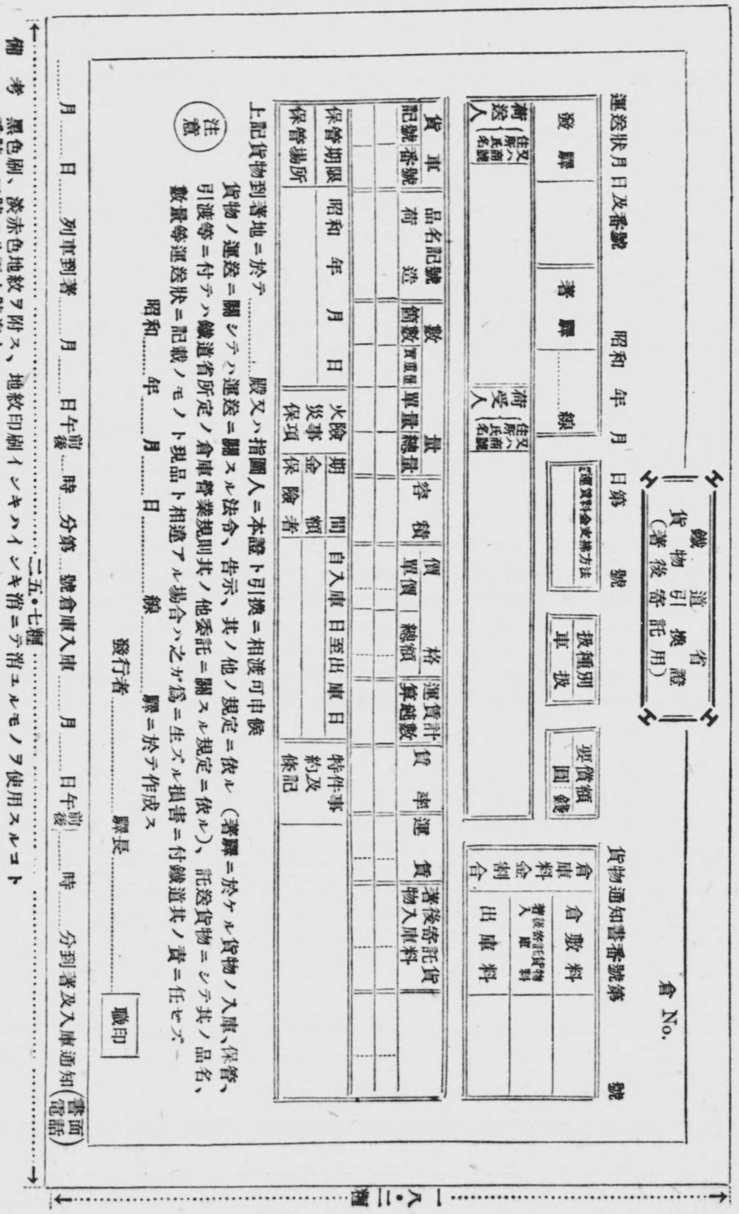
第三十五條　著後寄託ハ貨物運送狀ノ特約條件又ハ記事ノ欄ニ左記事項ヲ併記シテ其ノ申込ヲ爲スモノトス

一　本規則ノ定ムル所ニ從ヒ著後寄託ノ申込ヲ爲ス旨

二　第七條第二項第一號ハ乃至チニ掲グル事項ニシテ貨物運送狀ノ記載ト重複セザル事項

第三十六條　發驛ニ於テ著後寄託貨物ノ引渡ヲ受ケタルトキハ荷送人ニ對シ貨物通知書（以下單ニ通知書ト稱ス）又ハ請求ニ因リ貨物引換證（以下單ニ引換證ト稱ス）ヲ交付ス

引換證ノ樣式ハ左ノ通トス



年月日	出庫個數	殘個數	受取人氏名印	記事	業務課長印

年月日	證渡人氏名印	證受人氏名	記事

倉庫業者日誌

（裏面）

第三十七條　荷送人又ハ引換證所持人ハ通知書（通知書ヲ呈示シ難キトキハ第十七條第四項所定ノ請求書ヲ提出スルコト、以下同ジ）又ハ引換證ヲ發驛ニ呈示シ著後寄託ノ追付（貨物及關係書類發送前ニ限ル、此ノ場合ハ貨物運送狀ニ第三十五條第一號及第二號ニ掲グル事項ヲ附記スルコト）又ハ取消（貨物ノ貨車取卸著手前ニ限ル、第二項ノ場合亦同ジ）ヲ請求スルコトヲ得

荷受人又ハ引換證所持人ハ通知書又ハ引換證ヲ著驛ニ呈示シ著後寄託ノ取消ヲ請求スルコトヲ得

第三十八條　著後寄託貨物ガ著驛ニ到著シタルトキハ其ノ再監査ヲ爲シタル上省ニ於テ之ヲ入庫シ引換證ヲ發行シタル場合ニシテ其ノ所持人ノ明ナルトキハ所持人ニ、其ノ他ノ場合ハ荷送人及荷受人ニ其ノ旨ノ通知ヲ發ス

再監査ノ結果貨物ノ濡損變質其ノ他ノ事由ニ因リ保管ニ適セザルコトヲ發見シタルトキハ第二十條第一項ノ例ニ依リ處理スルノ外其ノ倉庫保管ヲ拒絶スルコトアルベシ

著後寄託貨物ニ付テハ別段ノ定アル場合ヲ除キ第一項ノ通知發送ノ時以前ニ於ケル事項ニ關シテハ貨物運送規則其ノ他運送ニ關スル規定、其ノ以後ニ於ケル事項ニ關シテハ本規則其ノ他寄託ニ關スル規定ニ依リ處理ス此ノ場合通知書ヲ交付シタル貨物ニ付テハ入庫傳票ヲ交付シタル貨物ノ例ニ依リ、引換證ヲ交付シタル貨物ニ付テハ證券ヲ交付シタル貨物ノ例ニ依リ處理ス

第三十九條　貨物入庫後荷送人、荷受人又ハ引換證所持人ガ通知書又ハ引換證ト保管書又ハ證券トノ引換ヲ請求セムトスルトキハ第十七條第一項ノ例ニ依リ著驛ニ其ノ旨ヲ申出ヅベキモノトス價格ノ變更ヲ請求セムトスルトキ亦同ジ

第四十條　著後寄託貨物ヲ入庫シタル後荷受人又ハ引換證所持人ニ於テ貨物ノ引渡ヲ受ケムトスルトキハ左ノ區別ニ依リ其ノ旨ヲ申出ヅベキモノトス

一　引換證ヲ交付シタル貨物ニ在リテハ第二十三條第一項第一號及同第二項竝ニ第二十五條ノ例ニ依ルコト

二　通知書ヲ交付シタル貨物ニ在リテハ第二十三條第一項第二號ノ例ニ依ルコト但シ豫メ印鑑ノ屆出ナキ場合ハ荷受人ニ於テ省ノ發シタル到著及入庫通知ノ書面ヲ呈示スル等ノ方法ニ依リ正當權利者タルコトヲ證明シテ其ノ印鑑ニ依リ引渡ヲ請求スルコトヲ得

第二節　受寄物ノ運送

第四十一條　貨主ハ貨物ノ出庫請求ト共ニ其ノ鐵道ニ依ル運送（車扱ニ限ル）ヲ申込ムコトヲ得

前項ノ申込ニ應ジタルトキハ省ニ於テ其ノ貨物ノ貨車積込ヲ爲スモノトス

貨物ノ運賃及料金ハ別段ノ定アル場合ヲ除キ第一項ノ申込ニ應ジタル際之ヲ收受ス

第四章　倉庫ノ賃貸

第四十二條　倉庫ハ貨物保管ノ用ニ供スルモノトス但シ左ニ掲グル貨物ハ之ヲ收容スルコトヲ得ズ

一　貨物運送規則所定ノ危險品及汚穢品竝ニ硝酸鹽類、スピリットワニス、セルロイド、ザイロナイト、過酸化マグネシア、亞硝酸ソーダ、過酸化水素水ニシテ過酸化物ノ含有量百分ノ四十ヲ超ユルモノ、活動寫眞用フイルムニシテ罐入ニ非サルモノ、油類ニシテ攝氏六十六度以下ニ於テ可燃性瓦斯ヲ發散スルモノ及上記品目ト危險程度類似ノモノ

二　液汁ノ漏出、臭氣ノ發散等ニ因リ他ニ損害ヲ及ボス虞アルモノ

前項ニ掲グル以外ノ貨物ト雖モ省ニ於テ必要ト認ムルトキハ之ガ收容ニ付制限ヲ附スルコトアルベシ

第五條第二項ノ規定ハ倉庫ノ賃貸ニ之ヲ準用ス

第四十三條　賃借人ハ倉庫賃借申込書ヲ提出スルモノトス

倉庫賃借申込書ノ記載事項及樣式ハ左ノ通トシ賃借人ニ於テ記名捺印スルモノトス

一　記載事項

イ　賃借人ノ住所及氏名

ロ　賃借スベキ倉庫及其ノ面積

ハ　收容スベキ貨物ノ種類

ニ　賃借期間

ホ　特殊ノ施設事項其ノ他ノ特約條件

倉庫貸借申込書

貸借スベキ倉庫及其ノ面積		特殊ノ施設事項	其ノ他特約條件
收容貨物ノ種類		記事	
貸借期間	自昭和　年　月　日 至昭和　年　月　日		

No　1

本書記載ノ要項ニ依リ倉庫貸借方申入候

昭和　年　月　日

住所又ハ營業所

氏名又ハ商號

課御中

備考　洋紙、黑刷トス

一八・二糎

一三・八糎

第二四五號

第四十四條　省ガ貸借ノ申込ヲ承諾シタルトキハ倉庫貸借契約書二通ヲ作成シ貸借人及鐵道局長又ハ其ノ指定シタル者ニ於テ記名捺印ノ上各一通ヲ所持スルモノトス

第四十五條　貸借ノ期間ハ其ノ都度契約ニ依リ之ヲ定ム但シ其ノ長期ヲ一箇年トス

貸借期間經過後引續キ倉庫ヲ貸借セムトスルトキハ貸借人ニ於テ期間滿了前契約書ヲ呈示シ契約更新又ハ期間延長ノ手續ヲ爲スモノトス但シ省ニ於テ支障アルトキハ之ニ應セザルコトアルベシ

第四十六條　左ニ掲グル場合ハ契約ノ期間内ト雖モ時宜ニ依リ解約スルコトアルベシ但シ第四號ノ場合ハ一箇月前ニ其ノ旨ヲ豫告ス

一　貸借人ガ本規則其ノ他契約上ノ義務ニ違反シタルトキ

二　貨物ノ品種、性質等ニ因リ他ニ損害ヲ及ボシ又ハ其ノ虞アルトキ

三　天災事變其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ因ル支障アルトキ

四　省ニ於テ業務上必要ト認ムルトキ

前項ニ依リ解約シタルトキハ因リテ生ジタル損害ニ付貸借人ニ於テ其ノ責ニ任ズルモノトス

貸借人ハ契約期間内何時ニテモ解約スルコトヲ得

第四十七條　倉庫ヲ貸貸シタルトキハ貸借人ニ對シ倉庫ノ鍵ヲ交付ス

第四十八條　貸貸倉庫ニ收容シタル貨物ハ省ニ於テ保管ノ責ニ任セズ

第四十九條　貸借人ハ省ノ指示ニ從ヒ自己ノ負擔ニ於テ貸借倉庫ノ區劃ニ必要ナル施設ヲ爲スモノトス

第五十條　貸借人ハ倉庫内ニ於テ他ノ貨物又ハ倉庫ニ損害ヲ及ボス虞アル一切ノ所爲ヲ爲スコトヲ得ズ

貸借人ハ第三條所定ノ時間外ニ在リテハ省ノ承諾ヲ受ケズシテ倉庫ニ出入スルコトヲ得ズ

省ハ契約期間内何時ニテモ倉庫ニ立入リ之ガ保存又ハ改良ニ必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

第五十一條　貸借人ハ其ノ貸借シタル倉庫ヲ他ノ目的若ハ倉庫營業ノ用ニ供シ又ハ他人ニ轉貸スルコトヲ得ズ

第五十二條　契約終了ノ場合ハ貸借人ニ於テ遲滯ナク貨物ノ引取ヲ爲シ倉庫ヲ原狀ニ復スベキモノトス

前項ノ規定ニ反スルトキハ第二十六條第一項ノ例ニ依リ貨物ヲ處分シ又ハ省ニ於テ倉庫ヲ原狀ニ復シタル上其ノ費用ヲ請求スルコトアルベシ

第五十三條　貸借人ガ契約上ノ義務ニ違反シ又ハ收容貨物ノ性質、瑕疵等ニ因リ他ニ損害ヲ及ボシタルトキハ貸借人ニ於テ之ガ賠償ノ責ニ任ズルモノトス

第五章　料金及費用

第五十四條　貨物ノ寄託又ハ倉庫ノ貸貸ニ關シテハ左ニ掲グル料金ヲ收受ス

一　倉敷料　寄託貨物ノ保管ニ對スル料金

二　入庫料及出庫料　第十二條ニ依リ寄託貨物ヲ省ニ於テ倉庫ニ搬入又ハ搬出スル場合收受スル料金

三　證券手數料　第十七條第一項及第二項ニ依リ證券ノ名義變更、書換、分割又ハ再交付ノ請求ニ應ジタル場合收受スル料金

四　貨物留置料　第二十七條ニ依リ貨主ノ責任ニ於テ貨物ヲ構内ニ留置スル場合收受スル料金

五　遲滯料　左ニ掲グル場合收受スル料金

イ　第十一條ニ依リ受託ヲ拒絶又ハ契約ヲ解除シタル場合貨物ノ引取ヲ爲サザルトキ

ロ　第二十六條第一項ノ場合（契約終了シタル貨物ノ引取ヲ爲サザル場合）

ハ　第二十七條ニ依リ構内ニ留置シタル貨物ノ搬出方ヲ催告スルモ引取ヲ爲サザル場合

ニ　第五十二條第一項ニ依リ倉庫ヲ原狀ニ復セザル場合

六　著後寄託貨物入庫料　第三十八條第一項ニ依リ省ニ於テ貨物ノ貨車取卸及入庫ヲ爲ス場合收受スル料金

七　受寄物運送貨物出庫料　第四十一條第二項ニ依リ省ニ於テ貨物ノ出庫及貨車積込ヲ爲ス場合收受スル料金

八　著後寄託取消手數料　第三十七條第一項及第二項ニ依リ著後寄託ノ取消ノ請求ニ應ジタル場合（天災事變其ノ他貨主ノ責ニ歸スベカラザル事由ニ因リ取消ノ請求ニ應ジタル場合ヲ除ク）收受スル料金

九　貨庫料　倉庫貨貸ニ對スル料金

第五十五條　料金率ハ別表倉庫料金表ニ之ヲ掲ゲ庫移シ、仕譯、拼直シ其ノ他ノ爲特ニ要シタル費用ハ其ノ實費ヲ收受ス

第五十六條　倉敷料割合ハ料金計算單位毎ニ從量率ト從價率トニ依リ各別ニ算出シ之ヲ併算シタルモノ（一箇月又ハ一期分）トス

一口中ニ料金率ノ異ナル貨物ヲ混ジタルトキハ其ノ全部ニ對シ最高ノ料金率ヲ適用ス

第五十七條　倉敷料又ハ貨庫料ハ一箇月ヲ一日ヨリ十日迄、十一日ヨリ二十日迄及二十一日ヨリ末日迄ノ三期ニ區分計算シ保管期間又ハ貨貸期間ガ一期ニ滿タザルトキト雖モ一期分ヲ收受ス

保管期間又ハ貨貸期間ガ二期以上ニ跨ル場合ハ料金割合ニ期數ヲ乘ジタルモノヲ以テ其ノ料金トス但シ秋葉原驛ニ於テハ料金割合ニ期數ヲ乘ジ之ヲ三分シタルモノヲ以テ其ノ料金トス

契約更新ノ請求ニ應ジタル場合爾後ノ料金ハ其ノ請求ニ應ジタル日ノ屬スル次ノ期ヨリ之ヲ起算ス

第五十八條　倉敷料、貨物留置料及遲滯料ハ特ニ定ムル場合ヲ除キ貨物搬出ノ際之ヲ收受ス但シ倉敷料ハ時宜ニ依リ貨物搬出前相當期間毎ニ分割收受スルコトアルベシ

入庫料、出庫料、證券手數料及特ニ要シタル費用ハ其ノ都度之ヲ收受ス但シ著後寄託貨物入庫料又ハ受寄物運送貨物出庫料ハ其ノ申込ニ應ジタル際荷送人ヨリ之ヲ收受ス

著後寄託ノ追付ノ請求ニ應ジタルトキハ著後寄託貨物入庫料ヲ、又取消ノ請求ニ應ジタルトキハ著後寄託取消手數料ト著後寄託貨物入庫料トノ差額ヲ追徵又ハ拂戻スモノトス

第三十八條第二項ニ依リ倉庫保管ヲ拒絶シタルトキハ著後寄託取消手數料ヲ收受セズ又既收ノ著後寄託貨物入庫料ト既ニ要シタル實費トノ差額ヲ追徵又ハ拂戻スモノトス

貨庫料ハ契約締結ノ際其ノ全額ヲ收受ス但シ時宜ニ依リ三箇月毎ニ分割收受（前拂）スルコトアルベシ

契約更新ノ請求アル場合ノ倉敷料及貨庫料ノ收受方ニ付テハ其ノ請求ニ應ジタル時ヲ以テ貨物搬出又ハ契約締結ノ時ト看做ス

第五十九條　倉庫貨貸借ノ期間滿了前契約終了ノ場合既收料金ガ契約終了ニ至ル迄ノ料金ヨリ多額ナルトキハ其ノ差額ノ拂戻ヲ爲ス

（別表）

倉庫料金表

一　倉敷料、入庫料及出庫料

（一）　笹島驛ノ分

品目		荷造（外裝）	單量	料金計算單位	倉敷料（一期ニ付）從量率（單位錢）	倉敷料（一期ニ付）從價率（價格ノ萬分率）	入庫料又ハ出庫料（單位錢）	備考
◎米及雜穀								
米	俵入	四斗又ハ六〇瓩	一箇	一箇	一・二	五	二・〇	四斗入ノ重量ハ約六三瓩ナリ
同	叺入	同	同	同	一・一	五	二・〇	同
同	袋入	三〇瓩	同	同	〇・六	五	一・二	
同	同	六〇瓩	同	同	一・〇	五	二・〇	
同	同	一八〇斤以下	同	同	一・五	五	三・五	一八〇斤ハ一〇八瓩ナリ

第六十條　料金割合ヲ決定スル場合厘位未滿ノ端數ヲ生ズルトキハ毛位四捨五入スルモノトス

料金又ハ費用計算ノ結果錢未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ各種別ニ依リ一件毎ニ最後ニ之ヲ切捨ツ但シ一件ノ金額ガ五錢ニ滿タザル場合ハ之ヲ五錢ニ切上ゲ

附則

本規則ハ昭和六年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

雜穀及種子	俵又ハ叺入	八〇斤以下	同	一・〇	五	一・六
同	俵入	一〇〇斤	同	一・二	五	二・〇
同	叺入	同	同	一・一	五	二・〇
同	袋入	同	同	一・〇	五	二・〇
同	同	一七〇斤	同	一・五	五	三・二
精糖	袋入	五〇斤	一箇	〇・六	五	一・二
同	同	一〇〇斤	同	一・〇	五	二・〇
同	同	一五〇斤	同	一・四	五	三・〇
同	笈入	一〇〇斤	同	一・〇	五	二・〇
角糖	木箱入	二五封度	同	〇・五	五	〇・九
同	同	五〇封度	同	〇・九	五	一・六
黑糖	樽入	一二〇斤内外	同	二・三	五	三・二
糖蜜	同	一五〇斤内外	同	四・〇	五	四・〇
麥粉及雜粉	袋入	一〇〇封度	同	〇・八	五	一・五
鹽	同	一〇〇斤	同	一・五	五	二・〇
糠	叺又ハ袋入	一〇貫	同	一・〇	五	一・四

◎砂糖及粉類

五〇斤ハ三〇瓩ナリ
一〇〇斤ハ六〇瓩ナリ
一五〇斤ハ九〇瓩ナリ
一〇〇斤ハ六〇瓩ナリ
二五封度ハ約一一瓩ナリ
五〇封度ハ約二三瓩ナリ
一二〇斤ハ七二瓩ナリ
一五〇斤ハ九〇瓩ナリ
一〇〇封度ハ約四五瓩ナリ
一〇〇斤ハ六〇瓩ナリ
一〇貫ハ三八瓩ナリ

八〇斤ハ四八瓩ナリ
一〇〇斤ハ六〇瓩ナリ
一七〇斤ハ一〇二瓩ナリ

瓶詰類		〇・三立方米	五	〇・六	五	一・〇
罐詰類		同	五	〇・四	五	〇・九
雜食料品	木箱入	同	五	〇・五	五	一・〇
鹽魚	莚包	一〇〇瓩	五	二・七	五	四・〇
乾魚	莚包又ハ繩締	同	五	四・〇	五	四・〇
昆布	繩締	同	五	四・〇	五	四・〇

◎飲食料品及海產物

◎肥料

胴鯉	俵入	一六貫内外	一箇	二・〇	五	三・〇
魚締粕	同	二八貫以下	同	二・五	五	三・五
板油粕			一〇〇瓩	二・〇	五	三・三
大豆粕		四六斤	一箇	〇・五	五	〇・九
撒豆粕	叺又ハ袋入	一〇貫	同	一・〇	五	一・二
粉狀肥料	同	同	同	〇・七	五	一・二
智利硝石	袋入	五〇瓩	同	〇・九	七	一・六

◎纖物類

一六貫ハ六〇瓩ナリ
二八貫ハ一〇五瓩ナリ
四六斤ハ約二八瓩ナリ
一〇貫ハ約三八瓩ナリ
同

白木綿	繩締	一〇〇反	一箇	〇・〇三立方米	二・〇	四	二・二	〇・五六立方米迄ノ金額ニ對シ其ノ超ユル分〇・〇三立方米毎ニ加算ス
織物、編物及同製品	鐵締				〇・四	四	〇・八	
同	繩締				〇・四	四	〇・六	
同	箱入				〇・五	四	〇・七	
同	撒				〇・六	四	一・〇	
メリヤス生地及製品	箱入				—	—	八・〇	
同	同				—	—	(加算)一・〇	
同	同				—	—	—	
ノ	〇・五六立方米ヲ超ユルモ							

◎糸及同原料

絹糸	箱入				一・二	四	一・五	
綿糸	莚包	二〇玉	一箇	〇・〇三立方米	二・〇	四	三・五	
同	布包鐵卷	四〇玉	同		三・〇	四	七・〇	
チヽズ	莚包		同		二・〇	四	二・七	
人造絹糸	箱入		一〇〇瓩		三・三	四 普通品 六 危險品	六・二	
毛糸	布包		同		二・九	四	七・八	

同	箱入		〇・〇三立方米	〇・三	四	〇・七		
雜糸			一〇〇瓩	二・七	四	七・八		
羊毛	布包鐵締		同	三・三	四	六・七		
ノキル	同		同	四・四	四	七・八		
雜毛	同		同	四・四	四	七・八		
人造纖維	同		同	三・三	四 普通品 六 危險品	六・七		
人絹パルプ	締造		同	一・八	四	四・四		
乾燥繭			同	二六・七	四	二一・三		

◎棉花

米國繰棉	鐵締	三八〇斤內外	一箇	四・〇	五	一二・〇	三八〇斤ハ二二八瓩ナリ	
同	丸造	二〇〇斤內外	同	三・〇	五	七・〇	二〇〇斤ハ一二〇瓩ナリ	
印度繰棉	鐵締	三〇〇斤內外	同	二・五	五	八・〇	三〇〇斤ハ一八〇瓩ナリ	
チンネベリ繰棉	同	三八〇斤內外	同	三・〇	五	一〇・〇	三八〇斤ハ二二八瓩ナリ	
埃及繰棉	同	五五〇斤內外	同	五・〇	五	一八・〇	五五〇斤ハ三三〇瓩ナリ	
亞弗利加繰棉	同	三〇〇斤內外	同	三・〇	五	一〇・〇	三〇〇斤ハ一八〇瓩ナリ	
支那繰棉	同	同	同	二・五	五	八・〇	同	

同	同	四〇〇斤内外	三・五	五	一〇・〇	四〇〇斤ハ二四〇瓩ナリ
同	麻繩締	一五〇斤	六・〇	六	七・〇	一五〇斤ハ九〇瓩ナリ
同	袋入	三〇〇斤内外	八・三	六	一一・七	
朝鮮繰綿	鐵締	二〇〇斤内外	三・〇	五	一〇・〇	三〇〇斤ハ一八〇瓩ナリ
同	同	同	二・五	五	八・〇	二〇〇斤ハ一二〇瓩ナリ
同	麻繩締	同	六・〇	六	八・〇	
其ノ他ノ繰綿	鐵締	一〇〇瓩	二・〇	五	六・七	
落綿、屑綿		同	一三・三	六	六・七	
◎紙及同原料						
和紙	莚包	〇・〇三立方米	〇・五	五	一・〇	
洋紙	箱又ハ板締	一箇	五・五	五	一〇・〇	
同（〇・五六立方米以下）	同	同	六・五	五	—	
同（〇・七〇立方米以下）	同	同	八・〇	五	—	
同（〇・七〇立方米ヲ超エルモノ）	同	同				
同（〇・八三立方米以下）	同	同	—	—	—	
同（〇・八三立方米ヲ超エルモノ）	同	同	—	—	—	
捲取紙	莚包	一〇〇瓩	二・二	五	四・四	
板紙		一束	〇・七	五	一・二	
製紙用パルプ	針金締	一〇〇瓩	一・六	五	四・〇	
◎金物類						
銑鐵		一〇〇瓩	〇・五	五	四・〇	
鐵板及條鐵		同	一・〇	五	五・五	
型鐵		同	一・五	五	五・〇	
鐵管		同	二・〇	五	六・〇	

鐵線及帶鐵	布包又ハ裸		同	二・〇	五	五・〇	五
釘	樽入	一〇〇斤	一箇	一・三	五	三・〇	一〇〇斤ハ六〇瓩ナリ
機械及部分品	箱又ハ枠入		〇・〇三立方米	〇・八	五	一・四	
同	裸		一〇〇瓩	五・〇	五	五・七	
◎藥品及染料							
曹達灰	袋入		一〇〇瓩	一・五	五	三・八	
苛性曹達	罐入	三〇〇瓩	一箇	六・〇	五	一二・〇	
其ノ他ノ藥品	袋入		一〇〇瓩	一・八	普通品五　危險品六又ハ七	三・六	
同	樽又ハ罐入		同	二・七	普通品五　危險品六又ハ七	四・〇	
同	罎入		同	五・六	普通品五　危險品六又ハ七	八・九	
同	箱入		〇・〇三立方米	〇・七	普通品五　危險品六又ハ七	一・四	

染料、塗料及顔料			一〇〇瓩		普通品五　危險品六又ハ七	六・七	
◎雜品							
板硝子	箱入	一〇〇平方呎	一箇	二・〇	五	四・〇	一〇〇平方呎ハ約九平方米ナリ
セメント	袋入	五〇瓩	同	〇・八	五	一・六	
丸藤	束		一〇〇瓩	一一・七	五	七・八	
護謨原料			同	二・二	五	四・四	
マニラ麻締造		二〇〇斤	一箇	五・〇	七	八・〇	二〇〇斤ハ一二〇瓩ナリ
支那麻	同		一〇〇瓩	四・二	七	七・〇	
同	束		同	五・〇	七	七・〇	
油脂	樽又ハ罐入		同	五・〇	七	五・八	
同	箱入		〇・〇三立方米	〇・六	七	一・七	
蠟類			一〇〇瓩	三・三	七	四・四	
其ノ他ノ雜品	箱入		〇・〇三立方米	〇・六	普通品五　危險品六又ハ七	一・二	
同			一〇〇瓩	二・二	普通品五　危險品六又ハ七	四・三	

(二) 梅田驛ノ分

品目	荷造（外裝）	單量	料金計算單位	倉敷料（一期ニ付）從量率（單位錢）	倉敷料（一期ニ付）從價率（價格ノ萬分率）	入庫料又ハ出庫料（單位錢）	備考
◎米、雜穀及種子							
米	俵入	四斗	一箇	一・〇	五	二・六	
同	叺入	四斗又ハ六〇瓩	同	〇・九	五	二・六	
同	袋入	六〇瓩	同	〇・八	五	二・八	袋入繩掛朝鮮白米ハ叺入ノ割合ニ準ズ
雜穀及種子	俵入	四斗又ハ一〇〇斤	同	一・〇	五	二・六	一〇〇斤ハ六〇瓩ナリ
同	叺入	同	同	〇・九	五	二・六	
同	袋入	同	同	〇・八	五	三・〇	
棉實	同	一〇〇斤	同	一・二	五	三・〇	
◎麥粉及雜粉							
麥粉及雜粉	袋入		一〇〇瓩	一・三	五	五・三	
同	木箱入	一二貫目	一箇	〇・九	五	三・〇	一二貫目ハ約四五瓩ナリ
麩	袋入		一〇〇瓩	二・五	五	五・〇	
◎砂糖							

精糖及粗糖							
角糖	木箱入	笈又ハ袋入	五〇封度	一〇〇瓩	一箇	一・〇	五	四・五	
同	同	同	二五封度	一箇	同	〇・四	五	一・二	五〇封度ハ約二三瓩ナリ
黑糖	樽入	外一二〇斤內	同	同	同	〇・三	五	一・〇	二五封度ハ約一一瓩ナリ
白下糖	同	一三〇斤乃至一二〇〇斤內	同	同	同	一・六	五	四・〇	一二〇斤ハ七二瓩ナリ
糖蜜	同	外一五〇〇斤內	同	同	同	二・〇	五	六・〇	一三〇斤ハ七八瓩ナリ
						三・〇	五	六・〇	一五〇斤ハ九〇瓩ナリ
◎飲食料品							
凍豆腐	木箱入	千切	一箇	〇・八	五	一・八	
素麺	同	五貫目	同	〇・六	五	一・三	五貫目ハ約一九瓩ナリ
椎茸	同		一〇〇瓩	一〇・〇	五	一六・六	
罐詰類			〇・〇三立方米	〇・四	五	一・一	〇・〇三立方米ハ約一才ナリ
雜飲食料品	大箱入	瓶詰ノモノ	同	〇・五	五	一・四	
同	木箱入又ハ罐入		同	〇・四	五	一・一	
同	樽入		同	〇・五	五	一・三	
◎水產物							
乾魚	繩締		一〇〇瓩	五・三	五	六・四	
同	莚包又ハ俵入		同	三・二	五	五・八	

| | | |

種類	荷造	重量	運賃	保險料	保險金	備考
◎皮革及毛類						
牛皮	綱締	五・〇	一二・五	五	一・三	
鞣皮		〇・五	一・三	五	八・九	
羊毛	布包鐵締	三・八	八・四	五	八・九	
ノルウヰー毛	布包	四・四	八・四	五	八・九	
雜毛	布包又ハ莚包	四・四	八・四	五	八・九	
同	木箱入	〇・五	一・三	五	八・九	
◎絲及纖維						
紡績絲	莚包	二〇玉	一箇	二・三	四・五	五
同	布包鐵締	四〇玉	同	三・三	八・五	五
チーズ	莚包		同	二・五	四・五	五
スプール	木箱入	一〇玉	同	二・三	四・五	五
同		二〇玉	同	三・三	八・五	五
毛絲	大箱入又ハ布包		一〇〇瓩	二・二	七・八	五
人造絹絲	木箱入		同	三・三	一〇・五	五
雜絲			同	二・二	七・八	五
馬尼剌麻	締造	二〇〇斤内外	一箇	五・〇	一一・〇	七
麻苧	締造又ハ束		一〇〇瓩	三・三	五・八	七

種類	荷造	重量	運賃	保險料	保險金	備考
其ノ他ノ纖維	麻締造		同	四・二	六・七	
◎紙及原料						
半紙	莚包	六締	一箇	四・二	九・二	七
同	同	一二締	同	四・二	六・七	五
其ノ他ノ和紙	木箱入又ハ板締		〇・三立方米	普通品		
洋紙（〇・五六立方米以下）			一箇	危險品		
同（〇・八三立方米以下）	同		同	四・五	一八・〇	五
襖紙、クロス紙、艶紙、其ノ他ノ大判物	同		同	四・五	二七・〇	五
板紙	板締	一〇束	同	五・五	一六・五	五
捲取紙			一〇〇瓩	二・二	六・〇	五
パルプ	針金締		同	一・八	五・五	五
◎肥料及原料						

胴	鍊	莚包又ハ俵入	一六貫目	一箇	一・七	三・〇
鰊	鯖締粕	同	二五貫目	同	一・七	四・五
其ノ他ノ海産肥料				一〇〇瓩	一・三	三・三
油	粕	板	一貫四〇〇目	一〇枚	〇・七	〇・三
豆	粕	同	七貫目	一箇	〇・五	一・五
同		叺入	一〇貫目	同	〇・七	二・一
同		袋入	一〇〇斤	同	一・七	三・二
粉狀肥料		叺入又ハ俵入	一〇貫目	同	〇・六	二・〇
同		袋入		一〇〇瓩	一・五	五・五
◎金物類						
地	金	樽入	四二〇斤	一〇〇瓩	〇・六	五・〇
亞	鉛板	樽入		一箇	六・五	一四・〇
薄	鐵板	束		一莚	四・五	七〇・〇以上
鐵	板			同	八・五	九〇・〇以上
條鐵、型鐵、レール				同	八・五	七〇・〇以上
亞	鉛引平浪板	裸		同	八・〇	七五・〇
針	金	布卷	八四斤	一箇	〇・九	三・〇
ワイヤロッド				一〇〇瓩	一・二	三・六

一六貫目ハ六〇瓩ナリ
二五貫目ハ約九四瓩ナリ
一貫四〇〇目ハ約〇・五瓩ナリ
七貫目ハ約二六瓩ナリ
一〇貫目ハ約三八瓩ナリ
一〇〇斤ハ六〇瓩ナリ
一〇貫目ハ約三八瓩ナリ
四二〇斤ハ二五二瓩ナリ
七〇・〇以上
九〇・〇以上
七〇・〇以上
七五・〇
八四斤ハ約五〇瓩ナリ

釘		樽入	一〇〇斤	一箇	一・一	五
鉄	力板	木箱入		一〇〇瓩	〇・七	五
鐵管	吋未滿			一 本	〇・一	五
同	二吋未滿			同	〇・二	五
同	二吋以上			同	〇・四	五
同	三吋以上			同	〇・九	五
同	四吋以上			同	一・七	五
同	五吋以上			同	二・三	五
同	六吋以上			同	三・四以上	五
◎藥種染料類						
工	業藥品	袋入		一〇〇瓩	一・一	六又ハ七五
同		樽入又ハ罐入		同	二・二	六又ハ七五
同		瓶入籠包		同	五・五	六又ハ七五
同		木箱入		〇・三立方米	〇・五	六又ハ七五

普通品
危險品
普通品
危險品
普通品
危險品
普通品
危險品

四・七
一瓩ニ付七〇・〇以上
六・七
一二・九
一・二

醫療藥品	袋入又ハ梱入	同	一〇〇瓩	〇・〇三立方米	〇・五	普通品
漢藥	箱入		一〇〇瓩	〇・〇三立方米	二・〇	危險品
同					〇・五	普通品
染料、塗料、顔料					五・〇	危險品
香料					〇・七	普通品
					〇・七	危險品

◎油脂及蠟類

獸脂	樽入又ハドラム罐入		一〇〇瓩	〇・〇三立方米	三・五	七	六又ハ七
同	罐入又ハ木箱入		一〇〇瓩	〇・〇三立方米	〇・五	七	五
樹脂					三・三	七	五
油類	罐入	一斗	一箇		〇・五	七	五
同	木箱入	二斗			〇・七	七	五
同	樽入又ハドラム罐入		同	〇・〇三立方米	三・五	七	七
蠟類			一〇〇瓩	同	二・〇	七	七

◎礦物及製品

石綿及製品	袋入又ハ莚包		一〇〇瓩	一・七	五	五・〇	

同	セメント	木箱入又ハ木箱入		〇・〇三立方米	〇・五	五	一・三
同	袋入	五〇瓩		同	〇・八	五	二・五
板硝子	樽入	一七〇瓩		同	三・〇	五	九・〇
鏡生地	木箱入	一〇〇平方呎		同	一・八	五	五・二
同		同		同	三・五	五	一六・〇
硝子及製品	箱入			〇・〇三立方米	一・〇	五	一・五
礦物類	袋入又ハ叺入			一〇〇瓩	一・七	五	五・〇
同	樽入			同	二・〇	五	七・五

◎機械器具及部分品

自動車	裸			一〇・〇三立方米	三〇〇・〇	五	五〇・〇
同	木箱入			〇・〇六瓩	〇・〇	五	二・〇
機械及部分品	裸			一〇・〇三立方米	四〇・〇	五	五三・〇
同	箱入			一〇・〇三立方米	〇・五	五	一・三
器具及部分品	裸			一〇・〇三立方米	四〇・〇	五	五三・〇
同	箱入			〇・〇三立方米	〇・五	五	一・三

◎雜品

護謨原料	木箱入	二二四封度	一箇	四・〇	七	九・〇	二二四封度ハ約一〇二瓩ナリ
同	同	一七〇封度	同	三・〇	七	七・〇	一七〇封度ハ約七七瓩ナリ
獸骨角牙類		內外	一〇〇瓩	二・〇	五	五・三	
貝殼	袋入		同	二・〇	五	六・三	
唐木			同	二・〇	五	七・五	
コルク板	裸鐵締	二〇貫內外	一箇	一〇・〇	五	一〇・〇	二〇貫ハ七五瓩ナリ

（三）秋葉原驛ノ分

品目	荷造（外裝）	單量	料金計算單位	倉敷料（一箇月ニ付）從量率（單位錢）	倉敷料（一箇月ニ付）從價率（萬分率）	入庫料（單位錢）	出庫料（單位錢）	備考
◎米及雜穀								
內國米	俵又ハ叺入	四斗	一箇	三・八	二〇	三・一	二・一	四斗入ノ重量ハ約六三瓩ナリ
朝鮮米	叺入	同	同	三・八	二〇	三・一	二・一	同
臺灣米	袋入	一五〇斤	同	四・〇	二〇	四・八	三・二	一五〇斤ハ九〇瓩ナリ
外國米	同	七五斤	同	二・五	二〇	二・八	一・九	七五斤ハ四五瓩ナリ
內國雜穀	叺、俵又袋入	一〇〇斤	同	四・二	二〇	六・〇	四・〇	一七〇斤ハ一〇二瓩ナリ
同	同	一七〇斤	同	四・〇	二〇	三・三	二・二	一〇〇斤ハ六〇瓩ナリ
外國雜穀	同	一五〇斤	同	三・二	二〇	三・三	二・二	同
同	叺入	二〇〇斤	同	四・二	二〇	五・〇	三・三	一五〇斤ハ九〇瓩ナリ
同	同	二〇〇斤	同	四・四	二〇	六・六	四・四	二〇〇斤ハ一二〇瓩ナリ
◎砂糖及粉類								
砂糖	安平包	一〇〇斤	一箇	二・八	二〇	三・二	二・二	一〇〇斤ハ六〇瓩ナリ
同	袋入	一五〇斤	同	四・〇	二〇	五・一	三・四	一五〇斤ハ九〇瓩ナリ
黑糖	樽入	一二〇斤	同	一〇・〇	二〇	七・九	五・三	一二〇斤ハ七二瓩ナリ
糖蜜	同	一五〇斤	同	一〇・〇	二〇	九・九	六・六	一五〇斤ハ九〇瓩ナリ
白糖	同下	一二〇斤	同	一〇・〇	二〇	七・九	五・三	一二〇斤ハ七二瓩ナリ
外國糖	袋入	一七〇斤	同	四・〇	二〇	六・三	四・二	一七〇斤ハ一〇二瓩ナリ

品目	荷造（外裝）	單量	料金計算單位	倉敷料（一箇月ニ付）從量率（單位錢）	倉敷料（一箇月ニ付）從價率（萬分率）	入庫料（單位錢）	出庫料（單位錢）	備考
檜	糖	五〇斤	同	一・五	二〇	二・四	一・六	五〇斤ハ三〇瓩ナリ
麥	粉袋入	五〇封度	同	一・三	二〇	一・六	一・一	五〇封度ハ約二三瓩ナリ
雜	粉同	一〇〇封度	同	三・〇	二〇	三・〇	二・〇	一〇〇封度ハ約四五瓩ナリ
麩	同	一〇〇斤	同	六・〇	二〇	三・六	二・四	一〇〇斤ハ六〇瓩ナリ
◎棉花								
印度綿	鐵帶締	三〇〇斤	一箇	一二・〇	二四	一八・〇	一二・〇	三〇〇斤ハ一八〇瓩ナリ
米國綿	同	三八〇斤	同	二二・〇	二四	二四・〇	一六・〇	三八〇斤ハ二二八瓩ナリ
埃及綿	同	五〇〇斤	同	二七・〇	二四	三一・二	二〇・八	五〇〇斤ハ三〇〇瓩ナリ
支那鐵卷綿	同	四〇〇斤	同	二二・〇	二四	二四・〇	一六・〇	四〇〇斤ハ二四〇瓩ナリ
支那小袋綿	袋入	六〇斤	同	一二・〇	二八	四・五	三・〇	六〇斤ハ三六瓩ナリ
支那中袋綿	同	一二七斤	同	二四・〇	二八	九・〇	六・〇	一二七斤ハ約七六瓩ナリ
支那牛締綿	牛締	二〇〇斤	同	二四・〇	二八	一三・八	九・二	二〇〇斤ハ一二〇瓩ナリ
◎羊毛及皮革								
羊毛	鐵帶締	〇・〇三立方米	〇・一〇立方米	二・二	二〇	一三・二	八・八	
同	同		〇・〇三立方米	二・四	二〇	一四・〇	九・三	
皮革								
同								
◎糸及麻苧類								
綿糸	莚包	二〇玉入	一箇	八・〇	二〇	七・二	四・八	
同	布包鐵帶締	四〇玉入	同	一四・〇	二〇	一四・四	九・六	
チーズ卷綿糸	莚包		同	八・〇	二〇	八・四	五・六	一箇ノ重量ハ六〇瓩內外ナリ

毛糸	箱入又ハ布包	〇・〇三立方米	一〇〇瓩	二・〇	二〇	一四・六	九・七
同	同	同	一〇〇瓩	二・〇	二〇		
人造絹糸	箱入	〇・〇三立方米	二・四	普通品二〇 危險品二八		一・五	一・〇
雜糸	莚包	同	一箇	五・〇	二八	一・五	一・〇
支那麻	束	六〇斤		二・四	二〇	三・三	二・二
マニラ麻	同	二〇〇斤		三一・二	二八	一六・二	一〇・八

醋酸纖維素法、酸化銅アンモニア法及ビスコース法ニ依リタルモノハ普通品トス

六〇斤ハ三六瓩ナリ

一束ノ容積ハ〇・三六立方米内外又二〇〇斤ハ一二〇瓩ナリ

◎織物類

綿ネル及メリヤス（〇・五六立方米迄）	箱入	一箇	二五・〇		二〇	一・一	〇・七
同	同	〇・〇三立方米					
綿織物	箱入又ハ莚包	同	三・〇		二〇		
其ノ他ノ織物及同製品	同	同	二・四		二〇		
綿ネル及メリヤス以外ノ綿織物其ノ他織物及同製品	莚包	同				一・四	〇・九
同（〇・二八立方米迄）	箱入其ノ他	同				一・五	一・〇
同（〇・二八立方米ヲ超ユルモノ）	同	毎〇・〇三立方米				一・八（加算）	一・二（加算）

入庫料及出庫料ハ〇・二八立方米迄ノ金額ニ對シ其ノ超ユル分〇・〇三立方米毎ニ加算ス

同（〇・五六立方米ヲ超ユルモノ）	同	同				二・〇（加算）	一・三（加算）

入庫料及出庫料ハ〇・五六立方米迄ノ金額ニ對シ其ノ超ユル分〇・〇三立方米毎ニ加算ス

◎紙類

和紙	莚包						
同	同	六締					
洋半紙	箱入又ハ莚包	一箇	〇・〇三立方米	二・〇	二〇	四・六	三・〇
同	同	同	四・〇	二・〇	二〇	三・四	二・三
洋紙（〇・二八立方米迄）	箱入又ハ板締	一二締	同	六・〇	二〇	四・六	三・〇
同（〇・二八立方米ヲ超ユルモノ）	同	同	二〇・〇	二七・〇	二〇	二四・〇	一六・〇
同（〇・五六立方米ヲ超ユルモノ）	同	同	三六・〇		二〇		
同	同	毎〇・〇三立方米				一・八（加算）	一・二（加算）
新聞用捲取紙（一七二瓩內外）	丸卷	一箇	二三・〇	二〇	一九・八	一三・二	
同（四五四瓩內外）	同	同	三四・五	二〇	三〇・〇	二〇・〇	
板紙	束	同	一・七	二〇	二・一	一・四	
パルプ	針金締	一〇〇瓩	一一・〇	二〇	一二・五	八・四	

入庫料及出庫料ハ〇・五六立方米迄ノ金額ニ對シ其ノ超ユル分〇・〇三立方米毎ニ加算ス

板締ノモノハ洋紙ニ依ル一束ノ重量ハ二〇瓩內外ナリ

◎肥料類											
締粕	俵入	二七貫	一箇	八・〇	二〇	七・二	四・八	二七貫ハ約一〇一瓩ナリ			
智利硝石	袋入	一五〇斤	同	六・〇	二八	五・八	三・九	一五〇斤ハ九〇瓩ナリ			
硫酸アンモニア	叺入	一〇貫	同	三・〇	二〇	二・八	一・九	一〇貫ハ約三八瓩ナリ			
同	袋入	一七〇斤	同	六・〇	二〇	六・六	四・四	一七〇斤ハ一〇二瓩ナリ			
人造肥料	叺入	一〇貫	同	二・九	二〇	二・八	一・九	一〇貫ハ約三八瓩ナリ			
大豆粕	叺入	四六斤	同	三・五	二〇	一・八	一・二	四六斤ハ約二八瓩ナリ			
バラ大豆粕	叺入	一〇貫	同	七・〇	二〇	七・二	四・八	一〇貫ハ約三八瓩ナリ			
其ノ他ノ肥料			一〇〇瓩								
◎金物類及同製品											
釘	樽入	一〇〇斤	一箇	四・〇	二〇	四・三	二・九	一〇〇斤ハ六〇瓩ナリ			
針金	布卷	八四斤	同	三・〇	二〇	三・六	二・四	八四斤ハ約五〇瓩ナリ			
ワイヤロッド			一〇〇瓩	六・〇	二〇	七・八	五・二				
亞鉛鍍鐵浪平板	枠入	四二〇斤	一箇	一八・〇	二〇	三〇・〇	二〇・〇	四二〇斤ハ二五二瓩ナリ			
鉄板	箱入	一〇〇封度	同	二・〇	二〇	三・二	二・二	一〇〇封度ハ約四五瓩ナリ			
力板	東	八四斤	同	二・五	二〇	三・六	二・四	八四斤約五〇瓩ナリ			
薄鐵板			同	三・〇	二〇	三・六	二・四	同			
條鐵			一〇〇瓩	八・〇	二〇	九・〇	六・〇				
鐵管											
同（口徑三吋ヲ超ユルモノ）			同	一〇・〇	二〇	一〇・八	七・二				
鐵材（口徑三吋迄）			同	五〇・〇	二〇	七・二	四・八				
同（一箇一〇〇瓩ヲ超ユルモノ）			同	五・〇	二〇	九・〇	六・〇				
同（一箇二〇〇瓩ヲ超ユルモノ）			同	五・〇	二〇	一〇・八	七・二				
同（一箇三〇〇瓩ヲ超ユルモノ）			同	五・〇	二〇	一三・二	八・八				
同（一箇五〇〇瓩ヲ超ユルモノ）			同	五・〇	二〇	一六・八	一一・二				
同（一箇八〇〇瓩ヲ超ユルモノ）			同	五・〇	二〇	二一・〇	一四・〇				
銑鐵			同	三・〇	二〇	七・二	四・八				
鐵地金類			同	三・三	二〇	七・八	五・二				
◎藥品染料及油脂蠟類											
藥品、染料及油脂蠟類	樽又ハ罐入	〇・〇三立方米	普通品	三・五	二〇	一一・二	七・九				
同	同	一〇〇瓩	危險品又ハ二四瓦入	二八	二四						
同	袋入	〇・〇三立方米	普通品	二・三	二〇	七・九	五・三				
同	同	一〇〇瓩	危險品	二・三	二八						
同	箱入	〇・〇三立方米	普通品	二・三	二〇	一・四	〇・九				
同	同	一〇〇瓩	危險品	五〇・〇	二四又二八	四二・〇	二八・〇				